

平群町長寿会連合会
創立50周年記念誌

50年のあゆみ

平群町長寿会連合会



発刊のことば

平群町長寿会連合会

会 長 扇 田 修 身

平群町長寿会連合会は、昭和39年10月22日に各地区〈大字〉がお互いのより良き発展を期して、村一円の連合会として名称も平群村長寿会連合会として発足いたしました。

そして、今日まで50年間に亘りその時々平群町における高齢者の中核的団体として、自らも健康、友愛、奉仕、交流を活動理念として諸活動を行うほか、地域社会においても円滑な連携に配慮しながら社会的責任を果たしてまいりました。ここに、先輩方が永年に亘り培ってこられたご尽力に対して衷心より敬意を表するものであります。

昨今は急速に高齢化が進行する中で、高齢者の自立と社会的責任が一層求められていますので、我々はこの観点からより一層地域における連帯感の醸成に努めるとともに、積極的な長寿会活動を通じて社会的責任を果たしていきたいと考えています。

そのために、当連合会では活発な地区〈大字〉活動のほか、本部の組織体制として女性部、健康部、伝承交流部、ふれあい情報部と38ある愛好クラブを統括するクラブ統括部を設けて、それぞれに担当役員を配置して積極的に活動してまいりました。また、各地区に地区女性部長と健康委員を選任していただき、本部と緊密に連携しながら一体となって活動を続けてきました。お陰さまで各事業が順調に遂行でき所期の目的を果たしてこられたのも、偏に会員各位と町行政・町議会・自治会など関係の方々のご理解、ご支援の賜物で心より感謝申し上げます。

今後とも引続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

このうえは、一人でも多くの新しい高齢者仲間が長寿会の会員として参画していただいて一緒に長寿会の活動理念に基づいた活動を通じて平群町民の一員としての役割を果たしていければと願っています。

結びに、平群町長寿会連合会の更なる発展と親愛なる会員各位の益々のご健勝とご活躍を祈念して、連合会創立50周年記念誌の「発刊のことば」といたします。



お祝いの言葉 創立50周年に寄せて

一般財団法人 奈良県老人クラブ連合会

会 長 中 西 憲 治

古代史に誘う平群の里に「平群町長寿会連合会」が生まれて50年、半世紀が経ちました。おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。みんなで称え合いましょう。

生まれて50年、多くの先人たちのご苦労があったことと存じます。これまでの平群町や平群町長寿会連合会を振り返り、築き上げてくださった文化や歴史を享受し、再発見し、長寿会連合会と町民の皆さま方と行政が力を合わせて、新たな一步を踏み出すための未来に繋がる活気ある年にしましょう。

長寿会連合会の会員の皆さん方の活動もさることながら、その活動を支えてくださっている町行政をはじめ、関係機関、団体等、長寿会を取り巻く全ての皆さん方に感謝と敬意を表したいと存じます。

この夏、異常ともいえる猛暑と豪雨が日本列島を襲いました。とりわけ経験したことのない豪雨は多くの災害を引き起こしました。広島市の土砂災害をはじめ多くの犠牲者を出しました。犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々と地域が一日も早く立ち直られることをお祈りし、深い思いを寄せましょう。また、熱中症対策や災害対策には特段の気を配りましょう。

9月15日は我が国の老人福祉の記念日の”原点“です。老人福祉への関心と理解が高まるなか、私たち高齢者は今こそ「生きてきたノウハウ」を生かしながら、町づくりに共に歩んでいきましょう。

今後の活動に期待を寄せ、行政、議会をはじめとする全ての皆さん方のお力添えを心から願いながら、平群町長寿会連合会のますますの発展と会員皆さん方のご健康とご多幸を祈念申し上げお祝いのことばといたします。



お祝いの言葉 平群町長寿会連合会 創立50周年を祝して

平群町長 岩 崎 万 勉

平群町長寿会連合会が創立50周年を迎えられましたことを、心からお慶びを申し上げます。50年という節目の年を迎えられ、これまで長寿会連合会の発展にご尽力された歴代の会長、役員のみなさま、会員のみなさまのご努力に深く敬意を表します。

長寿会連合会は昭和39年に各地域での活動から、お互いのよりよい発展を図るため連合会として発会式が奇しくも東京オリンピック開催中に行われ、以来現在の活動の礎を築いてこられました。

さて、近隣にも増して速いスピードで高齢化が進んでいる平群町（平成26年6月末現在の高齢化率33.5%）では、具体的な「健康づくり」の戦略として「健康長寿奈良県第一位」を目指しています。町民の皆さまがいかに元気で、健やかに暮らすことができるかを大きな課題と位置づけ、そのために健康に関する教室や相談、また健康診断などの事業に加え、高齢者のスポーツ・文化活動や生涯学習の推進、就労創出のための支援、ボランティア活動の推奨など町全体として取り組んでまいります。

あわせて、このような取り組みを効果的に実施するためには、長寿会連合会の皆さまが行っておられる、仲間づくり・健康づくり・友愛活動・世代間交流活動など各地域の実情に応じた活動が大変重要なものとなってまいります。

少子高齢化が着実に進行し、年金や医療・介護等制度の見直しが進む中、長寿会連合会の皆さまが「主役」として積極的な社会参加をお示しいただき、町発展により一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、平群町長寿会連合会の更なるご発展と会員皆さまのご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

目 次

発刊の言葉

平群町長寿会連合会 会 長 扇 田 修 身

お祝いの言葉

奈良県老人クラブ連合会 会 長 中 西 憲 治

平群町長 岩 崎 万 勉

第一章

長寿会の発展を支えた人々

長寿会の誕生	14
ふれあい新聞創刊	14
増え続ける会員数	15
長寿会の革命	16
あとがき	17

第二章

平群町長寿会発足当時の歩み

昭和39年10月22日	平群村長寿会発足	20
昭和40年10月25日	第2回長寿会総会開催	20
昭和44年8月30日	長寿会夏季大会開校	20

第三章

長寿会連合会の活動について

昭和39年～平成4年

長寿会連合会の活動について	22
---------------	----

平成5年

2月25日	老人福祉センター土曜日閉館反対要望書提出	22
4月1日	ふれあい新聞創刊	23
	ふれあい新聞創刊によせて	23
4月30日	平成5年度長寿会連合会新役員決まる	24
	奥田武二会長挨拶	24
	中村正司会長退任挨拶	24
	平成5年度長寿会連合会総会開催	25
6月14日	老人福祉センター増改築要望書提出	25
6月	ローズタウン若葉台長寿会連合会に入会	25
9月1日	椿台で友愛活動の組織を作り推進	26
9月15日	長寿会活動とふれあい新聞発行について	26

9月15日～12月1日 長寿会の改革について……………	26
9月 婦人部の創設……………	27
平成6年	
平成6年度長寿会連合会新役員決まる……………	28
平成6年度長寿会連合会総会開催……………	28
平成6年度「ふれあい」活動方針……………	29
平成7年	
平成7年度長寿会連合会新役員決まる……………	30
奥田武二会長再選挨拶……………	31
平成7年度長寿会連合会総会開催……………	31
8月1日 老人福祉センターでのふれあい活動について……………	32
11月1日 指導者研修会開催……………	32
12月1日 今年のふれあい活動を振り返る……………	33
平成8年	
1月1日 奥田長寿会会長年頭挨拶……………	33
平成8年度長寿会連合会新役員決まる……………	33
平成8年度長寿会連合会総会開催……………	34
平成9年	
平成9年度長寿会連合会新役員決まる……………	35
4月 春の旅行「長野方面」……………	35
平成9年度長寿会連合会定期総会開催……………	35
松本義夫会長挨拶……………	35
5月 ふれあい活動部「コーヒーショプ」始まる……………	36
9月 椿台長寿会優良老人クラブ表彰……………	36
12月 忘年旅行「河口湖温泉」……………	36
平成10年	
1月17日 伝承交流部西ツ子大会に参加……………	36
平成10年度長寿会連合会新役員決まる……………	36
4月7日・8日 春の親睦旅行「道後温泉三大橋」への旅……………	37
平成10年度長寿会連合会総会開催……………	38
5月27日コーヒーショプ「ゆうあいサロン」名称変更……………	38
9月4日 信貴畑長寿会、優良老人クラブ表彰受ける……………	38
10月3日 ふれあい活動部「歩こう会」発足……………	38
12月3日～4日 忘年旅行「三ヶ根温泉」……………	38
平成11年	
2月 『ゆうあいサロン』運営ボランティアへ変わる……………	39
平成11年度長寿会連合会新役員決まる……………	39
4月2日～3日 春の親睦旅行「飛騨高山温泉と白川郷合掌村」……………	39

平成11年度長寿会連合会総会開催	39
10月 松本会長「県知事表彰を受ける」	40
11月8日～9日 忘年旅行備前高山「湯迫温泉」	40
平成12年	
平成12年度長寿会連合会新役員決まる	40
平成12年度長寿会連合会総会開催	41
7月11日 長寿会連合会女性部長の研修	41
7月15日 長寿会ベタンククラブと西小学校の交流	42
9月9日 福貴団地長寿会 優良老人クラブ表彰を受ける	42
11月19日 南小学校「南ツ子祭り」長寿会出席	42
12月5日～6日 忘年旅行「和倉温泉」	42
平成13年	
1月1日 松本会長 年頭挨拶	42
1月23日 女性部老人ホーム「三室園」慰問	42
4月4日～5日 春の親睦旅行	43
平成13年度新役員決まる	43
平成13年度長寿会連合会総会開催	43
5月 「ふれあい新聞」100号発行達成	44
7月 長寿会囲碁クラブ初の囲碁大会開催	44
9月 県知事表彰受賞 福貴長寿会	45
9月 県老人クラブ連合会長表彰受賞松本義夫前長寿会会長	45
12月 伝承交流部いきいきフェスター参加	45
12月 忘年親睦旅行「皆生温泉」	45
平成14年	
1月1日 宮前会長年頭挨拶	46
1月19日 長寿会正月囲碁大会開催	46
4月4・5日 長寿会連合会春の親睦旅行	46
平成14年度新役員決まる	47
4月 ふれあい新聞について	47
平成14年度長寿会連合会総会開催	47
7月13日 第3回長寿会囲碁大会開催	48
8月9日 長寿会連合会役員会の報告	48
9月 初香台長寿会老人クラブ賞受賞	49
11月 伝承交流活動報告	49
平成15年	
1月1日 宮前会長年頭挨拶	50
1月 「ふれあい新聞」発刊10周年を迎えて	50
平成15年度新役員決まる	53

	役員会開催（長寿会連合会入会基準60歳に）	54
5月	長寿会連合会女性部会開催	54
	平成15年度長寿会連合会総会開催	55
8月29日	第1回クラブ活動代表者会議開催	55
	かしのき荘改修計画出る	55
9月	伝承交流活動部だより	56
9月	宮前清和氏（前長寿会連合会会長）知事表彰受賞	56
9月	小林太一氏（福貴団地長寿会前会長）県老連功労賞	56
10月	かしのき荘美化運動実施	56
12月	伝承交流活動部（サンタのプレゼント）	57
12月8・9日	忘年親睦旅行「伊勢志摩 新浜島温泉」	57
平成16年		
1月1日	村木会長年頭挨拶	58
1月	高齢者の料理講習会実施（女性部）	58
1月	熱戦の第6回新春囲碁大会開催	58
2月26日	「三室園で演芸会」女性部ボランティア活動	59
2月	女性部の心に残った社会見学「志賀直哉旧亭」	59
3月	大空の家まつり伝承交流部参加	59
4月	「わがまちの名物人」伝承交流活動部出演	60
4月9・10日	春の親睦旅行「浜名湖花博・蒲部温泉」	60
	平成16年度新役員決まる	60
	平成16年度長寿会連合会総会開催	61
	村木会長挨拶（要旨）	61
6月	長寿会連合会に2地区増え36地区に（月見台・日立団地）	62
7月	女性部老人ホーム見学「グレースの里」「つくしの里」	62
7月	長寿会囲碁クラブ第7回囲碁大会開催	63
9月	竜田川ネオポリス長寿会「優良老人クラブ賞受賞」	63
	受賞の喜び錦秋会（長寿会）会長 藤田道雄	63
11月25・26日	秋季親睦旅行「蓼科温泉」	63
11月	大空の家まつり伝承交流活動部参加	64
12月	平群町高齢者交通助成金改定案出る	64
12月	納得できない行財政改革	64
12月	抗議声明「高齢者・児童に関する福祉後退の反対・撤回」	65
平成17年		
1月1日	村木会長年頭挨拶	66
1月	合同研修会開催「おれおれ詐欺・架空請求詐欺の手口」	66
1月	長寿会囲碁大会開催	66
	平成17年度新体制きまる	66

平成17年度長寿会連合会総会開催	67
6月 県老連女性部会女性リーダー養成研修会参加	68
7月 「予防」の推進を 健康部設立	68
平成18年	
1月1日 村木会長年頭挨拶	69
1月18日 伝承交流活動部新年西っ子大会に参加	69
3月3日 女性部研修会神戸ファッション美術館を見学	69
平成18年度新体制決まる	70
4月 新しい仲間誕生「菊美台長寿会発足」	71
平成18年度長寿会連合会総会開催	71
9月8日 春日丘長寿会「県老連会長賞受賞」	71
11月22日 長寿会連合会「全国優良老人クラブ連合会賞」	71
平成19年	
1月1日 村木会長年頭挨拶	72
3月 女性部社会見学「神戸花鳥園」	73
4月 武田新会長就任挨拶	73
平成19年度新体制決まる	74
7月 女性部・健康部合同研修会「口腔ケア」	75
8月 女性部主催「かしのき荘納涼大会」	75
9月 仲 正夫氏（長寿会連合会前会計）「知事表彰受賞」	75
11月29・30日 秋季親睦旅行（楽しかった思いやり旅行）	75
平成20年	
1月1日 武田会長年頭挨拶	77
2月1日 第1回友愛活動推進委員会の開催	77
3月 ホームページ開設	78
平成20年度長寿会連合会新体制決まる	78
平成20年長寿会連合会総会開催（武田会長挨拶）	78
9月12日 竜田川団地長寿会「県老人クラブ会長賞受賞」	79
10月 平群町長寿会連合会「全国老人クラブ活動賞受賞」	79
平成21年	
1月1日 武田会長年頭挨拶	80
4月7・8日 春季親睦旅行「昼神温泉・善光寺」	81
平成21年度新役員決まる	81
平成21年度長寿会連合会総会開催	82
7月 女性部と健康部の合同研修（高齢者の交通事故防止）	82
8月 高齢者の友愛支援活動	83
10月 友愛活動取り組み各地区順次広がる	83
10月 初香台長寿会「知事表彰を受賞」	84

武田前長寿会連合会会長「県老人クラブ会長より感謝状授与」	84
11月26・27日 秋季親睦旅行「晩秋の皆生温泉」	84
平成22年	
1月1日 扇田会長年頭挨拶	85
3月23日 町政懇談会が行われる（会長 本部役員出席）	86
町政懇談会の協議結果	86
平成22年度新役員決まる	87
平成22年度長寿会連合会総会開催	88
9月 竜田川ネオポリス「県老人クラブ会長賞受賞」	88
10月 町議会と懇談会開催（友愛名簿条例について）	88
10月 伝承交流部「全老連会長表彰 活動賞受賞」	89
12月 第4回理事会開催	89
平成23年	
1月1日 扇田会長年頭挨拶	90
2月18日 文化ラブブ作品発表会	90
平成23年度新役員決まる	91
平成23年度長寿会連合会総会開催	92
9月15日 明石賢三氏「県老連会長・福祉功労賞受賞」	93
10月14日 三里長寿会「県老連会長・仲間づくり受賞」	93
11月24・25日 秋季親睦旅行「小豆島」	94
平成24年	
1月1日 扇田会長年頭挨拶	94
2月7日 第3回文化クラブ作品発表会	95
平成24年度新役員決まる	95
平成24年度長寿会連合会総会開催	96
7月18日 クラブ助成金の支給始まる	96
10月11日 健康部「全老連会長賞受賞」	97
福貴畑長寿会「県老連会長賞受賞」	97
11月 かしのき荘開館時間延長	97
11月26・27日 秋季親睦旅行「那智勝浦方面」	97
平成25年	
1月1日 扇田会長年頭挨拶	98
3月 女性部社会見学（明治ヨーグルト館）	99
3月 悠々の郷折り紙教室閉じる	99
4月 健康麻雀クラブ総会と第15回大会開催	100
平成25年度長寿会連合会新役員決まる	100
4月11・12日 春季親睦旅行（東郷湖羽合温泉）	101
平成25年度長寿会連合会定例総会開催	101

5月	コーラスクラブ「20周年記念コンサート」	103
6月28・29日	第4回作品発表会開催	103
7月6日	武田俊雄氏（前長寿会会長）[育成功労賞受賞]	104
7月	女性部・健康部合同研修会「介護保険制度」	104
8月	女性部施設見学「松柏美術館・グレースの里」	105
8月	坂上有利氏（吉新長寿会）内閣総理大臣表彰受賞	105
8月	宮前清和氏（西宮長寿会）「瑞宝双光章受賞」	105
9月	上庄台長寿会（中西素直会長）「知事表彰受賞」	106
10月	藪内英輔参与（ふれあい情報部）「エイジレスライフ章」 受賞	106
11月28・29日	秋季親睦旅行「下呂温泉・小原四季桜」	106
11月	県老連女性部研修会開催（女性部の役割）	107
12月	ふれあい情報部（藪内英輔）「全老連活動賞」	107
平成26年		
1月	扇田会長年頭挨拶	108
1月	女性部で50周年記念手づくりファッションショー出演へ	109
2月	友愛活動推進は先ず体制づくりから	109
3月	新春健康麻雀大会	110
3月	女性部社会見学伊賀醸造元へ	110
4月	地区とクラブの活動は長寿会が原点	110
4月	椿台麻雀大会開催	111
4月	平成26年度新体制決まる	111
4月	春季一泊親睦旅行横谷温泉	112
5月	平成26年度長寿会総会開催	113
	扇田会長総会挨拶	113
6月	中川克己氏（上庄長寿会）瑞宝双光章受賞	115
6月	高齢者の相互支援	115
6月	高齢者相合支援推進モデル推進地区に	115
7月	女性部・健康部の合同研修会で認知症を学ぶ	116
7月	第20回健康麻雀大会武田氏優勝	117
9月	御陵苑陵寿会 優良老人クラブ表彰受賞	117
9月	長寿会連合会50周年記念事業大綱	118
10月	長寿会連合会創立50周年記念式典開催	118
	扇田会長式典挨拶	118
10月	長寿会連合会県の交通安全優良団体賞受賞	119

第四章

現代の長寿会連合会の取り組み

平成26年度長寿会連合会総会しおりから

(1) 平成26年度本部役員・健康推進委員・女性部役員名簿	122
(2) 平成26年度長寿会事業活動及び活動計画	122
(3) 平成26年度専門部・クラブ統括部活動方針	124
(4) 平成26年度役員・委員・部員クラブ代表者名簿	124
(5) クラブ代表者および活動予定	124
(6) 平群町長寿会連合会組織図	125
(7) 平成26年度地区別会員数	126

第五章

歴代本部役員・各部委員名簿

1. 歴代本部会長名簿	128
2. 歴代本部役員名簿	131
3. 歴代地区会長名簿	135
4. 歴代地区女性部長名簿	140
5. 歴代地区健康委員名簿	144
6. 歴代クラブ代表者名簿	146
7. 歴代健康推進委員名簿	150
8. 歴代ふれあい編集委員名簿	150
9. 歴代伝承交流部員名簿	151
10. 平群町長寿会地区会員数	153

第六章

長寿会連合会 規約類集

1. 平群町長寿会連合会規約	156
2. 平群町長寿会連合会クラブに関する細則	159
3. 平群町長寿会連合会表彰に関する細則	161
4. 平群町長寿会連合会会費徴収に関する細則	161
5. 平群町長寿会連合会慶弔に関する細則	162

第七章

個人・団体受賞記録

1. 歴代個人・団体受賞記録	164
----------------	-----

付 表

1. 春季・秋季一泊旅行実施状況	166
------------------	-----

あとがき

実行委員長 扇 田 修 身	176
---------------	-----





第一章

長寿会の発展を支えた人々

- 長寿会の誕生
- ふれあい新聞創刊
- 増え続ける会員数
- 長寿会の革命
- あとがき



第一章

長寿会の発展を支えた人々

長寿会の誕生

昭和39年東京オリンピックが10月10日から24日まで東京で開かれ、女子バレーで東洋の魔女が、重量挙げ三宅選手などが優勝し、日本中が湧き立っていた。そんな世紀の祭典を開催中の10月22日、奇しくも平群村長寿会連合会（以下、長寿会と略す）が誕生している。

9月に、発起会終えた会員約250名が村講堂に集まり、老人クラブ名を「長寿会」と名付けて発会式をおこない、会長が選ばれた。

初代長寿会会長 鈴木了道（信貴山）

鈴木は、戦後すぐの昭和21年から平群村長になり、選挙制度になった昭和22年には、初代村長として選ばれ26年退任している。

その後、長寿会結成時に推され、初代長寿会会長になり、9年間在任して長寿会の基盤を築いた。

第二代長寿会会長 沖野武明（梨本）は、鈴木の後任として昭和48年会長に就任する。沖野は、村議会で教育民生委員長、選挙管理委員長、村議会議長、助役などを歴任し町政で活躍している。

長寿会会長は、昭和48年から6年つとめているが、その間の長寿会での活動記録は残っていない。

第三代長寿会会長 中村正司（椿井）は、選挙管理委員長、助役などを経て、昭和42年村長に選ばれ二期八年つとめた。

その間、昭和46年2月に町制施行となり町長となる。

退任後、昭和54年に長寿会会長に就任する。会長としては、これまで最長の14年間つとめた。だ

が、会長としての記録は、わずか平成5年に退任の挨拶があるのみで、会長としての活動記録はわかっていない。

ふれあい新聞創刊

ふれあい新聞は、平成5年4月1日に創刊された。創刊したのは、社会奉仕活動クラブ代表藤本定司（椿台）、同情報部代表宮前 清和（西宮）、同友愛部代表浅野 峯男（上庄台）、同美化部代表兼田ライエ（春日丘）らである。

新聞の最初の題字「ふれあい」は、峯川徳司（榛原・元助役）の揮毫によるもので（現在は活字体に変わっている）よき仲間、良き社会を作るという意味である。発刊以来ふれあい新聞は、長寿会の活動記録などを記載し、今で長寿会の生き証人となっている。

新聞創刊には、生みの苦しみがあったが藤本らは準備号をだして、世論の裏付けをとり自信を持って発行した。

新聞発行を藤本らが、長寿会の役員会に諮ったところ「何がしたいね」「ええ格好したいのか」と会場から叱責まがいの声がでたという。こんなことから、新聞は発行したが長寿会の機関誌というには程遠く、その後社会奉仕活動クラブと長寿会役員会とは一線を画すことになる。

藤本は、新聞でも主張しているように、女性部を新設し、女性部代表と社会奉仕活動クラブ代表が、役員会に参画すべきだというのが彼の持論だった。

その後、平成7年に長寿会が女性部を新設し、その代表役員になった。これに対し、社会奉仕活

動クラブは新聞発行のほかに、友愛、奉仕などの活動、さらに800人の署名を集め行政に要望書を提出し「かしのき荘」の土曜日閉館を開館させるなど、長寿会がやるべき活動を代わって推進し、数多くの実績を残しながら、慣例があるとはいえ、藤本は、役員に呼ばれなかった。

藤本は、強烈なリーダーシップの持ち主で、業績を見ても会長になってもおかしくない人物だったが、「かんぽの宿」で祝宴中に倒れ、志半ばで急逝したのは残念である。

情報部代表の宮前は、長寿会に入会後、藤本らと一緒に社会奉仕活動クラブを立ち上げ、情報部代表となって、ふれあい新聞を創刊したのは、前途の通りである。新聞発行にあたっては、記事の収集に苦勞し部員らと教育委員会や役場に出向いて、取材をしたという。

友愛部代表の浅野は、活動範囲が広く80歳をすぎてなお、健康体操、手品研究クラブ、ペタンククラブ、ふれあい活動クラブなどの代表をつとめた。第七代会長の村木實が「私も、歳をとると浅野さんのような人になりたい」とよく口にしていた程、遣れる人で、そのうえ信義を重んじたから、高齢になっても幅広い活動ができたのだろう。

美化部代表の兼田は、別府みきゑ（春日丘）、井上富子（初香台）、らと共に、かしのき荘で草を取り、花を植えた長寿会美化活動のパイオニアである。

別府は、「藤本さんにはよく叱られたが、藤本さんは山から腐葉土や枯葉を袋一杯につめて持ち帰るなど、何でも先頭に立ってやる人で皆から信頼されていました。

当時の美化部は、毎月定期的に日時を決めて、部員が花の世話や掃除をしていたものです」と話している。

その後、ふれあい新聞は若林 正芳（三里）、藪内英輔（上庄台）と引き継がれ、現在にいたっている。

若林は印刷会社を経営していたが、会社廃業後ふれあい新聞の製作を引き受け、印字から印刷まで全て一人でこなしていた。勿論ボランティアである。

高齢者にとっては大変な作業で、並みの情熱ではできない仕事だった。これを見た浅野が、同じ大字に住んでいる藪内を藤本に紹介し、二人で分担して新聞をつくることになる。その後、若林は高齢のため新聞製作から手を引き、藪内が後を引き継ぐ。

藪内は、大学卒業後全国紙に入社し製作局次長兼務の技術部長をつとめ、若い頃社内報編集の経験があり、ふれあい新聞の製作に違和感はなかった。

新聞社退社後、長寿会の入会し上庄台長寿会会長を六年つとめ、参与となる。

ふれあい新聞は、その後平成13年に長寿会の機関誌となり、平成19年には、規約改正によってふれあい情報部、健康部、伝承交流部の代表が役員になり、発刊以来15年近くの歳月を経て、ようやく藤本の念願がかなったことになる。最近、ふれあい新聞はミニコミ誌として、全国では類のない？平群町医師会による「気をつけてますか！老後の健康」を連載するなど、広報誌としても会員二千余名の声となり、目となって情報を発信している。

● 増え続ける会員数

第四代長寿会会長 奥田武二（信貴畑）は安堵、三郷などの小学校を歴任し、退任後教育委員会の教育長をつとめた。

中村の後を引き継ぎ、長寿会会長に就任したのは平成5年で4年間在任し、その間長寿会女性部を新設し平成9年に退任する。

第五代長寿会会長 松本義夫（上庄台）は、国立の小樽経済専門学校（現、小樽商科大学）を卒業後、当時の日本交通公社に入社する。

退任後、長寿会に入会し上庄台長寿会会長を13年以上つとめ、在任中の平成9年に長寿会会長につく。

長寿会会長在任中の4年間は、全国老人クラブの三大運動、健康、友愛、奉仕の活動を推進した。

また、在任中は、会員が増え続け平成12年度には100名を越す増員となり、1,946名の大所帯となっている。

第六代長寿会会長 宮前清和（西宮）は、奈良師範（現、奈良教育大学）卒業後、大阪市立小路小学校校長を退任するまで、40年6ヶ月児童教育に力をそそいだ。

その後、平群社会福祉協議会で二年間つとめ、その間「福祉だより」を創刊する。

長寿会では、平成10年に長寿会副会長になり、平成13年から長寿会会長を二年間つとめた。

会長在任中にふれあい新聞を長寿会の機関誌とし、伝承交流部を結成させ、手品クラブを新設する。

任期は二年であったが、その間平群町の各小学校で、昔遊びや戦中戦後の暮らしぶりを児童に伝え、女性部による手土産持参の特別養護老人ホーム三室園慰問活動など長寿会の活動を発展させ、改革にも力をいれた。

更に宮前は、今春（平成25年）これまでの児童教育や地域活動の功労が認められ、春の叙勲で「瑞宝双光章」を受賞した。

今、宮前は藤本、浅野、兼田、亡きあと唯一の時代の証言者となり、手品クラブ、伝承交流部で活躍している。

長寿会の改革

第七代長寿会会長 村木 實（竜田川）は平成15年に会長に就任し、平成19年に退任するまで、長寿会の改革に取り組み続けた。

規約改正委員会、名称検討委員会を設置し町有バスの利用を実現させ、ホームページ開設の実務を担当する。

また、新年会、忘年会を新設し、かしのき荘美化活動の定例化など、改革の成果をあげる。

中でも、特筆すべきは平成17年に平群町議会の、高齢者、身体障害者、児童などの助成金の廃止、切り下げ政策に対する抗議活動である。

長寿会が先頭に立って決起集会を開き、廃止、切り下げを大幅に改善させ、大きな成果を上げている。

これは、長寿会員に対してだけでなく、町全体

の弱者の福祉の後退を阻止することになり、長寿会の存在感を大いに高めた。

第八代長寿会会長 武田俊雄（福貴団地）は、平成15年から福貴団地会長をつとめ、途中の平成20年に村木の後を引き継ぎ二年間会長を務める。なお地区会長は現在も在任中である。

長寿会会長在任中は、ホームページを開設させ、友愛活動推進委員会を設置した。

ホームページはネット社会に対応すると共に、仲間づくりが目的である。そのために長寿会の活動をホームページで地域に広報し、その実態を理解してもらうためだった。結果として、武田在任中に横這いだった会員数が90名近く増員できている。

友愛活動推進委員会は、一人暮らしの高齢者を見守り、独居死などを防ぐためのものである。

当時の平群町では、自治会の友愛活動は皆無に近い状態で、行政も実態が伴わない状態だった。このため、地域に先駆けて平成20年に友愛活動をスタートさせようとしたが、対外的な問題もからみ、一年間でまとめるには無理が生じ、次代に託することになった。

また、同じ地域に住みながら、高齢のためか仲間の訃報さえも中々伝わって来ないのが実情だった。このため、ふれあい新聞に「お悔み申し上げます」の欄を新設したのも武田である。

武田はこの他、福祉作業所「大空の家」の運営委員長を平成16年からつとめる。4年目の平成20年には、障害者自立支援法に基づき、法人格を取得させ、NPO法人大空の家となり、理事長を四年間つとめるなど、身体障害者福祉にふかく貢献している。なお、現在も理事職にある。

第九代長寿会会長 扇田修身（月見台）は、平成16年に月見台長寿会を結成し初代会長となる。平成19年に長寿会副会長となり、平成21年から武田の後を引き継ぎ長寿会会長となり現在に至る。

注目すべきは、健康部作りに力をそそぎ、月見台会長時代の平成17年に長寿会健康部を発足させている。これは異例のことである。

病気の予防は健診からと「会員皆健診」を目指

し、地区ごとに健康委員を置き、健康部の組織を作る。また、独自の健康手帳を作成して会員全員に配布し、アンケートを取りその結果を生かすなどして、会員の保健に力を入れ、大きな成果を上げている。一方、「健康相談室」を新設して、会員の看護師を常駐（月～木曜）させ、血圧測定や検尿の他、健康や悩みごとの相談まで引き受け、年間700人前後の会員が訪れている。

病気の早期発見の実績もあり、「命が救われた」と会員の方から礼状がくるなど、健康相談室は会員の健康には欠かせない場となっている。

また毎年定例総会に引き続き開催してきた、クラブ活動の舞台発表会とは別に、文化クラブ発表会を新設し、定例化して大きな反響を呼び、毎年300名以上の見学者があり、クラブの発展に貢献している。

その他の対外的な活動として、行政に働きかけ、会員の増員に必要な住民基本台帳の閲覧の了承をとり、また福祉課から、町内の各クラブの助成金を個別申請、個別配布の要請に対し、長寿会36クラブは長寿会が一括運営管理しているので、一括配布の申し入れをして、それを承認させるなど、長寿会の活動発展に幅広く貢献している。

また、扇田は地域に対しても、児童委員・民生委員（平成25年末で退任）や、「小地域ネットワークひまわり」の代表を10年以上に亘ってつとめているなど、地域の貢献度も大きい。

あとかき

会長は、その職につくと会のため何をすべきかを考え、それを実行に移そうとする。そのため、責任と労苦が付きまとう。

会員250名で発足した長寿会は、今では2,000人を超す、平群町最大の福祉団体となった。これは歴代会長の力に負うところが大きい。だが会長さんを支えた役員会、名前も出ていない裏方さんの目に見えない力がなくてはできなかった。

先人の「よき遺産」が長寿会の歴史を作り、その汗の結晶が長寿会の発展となったことを記して、感謝の言葉にかえさせていただきます。

（敬称略）

（長寿会参与 藪内 英輔）





第二章

平群町長寿会発足当時の歩み

- 昭和39年10月22日 平群村長寿会発足
- 昭和40年10月25日 第2回 長寿会総会開催
- 昭和44年8月30日 長寿会夏季大会開催



第二章

平群村長寿会発足当時の歩み

平群村長寿会発足

● 昭和39年10月22日、歴史が始まる 平群村長寿会発足、 会長に鈴木了道 氏

昨年、老人福祉法が制定されて以来、老人クラブは全国津々浦々に至るまで結成が急がれつつあり、わが村でもすでに活発な活動をされているところも少なくありません。

そこで、さる9月25日に、これらクラブの役員さん達が役場で会合されて相談の結果、お互いのよりよき発展を図るために、村一円の連合会を作ることとなり、会長鈴木了道、副会長中本新太郎、同北川久兵衛、会計森田賢治郎、同岡本岩治郎の諸氏を内定しました。

連合会の名称を平群村長寿会と名付け、10月25日午後1時から村講堂で、会員約250人を集めて発会式を催しました。

はじめに、北川村長は挨拶を兼ねて、会結式の趣旨といきさつを報告し「今後の発展を期待します」とお祝いの言葉をのべるとともに、さきに内定の役員名を披露して参加会員の同意を得ました。次いで鈴木会長のあいさつ、谷口議長の祝辞があり、奈良学芸大学教授寺尾勇氏の講演があって、3時に閉会しました。

ここに、待望の高齢者を支える平群村長寿会が発足しました。

第2回 長寿会総会開催

長寿会では、去る10月25日午後1時、中学校の屋内体育館に会員200人が参集して、第2回総会

を開催しました。

鈴木会長の挨拶、北川村長、池尻議長、の祝辞があり、全員にお菓子が配られ演芸が始められました。

佐賀家嘉平・旭芳子の漫才。松浦四郎の浪曲。加茂川ちどり・加茂川かもめの漫才。

続いて、会員の信貴畑 森井利一、福貴畑 五十川愛司、白石畑 上棟好治郎、椿井 春木徳治郎、三里 前川丞太郎、信貴畑 中本新太郎の諸氏が登壇し、自慢の喉を聴かせたり、各自の意見を述べ合い盛況裡に午後5時に閉会した。

長寿会夏季大学開校

長寿会の夏季大学は8月30日午後1時から、平群中学校屋内体操場で開校されました。当日は、65歳以上の長寿会会員300余名が出席し、鈴木了道会長の開校挨拶、中村町長と西川町議会議長を講師に迎え、村の現状について講演があり、続いて有名芸能人による漫才、浪曲の演芸の後、福引をして楽しい午後のひと時を過ごし、4時半に初の夏季大学を終了しました。

〈注〉「広報へぐり」の長寿会関連記事掲載は、初代会長の鈴木了道在任中の昭和44年までで、昭和45年以降は編集方針が変わり、長寿会に関する記事は一切掲載されていない。したがって、昭和45年から「ふれあい新聞」が創刊される平成5年までの間、長寿会の活動は記録として残っていない。このため第二代長寿会会長の沖野武明からは長寿会会長としての活動記録が残っていない。



第三章

平群町長寿会連合会の活動

- 『長寿会の活動』 について
- 長寿会連合会の活動



第三章

長寿会連合会の活動について

『長寿会の活動』について

高齢者は「今更何をやっても、昔ほど体も動くわけでもないし、中途半端になるさ」そう思って人中へ出るのを尻込みする人が多い。

だが、長生きするだけの老後ではつまらない。

人に評価されるような活動ができないまでも、人の助けになるものがあれば、そんな活動はしてみたい、高齢者の希望である。助け合いに自助、互助、公助という言葉がある。自助は、家族による助け合いであり、自助できないものは、皆が集まって団体を組織し助け合う。これが互助ある。互助できないものが公助で、行政が行う。

長寿会は互助団体である。お互いに繋がり助け合うために色々な活動をしている。これが「長寿会の活動」である。

長寿会の活動は、大字を単位にした地区長寿会活動、趣味の合う人たちが集まるクラブ活動、これが長寿会二大活動で、この他に、ふれあい情報部活動、女性部活動、伝承交流部活動、健康部活動など色々ある。

これらの活動は、長寿会の創成時から全てがあったわけではない。先人が、必要に応じて新しく作り、整え、年月を経て現在の活動体系が出来上がっている。

長寿会は人が集まって活動する場である。しかし、人が集まって、学習をし、趣味などを楽しむだけの活動団体ではない。

これまで、行政への提言を行うなど、長寿会は地域に役立つ数々の活動をしてきた。

官公庁などが週休5日制の実施となり、此に伴い、かしのき荘の土曜日閉館が決まる。これに

反対し、700名の署名を集めて、かしのき荘の土曜日閉館に漕ぎ着ける。

また、行政が弱者の福祉施策の廃止、切り下げなどを議決したのに対して、長寿会が先頭にたち決起集会を開いて、これを存続させ、切り下げ軽減をはかるなど、幅広く地域貢献も果たしている。

このように長寿会は、会員ばかりでなく高齢者のトップランナーとして地域の福祉活動にも力をいれてきた。

この「長寿会の活動」は、このような先人たちの貴重な活動実績を、ふれあい新聞、総会のしおり、広報めぐり、の3紙から抜粋し、冊子編集部会でまとめたものである。

平成5年 長寿会連合会の活動

● 老人福祉センター「かしのき荘」の土曜日閉館反対の要望書提出

七百人の署名を添え、藤本、宮前、浅野、兼田の連盟で「老人の健康と福祉計画」など、高齢者の福祉関係の研修会によく使われる「シンクタンクだけに任せてはいけない」という言葉があります。このたびの「老人福祉センター」の土曜日閉館は、まさにそのとおりです。

町当局で立案されたこの計画について、長寿会連合会役員会も仕方なく押し切られたと言うような形で決まったようです。

そこで、私たち社会奉仕クラブ員は町民の立場から、賛同者700名の署名を添え、次の要望書を町長に提出してお願いすることにしました。

『要望書』 平成5年2月25日

平群町長 北川吉晃 殿

提案者 長寿会社会奉仕活動クラブ

代 表 藤 本 定 司

情報部代表 宮 前 清 和

友愛部代表 浅 野 峯 男

美化部代表 兼 田 ライエ

平成5年4月から「老人福祉センターが土曜日休みになるので、ご理解をお願いします」の「広報へぐり」のお知らせを見て、まさに青天の霹靂でした。

二十一世紀には、4人に一人が老人になる時代。高齢化社会を間近に控え、これからの福祉のあり方について、福祉関係の法律が一部改正されました。特に「老人の健康と福祉計画」が最大急務の矢先、よりによって福祉の後退につながる、土曜日の閉館には理解に苦しみます。

平群町民憲章には、心のふれ合いを大切に、と書かれ、また「広報へぐり」には「住民の行政に対する期待に応えるために。心身をリフレッシュし、発想の転換を図り、住民サービスに努めたい」と述べられています。開館日の縮小が、社会の流れに逆行するだけでなく、書かれていることと大きく矛盾していることとなります。行政サイドだけでなく、高齢者や弱い者のサイドに立ち、一歩前進して土曜日は高齢者が自由に利用できるよう開館をお願いします。土曜日の開館は高齢者弱者への副音になります。

先日、全国老人クラブ連合会の創立30周年記念大会の際に、天皇陛下の「高齢者自らが友愛の輪を拡げ、明るい健やかな社会に参加することが重要・・・」とのお言葉に意を強くして、わたくしたち社会奉仕クラブ員61名は別紙の計画により、友愛とボランティア精神で「ふれあい活動」を発展に展開し、心豊かなまちづくりに貢献していきたいと考えています。このため、老人福祉センターの土曜日閉館反対活動に賛同された方々の署名簿を添え、引続き土曜日の開館をお願いします。

● 長寿会の生き証人ふれあい新聞 創刊される

「ふれあい新聞」は、藤本定司、宮前 清和、

浅野 峯男、兼田ライエの4氏を中心に平成5年4月に発刊された。計画時は、村八分にされそうな危機を感じたこともあったが、新聞発行という初志を守り抜き、準備号を出して会員の反響を調べた結果、確信をもって新聞の発行ができた、と藤本氏は語っている。「ふれあい」の題字は峯川徳司氏の揮毫になったのは、創刊12年後の第七代会長の村木会長になってからである。

新聞発行の功労者である。藤本、浅野、兼田の3氏は既に鬼戸に入られ、発刊の承認として残っているのは宮前し一人になっている。

● ふれあい新聞創刊号発行によせて

平成5年4月、平群町長寿会連合会の新聞「ふれあい」を発行する運びになりました。

高齢化、情報化、国際化が急速に進みつつある現社会情勢に適応できるために、わたくしたち社会奉仕クラブは「友愛活動」「情報活動」「美化活動」の分野で活動を進めています。半年余りの準備期間中にはいろいろなことがありましたが、なかでも嬉しかったことは匿名で多額の寄付金をいただいたことです。

最近のボランティア活動の傾向として、都市部ばかりでなく町村部での参加者が増えています。また、活動の主流が40から50代の主婦層から男女高齢者へと広がりを見せています。

長寿会の社会奉仕クラブ（シルバーボランティア）の活動は、仲間づくりや地域づくりにつながるなど、老人クラブ（長寿会）の目的と共通することが多いでしょう。地域への愛着は高齢者ほど強いものがあります。自分たちの住む町を興していくという目的を持ち、ボランティア活動を通して会員の意識の改革と向上に努めたいものです。

封建色の強い町で、民主活動により民主活動をつくる（天安門事件を思い出す）ノーマライゼーションの社会（差別のない社会、障害者の完全参加できる社会）をつくるには、大変な困難と時間が必要です。私たちは「自主性」「地域制」「協同性」の三つをキーワードとして地道に活動を続けたいものです。これらの活動を進めていくには「ふれあい新聞」が不可欠です。これからは長寿会の

情報誌として役立つことを願っています。

● 平成5年度 長寿会連合会役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	奥 田 武 二 (信貴畑)
副会長	塚 信 一 (越木塚)
々	松 本 義 夫 (上庄台)
会 計	浦 井 三 男 (樫 原)
々	田 中 巖 (初香台)
監 査	東樋口 藤 雄 (平等寺)
々	藤 枝 忠 夫 (福 貴)
顧 問	中 村 正 司 (椿 井)

◇ 長寿会地区役員

鳴 川	松 川 一 雄
櫟 原	峯 川 徳 司
椿 台	藤 本 定 司
槻 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	高 塚 義 治
上 庄	坂 本 清 春
信貴ホーム	松 村 正
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	安 田 正 信
若葉台	岩 崎 喜久雄
御陵苑	井 上 国 一
吉 新	福 田 勇 雄
三 里	田 中 正 義
平等寺	東樋口 藤 雄
下垣内	東 京 正
福 貴	藤 枝 忠 夫
初香台	奥 山 兵 助
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	五十川 良 春
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
樫 原	浦 井 三 男
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	隅 田 勘 助

椿 井	吐 田 藤 雄
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	長 岡 正 雄
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	伊 藤 末 吉
竜田川ネオポリス	吉 田 文 雄

● 会長就任あいさつ

長寿会連合会会長 奥田 武二

昨年来、長寿会社会奉仕クラブの誕生について種々奔走努力されて、ようやく双葉が芽生えたようで、誠に結構なことでご同慶の至りです。

長寿会会員も、何か社会に役立つ活動をしたいものですが、高齢者が社会参加するためには、奉仕活動が最も適していると思います。この意味からも一層この運動を展開していただきたいものです。全国老人クラブ連合会でも、毎年9月20日に社会奉仕の日と定めて全国一斉に幟を掲げて地域の清掃作業、交通安全活動、環境美化活動等の奉仕活動を推し進めています。昨年も当長寿会は、それぞれの大字および町内会でこの活動を展開し、その実況をカメラに収めて報告しています。

しかし、奉仕活動は今更言うまでもなく、あくまでも自主的なもので、強制されるものではありません。また、ある目的のための手段であってはならないと思います。

「親心とは与え与えて求めざる心である」という名言がありますが、性質は違っても奉仕精神と共通するところがあると思われます。

因みに、私の大字信貴畑では、10数年前から毎月14日を奉仕の日と定め、今日まで毎月欠かさず奉仕活動が続けていることをお知らせして、私の挨拶といたします。

● 会長退任あいさつ

長寿会連合会前会長 中村 正司

わたくしは、任期満了のため、去る3月末日をもって長寿会連合会会長を引退いたしました。

顧みますと、わたくしが沖野武明さんの後任として連合会長に選ばれたのは、昭和54年4月5日でしたが、その後、再選に次ぐ再選で、いつの間

にか14年もの年月が流れました。その長い間、会員の皆さんはもちろんのこと、町当局ならびに町民各位の一方ならぬご支援ご協力のお陰により大過なく今日の日を迎えられたこと、心から深く感謝いたしております。

わたくしは、多年に亘り連合会長としてそれなりに頭を使い、また、多くの皆様との楽しい交友や貴重な学習をさせてもらったお陰により、まだ心身ともに健康ですので、これからも連合会の行事やクラブ活動には進んで参加したいと思っています。今までどおりのご支援とご指導を切にお願いして、引退の挨拶といたします。

● 平成5年度長寿会連合会総会開催

5月15日、町中央公民館において、参加者が400人を超える会場いっぱいの中で総会は盛大に開催された。

初めに、前中村会長から、始めあれば終わりあり、昭和54年に会長を引き受け、7回再選、14年も経っていた。この間、大過なく過ごせたことに対する会員への感謝と、今後も会のために協力したいので、これまでどおり、よろしくとの挨拶があった。

続いて、出席者全員で物故者62名に対する慰霊黙祷が捧げられた。

次に、新会長の奥田武二から、総会に大勢出席していただいたお礼と、長寿会の長寿の意味は元気で長生きということなので、健康に気をつけ節制して元気に過ごしてくださいとの挨拶があった。

引続き、長寿会に功績のあった方々に感謝状の贈呈があり、会長から中村前会長、谷村前監事、山下理事にそれぞれ感謝状が贈られた。

その後、来賓祝辞があり、北川町長からは、本年は「老人保健福祉計画」策定が自治体に義務付けられ、今その作業が進められている。生きがいのある福祉の町づくり推進をしたいので健康に留意してくださいとお祝いの言葉があり、玉井副議長からは議長の祝辞が代読された。

総会は式次第どおり進み、北川町長、玉井副議長、増田教育委員長、安村民生児童委員総務、坂

上婦人会長が来賓として紹介され、紹介後、竜田川団地の左古さんが議長に選出され議事に移る。

平成4年度事業報告、決算報告、5年度の事業計画、収支予算案など全てが承認され、質疑応答に入る。

老人福祉センターの土曜開館については賛否両論があったが、一・二年中に別館を建てるのであれば土曜日閉館を了承するとの報告があった。これに対して町長からは別館ではなく、新たな増築をできるだけ早くしたい、との回答があり出席者も安堵したことと思われる。

午後からは、お待ちかねの学習発表会があり、一年間の学習成果を存分に発揮し、笑いと拍手の中で楽しいひと時を終え、予定の行事は全て終了した。

● 老人福祉センターの増築要望書提出 町議会に対して、長寿会役員から

6月14日老人福祉センターで長寿会の役員会が開かれた。その日の案件の反省事項から、支部役員から次のような指摘があった。

老人は健康な方もいるが足腰の弱い方が多数おられる。会場が狭いため大部分が座布団を敷いて座る席になっている。椅子席が少ないために足腰の悪い人は難儀している。椅子席を増やすか、もっと広い会場を利用して椅子席を増やすようにできないかとまた、総会時の質疑応答で、町長からできるだけ早く福祉センターの増築を行いたいと回答があり出席者は安心したが、このまま待っているだけではあまりにも消極的過ぎる。もっと積極的に皆の要望を伝えなければとの意見が続出した。

このため、即刻、会長を中心に本部役員会で町長、町議会議長に対して要望書を提出することにした。

● ローズタウン若葉台が新しく入会 町から長寿会へ助成金が出る

ローズタウン若葉台が平成5年度から新しく連合会に入会され長寿会にとって仲間が増えましたのでお知らせします。

次に、毎年町から交付されている助成金が、会員一人当たり954円支給されました。長寿会連合会へは会費900円を納付しなければなりません、助成金と差引きしますので、連合会費の納入は必要ありません。

● 椿台で女性部十人で組織をつくり友愛活動を

◇ 友愛活動

- 一. 「ふれあい新聞」の訪問配布
- 二. 誕生祝い 誕生日を迎えられた会員宅に粗品を持って友愛訪問を行います。
- 三. 8月と12月の2回、寝たきり高齢者と、それに準じる方15名へ粗品を持って友愛訪問、別途、初盆を迎えられたお宅へはお盆前にお供えとお参りをします。
- 四. その他、総会、旅行、クラブ活動、地藏まつり、清掃活動など、全ての長寿会行事は、友愛活動の一環として実施しています。

以上の結果、現在の長寿会は賑やかで楽しい会ですが、65歳前後の若い高齢者に関心が薄いので将来を心配します。何かいい手立てがありましたらお教えください。

◇ 椿台の規模 総人口 約1350名
うち、高齢者〈65歳以上〉145名
うち、長寿会員（65歳以上）84名

● 長寿会活動とふれあい新聞の発行について

全国老人クラブに、政府予算案の「市町村老人クラブ連合会活動促進費」が決まったのは、平成元年12月末のことです。この時から「開かれた老人クラブ」づくりのために新しく老人クラブ運営要綱が改正されました。

長寿会では、これを契機に丁度一年前の平成4年9月15日、社会奉仕活動をしようと呼びかけたところ、60名の同志が集まり「友愛活動部」「情報活動部」「美化活動部」が新しく生まれました。

ふれあい新聞は、平成4年の暮れに準備第一号を発行しましたが、発行にこぎつけるまでには、いろいろなことがありました。周りからは「老人

がボランティア活動をして何になる。」「売名行為をやっとるのか」と非難の声を浴びされたことがありました。

しかし、3月の準備第四号で、老人福祉センターが週休二日制に伴い土曜日閉館が決まった時、これは福祉の後退である。土曜日はもちろん日曜日も開けてほしいくらいです、と反対の要望書を提出しました。

町では年末までに、この閉館については4回も検討会を開いて決めたそうですが、我々長寿会には全く相談がありませんでした。このため要望書を提出しましたが、決して悪いことをしたとは考えていません。

このほか、いろいろなことが重なり友愛活動がやりにくくなって、現在では情報部活動と一体になって、心の便り、友愛の便りを記事にして個別に訪問して配布したりするほか、障害者とのふれあい、支援するための福祉作業所の手伝いも行っています。

ふれあい新聞は今や奉仕活動の中心的存在で、高齢者を孤独から守り、高齢者を元気にするための努力を続けています。予算ゼロから出発した「手づくり」の新聞ですが、順調に発行部数も増えて多数の方から喜ばれています。

この新聞は、毎月一日に老人福祉センターで印刷をして用意しています。どなたでも自由におとりください。また、社会奉仕活動部員に話をされると必ずお宅までお届けしますので、どうぞご愛読をお願いします。

● 長寿会の改革 開かれた長寿会づくり

「政、官、財の癒着がかかってないほど批判にさらされ、様々な分野で改革がとえられている。日本社会の再生に期待をかける人々の気持ちが変革のうねりを作り出している……」これは朝日新聞の社説の一節である。

我々の長寿会にも次の3つの変革が必要と考えています。

1. 婦人部の創設
2. 小さなボランティア活動

3. 事務局体制の強化

◆ 婦人部の創設

長寿会員の現状は、どの支部（地区長寿会）をみても女性会員が多い。

クラブ活動を見ても全体的に女性が多い。旅行などの行事に参加される方も女性が多いのは周知の事実です。なのに、女性の役員は1人もいません。近隣の老人クラブでは、早くから婦人部が作られ女性の進出が図られていますが、平群町だけが何故か取り残されているようです。これは、町や役員の封建制が理由だと思われます。

各支部から、支部の婦人部長を選出して長寿会の婦人部を創設し、長寿会の婦人部長を役員に加えるべきだと考えます。

◆ 小さなボランティア活動

第2の人生が始まると、何らかの形でひとに役立つことをした意識から、ボランティア活動をしてみたいと考える人がわが国では40%もいると言う。

長寿会の社会奉仕クラブが行っているボランティア活動は、老人福祉センターの美化活動、障害者が働く福祉作業所の手伝い、地域の美化活動などです。また、ふれあい新聞は高齢者の生活を守り向上させることを目的としている新聞ですから、私たちはこれをボランティア活動と考えています。ふれあい新聞は発行部数が800部あまりですが、将来は全員に届けることを目指しています。

社会奉仕クラブは、現在こんな活動をしていますが、私たちは本部役員会の組織には入っていません。これが変革すべき問題点です。

また、私たちの活動は人手が足りなくて困っています。社会奉仕クラブのボランティア活動に協力してやろうと思われる方は是非参加をお願いします。

◆ 事務局体制の強化

「開かれた長寿会」をつくるためには、先ず長寿会の体質改善が急務です。そのためには婦人部を創設し、婦人部代表、情報部代表を含めた本部

役員体制を作って、事務局体制を強化し、長寿会全体の意見を集約して、行政に反映させることが重要かと思います。これが長寿会を変革していくための最大の課題です。

平成6年 長寿会連合会の活動

● 平成6年度 長寿会連合会役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	奥 田 武 二 (信貴畑)
副会長	塚 信 一 (越木塚)
々	松 本 義 夫 (上庄台)
会 計	田 中 巖 (初香台)
々	浦 井 三 男 (榎 原)
監 査	東樋口 藤 雄 (平等寺)
々	藤 枝 忠 夫 (福 貴)
顧 問	中 村 正 司 (椿 井)

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	岡 田 幾 治
櫟 原	峯 川 徳 司
椿 台	日 垣 喜一郎
槻 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	高 塚 義 治
上 庄	北 畑 耕 司
信貴ホーム	田 中 三 郎
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	岡 幸 吉
若葉台	太 田 幸 雄
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	福 田 勇 雄
三 里	田 中 政 義
平等寺	奥 田 一 郎
下垣内	西 岳 勝 治
福 貴	藤 枝 忠 夫
初香台	奥 山 兵 助
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	五十川 良 春
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
榎 原	浦 井 三 男
越木塚	塚 新 一
若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和

春日丘	隅 田 勘 助
椿 井	吐 田 藤 雄
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	高 見 義 夫
竜田川ネオポリス	中 村 光 男
ローズタウン若葉台	宮 西 哲 雄
五月台	渡 辺 順 蔵

● 平成6年度 長寿会連合会総会開催

▶ 盛会理に終わる

長寿会連合会総会が、5月15日平群町中央公民館で開催された。当日は生憎の雨天となったが、会場は出席者でいっぱいとなり定刻通り始まった。

初めに物故者56名に対し慰霊黙祷が捧げられた。続いて奥田会長から以下のような挨拶があった。

真っ先に嬉しい報告として、老人福祉センターの増築が確定したことを皆さんにお伝えします。喜んでください。次に、高齢化社会を迎え日本が世界一の長寿大国となり、かつて経験したことがない社会を迎えることになりました。私たち高齢者にとっては、先ず健康が一番の目標であるが、孤独感を解消するためにどうすればよいか、余った時間を社会に役立つ活動に向けるにはどうしたらよいか、などを自分で考え行動に移す時が来ている。

手助けを必要としている。老人福祉は老人の手でとも言われている。誰もが避けて通れない老後、もし自分が寝たきり、痴呆、独居、虚弱となった場合はどうなるのだろうか、他人事ではない。

老人は時間を持ち、いろいろなパワーがある。老人も福祉社会の担い手となって、間へ前へと取組んでいきたい、と力強く抱負を述べられた。

引続いて、長寿会に功績のあった、井上様〈御陵苑〉、長岡様〈北信貴ヶ丘〉、藤本様〈椿台〉に感謝状が贈呈された。

その後、来賓祝辞に移り、西山収入役からは人生80年時代、健康に留意し、体と頭を使い、右手に健康、左手に幸を携えた生活を送ってください。玉井副議長からも健康にはくれぐれも留意してく

ださいと、お祝いの言葉を述べられた。

総会次第は来賓紹介、議事へと進み、事業報告、決算報告、事業計画、事業予算案を全て満場一致で承認された。

午後からは、会員による学習発表会。それぞれのクラブで一年間学習をしてきた成果をいかになく発揮して、楽しい発表会が終わった。

● 平成6年度「ふれあい」活動方針

「社会奉仕クラブ」はあまりにも型ぐるしく、仰々しく聞こえますので「ふれあい活動部」と改称し、次のように誰でもが楽しめるようなボランティア活動をすることにしました。新しい時代に副うために各支部から一名以上の入部をお願いします。入部は簡単、世話人に一声かけるだけで結構です。

1. 「ふれあい」新聞の発行について

月刊誌として、17号、準備号を入れると21号の歴史を持つようになり喜んでいきます。これも楽しい、役に立つ新聞（友愛だより）として続けたいものです。投稿には部員はもちろん、一般の方からもお願いします。

2. 新聞配布について

一人でも多く、ふれあい活動部員になっていたいて、寝たきり老人とか、老人福祉センターを利用されている方の所へ友愛だよりとして届けていただきたいのです。また、長寿会会員でない高齢者にも届けて会員加入への活動をお願いします。

3. 「ふれあいを楽しむ会」について

楽しみながら小さなボランティア活動をしましょう」を合言葉に、本年度から最重点の会合です。会場はセンターが増改築されるまで、外部施設を利用します。

開催日時は、毎月のふれあい新聞が出来上がる月末の木曜日とします。

7月の会合は、左記の「ふれあいを楽しむ会」の案内をご覧ください。

この会合の目的は既にご理解いただけたかと思いますが、特に新しく設けられた女性部の活動の場として最適かと考えます。奮って入部「遊びのある生活」を楽しんでください。部員は1人でも多くの友人を誘い合って、良き友を大勢持つようにしてください。また、孤独などに悩まされている方がおられたら率先してお誘いください。

4. その他

- 「大空に家」（福祉作業所）と各種老人ホームへ年に5、6回の友愛訪問を計画しています。参加者をお待ちしています。
- 地域での美化活動も、できる人でふれあい活動の一環としてやっていますので、お願いします。
- 会費は徴収しません。新聞の印刷にかかる経費（紙代は除く）、連絡費用、茶菓子代などは、長寿会連合会からの助成金と篤志家の寄付金で賄っています。
- 月1回の「ふれあいを楽しむ会」は、参加、不参加は自由ですが、ふれあい活動部員の連帯感と自覚で活動されるようお願いいたします。

● 「ふれあいを楽しむ会」のご案内

日 時 7月28日(木) 午前10時より (月1回)

場 所 かんぽの宿

- 交通費、入場料 500円 飲食費、カラオケ代いは自己負担
- 帰りの時間は自由です。
- 会場の変更時は世話人から電話連絡します。

● 平群町在宅介護者家族の会設立 ふれあい活動部からも浅野さんら4名が参加

去る10月15日、平群町在宅介護者・家族の会が設立されました。

私たちふれあい活動部からも浅野さんはじめ4名の方が、協力者として参加しました。

会では、救命の協力者を含めて57名の会員でスタートされたそうです。町の寝たきり老人を世話されている方も、毎月の「ふれあい新聞」を友愛

だよりとして届けたり、いろんな面での友愛活動
を支援して、福祉のネットワークを作っていくつ
もりです。

これからも、皆様のご協力をお願いします。

平成7年 長寿会連合会の活動

● 平成7年度 長寿会連合会役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	奥 田 武 二 (信貴畑)
副会長	塚 信 一 (越木塚)
々	松 本 義 夫 (上庄台)
々	高 倉 澄 子 (初香台)
会 計	浦 井 三 男 (樫 原)
々	宮 西 哲 雄 (若葉台)
監 査	藤 枝 忠 夫 (福 貴)
々	伊 東 亨 (若葉台)
顧 問	中 村 正 司 (椿 井)

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	吉 川 昌 雄
櫟 原	峯 川 徳 司
椿 台	日 垣 喜一郎
槻 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	高 塚 義 治
上 庄	松 本 芳 一
信貴ホーム	井 上 昭 二
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	辰 巳 二 胤
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	野 田 悟
三 里	外 山 義 信
平等寺	奥 田 一 郎
下垣内	山 本 祐 司
福 貴	藤 枝 忠 夫
初香台	奥 山 兵 助
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	五十川 良 春
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
樫 原	浦 井 三 男
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎

西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	吐 田 藤 雄
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	岡 山 秀 治
竜田川ネオポリス	中 村 光 男
ローズタウン若葉台	宮 西 哲 雄
五月台	泰 地 俊 二

●平成7年度 奥田会長再選の挨拶

私儀、過日の役員会で平群町長寿会会長に再選されました。誠に不行き届きの者ですが、全力で長寿会の発展に奉仕していきたく思いますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

昨年度は二つの嬉しいことがありました。その一つは、かねてより念願の会議やクラブ活動の場として利用できる大広間を増築していただいたことです。

もう一つは、長寿会に女性部ができたことです。今回、県老連で女性部が初めて発足しましたので、平群町でも改めて女性部を組織した次第です。

さて、高齢化が急速に進んでまいりまして、我々老人はいろいろな意味で世間の注目の的となってきました。また、我々老人の自覚として、また処世態度として種々考えさせられる時代となってきましたが、この話は改めてさせていただきたいと思います。

今回は、会長再選の挨拶に留めさせていただきます。会員のみなさまにはどうか健康に留意されまして、明るく楽しい日々を送ってくださるようお願いいたします。

●老人福祉を、老人の活力を、老人の手で、平成7年度 平群町長寿会連合会総会

- ・期 日 平成7年5月15日(月)
- ・場 所 平群町中央公民館

当日は、生憎の雨となり足元の悪い悪条件となったが、会場は満員の盛況となった。先ず、昨年一年間で亡くなられた54名の方に対し、ご冥福

をお祈りして黙とうをささげる。

①会長挨拶

天候の悪いにもかかわらず、大勢の方々のご参集を得て、またご来賓の皆様方にはまげてご臨席いただきまして感謝申し上げます。

現在、日本は世界一の超高齢化社会を迎え、4人に一人が老人になっています。

また、子供の数も一世帯平均で1.6人で、ドイツ、イタリアよりも少ない世界一の少子化国となっています。したがって、これからは、老人のあり方を考えなければならない時代になっています。

これまで受け身になっていた老人が、これからは老人の活動が必要とされる時代になってきました。時間のある老人、経験豊富な老人の力を社会が求めています。

・福祉面

老人福祉は老人の手で、を合言葉に昨年長寿会に女性部が誕生しました。部長には高倉澄子さん(初香台)になっていただき、友愛訪問を計画しています。

・美化清掃活動

地域の美化清掃活動は、年1回9月20日に実施しますが、一年を通して活動するようにしていきたいと考えています。

今日は、これから老人の進むべき道について話をさせていただきました。長寿会はこれからも地域の老人の代表として、みんなで頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

②感謝状贈呈

田中 巖(初香台)、吐田 藤雄(椿井)、
隅田 勘助(春日丘)、福田 勇雄(吉新)

③来賓祝辞

北川町長、北川町議会議員、中辻県議会議員

④来賓紹介

北川町長、北川町議会議員、中辻県議会議員、
村上町議会副議長

中村自治連会長、坂上婦人会会長、野村助役、西山収入役、増田教育委員長、井岡部長、安村民生児童委員総務、議長には、竜田川団地の左古さんを選任、事業報告、決算報告などが満場一致で承認された。午後のクラブ発表も、各クラブが一年間の練習の成果を遺憾なく発揮し、和気藹々のうちに全ての行事が無事に終了した。

● 老人福祉センター 新館でのふれあい活動について

老人福祉センターを利用できるのは、個人利用を除き各大字ごとに毎月1回割り当てられています。今回新館ができたので、新館を利用したふれあい活動を企画し、7月から実施します。利用の意図と実施方法について述べます。

1. 意図

新館を利用するのは、風呂に近いことから足の悪い方でも利用しやすいからです。

2. 実施方法

● **活動日と時期** 第2、第4週の月曜日（午前10時～午後3時）

● **会 場** 新館大広間

自由にお入りください。自由にお休みください。自由にお遊びください。

自由にお話してください。好きな手仕事をしてください。午後1時から、カラオケで歌ったり、踊ったりして楽しんでください。

カラオケ機器は篤志家の寄付と部員の協力で購入したものです。レーザー盤は、部員の個人用ですがレパートリーも広く、バラエティに富んでいます。

ふれあい活動部は、仲間をつくり仲間と手を取り合って楽しむための活動です。

ぜひ、ふれあい活動の日に、仲間と一緒にって1日をゆっくり楽しんでください。

● 老人クラブ指導者研修会 これからを豊かに生きるために

講師 神戸学院大学教授 橋 重美

今から500年前の寿命は、平均18歳、19歳と言われている。50歳を越のは昭和22年頃だから500年ほどかかって30歳伸びたことになる。戦後50年、現在の平均寿命は男性75歳、女性87歳と言われているから、戦後で30歳伸びたことになる。このように急激に寿命が伸びたので今は戸惑い、経験がないので行政は福祉関係の方たちも努力の割には効果が少なく、老人問題は不安な点が多い。

老後問題は、老人クラブで問題点を取り上げ老人自身が自主的に行動しなければいけない。物まね、人まねでは老後問題の発展はない。

講演のテーマになっている、豊かに生きるの「豊か」とは、物の見方を変えることで豊かになる。視点を変えることで柔軟性がついて豊かになる。

老後問題で一番大事なことは、健康づくりであり、仲間づくりである。行政は弱い老人をつくらない、個人では弱い老人にならないように頑張り、努力しなければならない。

北欧は、福祉先進国と言われていたが今は遅れてきているようだ。年金をもらい、働かない、金をためない者が増えて、生きる意欲を持たない人が多くなっている。過去を振り向くのはダメ、未来を語らなければいけない。人間は10歳頃から老化が始まるが、目にははっきりと見えない。60、70歳になると老化が激しくなるが心は老化しない。心を貯蓄することが大切である。青春とは、心にロマンを持ち、何かをやろうとする意欲のある時期で、年を重ねても心は青春でなければいけない。

人間は一人では生きていけない。物が豊かになると孤独になる。今はみんな孤独になっている。孤独から脱却するには思いやる心、強い心、優しい心が必要で、地域社会での人間関係が良くなり、ふれあいを深めるように心掛けないといけない。心の喪失時代には人の温かい心が人を引き付け、心が通じ合う。隣は何をする人ぞ、自分だけ良ければ良いと思うようでは豊かな町にはならない。

共に生き、共に分かち合い、共に歩む、これが豊かさなのだ。

今は友達もできにくい。それは物が豊かであるが心が寂しいからだ。温かい心の繋がりのある老人クラブでなければいけない。

終わりに、健康に気をつけて心に「気」を植えてください。やる気、陽気、勇気、絆という気を。

● 今年のふれあい活動を振り返る

1. 阪神大震災は大変悲しい出来事だが、それによってボランティア活動と情報活動が見直され活発になりました。
2. 長寿会役員のご理解により、情報活動部が独立し、活動補助金が出され、ふれあい新聞の経費が少し助かるようになりました。
3. 待望の新館が完成。新館利用について問題もありましたが、その後、解決し現在はスムーズに、そして有意義にふれあい活動ができるようになりました。
4. 篤志家の方々から、度々励ましのご寄付をいただき感謝しております。
5. 篤志家のお陰で、レーザーディスクが設備でき、唱歌や演歌などカラオケで仲間とのふれあいを楽しむことができます。
6. 触れ合いを楽しむ会で、人生の貴重な体験などが話し合え、仲間との交流を深めることができます。
7. ボランティア活動の輪が徐々にではあるが広がっています。
8. 友愛だよりとしての「ふれあい新聞」の愛読者が増えてきました。多くの方がふれあい活動に関心を持たれていることが分かりました。
読者から、楽しみに待っていたのに11月号の新聞がまだ届いていないとお小言の電話があり、早速郵送しました。有難いことです。
9. 会員の方から、ふれあい活動についてご意見、ご要望などがいろいろと寄せられ、多くの方がふれあい活動に関心を持たれていることが分かりました。

平成8年 長寿会連合会の活動

● 奥田長寿会会長 年頭のあいさつ

平成7年は、天災、人災の多かった年でありました。今回公募された昨年のイメージの言葉は、「震」だそうです。平成8年は、どうか平穏な明るい、長寿会にとっても快適な年でありますよう祈念いたします。

昔から青年は未来に生き、壮年は現在に生き、老人は過去に生きる。と言われていますが、人生80歳の今日では老人が過去に生きていては甚だしい時代遅れになります。

老人と言われる年齢になっても、まだ20年の人生があります。

老人の口癖である昔話はほどほどにして、積極的に現在の生活を楽しみ、将来について計画を立て、抱負を持つように努力しましょう。本年の努力目標として、老人特有のぼんやり時間を減らし、何かを学習し、何かをやり続けるという意欲と行動を持つように頑張ろうではありませんか。それが健康長寿の秘訣になります。

● 平成8年度 長寿会連合会新役員

《長寿会本部役員》

会 長	奥 田 武 二 (信貴畑)
副会長	塚 信 一 (越木塚)
々	松 本 義 夫 (上庄台)
々 (女性部長)	高 倉 澄 子 (初香台)
会 計	浦 井 三 男 (樫 原)
々	宮 西 哲 雄 (若葉台)
監 査	藤 枝 忠 夫 (福 貴)
々	伊 東 亨 (若葉台)
顧 問	中 村 正 司 (椿 井)

《長寿会地区会長》

鳴 川	谷 室 伊三雄
樺 原	峯 川 徳 司
椿 台	日 垣 喜一郎
槻 原	藤 戸 正 夫
緑が丘	藤 田 義 一

西 向	森 正 一
上 庄	北 川 史 弘
信貴ホーム	森 川 衛
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	植 松 孝 雄
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	野 田 悟
三 里	外 山 義 信
平等寺	奥 田 一 郎
下垣内	吉 本 正 一
福 貴	坂 中 忠三郎
初香台	福 田 稔
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	中 村 勝 治
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
榎 原	浦 井 三 男
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	乾 常 次
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	岡 山 秀 治
竜田川ネオポリス	藤 田 道 雄
ローズタウン若葉台	宮 西 哲 雄
五月台	門 田 正

●平成8年度 長寿会連合会総会開催 健康活動、学習活動、社会参加 の三大運動の展開

期 日 平成8年5月14日(火)

会 場 平群町中央公民館

朝から好天に恵まれ会場は満員の盛況であった。

初めに、昨年1年間に亡くなられた54名の方々に対し、ご冥福をお祈りして出席者全員で黙祷を捧げた。

①奥田会長挨拶

日本は世界一の長寿国となり、百歳以上の方が6,500人がおられ、奈良県では74名の方がおられます。身寄りのない方が全国で平群町の人口と同じ約2万人も、平群町では2,000人の方がおられます。この人達に温かい手を差し伸べたいと思います。

全国老人クラブの三大運動のテーマは、健康活動、学習活動、社会参加です。

健康活動は、健康づくりを進める運動をみんなで展開することです。学習活動は、新しい活動に挑戦することです。社会参加は、仲間と共にボランティアなどの活動を通して社会参加することです。これらの活動で高齢者が元気になり、高齢者同士で助け合い、高齢者が住みよい街をつくっていききたいと思います。

②感謝状贈呈

藤枝 忠夫(福貴)

③来賓祝辞

北川町長、北川町議会議員、中辻県議会議員

④来賓紹介

町長、町議会議員、県議会議員、野村助役、西山収入役、増田教育委員長、

井岡教育長、西岡自治連会長、安村民生委員総務、坂上婦人会長

平成9年 長寿会連合会の活動

● 長寿会連合会平成9年度新役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	松 本 義 夫 (上庄台)
副会長	浦 井 三 男 (樫 原)
〃	宮 西 哲 雄 (ローズタウン若葉台)
女性部長	木 村 壽 子 (春日丘)
会 計	伊 東 亨 (若葉台)
〃	乾 常 次 (椿 井)
監 査	宮 前 清 和 (西 宮)
〃	福 田 稔 (初香台)
顧 問	奥 田 武 二 (信貴畑)

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	森 川 修
櫛 原	峯 川 徳 司
椿 台	日 垣 喜一郎
槻 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	森 正 一
上 庄	乾 利 造
信貴ホーム	三 木 三 郎
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	巽 優
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	野 田 悟
三 里	外 山 義 信
平等寺	奥 田 一 郎
下垣内	小 東 正 信
福 貴	坂 中 忠三郎
初香台	福 田 稔
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	福 田 幹 夫
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
樫 原	浦 井 光 男
越木塚	塚 信 一

若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	乾 常 次
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	藤 井 竹 夫
竜田川ネオポリス	藤 田 道 雄
ローズタウン若葉台	宮 西 哲 雄
五月台	門 田 正

● 長寿会連合会春の親睦旅行

日 程 平成8年4月

旅行先 長野方面へ、84名が参加

● 平成9年度 長寿会連合会総会開催

平成9年5月20日、午前9時から平群町中央公民館大ホールで開催されました。

当日は、長寿会会員が多数出席し、松本義夫会長の挨拶で始まりました。

● 松本義夫会長の挨拶

お早うございます。只今ご紹介戴きました会長の松本でございます。不肖のものでございますが指名された以上一生懸命やりますので会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

会員の皆さんには平成9年度定例総会に早朝より多数ご出席戴き有り難うございます。又ご来賓としてご多忙にも拘わらず北川平群町長はじめ多数のご臨席を戴きこの席より厚く御礼申し上げます。さて現在長寿会の会員数は4月現在で1,750名でありまして現役の方も勿論おられますが、大半の方は予備役と申しますか、第二の人生を如何に過ごすかについては皆さん夫々お考えのことと存じますが、何といたっても先ず健康であることは勿論です。健康については私が重々申し上げるまでもなく夫々充分に対処されておられることと存じます。高齢化が進んで、平均寿命が男性77歳、女性83歳という時代です。健康こそ第2の人生の始めでありますので充分自己管理して戴きたいと

思います。全国老人クラブ連合会の指針として三大運動、の第1にあげているのが、今申し上げた健康であります。

第2は友愛であります。友愛とは高齢者が相互に支援する友愛活動の推進であり、趣味やスポーツなどを通じ、お互に交流することであり、一人暮らしの方々に対する友愛訪問、又病院療養暮らしの方々への友愛訪問等の推進であります。

第三は奉仕であります。奉仕とは地域社会への参加活動の推進であります。毎年全国いっせいに9月20日を基準にして行なっている、社会奉仕日を始めとして、花で街をきれいにするとか、交通安全のお手伝いをするとか、色々あると思います。当会員中にも相当数の方が不言実行で友愛活動、或は社会奉仕に参加されております。厚く御礼申し上げますと同時に今後とも友愛活動の輪を広くひろげたいと思っております。皆さん方の一層のご協力をお願いする次第です。どうか皆さん何時までもお元気で来年もこの場に是非参加して下さい。来年とは言わず再来年も、そして間近にやってくる21世紀を迎えようではではありませんか。以上簡単ではありますが、ご挨拶といたします。

● ふれあい活動部による 「コーヒー・ショップ」 始まる

平成9年5月27日（火曜日）から、長寿会ふれあい活動部の生駒 修氏（春日ヶ丘長寿会）ら有志が、実費でかしのき荘において「コーヒー・ショップ」をはじめました、（現在の「ゆうあいサロンの前身」、開催日毎月最終の火曜日

● 椿台長寿会 優良老人クラブ表彰を受ける

9月12日、第7回「長寿と健康の祭典」で、椿台長寿会（会長 日垣喜一郎）が、奈良県老人クラブ連合会会長より表彰を受けました。長寿会連合会から42名が出席。

● 長寿会連合会 忘年旅行

日 程 平成9年12月9日～10日

旅行先 富士と河口湖温泉方面

平成10年 長寿会連合会の活動

● 平群西小学校、西ッ子大会に参加

平成10年1月17日、平群西小学校の西ッ子大会に招待を受けて、35名の長寿会会員が出席しました。

● 長寿会連合会平成10年度新役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	松 本 義 夫（上庄台）
副会長	浦 井 三 男（樫 原）
〃	宮 西 哲 雄 （ローズタウン若葉台）
〃（女性部長）	木 村 壽 子（春日丘）
会 計	伊 東 亨（若葉台）
〃	乾 常 次（椿 井）
監 査	宮 前 清 和（西 宮）
〃	米 田 準 一（久安寺）
顧 問	奥 田 武 二（信貴畑）

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	西 岳 敬 文
樫 原	高 見 実
椿 台	明 石 賢 三
樺 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	森 正 一
上 庄	坂 本 菊 司
信貴ホーム	森 本 正 範
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	北 川 義 博
若葉台	井 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	門 野 勝
三 里	外 山 義 信
平等寺	奥 田 一 朗
下垣内	巽 重 高
福 貴	坂 中 忠三郎
初香台	秋 塚 直 秀
福貴団地	小 林 太 一

福貴畑	森 田 春 二
久安寺	米 田 準 一
信貴畑	奥 田 武 二
榎 原	浦 井 三 男
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	乾 常 次
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	赤 城 久 隆
光ヶ丘	大 原 康 男
竜田川ネオポリス	吉 田 文 雄
ローズタウン若葉台	宮 西 哲 雄
五月台	門 田 正

● 長寿会連合会・春の親睦旅行・ 「道後温泉三大橋への旅」

平群町長寿会は、世界最長大吊橋明石海峡大橋開通を記念して標記の旅を4月7日・8日と一泊二日と実施した。

総160名、サンキュウ観光バス4台を連ねての旅である。

当日7時30分出発、先導車というべき寿号に乗車、3号、2号、1号車と続く、走行順序は予め行程チラシに示されている。高速道を走るので速い、僅か70分ほどで瀬戸大橋与島パーキングエリアに着く。トイレ休憩が主であるが、小休止の間も売店を見歩く人は多い。恐らく何かめぼしいものはないかと目を光らせているのかもしれない。

この瀬戸大橋は、本州と四国を結ぶ夢の架け橋で完工したのが1988年（昭和63年）4月10日、今から10年前である。児島・坂出を5つの島と6つの橋で結び全長9,368m、二階建て構造になっている、上を高速道路、下を列車が走っている。雄大な吊り橋、優美な斜長橋、ジャングルジムのようなトラス橋が瀬戸内海を横断しており観光名所である。

四国に入り、宇多津町のゴールドタワーは158m、シースルエレベーターで登ると展望台からは

瀬戸内海の展望がすばらしい。タワー周辺にグルメ街や世界のトイレを展示したチャームレーションもある。このタワー前で号車別写真撮影。昼食はここの食堂で讃岐うどんに舌鼓を打つ。休憩中は、このグルメ街で思い思いの買い物をする。

高松自動車道に入ると、飯野山という富士型の山が眼前に映る。やがて松山自動車道へ、石鎚山スペシャルエリアで休憩、目の前に石鎚山の山脈が聳える。この西日本最高峰の山、標高1,962米、一度は登ってみたい山である。ここから松山、伊予インターICまで四四・七軒、いよいよ松山市に入る。午後3時半である。これから石手寺へ詣でる。石手寺は道後温泉駅前から6分のところ、西国51番札所という。観光客と白衣のお遍路さんで賑わっていた。境内には1,253年建立の仁王門と1,333年建立の二つの鐘楼、本堂、三重塔、護摩堂、詞梨帝母堂、いずれも重要文化財が立ち並んでいる寺。

今日の観光はこれで一応終わり、一夜の宿泊白山荘へ向かう。ホテルの名の如く白い館ですがすがしい。荘へつくとそれぞれの部屋が決まっている。坊ちゃんの泊まっていた道後温泉本館に入浴したい方は連れ立って出かけて下さい。道後温泉と言うのは、市街地の北東部にあり賑やかな温泉郷、四国最大というよりも日本有数の歓楽温泉として知られている。古風な道後温泉本館を中心に、大きなホテル、旅館が立ち並び、土産物屋がひしめき、温泉情緒と歓楽街の二つの顔を見せている。

周辺に道後公園や古寺、古社が多い。本館は1,894年明治27年建てられた三層の城郭式木造建築、屋上の振鷺閣は今でも朝、昼、夕に太鼓を打ち、建物と共に道後のシンボルとなっている。

翌日、朝食を7時半にすませて8時半出発。伊予かすり会館へ、この館は1,801年から1,804年（享和年間）鍵谷カナが始め、その伝統保存と普及のため開いた会館で今では愛媛県特産となっている伊予かすりの製作工程の解説、道具の展示、藍染めや機織りの実演を見学し、カメラに収めました。

さてさて、まだ雨は止む様子もない松山自動車道から高松自動車道を経て、四国薬草ハーブセンターへ、ここで昼食となる。その後薬草を見て回っ

たが買うまでに至らなかった。

なお降り続く雨の中、徳島自動車道から大鳴門海峡大橋を渡って淡路島を横断、最後のエリアで休憩20分。

「花の雨けむる大橋明石橋」世界最長の橋全長3,914米渡った。『橋はよく見えなかったが悲観してはなりませんよ、橋は決して逃げませんよ、また来る日まで、きっと貴方を待っていますよ』このことを聞いて安心したのは、私一人ではない。何よりも一名の事故もなく全員無事にこの旅が終わったことをみんなで祝福しよう。

皆さんお世話になりました。ありがとう、サンキュウ、さてもう一言、走行距離は、4月7日419軒4月8日417軒でしたよ。いつまでも元気でまめに暮らしましょう。

● 平成10年度 長寿会連合会総会開催

平成10年5月19日午前9時から、長寿会連合会定例総会は、町中央公民館大ホールにおいて開催され、松本義夫会長の挨拶で始まり、午後からは部活動の学習発表会が行われ盛況裡に終わりました。

● コーヒー・ショップが『ゆうあいサロン』に名称変更

平成9年5月27日から始まった「コーヒー・ショップ」は、名称を「ゆうあいサロン」に変更されました。現在使用している「ゆうあいサロン」の看板は、生駒 修氏が作成したものです。

● 信貴畑長寿会、優良老人クラブ 表彰を受ける

平成10年9月4日、橿原文化会館において開催された「長寿と健康の祭典」で、信貴畑長寿会（会長 奥田武二）が、奈良県老人クラブ連合会会長より優良老人クラブとして表彰を受けました。

● ふれあい活動部「歩こう会」を 発足

会の主旨は、ふれあいを大切にして保健活動に

励むが、高齢者の集まりだから自由を尊び、自然を愛し、無理のない気楽な会にしたい。たまには日の丸弁当で昔を思いだす遠足もしたいものです。開催は毎月一回・土曜日を予定しています。対象者は平群町長寿会の会員で、「ふれあい新聞」を見た人全員です。その時だけが「歩こう会員」です。

第一回目の「歩こう会」は、10月3日(土)午前10時から11時まで。行き先は、近鉄東山駅前に集まり、東山駅より熊鷹橋(くまがしはし)から、馬くわ淵、上庄橋、月見台、「大空の家」経由、かしのき荘までの約3.5km所要時間90分です。

● 秋季親睦一泊旅行「三ヶ根温泉」 方面

日 程 12月3日～4日

行 先 三ヶ根温泉

平成11年 長寿会連合会の活動

● 平成11年2月『ゆうあいサロン』運営はボランティアへ変わる

長寿会連合会（会長松本 義夫）ふれあい活動部による『ゆうあいサロン』は、平成9年5月27日に生駒 修氏らの有志により『コーヒーショップ』として始まり、平成10年6月23日に名称を『ゆうあいサロン』に改称して運営されてきたが、その運営は、ボランティアに移管されることになった。

● 長寿会連合会平成11年度新役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	松 本 義 夫（上庄台）
副会長	宮 前 清 和（西 宮）
〃（女性部長）	木 村 壽 子（春日丘）
会 計	秋 塚 直 秀（初香台）
会 計	仲 正 夫（北信貴ヶ丘）
監 査	乾 常 次（椿 井）
〃	浦 井 三 男（樫 原）
顧 問	奥 田 武 二（信貴畑）

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	岡 田 正 善
樫 原	高 見 実
椿 台	明 石 賢 三
楓 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	藤 田 義 一
西 向	森 正 一
上 庄	北 川 清 史
信貴ホーム	前 多 国 守
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	仲 埜 良 弘
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	門 野 勝
三 里	三 橋 孟 雄
平等寺	奥 田 一 郎
下垣内	椿 本 政 一

福 貴	坂 中 忠三郎
初香台	秋 塚 直 秀
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	中 川 勇
久安寺	吉 村 弘
信貴畑	奥 田 武 二
樫 原	西 浦 寅 一
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎
西ノ宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	森 田 周 男
竜田川団地	左 古 勇
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	山 田 安 雄
光ヶ丘	伴 佐二雄
竜田川ネオポリス	中 村 光 男
ローズタウン若葉台	金 満 岩 男
五月台	門 田 正

● 春の親睦旅行、長寿会連合会

旅行行程 4月2日～3日

旅行先 飛騨高山温泉と白川郷合掌村へバス旅行

● 長寿会連合会 平成11年度総会開催

平成11年5月21日（金）10時から平群町中央公民館大ホールで実施された。

本年度は椅子席を多くしたためか会場いっぱいの盛況、立っておられる方もみかけたが椅子席増は好評だった。

木村壽子（副会長）司会のもと、初めに昨年1年間に死亡された方々に対して、一分間の黙祷を捧げた。

次に松本義夫会長の挨拶、新役員紹介と続いて、感謝状が授与された。

10年余のながきにわたり、地区長寿会会長、ならびに、本会理事として長寿会の発展に尽力された奥田武二様、塚信一様、左古勇様、5年以上で本会理事を辞められた米田準一様、宮西哲夫様は

んとうにご苦勞様でした。後は、来賓祝辞、総会の議事などの後、長寿会部活動の会員の学習発表会があった。

老人福祉センターかしのき荘で、いつもやっているクラブ活動の年1回の発表会である。

仲正夫（会計）の司会で進められた。学習発表プログラムが41もあり、民謡、カラオケ、ダンス、詩吟、コーラス、健康体操、新舞踊、踊りなど多数の方々が研鑽の成果を発表された。

司会者の努力でスムーズに進行して、最後は全員で炭鉾節を踊って締めくくった。

● 松本会長 県知事表彰を受ける

松本 義夫（平群町長寿会連合会会長）が、長年にわたる長寿会連合会会長として、長寿会の発展に貢献したことが認められて奈良県知事表彰を受けた。

● 忘年旅行 備前岡山 ^{ゆば}湯迫温泉へ

旅行日 11月8日(水)～9日(木)

宿 泊 白雲閣（風呂自慢の宿）

そうめんの里資料館（揖保の糸の紹介）

閑谷学校（日本最古の庶民学校）

野崎家旧宅（江戸時代の製塩業）

平成12年 長寿会連合会の活動

● 平成12年 春の親睦旅行長寿会連合会

行 先 伊豆・修善寺温泉と芦ノ湖遊覧

日 程 4月4日(火)～5日(水)

○沼津御用邸記念講演見学

○芦ノ湖遊覧

○箱根関所跡見学

● 長寿会連合会平成12年度新役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	松 本 義 夫（上庄台）
副会長	宮 前 清 和（西 宮）
女性部長	木 村 壽 子（春日丘）
会 計	秋 塚 直 秀（初香台）
〃	仲 正 夫（北信貴ヶ丘）
会計監査	乾 常 次（椿 井）
〃	浦 井 三 男（榎 原）
顧 問	奥 田 武 二（信喜畑）

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	植 田 清 文
櫟 原	松 川 正 一
椿 台	明 石 賢 三
槻 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	井 上 武 夫
西 向	吉 村 英 治
上 庄	前 川 勘 司
大和平群ホーム	本 田 洋 三
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	西 川 正 行
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	門 野 勝
三 里	三 橋 孟 雄
平等寺	北樋口 憲 次
下垣内	吉 本 正 一
福 貴	坂 中 忠三郎
初香台	秋 塚 直 秀

福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	木 村 隆 一
久安寺	吉 村 弘
信貴畑	奥 田 武 二
榎 原	奥 田 彦 一
越木塚	塚 信 一
若 井	小 林 増十郎
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	森 田 周 男
竜田川団地	村 木 實
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	赤 城 久 隆
光ヶ丘	木 村 正 一
竜田川ネオポリス	中 村 光 男
ローズタウン若葉台	金 満 岩 男
五月台	門 田 正

● 平成12年度長寿会連合会 総会開催総会を終えて

長寿会連合会会長 松本 義夫

平成12年5月16日に、平群町中央公民館大ホールにおいて、午前十時から開催されました。総会には、多数の会員のご出席を得て無事終了いたしました。この段厚く御礼申し上げます。ご臨席のご来賓の方々も会場を埋めた多数の会員の方々を見て驚かれたようです。

さて、当日私が挨拶として申し上げたことを今一度ここに申し述べたいと思います。

第一に本年4月における長寿会会員総数は1,946名で、昨年同期の会員数1,845名（内死亡者42名）に比べ101名増加であります。来年度は2,000名を超えられると思われます。年々増加の傾向にあります。現在平群町の65歳以上の方が3,451名ですので、その加入割合は56.3%でまだまだ増やす余裕があります。

第2に、本年4月より介護保険制度が実施されました。介護保険については今直接必要と感じておられない方も、時にふれ、折にふれ、広報誌または新聞等により知識を習得して頂きたいと思えます。少子高齢化の進む中、この制度の適用を受

ける比率も高くなるものと思われます。しかし、この介護保険制度があるからといって安心してはいけません。むしろ私達はこの制度のお世話にならないように、常日頃自分の身体について自己管理に努め、健康管理に徹底したいものです。自己管理による健康保持こそこれからの人生にとって最も必要なものです。

自然環境のよい、また空気の清浄なこの平群に居住して余生を健康で楽しく送ろうではありませんか。

どうか皆さん、来年も元気で総会に出席せられんことを切にお願い申し上げます。

● 長寿会連合会女性部長の研修

会長 松本 義夫

7月11日、門真市の「ナイス・ケア大和田」の介護型有料老人ホームへ見学に行きました。ここは、松下電工（現パナソニック）の100%出資の子会社で、ナイスケアサービス株式会社が運営されていますので、設備等は完全で入所されている方々も、満足な日常だと羨ましく思いました。しかし、誰でもが右から左に入所できるものではありません。まず、費用の面ですが案内書を頂いて、介護保険制度の仕組み、介護サービスを受けるまで等、申請・訪問調査・要介護認定・介護サービス計画・そして介護サービスを受ける（ここまでの手続きが大変）入居するには、契約によって費用が決められています。

老いを生きるということは、高齢者を一人の人間として扱って下さるか、介護サービスの質が問題です。

幸か不幸か、家族と共に生活しないで、老後をホームの世話になる方々がたくさんおられます。

見学させて頂いた「ナイス・ケア大和田」だけが施設ではありませんが、お互いに設備の良い施設で、介護サービスが受けられますよう、介護保険の制度が本当に良い制度であると言われるように念じています。

● 長寿会ペタンククラブと小学生との交流

最近、小学生も課外授業として高齢者との交流という主旨で、かしのき荘へ何回か相談に来られ、ヘタンクで交流したらと提案をして下さいました。

体育の先生が日程を決められて7月15日(土)午前9時から正午まで、平群西小学校の5年生、6年生60名余りと長寿会ペタンククラブ員12名が参加して、西小学校運動場で交流ペタンクを行いました。小学生の皆さんは元気で明るくて、私達クラブ員も元気をもらって来ました。

ペタンクはめずらしくて面白い、今後もやりたいと大変喜んでくれました。これからも、もっとたくさんの小学生の皆さんと交流をしたいと思っています。ペタンクだけではなく、集まっているいろいろな話の会もして、昔の遊びや、歌もうたって交流の輪を拡げたいと思っています。

● 福貴団地長寿会 優良老人クラブ表彰を受ける

福貴団地長寿会会長 小林 太一

第10回長寿と健康の祭典が、9月8日(金)橿原公苑第一体育館において開催されて、福貴団地長寿会(会長 小林太一)が、奈良県老人クラブ連合会会長より表彰を受けました。

● 南ッ子祭りに出席

平群町南小学校の「南ッ子祭り」、11月19日に南小学校において開催され、長寿会会員20名が出席しました。

● 長寿会連合会 忘年旅行

旅行日程 12月5日～6日

旅行先 和倉温泉方面へバスの旅行(一泊二日)

参加者数 140名

平成13年 長寿会連合会の活動

● 平成13年年頭にあたり

長寿会連合会会長 松本 義夫

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお元気でよいお正月を迎えられたことと拝察いたします。

今年は21世紀の初年度の年で私らにとってはまたと迎えられない記念の年です。この記念の年の年頭にあたり、皆様方にはそれぞれ今年の抱負をたてて、おられることと思いますが、如何ですか。長寿会としては、会員の皆様様のますますの発展を願っておりますが、何ごとをするのも先ず健康であることが第1であります。健康については先ず自己管理により、常に体調を整えておくことが大切であります。

次に高齢者は年ごとに増加し、長寿社会化が進み、生活文化の向上のなかで高齢者の積極的な社会参加が求められる時代になってまいりました。高齢者の中には家にとじこもり勝ちで社会性のない方もおられます。このような方々に対し長寿会の会員の皆様様の努力により長寿会に入会、さらにクラブ活動への参加等により、高齢者の社会参加を求めたいと思っております。

クラブ活動は余暇を楽しんでいただくと同時に、人間関係をつくるよい機会になることでしょう。さらには輪を広げ地域社会への貢献にもつながることと思います。現在の平群町の65歳以上の方で3,500名で長寿会会員はその55%程度しかありません。

どうか皆様のご努力で、本年度は会員数2,000名を突破するようお願いする次第です。皆さん今年も体に充分気をつけ、明るい生活を送っていただけるように、21世紀初頭のごあいさつといたします。

● 養護老人ホーム三室園へ慰問

今年も去る1月23日(火)長寿会女性部恒例の三室園へ慰問いたしました。

好天に恵まれ20数名の会員とともに、歌ったり、

踊ったり、おみやげ、くじびき、とみんなが楽しい雰囲気の中にとけ込み、あっという間に2時間が過ぎました。

三室園の中にすばらしいエレクトーン演奏者がおられて、りんごの歌、川の流れるように、歌詞はわからなくても皆さん曲想に思いふけり、ご満足な表情いっぱい…中には涙を浮かべていらっしやる姿に感動しました。「来年もまた来てな……」と握手に來られ、固く約束して帰りました。

1年に1度、準備も大変ですが、皆さんと約束しましたので、できる限り続けていきたいものです。なお、会員の皆さまの善意あるご協力、たくさんのおみやげ物ができましたこと、お礼申し上げますとともに、来年もまたよろしく願いいたします。

女性部

● 長寿会連合会春の親睦旅行

▶ きらめく海と爽やかな潮風

オリーブ薫る 小豆島へ

- ・旅行日 4月4日(水)～5日(木)
- ・旅行代金 19,800円
(一泊四食 銚子一本付き)
- ・宿泊先 小豆島国際ホテル

● 平成13年度新役員決まる

◇ 連合会本部役員

会 長	宮 前 清 和 (西 宮)
副会長	明 石 賢 三 (椿 台)
〃	村 木 実 (竜田川団地)
〃 (女性部長)	羽多野 不二子 (福貴団地)
会 計	秋 塚 直 秀 (初香台)
〃	仲 正 夫 (北信貴ヶ丘)
会計監査	乾 常 次 (椿 井)
〃	浦 井 三 男 (樫 原)
顧 問	松 本 義 夫 (上庄台)

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	谷 室 安 男
櫟 原	松 川 正 一
椿 台	明 石 賢 三

櫟 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	井 上 武 夫
西 向	吉 村 英 治
上 庄	辻 本 巖
大和平群ホーム	渡 辺 好 子
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	奥 野 政 市
若葉台	伊 東 亨
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	門 野 勝
三 里	三 橋 孟 雄
平等寺	北樋口 憲 次
下垣内	辰 己 保 治
福 貴	巳 波 皓 祐
初香台	秋 塚 直 秀
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	中 尾 武 夫
久安寺	吉 村 弘
信貴畑	井 田 茂
樫 原	岡 田 賢 治
越木塚	塚 順 善
若 井	山 田 喜久男
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	森 田 周 男
竜田川団地	村 木 実
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	赤 城 久 隆
光ヶ丘	木 村 正 一
竜田川ネオポリス	中 村 光 男
ローズタウン若葉台	上 野 治 雄
五月台	門 田 正

● 平成13年度長寿会連合会総会開催

長寿会連合会会長 宮前 清和

5月22日平成13年度長寿会総会、多数の会員の皆様のご出席を得て無事終了いたしましたことを心から厚くお礼を申し上げます。また、ご臨席くださったご来賓の方々にも厚くお礼を申し上げます。

さて、当日の挨拶を要約して今一度述べたいと

思います。

21世紀は激動の時代、社会状況は激しく変化しています。また少子高齢化がどんどん進み、福祉が一番の課題だと思います。そんな時代に我々はどうか対処すればよいのでしょうか。それは自分自身の考えを少しずつ変えていくことだと思います。

まず私たちにとって一番大切なことは自分の健康です。今までの考え方を少し変え実行にうつすこと、また継続できれば最もよいことです。

次ぎに心身共に健康な暮らしをするには楽しみが加わらなければなりません。大勢で楽しむ、長寿会主催の旅行、後援会には積極的に参加、趣味のクラブが19もあるのでどれかに入っていただければ……。

最後は元気な高齢者にお願いですが、長年にわたり数多くの貴重な体験、経験を積んでこられました。このような宝物はこのままにしておくのはもったいない、後世に伝えるチャンスがあれば是非とも参加し、昔のよき日本の誇り、(質素、儉約、思いやり、助け合い、辛抱等)を青少年に伝えられればこれ以上の生きがいはないと思われます。どうか平群町長寿会の輪が大きくなり、魅力ある楽しく生きがいのある長寿会になるよう頑張ってください。

●「ふれあい新聞」100号発行 達成に想う

高齢化社会において、我々老人は何をなすべきか？老人は福祉の対象として受けることに終始して、それで事足りたとした時期は終わったのです。すでに迎えた21世紀に向けて高齢化、情報化、国際化するとき、高齢者が相互に友愛活動をするべしということで、平成4年12月1日を機に、平群町長寿会新聞準備第1号を発行、つづいて2、3、4号を発行しました。

長寿会の皆さんに健常者はボランティア活動に立ち上がってください、と呼びかけ、ふれあい新聞発行の趣旨のアピールを行い、特に4号では、土曜日の福祉センター閉館を決めた行政へ、老人福祉の向上には土曜日開館こそ大切ではないかと、町長に要望書を提出した記事を載せるなどし

て、一部長寿会幹部との問題もありましたが、結果的に土曜日開館の導火線となりました。

その他にもいろいろとありましたが、皆さんのご協力により第100号を刊行することができました。21世紀は高齢者の活動がますます求められるときです。介護保険にしても高齢者の課題として理解が必要なばかりでなく、制度利用者としての提言等、ふれあい新聞の役割はますます重要なものとなります。

お陰さまで100号までも続けられたのは、読者の皆さまのご協力と資金面での援助や貴重な原稿を投稿してくださる方々の援助があつてのことです。今後は「ふれあい」が長寿会活動の発展向上に一層役立っていけるよう努めたいと思っていますので、引き続きご支援のほどをお願いいたします。

● 初の囲碁大会開く

去る7月28日「かしのき荘」で長寿会囲碁クラブ(会長伊東亨、副会長川口二郎)の大会を開いた。発足以来20年近くの歴史をもつクラブであるが、大会は今回が初めて。参加者16名で、A、B、2組に分かれ、昼食をはさみ10時から15時まで日頃磨いた腕を存分に発揮して熱戦を繰り広げた。

対局者は初の真剣勝負とあって、和気あいあいの中にもいつもとは明らかに違う目付きで技を競い合い、大いに盛り上がった大会だった。

栄えある第一回の受賞者は

A組	優勝	鈴木 範 夫	三段
	準優勝	西牟田 満 彦	三段
	三 位	伊 東 亨	三段
B組	優勝	塚 口 武	四級
	準優勝	秋 本 豊 生	二級
	三 位	若 林 正 芳	一級

対局終了後、長寿会と囲碁クラブの繁栄を願って全員で乾杯し、年明けに第二回大会を開くなど今後の方針について話し合い、盛会裡に大会を終えた。

(Y)

● 前連合会会長 松本義夫氏に 県老連会長より感謝状 福貴長寿会(巳波皓祐会長)が 県知事表彰受賞

9月7日(財)奈良県長寿社会推進センター、(財)奈良県老人クラブ連合会、(福)県社会福祉協議会の主催およびその他各種団体の後援により、奈良県立橿原公苑第一体育館をメイン会場として開催された。

定刻13時20分より式典、県副知事および県老人クラブ連合会長表彰が行われ、老人福祉功労者24名、老人福祉施設功労者1名および一団体、優良老人クラブ18クラブが知事表彰され、また県老人クラブ連合会長表彰として32クラブおよび個人の5名の方に表彰状および感謝状が贈られました。

来賓あいさつのあとアトラクションに移り、女優由美かおる氏の「いつまでも若々しく美しく健康に」と題して講演があり16時に式典は無事終了しました。

● 伝承交流部活動 いきいきフェスティバルに参加

11月3日(土)第九回いきいきフェスティバルに長寿会連合会では初めてのコーナーを設けました。

◎お手玉、あやとり、コマ回し、

◎作って遊ぶ、竹笛、水紙鉄砲、竹とんぼ等、

● 心を豊かにしてくれた忘年旅行 北信貴ヶ丘 仲 正夫

12月4日長寿会連合会の一泊二日の皆生温泉忘年旅行である。バス乗車時刻ころは夜来の激しい雨もひと休みして曇天ながら生駒山も見えるお天気具合である。参加人員は予想外に多く157名とのこと、例年であれば140名くらいであるが今年は何故こんなに多かったのか、今年の長寿会連合会総会で宮前会長が挨拶の中で「皆さん老後を楽しく生きがいを得るためにも長寿会主催の旅行に参加しようではありませんか」と言われたことが、その効果として現われたものかどうか分かりませ

んが、とにかく喜ばしいこでした。バスが中国道に入るころには空模様も良くなり絶好の旅行日和となった。湯の郷で昼食、その後、バスは鳥取県倉吉に向かい倉吉土蔵群を見学、予定より約一時間遅れて清風ホテルに着いた。夜の宴会は蟹づくし会席、ホテル側接待の民謡、踊り、これに加えて会長自らの手品、カラオケ、詩吟と隠し芸が飛び出し酒もはずんで大いに宴会を盛り上げた。

翌日は8時出発一路出雲大社に向かう、途中この地方特有の冬の強風、雪などから屋敷を守るために植えられた暴風松、また自分の屋敷内にお墓を建てるといふこれも珍しい習俗を車窓から眺めながら、ガイドさんから出雲神話などを聞くうちに一時間くらいで出雲大社に着いた。さすが大國主命を祭神とする日本一の縁結びのお社、まことに神々しい。昨夜宴会で火照った脳味噌に神々しいような、瑞気にも似た気配が心地よく伝わってくる。戦後世相人情いろいろ変ったが、私はやはり昔ながらの日本人だと思った。そして5トンもある日本一の大注連縄に驚き、また神々しいたたずまいの本殿を二礼四拍一礼し、よく整えられた参道の砂利石を踏みしめながら境内を一巡した。

平成14年 長寿会連合会の活動

● 平成14年新しい年を迎えて

長寿会連合会会長 宮前 清和

新春おめでとうございます。平成13年の世相を表す漢字を「戦」と発表されました。

米国での同時多発テロ、アフガン空爆のほか国内でもリストラ失業、狂牛病等、生活面でも戦う年だったと思います。

長寿会では連合会役員・女性部長合同研修会、伝承交流活動など新しい行事を実施好評を得ました。

また個々の会員も諸行事に積極的参加、年末の忘年旅行でも今までにない多数の方々と、楽しい年忘れの旅行となりました。

失われることの多い老人にとって、良き友を多く作れる機会（行事）は積極的に参加することだと思います。

また趣味をもつことが一番の生きがいにつながるようです。長寿会のクラブ（部）が19もあります。本年度からまだの人はぜひとも活動に参加ください。学習意欲を失わないようにすることは、健康の秘訣だと考えます。

どうか今年も壮健で明るい年でありますように頑張しましょう

● 長寿会正月囲碁大会開く

平群町長寿会囲碁クラブ（会長伊東亨、副会長川口二郎）では、去る1月19日「かしのき荘」で正月の囲碁大会を開いた。

大会は、今回が2回目であるが、毎週顔を合わせている仲間であるから、勝負が早く決着した人たちの間では番外対戦が始まるなど、一家団欒の雰囲気の中で大会は進められていった。

参加者は16名でA・B2組に分かれ、昼食をさみながら10時から15時まで、一目差で勝負が決まる好試合もあり、熱戦をくり広げた。

受賞者は次のとおり

A組 優勝 梅原 秀夫 初段
準優勝 鈴木 範夫 四段

三位 巽 幸夫 二段
B組 優勝 藪内 英輔 初段
準優勝 牧野 富久太郎 四段
三位 塚口 武三級

囲碁は「相手がああ打ったら、自分はこう打つ」という頭の会話が楽しめ、高齢者にとってボケ防止に役立つゲームである。対局終了後は、囲碁が楽しめることに感謝すると共に、長寿会のますますの繁栄を願って参加者全員で乾杯し、大会は成功裡に終了した。

● 楽しさで、心のしわがのびた春の旅

4月4日長寿会連合会の一泊二日、山中温泉旅行。参加者127名。

昨日の夕方から雲行きが怪しくなり、雨が降り出した。最悪の旅行になるのかと心配したが、天気予報を聞いて安心した。何とか旅行中は2日間とも晴、3日目が雨の予報で、これは参加者皆さんの心がけの良さだろう。

バス3台、上野ドライブインで合流、春光うららかでみんなの顔が輝いて見えた。多くの友と交わり、談笑されている姿を見て、これにまさるものはないと思った。

まもなく目的地山中温泉へと出発、バス会社が回してくれた酒をいただき、話はますますはずみ、旅行に来てよかったと実感する。

ガイドさんの話を聞いていたが、途中満開の桜花に、ワーとかヤァーとかあちこちで感嘆の声が……ガイドさんの説明がとぎれる。しばらく美しい桜に見とれていると、話の続きがわからなくなり、全員爆笑のうず……。平群では葉桜だったのに2度も桜を見ることができみんな大満足。

敦賀で昼食、緑豊かなゆのくにの森（石川県の伝統工芸品が一堂に揃う）を見学、4時30分に山中温泉よしのや依緑園に着く。

夜の宴会は楽しく呑み、楽しくしゃべり、またカラオケ、マジックと隠し芸が飛び出して酒もはずみ、心のしわがのびたひと時だった。

翌日は金沢城内で開催中の加賀百万石博へむかう。今までは兼六公園の方ばかり行っていたが、

今回は城内へNHK大河ドラマ「利家とまつ」の世界へと誘われる。

帰りは停滞もなく予定の時間に全員無事帰着。多くの思い出ができた楽しい2日間だった。

●平成14年度長寿会連合会新体制決まる

会長に 宮 前 清 和 氏

女性部長に羽多野さん

◇長寿会本部役員

会 長	宮 前 清 和 (西 宮)
副会長	明 石 賢 三 (椿 台)
〃	村 木 實 (竜田川団地)
〃 (女性部長)	羽多野 不二子 (福 貴)
会 計	秋 塚 直 秀 (初香台)
〃	仲 正 夫 (北信貴ヶ丘)
会計監査	乾 常 次 (椿 井)
〃	浦 井 三 男 (樫 原)
顧 問	松 本 義 夫 (上庄台)

◇長寿会地区会長

鳴 川	吉 川 昌 雄
樫 原	吉 村 美 好
椿 台	明 石 賢 三
樫 原	藤 戸 正 夫
緑ヶ丘	井 上 武 夫
西 向	吉 村 英 治
上 庄	辻 本 巖
大和平群ホーム	大 沼 洋 介
上庄台	松 本 義 夫
梨 本	沖 野 八三郎
若葉台	西 野 達 治
御陵苑	北 山 知 旨
吉 新	門 野 勝
三 里	三 橋 孟 雄
平等寺	北樋口 憲 次
下垣内	栄 捨次郎
福 貴	巳 波 皓 祐
初香台	秋 塚 直 秀
福貴団地	小 林 太 一
福貴畑	中 山 脩
久安寺	吉 村 弘

信貴畑	安 井 初次郎
樫 原	奥 田 竜 男
越木塚	塚 順 善
若 井	山 田 喜久男
西 宮	宮 前 清 和
春日丘	窪 盛 壽
椿 井	森 田 周 男
竜田川団地	村 木 實
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	赤 城 久 隆
光ヶ丘	岡 山 秀 治
竜田川ネオポリス	藤 田 道 雄
ローズタウン若葉台	上 野 治 雄
五月台	大 辻 清 義
新初香台	中 島 洋

●ふれあい新聞について

4月号(通算110号)で「ふれあい新聞」の紙面改訂をお知らせしました。「ふれあい新聞」は、今まで情報活動クラブが運営してきましたが、紙面改訂を機会に5月号から、運営を長寿会に移行し、長寿会の機関紙とすることにしました。新聞という性質から組織を変えましたが、長寿会の新聞であることには変わりません。ふれあいの情報活動クラブの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。より親しめる新聞を作っていくために、皆さんのより一層のご協力をお願いします。なお、各月の新聞発行日が今までは、前の月の第四土曜日となっていたましたが、今後は月末か、月始めとなります。配布についても、長寿会の各支部で、各戸の安全確認を兼ねて配布しますので、よろしくお願いいたします。

●長寿会連合会平成14年度の総会開催

▶盛会裡に終わる

平成14年5月14日(火)10時から中央公民館で、会員の皆さん大勢参加のもと実施された。

本年は要望のあった椅子席を多く用意したので、今までと違って会場は整然と見え、総会も盛況裡に進行した。

10時ちょうどに仲正夫（会計）氏の司会で始まり、会員物故者に対する黙祷、次に宮前会長の挨拶の後、5年以上本会理事を務められた伊東亨（若葉台）氏、中村光男（竜田川ネオポリス）氏に感謝状の贈呈があった。ご二方本当に御苦労さまでした。

あとは来賓祝辞、総会の議事、長寿会クラブ活動部員の学習発表があった。

▶会長あいさつ要旨

本日はご来賓の方々、また会員の皆さん、大勢参加いただき有り難うございます。

ちょうど会長の重責をあずかり1年間が過ぎ、皆様方にはご支援、ご協力をたまわりお陰様で大過なく長寿会活動ができましたことを厚くお礼申し上げます。

ここで1年を振り返り、今後の活動のことについても述べてみたいと思います。

まず長寿会の運営面では、役員方の一致協力を得るため話し合いの機会を多くし、理解と協力を得るようにしました。会員の方々には会の活動状況を知っていただくため、ふれあい新聞の関連記事を充実させ、新聞が会員全員に行き渡るようにしました。

現在は月末に1,800枚印刷、前号からは活字と紙面を大きくし、行間も広げ読みやすくなったと好評を得ています。

次に昨年度から始めた伝承交流活動状況のことですが、会員の方に呼びかけ18名の方が参加していただき、西小学校と6回の交流会をもちました。

戦争体験、食糧難時代の話し合いなどから、戦争のができた空しさを子供に伝えることと思います。今年も五名の新しい方に参加していただき、町内の他の学校にも活動を広めていきたいと思っています。

三つ目は、女性部による友愛活動ですが、女性部員が準備した手作りの手芸品、家から持ち寄ったタオル、石けんを携えて三室養護老人ホームへ慰問、昔懐かしい歌をうたったり、話を聞いたり、その1日を楽しく過ごしました。本年からは新たに月1回、出張喫茶サービスに女性部員が交替で

出かけることにしています。

本年も新しい活動に挑戦し、魅力ある楽しい長寿会づくりに努めます。どうかよろしくご協力をお願いいたします。

● 第3回長寿会囲碁大会開催

恒例となった第3回長寿会囲碁大会（会長・伊東亨・副会長・川口次郎）を、去る7月13日かしのき荘で開いた。

参加者は三段から五段まで総勢18名、A組とB組に分かれ、毎週顔を合わせている「お馴染みさん」ばかりであったが、争いは激戦となった。A組は同率者3名、B組は同じく4名という結果なり、時間の関係から勝者の決定はくじ引きとした。

優勝の栄冠を射止めた、実力と強運を兼ね備えた各組の受賞者は次のとおり、

A組	優勝	道上 勝	初段
	準優勝	伊東 亨	三段
	三位	芝田 保雄	初段
B組	優勝	甲野 和雄	一級
	準優勝	牧野 富久太郎	四段
	三位	田部 達	三段

対戦終了後は、囲碁クラブ員と長寿会会員の関係者等、会計報告などについて交換をし、盛会裡に大会を終了した。

● 長寿会連合会役員会の報告

8月9日（金）午前10時より「かしのき荘」新館会議室で開催した。

案 件

1、第12回長寿と健康の祭典について

- ・日時 平成14年9月13日（金）
- ・場所 県立橿原公苑第一体育館
- *各長寿会より必ず1名参加、町バスで12時かしのき荘出発（参加者でまだ報告できていない人は事務局まで）

2、第17回老人クラブ「社会奉仕の日」について

- ・実施日
平成14年9月21日（金）
全国一斉の実施日とするが事情で変更も可能。
- ・単位老人クラブを主体（各長寿会）に実施する。

- ・活動計画および活動報告を事務局にする（活動報告は11月23日(月)まで）。

3、郡老連社会見学について

- ・日時 10月1日(火)
- ・見学地 三重方面（宿場町関宿・斉宮歴史博物館）
- ・費用 4,600円
- ・各長寿会より1～2名の参加、定員45名になり次第締め切り。なるべく早めに事務局へ申し込んでください。

4、その他

- ・優良老人クラブ表彰について

6月24日かしのき荘において表彰推せん委員会（委員7名）を開催、全委員一致で初香台長寿会を推せん、8月9日の役員会で承認された。

表彰式は9月13日(金)の長寿と健康の祭典の式場で県連会長表彰を受けられる。

- ・平成14年度平群町敬老会
- ・日時 9月15日(日) 9時～12時
- ・場所 平群東小学校体育館
記念式典終了後10時25分よりアトラクション
- ・若駒芸能一座による民俗芸能ショー
- ・森進一そっくりショー
- ・おかけんた・ゆうた の爆笑漫才が予定されている。

- *なお、平群町婦人会より長寿と健康を願い心を込めて作った小物（亀万年）と乗車券やカード入りに役立つケースの贈り物があります。多数の参加をお願いします。

- ・伝承交流活動報告

伝承交流部員18名が6月25日、7月18日2回にわたり会合をもった。去年は平群西小学校と長寿会との交流会を数回開催した。

この席上で、初香台長寿会(秋塚 直秀会長)の、独自の「かわら版」発行や地域活動が、他の老人クラブの範となるとして表彰された。日頃からの熱心な活動が実を結んだ結果である。

● 伝承交流活動報告

長寿会伝承交流活動部では西小学校の子供たちに、10月5日と12月3日の2日間昔の遊びをとおして楽しい交流の場を持ちました。

1回目は、全校の子供たちを縦割りに七班編制にし、伝承遊びの種類も・こま、ベイゴマ回し・ペタン・おはじき・お手玉・あやとり・紙風船・羽根つき・皿まわし・けん玉・囲碁・将棋と分け、長寿会からは17名がそれぞれ7つのグループに分かれ、約45分間仲良しタイムの時間を楽しくすごしました。

2回目は、班分けはそのまま、遊びの種類をだぶらさないように一つずつずらし、前回と違う遊びができるようにしました。

一番人気は皿まわし、初めての体験で珍しさもあったが、難しいがちょっとしたコツをつかむとすぐ上手に回せるし、子供は遊びの名人、すぐ新しい技に挑戦、とても頼もしく感じた。

子供たちと一緒に遊んだ後、急に疲れがわいてきたが、とても充実したふれあいタイムであった。

● 初香台長寿会老人クラブ賞受賞「県老連会長賞」

毎年恒例の「長寿と健康の祭典」が、去る9月13日奈良県立橿原公苑第一体育館で開催された。

柿本奈良県知事をはじめ、県下の高齢者2,500余名が参加した県老人クラブで最大の式典である。

平成15年 長寿会連合会の活動

● 年頭のご挨拶

長寿会連合会会長 宮前 清和

明けましておめでとうございます。

光陰矢の如し 歳月人を待たずと申します。
あっという間の1年間でした。

2、3の行事をふり返ってみますと、

◎ふれあい新聞は発行以来119号（部数）2,000枚、
2003年2月で10周年）で越年となります。編集委員の皆さまはじめ投稿くださる方、配布くださる方々に厚くお礼を申し上げます。

また伝承交流活動も西小学校の1、2、3年生とは平群夢音頭の練習（3回）、5、6年生とは命の学習（1回）全校生徒とは昔の遊び（2回）、単位長寿会長の応援を得て交流を深めました。

今年新たな行事は、女性部による養護老人ホーム三室園への出張喫茶サービスで、去年6月から月1回、数名ずつ順番を決め参加、入園者にコーヒーをサービス、会話の相手をし、少しでも心の癒しになればと頑張っていました。さて、一年の計は元旦にありと申します。平成15年度も役員一同協力し、英知を集め、皆さんに喜んでいただける長寿会となるよう、前向きに取り組んでまいりたいと存じますので、どうか去年同様よろしくお願い申し上げます。今年新たな行事は、女性部による養護老人ホーム三室園への出張喫茶サービスで去年6月から月1回、数名ずつ順番を決め参加、入園者にコーヒーをサービス、会話の相手をし、少しでも心の癒しになればと頑張っていました。さて、1年の計は元旦にありと申します。平成15年度も役員一同協力し、英知を集め、皆さんに喜んでいただける長寿会となるよう、前向きに取り組んでまいりたいと存じますので、どうか去年同様よろしくお願い申し上げます。

● ふれあい新聞発刊10周年を迎えて 発刊は生みの苦しみ

10周年の歴史を語る

▶ 宮前会長挨拶

今日はお寒い中わざわざお集まりくださいまして有難うございます。ふれあい新聞は、皆さまのご支援により、今月でめでたく10周年を迎えることができました。

ふれあい新聞は多くの皆様から好評も得、長寿会の情報誌として、機関誌としての役目を十分果たしていると確信をしています。

今日は10周年を記念に、関係者にお集まりを願って座談会を開きたいと思います。10年間もの長い間新聞を続けることができたのは、先輩、関係者の努力と苦労の積み重ねが、実を結んだものです。

10年間の新聞の歴史や苦労話、ご意見、ご要望などをお伺いして、愛される新聞へと、さらなる前進を計ることができればと考えます。

なお、司会は紙面の編集を担当している藪内さんをお願いします。

司会 司会を担当する藪内です。よろしくお願いします。

まず今日の出席者をご紹介します。読者の代表として、別府さん（春日丘）横井さん（若葉台）田中さん（緑ヶ丘）と、10年間発刊から新聞製作に携わっている宮前会長、浅野さん、若林さん、編集委員の井藤さん、仲さんの皆さんです。

読者の代表の方には後ほどご意見、ご要望などについてお伺いします。

まず最初に、発刊に直接関与された浅野さんにお伺いします。

どうして新聞を作ることになったのか発刊の動機と、何ごとも始める時が大変で、新聞も生みの苦しみがあったと聞いていますが。

浅野 新聞発行の動機ですね。当時長寿会は閉鎖的で新しい活動には反対する風潮があったのです。そのため、誰もが自由にもののいえる長寿会を作りたい、皆に広く情報を与えられる新聞ならそれができる。ということが動機だったんです。

発刊の中心になったのは、亡くなられた藤本さんです。「友愛活動」「情報活動」「美化活動」をキャッチフレーズに、ボランティア精神の「ふれあい活動クラブ」を発足させ、同時に新聞を発刊することにしましたのです。

ところが直前になって一大事件が起きました。当時、休日増の社会情勢から、かしのき荘の土曜日休館が立案され、長寿会が押し切られた形で実施されたのです。これを知った私たちは愕然となりましたね。土曜日を活動の場と考えていた私たちにとって、これほど大きな打撃はありません。

この問題打開のため「高齢者の数すくない憩いの場を縮小することは、福祉の精神に反する」として700余名の署名を集めて町長へ要望書を提出したのです。

結果、町行政も理解するところとなり、苦難の末土曜開館復活へと漕ぎつけることができました。

こんな難題も発生しましたが、当時代表になってこの問題解決に当たったのは、藤本さん、宮前さん、兼本さんと私の4人でした。

司会 一件落着くするまでには皆さんの大変なご苦勞があったんですね。代表だった宮前さんも大変だったでしょうね。

宮前 土曜日休館は大問題で解決しなければ、新聞発行も危なかったでしょうね。

新聞発行については、最初兼本さんから「ふれあい新聞」を作るから来てくれないかと依頼がありましたね。当時私は「社協だより」を作っていましたから、その関係で誘いがきたのだと思います。

クラブ代表の藤本さんは、進んだ考えの持ち主で「長寿会の停滞とマンネリを打破するのは、新聞の情報活動しかない。新聞を発行しよう。」といつも活動の先頭に立って音頭をとっていた人です。

先ほど、司会者から生みの苦しみと言われましたが、新聞発行には反对者が一杯おられましたね、長寿会の役員会では「どこの誰だか知らんが、余計なことせんときや、売名行為をやっているのか」と非難されたこともあり、長寿会そのものが反対

でしたからね。生みの苦しみは大変なものでした。

原稿が集まらないのにも困りました。抗議の電話や手紙があったので、原稿にしようと約束の場に行くといくら待っても来なかったり、手紙の差出人を確かめると偽名だったりと散々な目にあったことがあります。原稿が足りない時は浅野さんと二人で穴埋めしましたが、浅野さんには大変助けられました。

司会 昔の新聞を見ると浅野さんも随分と寄稿されていますね。それと発刊に際して準備号を出されたとか・・・。

浅野 最初の頃はよく書きましたね。読み返しても懐かしいです。もう一度載せてもらいたいような記事もありますね。発刊のために準備号を四号まで作って配布し、その後本紙を出すことにしました。準備号で、皆さんの新聞発行に関する賛同を確かめ、手ごたえをつかんで、本紙発行に踏み切ったことが成功につながったのではないかと思います。

司会 おもてに出ないいろいろな苦勞もあり、多々の困難を克服して10年間も新聞発行を続けられた関係者には頭が下がります。

若林さんにお伺いします。若林さんは、印字、版下作成、印刷と新聞製作では、一番負担大きい仕事を担当されています。10年もの長い間では投げ出したくなるような気持ちになったこともあるのではないですか。

若林 自分では昔からやっていた手慣れた仕事ですから、そう苦勞とは思っていません。ただ、家族の会の機関誌も制作しているので、これが重なった時はちょっと忙しいですね。仕事に関しては、暇なものですからお役にたつのであればと、喜んでやらせてもらっています。作業について、パソコン入力は問題ないのですが、イラストが描けないのが残念です。イラストを適材適所に使うと新聞の見映えが非常によくなります。この点が非常に残念に感じています。今は問題ないのですが、年齢的なものからこれから先どれくらい続けられるかの心配があります。後継者があれば、一緒に作業をして技術を身につけてもらえます。短期間でマスターできると思いますので、後継者探

しをお願いしておきます。

司会 若林さんに感謝しています。新聞製作は、今のところ若林さんなくてはできませんね。「余人をもって代え難し」の立場ですので、ご苦勞ですがよろしく願います。なお、後継者については、会長、皆さんよろしく願います。

井藤さんには、毎回名文を載せていただいて有難うございます。文章がお上手なのは、現役時代作家のお仕事をなさっていたのですか。

井藤 作文はもともと好きでしたね。文章を書く転機になったのは、小学生の時です。少年雑誌に原稿用紙一枚書いて送ったところ入賞し、賞品として飴ちゃんを貰ったのです。子供心に嬉しかったですね。これから文章を書くのがおもしろいなと思うようになりました。本格的に書き始めたのは25歳くらいからです。当時の大阪日日新聞の「カメラ川柳」に投稿したところ、一位に入賞して、この時初めて賞金を貰いました。その後、朝日新聞の「声」「片えくぼ」などに投稿して何回か賞をいただきました。この賞がきっかけで朝日新聞から入賞者の常連5人が呼び出され、朝日放送のコントを書いてくれないかの依頼がありましたね。

この5人で「関西コント集団」を結成して、大久保令などが出演するラジオコントを書きました。この頃は、若氣から作家氣取りで有頂天になった時代です。

業界で多少名前が知れますと、コントのほかに、近鉄ニュースからの依頼で一泊旅行の取材をしたり、阪急電鉄の社内報に寄稿を続けたり、今思えば私にとって古き良き時代でしたね。

そんなことで、私は文章を書くのが好きで、面白いのですよ。新聞には、これからも続けさせてもらいますので、よろしく願います。

司会 ライターとしては立派な経歴をお持ちなんですね。文章の上手なわけがよくわかりました。今後ともよろしく願います。

仲さんは会計を担当しておられます。最近原稿もよく載せられています。仲さんの立場でご意見などお願いしたいと思いますが。

仲 ふれあい新聞の製作はボランティアで成り

立っていますね。経費は写真の網かけと用紙代のみで、これほど製作費のかからない新聞は他にないのと同じですか。若林さん、薮内さんのご苦勞に感謝しています。

新聞は多くの皆さんが読んでくれていますね。面識のないおばあちゃん、おじいちゃんから「読んでますよこれからも頑張ってくださいね」と声をかけられたこともあります。本当に勇気づけられましたね。今後新聞としては、できるだけ多くの人の記事を書ける。思想的なイデオロギーは持ち込まない。100%配布する。この3点を大切にしていきたいと考えています。最後になりましたが、編集を担当している薮内さん御苦勞さんです。編集で苦勞されることはどんなことでしょうか。

司会 仲さんのお話のとおり、若林さんのおかげで経費については自慢できますね。編集については、若林さんと同じで、会長から編集の依頼があった時に、遊んでいる身ですからお役に立つことができると、二つ返事でお引き受けしました。

そのため、編集の苦勞はありませんが「意味のわかりやすい文章」「間違いのない文章」この二つを柱に記事をまとめるよう心掛けています。

読者代表の皆さんには大変お待たせいたしました。早速ですが、田中さんに願います。

田中 私は、毎月新聞を読むのを楽しみにしている愛読者の一人です。皆さんからいろいろ話を聞いて、10年間の新聞作りのご苦勞がよくわかりました。これからも頑張ってください。記事は全部読ませてもらっていますが「平群のつぶやき」は各地区の会長さんが順番にかいているとのこと。毎回筆者が変わり面白いですね。

戦前、戦後の記事は、知っているもの、体験したものが多いので身近に感じ興味を引かれます。仲さんの「多くの人に書いてもらう」というのは非常に大切なことだと思います。

昨年、文字が大きくなりましたね。高齢者にとって読みやすくなりました。

司会 文字については、昨年会長から、小さくて読みづらいという声がある、大きくしたいとの話しがあつて私の方で紙面設計をしました。

紙をB4からA3にと大きくし、文字を20%近

く拡大、一行の文字数も16字に減らし、行間も広く取って、高齢者が、読み易くなるよう努めました。

なお、ご意見については、今後紙面に反映するよう努力します。

遅れましたが横井さんいかがですか。

横井 要望が一つあります。私はふれあい活動部で美化活動をしている者です。

毎週第一土曜日、かしのき荘で草むしりをしたり、種をまいて花を育てています。ところが、会員が高齢のため、長くしゃがんで作業できない、その上人手が少ないので困っています。特に、夏などは、ちょっと目を離すと、折角伸びた花を枯らしてしまうこともあります。人手の少ないのが原因ですので、新聞で美化活動に協力してくれる人を探してもらいたいのですが。

司会 よく分かりました。美化活動というのは、善意がないとできない奉仕活動ですから大変だと思います。今後共よろしくお願いします。

最後になりましたが、別府さんには編集会議にも参加され、いろいろとお世話になっています。ご意見などお聞かせ願えればと思います、

別府 今、若林さんから、イラストの話が出ましたが、写真などもっと多くした方がよいのでは・・・。

司会 ご指摘のとおりで写真やイラストの多い方が紙面に親しみがわき、読み易いのは確かなんですが、原稿が多いため載せたくても載せられないのが現状です。今後の課題として検討させていただきます。

別府 私は俳句や川柳の愛読者で、毎回楽しく拝見させてもらっています。読んで、考えれば考えるほど奥が深く、笑ったり、感心したりしています。川柳は楽しいですね。

司会 新聞、雑誌を見ても、俳句や川柳の載っていないものはないほど私たちの生活の中にとけ込んでいます。川柳は人生の縮図を見るようで、川柳や俳句の解説記事を井藤さんをお願いして、新聞の一面トップに持ってきてても面白いかもわかりませんね。貴重なご意見有難うございました。

皆さん、きょうは長時間有難うございました。

話し足らぬところもあると思いますがこれで終わりにしたいと思います。

ご指摘、ご要望などを今後の新聞作りの参考にして、ふれあい新聞の更なる発展に努め、先輩から後輩へと引き継ぎ、20周年、30周年が迎えらることを切望します。本日はどうも有難うございました。

●平成15年 新役員決まる

◇長寿会本部役員

会 長	村 木	實（竜田川団地）
副会長	明 石	賢 三（椿台）
〃	藤 田	道 雄 （竜田川ネオポリス）
〃	武 田	俊 雄（福貴団地）
〃（女性部長）	羽多野	不二子（福貴団地）
会 計	仲	正 夫（北信貴ヶ丘）
〃	城 垣	弘（椿井）
監 査	秋 塚	直 秀（初香台）
監 査	岩 本	仁（北信貴ヶ丘）
顧 問	宮 前	清 和（西宮）

◇長寿会地区会長

鳴 川	岡 田	幾 治
樺 原	吉 村	美 好
椿 台	明 石	賢 三
樺 原	藤 戸	正 夫
緑ヶ丘	井 上	武 夫
西 向	森	正 一
上 庄	浦 井	俊 信
上庄台	松 本	義 夫
梨 本	辰 巳	幸 禧
若葉台	西 野	達 治
御陵苑	北 山	知 旨
吉 新	門 野	勝
三 里	三 橋	孟 雄
平等寺	北樋口	憲 次
下垣内	栄	捨次郎
福 貴	巳 波	皓 祐
初香台	秋 塚	直 秀
竜田川団地	村 木	實

信貴山 赤 城 久 隆
 光ヶ丘 加 藤 和 郎
 竜田川ネオポリス 藤 田 道 雄
 ローズタウン若葉台 宮 西 哲 雄
 五月台 大 辻 清 義
 福貴団地 武 田 俊 雄
 福貴畑 安 村 幸 弘
 久安寺 吉 村 弘
 信貴畑 奥 本 京 春
 榎 原 植 田 喜 三
 越木塚 塚 順 善
 若 井 山 田 喜久男
 西 宮 石 橋 良 光
 春日丘 大 村 三 郎
 椿 井 城 垣 弘
 竜田川団地 村 木 實
 北信貴ヶ丘 仲 正 夫

● 長寿会入会基準60歳から

▶ 第2回長寿会連合会役員会開催

連合会の入会基準を60歳に引き下げ、これを各長寿会の入会基準の目安として努力する。

新しく陶芸クラブを創設する。

「入会基準を60歳にすることについて」

平成15年度奈良県市町村老人クラブ連合会正副会長会議における指導要綱の一つとして、厚生労働省老健局長が都道府県・指定都市・中核都市首長宛に出した老人クラブ活動等事業実施要綱で「老人クラブの会員は60歳以上とする。ただし、老後の社会活動の円滑な展開に資するため、60歳未満の加入を妨げないものとする」を当連合会の入会基準に準用するもので、入会の間口を広げ組織に活力を求めることを目的にしています。

ただし、現在65歳を入会基準としている傘下の長寿会もありますので当面は連合会のガイドラインとして運営し、65歳の入会基準の長寿会も今後60歳に近づく努力をしようとするものです。

● 長寿会女性部会開く

▶ 高齢者では女性が主役

長寿会女性部会（女性部長・羽多野不二子）を、

去る5月14日かしのき荘新館で開いた。平成15年度の事業計画(案)をとりまとめ、役員改選をおこなった。

女性部会は、連合会役員会、クラブ活動と並んで、長寿会活動の中核の一つである。老人ホーム慰問、食による健康管理、老人介護など高齢者になると女性が主役であり、今年も益々の活躍が期待されている。

新役員は次のとおり。

「連合会女性部」

女性部長	羽多野 不二子（福貴団地）
副部長	藤 戸 フ ミ（榎原）
〃	大 森 美智子（吉新）
〃	塚 美保子（越木塚）
〃	水 野 文 子（竜田川団地）

「地区の女性部長」

鳴 川	岡 田 久 子
櫟 原	大津輪 キミ子
椿 台	岩 淵 いさ子
榎 原	藤 戸 フ ミ
緑ヶ丘	森 とし子
西 向	大 東 ツヤ子
上 庄	前 川 千鶴子
上庄台	三 宅 文 子
梨 本	巽 笑 子
平等寺	堀 口 敏 子
下垣内	生 田 寿 子
三 里	五十嵐 すえの
吉 新	西 田 満寿子
若葉台	寺 内 マサエ
御陵苑	東 原 竹 子
福貴団地	羽多野 不二子
福貴畑	坂 野 佳 子
久安寺	上 田 キミエ
信貴畑	中 尾 道 子
榎 原	奥 田 カズエ
越木塚	塚 美保子
若 井	山 口 リヨコ
西 宮	宮 前 陽 子

春日丘	木村 壽子
福 貴	西川 知賀子
初香台	松 家 喜志子
椿 井	宮 崎 順子
竜田川団地	水 野 文子
北信貴ヶ丘	上中野 ミッ
信貴山	藤 井 和子
光ヶ丘	近 江 多加子
竜田川ネオポリス	中 村 京子
ローズタウン若葉台	宮 西 芳江
五月台	高 橋 容子

● 大盛況の歌と踊りの祭典

長寿会連合会の平成15年度定例総会を、5月30日中央公民館大ホールで開いた。

会員、関係者約500人が出席、木村壽子議長（春日丘）の司会で進められる。

村木實長寿会連合会会長の挨拶で始まり、宮前清和前会長へ感謝状の贈呈、来賓祝辞などの後、議案審議に移り、満場一致、拍手で承認され総会は無事終了した。

総会終了後、役員席は舞台に変身し、恒例の歌と踊りの祭典「学習発表会」の幕開けである。今年は、例年になく大盛況で、最前列に用意したゴザ席には、まだ少し余裕が見られたが、大ホールのスペース一杯に並べた椅子席はすべて埋めつくされ、立ち見が出るほどの大賑わいだった。

最後は全員による平群夢音頭でしめくくり、学習発表会も、会員、関係者の協力と努力で、予定どおりプログラムを終え、盛会裡に閉幕した。

● 第1回クラブ活動代表者会議

平成15年度の「かしのき荘」クラブ活動代表者会議が8月29日かしのき荘新館で開催されました。

「かしのき荘」のクラブ活動は、長寿会連合会の主要な柱の一つとして、すすめられています。今年より陶芸クラブ、アートフラワークラブ、手品クラブの三つが新設され、現在21クラブが活発に活動しています。

▶ クラブ活動の助成金について

今年度の連合会からのクラブ補助については、次の内容で決定しました。

クラブの助成金は、総額で774,000円とし、その内訳は①町からの補助金20万円、②県から老人クラブ活動等事業補助金として38万円、③長寿会連合会補助金として194,000円です。

この補助金774,000円は、昨年の補助金885,000円に比べると、111,000円の減になり、その理由としては、国・県および町が三分の一ずつ連合会に交付する「長寿会活動事業補助金」の減少によるものですが、平成10年から12年頃の補助金450,000円から500,000円に対しては、本年も大幅な増額となっています。

しかし、クラブの運営としては、前年度に支給された交付額を基本にその年度の活動計画や予算がたてられることもあるので、減額は慎重に行ってほしいという要望、意見を付し、了解されクラブ代表者に手渡されました。

▶ 長寿会未加入のクラブ会員の取り扱いについて

現在のクラブ会員数は、21クラブで約600名未満の現状ですが、その中に長寿会の未加入の会員が100名程度います。

「かしのき荘」のクラブ活動は、長寿会連合会傘下のクラブ活動という位置づけであり、そのために連合会からクラブ活動の運営資金として補助金をだし、助成しているためクラブの会員は、長寿会の会員であることが原則になっています。

このため、各クラブ代表者に未加入者加入の促進の協力を依頼しました。該当される方は各地区長寿会会長宛に、加入手続きをお願いします。

● かしのき荘改修計画出る

かしのき荘は、建築から20年以上も経ち、老朽化が進んできましたので、必要な個所から順次改修していくことになりました。

平成15年度の改修予定は、次のとおりです。

▶改修工事

場所：浴室、脱衣場、脱衣場内のトイレ、1階廊下、ホールの床面

時期：9月頃から約3ヵ月間。

▶交 換

場所：一階娛樂室（和室）畳替え

時期：7月中旬

▶購 入

物品：全身マッサージ機	1台
足裏マッサージ機	3台
体脂肪計付き体重計	1台
自動血圧計	1台
座布団	120枚

時期＝座布団は9月頃、それ以外はすでに納入済み。

利用される皆さんには、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をいただけるようお願いいたします。

● 伝承交流活動だより

▶小学生とフォークダンス

西小学校より運動会にフォークダンスを組んだので教えてほしいと依頼があった。9月11・17日の2日伝承交流部、新垣 道子さんの指導で1・2・3年生の児童に

ロシア＝タタロチカ

ドイツ＝キンダー～ポルカ

のフォークダンスを習ってもらいました。参加した長寿会員も踊りの輪に加わり、楽しく交流しました。9月27日、小学校の運動会当日1・2・3年生は立派にフォークダンスを披露、父兄たちからヤンヤの喝采を受けました。新垣さん有難う。

また同学年生による平群夢音頭の輪にも長寿会員が参加しました。

▶未就園児の親子30組と

10月8日かしのき荘で、子育て支援センターの世代間交流事業として行われた未就園児の親子30組との交流をもちました。長寿会からは伝承交流

部員6名、女性部から11名が参加しました。お手玉、紙ふうせん、ゴムふうせん、こま回し、ケン玉、などなど幼児たちと一緒に若いお母さんたちも嬌声あげて一刻を忘れました。ひと遊びしたところで、民生児童委員・主任児童委員・ヘグラ～O・M（おたすけマン）の方たちが作ってくれた美味しいおはぎをいただき、実のある交流をしました。

椿井の吉村キミ子さん、竜田川団地の水野文子さんより伝承交流部にお手玉の寄贈がありました。有難うございました。

● 長寿と健康の祭典開催

宮前 清和氏知事表彰受賞（前連合会会長）

長寿会連合会では、9月12日の式典に、各長寿会会長及び女性部長42名が出席し、またこの式典の表彰式では、前宮前連合会会長が地域社会での高齢者活動に対する多年の功績が称えられ、知事表彰を受賞されました。

● 県老連功労賞受賞

福貴団地長寿会前会長 小林 太一氏

財団法人奈良県老人クラブ連合会創立40周年記念大会が、9月21日（日）橿原文化会館で県下2,000人の会員が集まり開催され、平群町連合会からも各地区会長20名が出席しました。尚この式典で前福貴団地長寿会会長を20年勤められた小林太一氏が「老人クラブ育成功労者」として表彰されました。

● 連合会役員でかしのき荘美化運動

連合会役員で、10月2日午前9時前より約1時間「かしのき荘の美化活動」を実施しました。

当日は、健康に差し支えのない各地区の会長さん、女性部長さん50名が参加され、女性部長さんはかしのき荘の内部の清掃、地区の会長さんは外回りの除草と掃除を担当し美化活動を推進しました。

この活動の主旨は、ふれあい新聞9月号で記載しましたように、かしのき荘を『大切にし、きれ

いに使用する』ことが目的です。長寿会が率先して行うことにより、会員諸氏にも主旨のご理解をいただき一層のご協力をお願いする次第です。

● 伝承交流活動部 サンタのプレゼント

子育て支援センターの要請を受け12月6日中央公民館で「手づくりコンサート」に参加し、平成15年度最後の交流活動をしました。

サークルたんぽポのダンス、福祉作業所大空の家の皆さんによるダンス、保育園児のダンスというプログラムに、わが伝承交流部も皿まわし、マジックで参加、やんやの喝采を博し、最後には宮前、仲の2人がサンタクロースの衣装で登場して園児たちにクリスマスプレゼントを配り、会場の雰囲気最高に盛り上げました。

● 連合会忘年親睦一泊旅行 120名が参加

長寿会連合会恒例の忘年親睦一泊旅行は、10月開催の役員会で、伊勢志摩国立公園・新浜島温泉と決まり、12月8日(月)、9日(火)の両日に実施され、各地区長寿会から120名の方が参加しました。

行程の1日目は、朝8時から8時30分に平群町の各集合場所を出発、伊賀上野・東名阪を経て、伊勢一宮・椿大神社参拝、亀山で昼食後「かめやま美術館」を見学し、伊勢自動車道・パールロードを走り午後4時前・浜島温泉旅情館・紫光に到着、ゆっくりと休憩・入浴し伊勢名物のえびの会席による夕食宴会で懇親と交流を行いました。

2日目は、9時前にホテルを出発し、真珠加工所を見学、朝熊岳金剛證寺参拝、朝熊山展望台から伊勢志摩の眺望を満喫し海産物店で買い物を楽しみ、伊勢志摩スカイラインを経て昼食後夫婦岩を見学、午後5時過ぎ平群町に帰りました。

今回の旅行代金は、ひとり17,500円でしたが、バスはトイレ付き貸切バスで安心感があり、バスの車内では、清酒・ワインのサービスや熱いお茶・コーヒーが出る等バス旅行が楽しめました。

また旅館での宴会には、ひとりに銚子又は

ジュース一本、三名にビール一本が付き、民謡ショーが上演され大変盛り上がりました。お土産には伊勢名産干物セットのプレゼントがあり参加された方は満足されていました。

旅行社とは「当日の取消でも旅費全額返金する」という取り決めですので、次回からも多くの人が参加されることをお奨めします。

平成16年 長寿会連合会の活動

● 平成16年 新年会長挨拶

▶活動に参加し積極的な人生を

長寿会連合会会長 村木 實

長寿会会員の皆様、明けましておめでとう御座います。

ご承知のように長寿会の活動は、会員の皆様が「心身共に健全な社会生活を、より長く持続すること」をねらいとする活動であり、そのことを通して地域社会に貢献しようとするものです。

このために連合会をはじめ各地区の長寿会では、さまざまな行事や活動が展開されています。

例えば、連合会では趣味やスポーツをはじめとする、21のクラブ活動が「かしのき荘」を中心に活発に実施されています。また若い人たちとの交流をかねて、次世代に伝えたい遊びや昔の暮らしなどの伝承交流活動も盛んに行われています。

女性部では老人ホームの施設見学や慰問、高齢者向けの料理教室などが実施されています。

また昨年からは「ふれあい」新聞を連合会の機関紙にして有志による編集体制を確立させ会員の皆様のコミュニケーションの場をつくりました。

その他クラブ活動の成果発表の機会としての総会の開催、奉仕活動、レクレーションとしての年2回のバスツアー等を持ち会員に対して啓発と動機付けを行っています。

今まで消極的であった会員の方やまた入会をためらっていた方も長寿会の活動の意味を理解していただき連合会をはじめ各地区の長寿会活動に参加・参画いただき、ぜひとも「積極的な人生」を目指していただきたいと思います。

● 高齢者の料理講習会実施

女 性 部

1月15日プリズムへぐりで女性部の料理講習会を実施しました。

「高齢者に適した栄養摂取と料理実習」のテーマによる講習でしたが、実習に入る前に、先ず先生から食生活のポイントについての説明がありま

した。

食べすぎは禁物、ほどよい分量を食べなさい。いわゆる腹八分です。口の中に食べ物を入れたらハシを置いて30回以上かみなさい。ハシを手に行っていると、かんでいる最中でもつい次の食べ物を口の中に入れるからなど分りやすい説明でした。

実習は、豚肉、ぶりなどを使った料理、デザートはスキムミルクたっぷりの白雪イチゴです。大切なことは、高齢者になると、淡泊なものを好むので、たん白質が不足がちになるそうです。

先生の選定された材料を使っでの料理でしたが、早くでき上がったのには驚きました。

明石副会長さんも器用な手つきで参加され「僕も時々やるんですよ」との話を聞きながら、皆さんと一緒に楽しい会食になりました。

● 熱戦の新春囲碁大会

長寿会第6回新春囲碁大会（代表藪内英輔、副代表道上勝）が去る1月24日かしのき荘で開かれた。

囲碁は、陣取り合戦で、囲めば相手の石が取れる単純なゲームのため最近、幼稚園児から高齢者まで老若男女が楽しんでいる。

今回の参加者は、最年長者86歳の元町長の吉村さんを筆頭に、平均年齢73歳の高齢者ぞろい。皆故老の上、日頃対局している顔馴染みの20名だけに、和気あいあいの大会となった。

A組（段位）B組（級位）の二組に分かれ熱戦を展開する。成績は次の通り。

▷B組

優 勝	水 野 一 三	二 級
準優勝	本 田 幸 蔵	一 級

▷A組

優 勝	川 上 博 通	四 段
準優勝	芝 田 保 雄	初 段

B組の水野さんは初優勝。A組の川上さんは群を抜いた強さで、前回に続き連覇するところとなった。中堅の二、三段者の奮起が望まれる。

対局終了後は、懇親会で会員の親睦を深め、クラブの運営などについて意見交換をし、盛況裡に大会を終了した。

● 女性部がボランティア活動

▶ 三室園で演芸会

女性部 塚 美保子

長寿会女性部は、雛祭も間近に迫った2月26日三室園を慰問し演芸会を開きました。

女性部では、年に一度の演芸会の他に、ふれあい活動の一環として喫茶サービスの慰問で、毎月三室園を訪れています。

交流の場である2階の広間には、大勢の人が集まり、一角にはお雛様が飾られ華やかな雰囲気をかもし出していました。

慰問交流会は、冒頭羽多野女性部長の挨拶で始まりました。挨拶が終わると全員で「りんごの歌」「ふるさと」を合唱し、皆さんも心は青春時代にタイム・スリップしていたようです。続いて、長寿会クラブ員による新舞踊と手品の数々を披露し、会場を大いに沸かし大きな拍手を受けました。

演芸の後は、女性部持参のプチ・ケーキと三室園で用意して下さったお茶でティタイムです。毎月の喫茶サービスでお互いに顔見知りの間柄のため、よもやま話に花が咲き楽しい交流の時間がもてました。

休憩が終わると、去年大勢が参加して大いに盛り上がった「炭坑節」を、今年も輪を作って何度も何度も踊りました。もう少し踊る場が広ければ、もっと多くの入園者の方が参加できたのにと、すこし残念な気もしました。

お別れの挨拶の後、女性部からのタオルと石鹸のプレゼントを皆様に渡してくれるよう園の方をお願いをし、また来年お会いしましょうと握手をしながらお別れしました。

短い時間ではありましたが、皆様の楽しそうな顔を見て、こちらまで勇気づけられ、来年も慰問に来ることを心に誓いながら三室園を後にしました。

● 女性部恒例の心に残った社会見学

朝から晴れ渡った青空に見送られながら、私達31名は町バスにて「かしのき荘」「プリズム」を出発。奈良ってすぐ近くなのに長い間行ってな

かったなーと思いながらバスにゆられてまず高畑の「志賀直哉」旧亭に到着。

自ら設計した2階建ての住居で、彼は正12年から昭和の初期まで13年間ほどここに住み「暗夜行路」を執筆したそうです。

中を一めぐりしてお庭で雑談していた時、近くの大木の中からひととき大きなウグイスの鳴き声に思わずみんな歓声をあげました。平群の里では聞きなれた鳴き声なのに、こんな近くで聞かせてくれるなんてカンゲキ！

そんな思いの中で公園内の「新公会堂」へ。広々とした静かな建物と心の底からほっとさせられるような庭園にまず心をいやされ、親しい友達との庭の散歩には時間のたつのを忘れ、ほんとうにゆっくりした一刻を過ごさせていただきました。そして庭の眺めの良い「レストラン能」で昼食後、中の「能楽堂」も見学させていただきました。扉を開けられたとたんのあの檜の香りと静寂さに感動を覚え、別世界に引き込まれたようで我を忘れた感じでした。

そして最後に奈良写真美術館へ、ここでは故入江泰吉さんのお水とり「火の神秘」展を鑑賞。大和路を撮りつづけた入江さん。風景や伝統行事を撮り続けている松井良浩さんの作品。現代美術をリードして来られた高瀬さんは東大寺「お水取り」の松明の火に魅せられて創作活動を展開しておられるそうです。

先ほどの能楽堂の「静」写真館の「動」の取り合わせはとてもすばらしく絶妙の世界を味わせてもらいました。

私達はこれで女性部長をしりぞきますが、いろいろな思いで胸を満たされ、2年間一緒に活動させていただいた皆さん本当にありがとうございました。お別れにちょっぴり淋しい思いにひたりながら平群へと帰路につきました

● 「大空の家まつり」に 伝承交流活動部参加

恒例の「大空の家まつり」が3月27日現地で開催されます。

イベントや食べもののコーナーの他に、長寿会で

も例年どおり伝承交流部が参加して、昔遊び体験コーナーで皿まわしやケン玉遊びをします。

地域のふれあい交流を深めるためにも、多くの方のご来場をお待ちしています。

記

▷と き 平成16年3月27日(土)

▷ところ ふれあい交流センター

(かしのき荘の隣、大空の家)

▷内 容

◆イベント→音楽療法・金管バンド演奏・ゲーム大会・昔あそび体験コーナー

◆模擬店→豚汁・ちらし寿司・おでん・パン・ジュース・喫茶コーナーなど

◆大空バザー→焼き菓子・ポプリリース・ビーズアクセサリー・かご・手織り製品など

● NHKテレビに 「わがまちの名物人」出演

伝承交流活動部

見られた方は少ないのではないかと思います
が、4月6日午後6時からNHKテレビ放送51
チャンネルに私達伝承交流活動部員ら20名が出演
しました。

これは、NHK奈良県内の市町村を1年がかり
で巡回し、特産品や地場産業、ユニークな人、町
並み、風景などを取り上げていくというもので、
はしなくもこのたび平群町が取材対象の一つにあ
げられ「ここぞ まほろばまち自慢」というタイ
トルで、五つのテーマの内「わがまちの名物人」
に長寿会伝承交流活動部に声がかかり、東小学校
児童保育の児童たちと昔遊びをしました。

櫛原の有志の方々によるわら草履づくりは、な
くなりつつある昔の文化を後世に伝えるという貴
重な技術であると思いました。櫛原の皆さん有難
うございました。

● 花とビールを満喫

▶春の連合会研修旅行

長寿会連合会恒例の春の研修バスツアーは90名
が参加、快晴のもと4月9日(金)・10日(土)の両
日1泊2日で蒲郡温泉・浜名湖花博コースで実施

されました。

行程の1日目は、8時過ぎに平群町の各集合場
所を出発、西名阪国道・伊賀上野・東名阪を経て、
名古屋テレビ塔で昼食後、アサヒビール名古屋工
場に到着。

まず、ビール工場の林立するタンクの大きさに
圧倒され工場内を見学、終了後ホールに案内され
世界六カ国のビールの飲み放題(もちろんつまみ
付き)でビールを満喫し一同大満足。

そのあと「かぼちゃ寺」で有名な中風除けの幡
豆観音を参拝し17時30分頃蒲郡温泉・竹島ホテル
に到着、ゆっくりと休憩の後、懇親と交流を行いま
した。

2日目は、竹島ホテルを8時30分に出発、浜名
湖花博を約3時間にわたり①国際花の交流館②園
芸文化館③世界の店が軒を連ねる「花横丁」など
などを見学、園内で昼食を摂り18時30分頃平群町
に帰着しました。

今回のバスツアーは、快晴に恵まれ花のシーズ
ンと重なり素晴らしい研修旅行でした。

また、今回から看護師さんも添乗することにな
りました。連合会の研修旅行は、代金のキャンセル
も当日出発するまで見てくれることですので、
急に何かの都合で行かれなくなっても安心出来る
お勧めの旅行です。

● 平成16年新役員決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	村 木 實 (竜田川団地)
副会長	羽多野 不二子 (福貴団地)
副会長	藤 田 道 雄 (ネオポリス)
副会長	武 田 俊 雄 (副貴団地)
副会長	東 原 竹 子 (御陵苑)
会 計	仲 正 夫 (北信貴ヶ丘)
会計監査	秋 塚 直 秀 (初香台)
会計監査	岩 本 仁 (北信貴ヶ丘)
顧 問	明 石 賢 三 (椿台)
顧 問	木 村 壽 子 (春日丘)

◇ 長寿会地区会長 (理事)

鳴 川 森 川 修

櫛原	橋本	康太郎
椿台	石川	孫一
緑ヶ丘	井上	武夫
楓原	桜根	義信
西向	高塚	義治
上庄	奥田	正治
上庄台	藪内	英輔
梨本	仲埜	幸男
五月台	大辻	清義
光ヶ丘	加藤	和郎
福貴団地	武田	俊雄
久安寺	南	岩夫
福貴畑	森田	巨
信貴畑	奥野	昭三郎
越木塚	浦野	善夫
若井	北川	義一
西宮	石橋	良光
若葉台	原田	青三
ローズタウン	若葉台	宮西哲雄
御陵苑	北山	知旨
吉新	大森	喜蔵
三里	平田	嘉幸
下垣内	岩佐	直吉
平等寺	阪中	克巳
福貴	西田	誠宏
初香台	秋塚	直秀
北信貴ヶ丘	仲	正夫
竜田川ネオポリス	藤田	道雄
竜田川団地	村木	實
信貴山	赤城	英子
春日丘	大村	三郎
榎原	奥田	邦一
椿井	城垣	宏

●平成16年度 長寿会連合会総会開催 ▶女性部体質強化図る

平成16年度長寿会連合会総会が5月13日に町中央公民館で開催された。

村木会長以下本部役員、来賓として、中筋平群町長、下中町議会議長、中辻県会議員などが出席し、会員、関係者を含め400人を超す盛大な総会

となった。

本部役員の紹介では、女性部副部長の東原さん（御陵苑）が新しく副会長に選任され、女性部長の羽多野さん（福貴団地）と合わせ、副会長4人のうち半数を女性部が占めた。

これは、国が推進する男女共同参画を目指すと共に、女性部の一層の体質強化を図ったものである。

議事に先立ち、会長あいさつ、来賓祝辞などのあと、長寿会への永年の功労に対し感謝状が左記の6名の方に贈られた。（順不同）

明石賢三（椿台）
藤戸正夫（楓原）
門野勝（吉新）
吉村弘（久安寺）
吉川チエ子（三里）
山口リヨ子（若井）

議事は、議長に宮西ローズタウン若葉台会長を選任し、事業報告、決算報告などの後、本題の議案審議に入り、満場一致、拍手で承認され、総会は無事終了した。

●平成16年度定例総会 ▶会長あいさつ（要旨）

昨年度よりひきつづき会長に選任されました村木 實です。よろしくお願い申し上げます。

はじめに、この総会のためにご参集賜りました会員の皆様をはじめ、早くからご準備を頂きました関係者の皆様に御礼を申し上げます。

（本当にありがとうございます）

私たちの長寿会活動は、昭和38年に施行されました老人福祉法を契機にその前後に全国各地で設立された運動体であり、来るべき高齢化社会を「より豊かな福祉社会にする」ことを目標に活動を続けて参りました。昨年は全国老人クラブ連合会設立40周年に当たりその宣言文を総会挨拶の中で、会員の皆様にご紹介いたしました。

その1つは、高齢化社会を築く仲間づくりを進めよう。

2つ目は、健康で互いに助け合う友愛活動を進めよう。

3つ目は、地域社会への奉仕活動。

4つ目は、若い世代と共同して豊かな地域社会を作ろう。

5つ目は、健全な社会保障づくりの参画と学習であります。

以上のことは、私達長寿会活動の重要な柱としてこれからも力強く継続してゆかねばなりません。

ご存知のように、この平群地区では65歳以上の高齢者は5人にひとりから4人にひとりという時代に移ろうとし、平群地区での高齢者の存在感が飛躍的に高まっています。ということは、高齢者もまた社会に貢献する責任と義務が高まっていることを自覚せねばならないときにきていると思います。そのためには「老後の幸せは高齢者自身で創造する」という自覚が重要になってくるのではないのでしょうか。

国の財政構造が慢性的赤字構造となり、急速な高齢化と少子化が進み年金問題に見られるように従来の社会保障制度の基盤が脅かされている状況は早晚、地域の福祉政策にも波及すると考えられます。そのような時に私達長寿会は、この平群の地域になくてはならない運動の中核的存在として、これからも頑張ってゆきたいと思います。会員の皆様のご理解とご協力をお願いし、最後に益々のご健康を祈念して、16年度総会での挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。

● 連合会が2地区増え36地区に

長寿会連合会は、現在34地区ありますが、6月から新しく左記の2地区が参加されて、36地区に増えますので連合会の皆さんよろしく願います。

月 見 台

会長 扇 田 修 身 会員 12名

日立団地

会長 佐 野 正 吉 会員 26名

● 女性部で老人ホームを見学

女性部長 羽多野 不二子

長寿会女性部は、平成16年度事業の第1回目として、平群町内の高齢者介護施設の見学を行いました。見学したのは、最近開設したばかりの社会福祉法人特別養護老人ホーム「グレースの里」(越木塚)、デイサービスセンター「つくしの里」(三里)と、同じく社会福祉法人の「平群の里」(福貴)の3か所です。

村木会長、木村顧問をはじめ女性部員31名は、かしのき荘を出発して、町総合スポーツセンター、西小学校を左右に見ながら最初の見学地グレースの里へ。

バスから降りると、眼の前に広がる深い緑のすばらしい眺めと立派な建物に暑さも忘れ感嘆の声をあげました。

玄関を入ると、広々としたロビーに驚かされ、見学する施設の清潔感と近代性に目を奪われました。

応対して下さった職員の方々の明るい笑顔と、利用者の方に対する愛情と真心のこもった接し方には見ていて頭の下がる思いがします。

町内ということで、利用者の中には顔見知りの方もおられ、帰りの時は、別れを惜しむ気持ちがわき、後ろ髪を引かれる思いでした。

くまがし道の駅で昼食後、次の見学地デイサービスのつくしの里へ。

ここでも職員さんの明るい元気な声で迎えられ、吸い込まれるように中に入ったところ、健康体操の真っ最中でした。早速、利用者の方と一緒に体操をさせていただき、体のコリをほぐさせてもらいました。

高齢者と接するには、人の身になって優しくするのが一番だと。ここの職員さんもこのことが良く訓練されているのには感心します。

職員の優しさに元気づけられて次の見学地平群の里へ。

ここは痴呆の方が入所されている特別養護老人ホームです。若い男性職員が、七夕のお話をしたり、夏を思い出す言葉を引き出そうとしたりして

一生懸命話しかけている姿には感動しました。若い職員に我が息子や孫が重なって、若いパワーをいただいたようで元気づけられました。

今日は、3か所の介護施設を見学させてもらいましたが、それぞれ特色があって素晴らしい施設ばかりで、平群の町に住んでいてよかったと安心させられた1日でした。

今年の総会で村木会長が「老後の幸せは、高齢者自身で創造する」と話した言葉の意味をかみしめながら、いずれ通るであろうこの道が、1日でも遠い日でありますようにと願いつつ帰路につきました。

最後になりましたが、各施設の職員さんの親切な対応に感謝し、厚くお礼申します。

● 第7回囲碁大会開催

A組優勝鎌倉初段 B組優勝甲野初段

囲碁クラブ主催の恒例の第7回囲碁大会を、去る7月24日かしのき荘で開催した。

東京での最高気温が39・5度と史上最高を記録するなど、日本列島に熱暑が続く中、大会は文字通りの熱戦となった。

初参加4名を含め、A組（段位）10名、B組（級位）12名計22名による町長杯、会長杯の争奪戦である。

A組は、優勝候補とささやかれていた前回準優勝の芝田初段は意外と奮わず、有力視されていた巽2段も3位どまり。代わって前回4位の鎌倉初段が見事初優勝を果たした。

B組は、当日欠席者が出たため、急遽A組からB組入りした甲野初段の優勝となった。

成績は次の通り。

A組	優 勝	鎌 倉 浩 彦	初段
	準優勝	向 井 清	四段
	三 位	巽 幸 夫	二段
B組	優 勝	甲 野 和 夫	初段
	準優勝	本 田 幸 蔵	一級
	三 位	岩 曾 洋	一級

対局終了後は、例年通り懇親会を開き、会員の親睦を深め、クラブの運営について話し合った。その中で大きな話題になったのが、クラブ活動費

の減額である。

不況による緊縮財政から、補助金が大幅に減り、今までのやり方では年2回の大会開催が困難となり、このため、会の規模の縮小、会費制などについて検討していくことになった。

● 優良老人クラブ賞受賞

竜田川ネオポリス銀秋会会長 藤田 道雄

秋の高齢者の各種行事に先駆け開催される「長寿と健康の祭典」で、当連合会参加の竜田川ネオポリス長寿会（別名錦秋会）が、その活動の成果を評価され奈良県老人クラブ連合会会長から「優良老人クラブ」として表彰されました。

この「優良老人クラブ」の表彰は、奈良県老人クラブ連合会所属の2千百クラブの中から地区を勘案して5年以上他のクラブの模範となる活動を継続した32クラブに与えられるものです。竜田川ネオポリス長寿会の活動は、それに値する活動として賞されました。

なお「長寿会と健康の祭典」は、(財)健やかな奈良支援財団、(財)奈良県老人クラブ連合会、(福)奈良県社会福祉協議会主催により毎年開催されていますが、今年は奈良県立橿原公苑第一体育館で9月10日に開催され平群町連合会では各地区の会長及び本部の正副女性部長が参加しました。

開催主旨は、高齢化社会の進展とともにない「高齢者自らが時代とともに生きる意欲を高め“明るい長寿社会の実現”に向けて社会の一員としての貢献を推進する」とともに、県民各層に介護予防の観点から、生きがいと健康づくりについての意識づけを図るというものです。

思いがけない賞をいただき喜んでいます。私たちの老人クラブ活動が、皆さんに評価され大変うれしい。今後も活動の継続に頑張ります。

● 連合会秋季親睦一泊旅行実施

長寿会連合会恒例の秋季親睦1泊旅行は信州蓼科温泉と決まり11月25～26日に実施されました。参加者は129名で三台の貸し切りバスに分乗して、和気あいあいのなか、目的地のグランドホテル滝に到着、温泉で旅の疲れを流し、宴会の料理を嗜

み、カラオケ等で楽しい一刻を過ごしました。

● 伝承交流活動部 第11回「大空の家まつり」に参加

長寿会連合会副会長 武田 俊雄

- ・日 時 平成15年11月27日(土)
- ・場 所 大空の家 (ふれあい交流センター)
- ・時 間 10時～15時
- ・プログラム

10時 開会式

10時15分 東小学校金管バンド演奏

10時30分～10時40分

模擬店・フリーマーケット

11時～12時 昔遊びコーナー

12時30分～14時 ミュージカル カーニバル

閉会 15時

伝承交流活動部のメンバーが「昔遊びコーナー」で、皿まわし、紙飛行機、けん玉、ぶんぶん独楽などを演じます。長寿会の皆さんの多数のご来場をお待ちしています。

● 平群町高齢者交通助成金 改定案出る

12月の平群町議会で提案・審議され継続審議となっていました「高齢者交通助成金廃止の件」(65歳以上の高齢者一人当たり3,000円支給の打ち切り)について、2月18日開催の町議会厚生委員会で、町側から新しい提案として、・4月1日現在で70歳以上を対象に、・2,000円を支給する条例改定の説明が示され了承されました。

この結果、先の12月議会で提案された条例廃止案は撤回されて、この条例改定案が3月開催の町議会に提案・審議されることになります。

【高齢者交通助成条例廃止案から改定案に至るまでの経過】

◇12月7日、定例議会に行財政改革に関連して突如提案され審議を厚生委員会に付託される。

◇12月9日、条例廃止案を厚生委員会で審議、賛成多数で通過。

◇12月16日、議会本会議で継続審議となり、厚生

委員会に差し戻される。

◇12月20日、長寿会連合会緊急理事会を開催して町宛て抗議文を決議。

◇12月21日、抗議文を提出。

◇2月7日、会長・副会長と町長との相互の理解を深める意見交換の場がもたれる。

◇2月18日、厚生委員会が開催され条例廃止でなく、助成金に関する条例改定案が町側より示されこの案を3月議会に提案することが了承された。

● 納得できない行財政改革

長寿会連合会

平群町行財政改革の大綱が、昨年11月に出され、その中で介護手当、高齢者交通費助成などの見直しと廃止が決まった。これは、すべて障害者、高齢者など、弱者を対象にした補助金、交付金の削減である。

大綱の根底にあるのは、財政赤字の削減で、そのカードはいろいろと出されているが、大事なものは全体から見た優先順位で、住民が納得できるものでなければならない。

さらに、大綱には(1ページ)「これまでは、住民への説明や対話という視点が薄かった。行政自らが「住民と協働して住民自治を作り上げる必要がある」と述べている。

にもかかわらず、補助金、交付金の廃止などについては、高齢者の中核である長寿会連合会に、説明や対話が全くない。赤字削減についても、まず弱者からという順位では福祉の精神にも反し、納得できない。

以上の理由から長寿会連合会は、年末の12月20日緊急臨時理事会を開いて討議した結果、満場一致で左記の抗議声明文を中筋町長に提出し、議員他関係各部に配布した。財政赤字の削減は町民の願いである。

民間企業は、10年以上も前から、リストラをし、報酬を引き下げ、業務の効率化を図って、生き残りに懸命の努力を続けている。

これに対し、公務員のリストラはついで聞いたことがない。逆に地方公務員の給与は民間より約

14%も高く、役職面でも、一般行政職の課長補佐以上が58%と国家公務員の37%に比べ21%も多い。これを国家公務員並みに減らすことで2千億円の節約ができるという。そのうえ、西日本の多くの自治体では公費で職員の保険料を全額負担するなどし、地方財政計画では7兆円～8兆円もの過大計上があるという。

平群町の場合、大綱（28ページ）に類似団体と、人件費および物件費の比較が出ているが、最近5年間（平成10～14年）の平均をとると、人件費で約21%、物件費で約20.6%も平群町が多い。職員数はいろいろのファクターで決まるが、人口のウェイトが一番大きい。人口をベースにした場合、平群町の職員数は、7町（市町村合併構想）の平均に比べ20人程度多い。

平群町平成16年度の歳出で、人件費は約17億4千7百万円、物件費は約11億7千5百万円、両方の合計で29億2千2百万円となっている。これを10%削減すると3億円弱、20%削減すると6億円近い膨大な金額になる。

財務省は、昨年末の12月13日に地方公務員の給与引き下げを図る方針を明らかにした。だが、最終的には地方自治体が条例で決める。

過剰昇格人事、過剰報酬で「乳母日傘」と育てられてきた日本の地方自治体が、三位一体の改革に押され、やっと本腰を入れ始めた。

平群町も前述のように、行財政改革大綱を作成し、赤字削減に踏み出した。だが、自分自身の痛みが伴わない赤字削減の順位では、住民は納得できない。

トヨタの「カイゼン」は「乾いたタオルも知恵を出して絞れば水が出る。目の前の楽な仕事からは手をつけるな、知恵を絞り、順位を考えてから手をつける」とある。

全体を見て、誰でもが納得する削減順位でないと弱者はたまらない。

（藪内英輔）

● 抗議声明

▶ 高齢者、身体障害者、児童に関する福祉後退についての反対・撤回要求書

平群町長 中筋 弘殿

平成16年12月平群町議会に町行政側より提案された表記に関する事項については、次の理由により反対・撤回を強く求める。

町行政側は、行・財政改革大綱に関連し

- ① 諸手当の廃止
- ② 高齢者交通助成金の廃止
- ③ 児童教育資金支給事業の見直し
- ④ 母子医療費助成事業の見直し
- ⑤ 身体障害者医療費助成事業の見直し、などを議会に提案したが、憲法に定められた主権在民の基本を無視し、住民に一度の意見も聞くことなく行政側の一方的案を、一方的に議会に提案し決定しようとすることは、民意を無視した町民不在の行政といわざるを得ない。

高齢者交通助成金廃止提案の行政側の取り組みを例にとれば、

- ① 高齢者の過半数を占める長寿会連合会に何らの意向打診もなく、突如12月6日の町議会に提案された。
 - ② 行・財政改革大綱に関連するものであれば行政側は、自らの襟を正した財政改革を実行の後、提案すべきであるにも拘わらず、もっとも弱い立場にある社会的弱者から改革の手始めにするとは許しがたい。
 - ③ 高齢者の85%が受給している現実を無視することもまた行政側の高齢者不在の行政といえる。
- 以上、高齢者および身体障害者・児童に関する福祉後退に関する町諸施策に対し強く撤回を求めることを決議し要請する。

平成16年12月20日

平群町長寿会連合会

平成16年12月 緊急臨時理事会

平成17年 長寿会連合会の活動

● 平成17年 会長年頭挨拶

長寿会連合会会長 村木 實

明けましておめでとうございます。

厳しい少子高齢化社会を迎えた中で、私たち高齢者が地域社会に貢献できる第一の条件は、健康に生きることだと思います。世界保健機構による健康の定義は、「心身ともに健全で、社会生活の出来る人」となっているそうです。心身が健全でも60歳を過ぎると、人の中に出てゆくことや人との交流は、何となく煩わしくなりますが、心を励まし鬱（うつ）を跳ね飛ばし、人の集いの中に入るよう心がけ、心の老化を防ぐよう努めましょう。

また会員の方の中には、足腰の不自由な方、寝たきりの方もおられると思いますがマイナス思考になることなく健康な会員の呼びかけに応じ電話などの呼びかけに答えていただくなどプラス思考での生活をしていただくことをお願い致します。

長寿会活動は、1人でも多くの方が、社会活動に参加出来る健全な高齢者になっていただき、社会参加が1日でも長く継続していただけることを目的に活動している運動体です。そのことが少子高齢化社会の活動を促し、さまざまな分野での地域社会に対する貢献につながると確信しています。

今年も元気でいろいろな地域の活動に参加をお願いします。

● 合同研修会開催

去る1月26日(水)10時から「かしのき荘」新館会議室において開催されました。本部役員、各地区長寿会長、各地区女性部長、クラブ代表者らが出席しました。警察側は、生活安全課の河野課長と高野係長。話は西野課長。

おれおれ詐欺や架空請求詐欺の手口を分析する話に、なるほど、なるほどと、うなずいてばかり。悪質な訪問販売にも言及、聞いている我々は、とにかく改めて自衛精神を奮い立たせたわけであります。

● 長寿会囲碁大会

A組：優勝 巽二段

B組：優勝 三船二級

平群町長寿会連合会囲碁クラブは、去る1月29日 かしのき荘で第8回囲碁大会を開催。

今回は、強豪藤井六段（竜田川）も参加し、総勢19名（1名当日不参加）で、A B 2組に分かれ、午前、午後各2局、計4局打ちで熱戦を繰り広げた。

A組の優勝は、毎回優勝候補と目されていたが、勝ち運に恵まれなかった巽二段（下垣内）が、苦節3年やっと念願の栄冠を手に入れた。B組は、三船二級（椿台）が4勝無敗と群を抜いた強さで勝ち進み、共に初優勝を果たした。

主な成績は次の通り。

A 組：準優勝 向井五段（竜田川）

3 位 鎌倉二段（春日丘）

B 組：準優勝 岩曾一級（若葉台）

3 位 本田一級（上庄台）

対局終了後は、例年通り懇親会を開いた。席上、大会運営に関する貴重な意見が続出し、予定時間をオーバーする盛況で、無事大会は終了した。

(Y)

● 平成17年度 新体制決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	村 木	實
副会長	武 田	俊 雄
副会長	羽多野	不二子
副会長	東 原	竹 子
会 計	扇 田	修 身
会計監査	仲	正 夫
会計監査	秋 塚	直 秀
顧 問	明 石	賢 三

◇ 長寿会地区長寿会長

鳴 川	谷 室	伊三雄
櫛 原	橋 本	康太郎
椿 台	石 川	孫 一
緑ヶ丘	井 上	武 夫

横 原	梶 根 義 信
西 向	吉 村 英 治
上 庄	岡 橋 靖 郎
上庄台	藪 内 英 輔
月見台	扇 田 修 身
梨 本	稲 田 實
若葉台	原 田 青 三
ローズタウン	若葉台 上 野 治 雄
御陵苑	東 原 竹 子
吉 新	大 森 喜 蔵
三 里	平 田 嘉 幸
下垣内	岩 佐 直 吉
平等寺	阪 中 克 己
福 貴	西 田 誠 宏
初香台	秋 塚 直 秀
五月台	大 辻 清 義
光ヶ丘	有 村 四 郎
福貴団地	武 田 俊 雄
福貴畑	中 村 弘
久安寺	南 岩 夫
信貴畑	下 城 嗣 夫
榎 原	奥 田 隆 弘
越木塚	浦 野 善 夫
若 井	北 川 義 一
西 宮	石 橋 良 光
春日丘	松 本 くに子
日立団地	佐 野 正 吉
椿 井	向 川 善 万
竜田川ネオポリス	藤 田 道 雄
竜田川団地	村 木 實
北信貴ヶ丘	仲 正 夫
信貴山	赤 城 英 子

●平成17年度 長寿会連合会総会開催 ▶村木会長挨拶

平成16年度に引き続き会長に選任されました村木です。今年度も長寿会活動のため頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、この総会のためにご参集賜りました会員の皆様にお礼を申し上げます。

また、私たちの総会のために、ご多忙の中をご

参加賜りましたご来賓の皆様方に改めてお礼を申し上げます。有難うございます。

私たち長寿会は、現在二つの大きな命題をもって事業を進めています。

その一つは「活力ある高齢者像の構築」です。言い換えれば「一人でも多くのお年寄りが、いつまでも元気で健康に過ごしていただく」という活動です。

もう一つは、今増えつつけている「高齢者の社会的孤立をいかにして防止するか」という活動です。

私たち高齢者は、いつまでも元気で健康な生活をしたいということを願っています。健康な人の定義は、心身ともに壮健であるとともに、社会参加のできる人といわれます。多くの仲間と一緒に話をしたり、行動することにより、心身の老化を防ぎ、心に活力が生まれてくると言われます。しかしながら、年をとると人の集まりの中に入ることが億劫になってきます。お年寄りの社会参加とは、難しいことではなく仲間と一緒に旅行したり、遊んだりおしゃべりすることだと考えていただければ良いのではないのでしょうか。私たち長寿会の役割の一つは、ともすれば社会的に孤立しようとするお年寄りに、さまざまな方法で社会参加の場を作ることだと考えています。

今日、受付でお渡ししました総会のしおりの17年度の事業計画のなかで、私たち長寿会は「元気で健康なお年寄りになっていただくためのメニュー」を会員の皆様に提供し、会員以外の方々にも呼びかけ、共に活動を展開してゆこうと考えています。そのことが平群町という地域社会に活性化を与え、いろいろな形で貢献してゆくことになると思います。

会員の皆様の格段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本日は、私たちの活動の大きな柱でもあり、会員諸氏の社会参加の場でもある、クラブ活動の成果を発表する日でもあります。発表される方々のご健闘をお願いし、最後に本総会にご参集いただいた皆様のますますのご健勝を祈念し簡単ですが総会の挨拶といたします。

● 県老連女性リーダー養成研修会に参加

女性部長 羽多野 不二子

研修会では、県老連の女性リーダーから先ず、近畿老人クラブ女性部会の活動状況の基調報告があり、続いて西井敬さん（メンタルヘルスマネージャー＝心の健康管理＝及び中小企業診断カウンセラー）の講演がありました。

● 健康部の設立「予防」の推進を

健康部長 扇田 修身

若い頃は元気で病気ひとつしなかったのに、加齢に伴っていろいろな病気が出てきたという方を多く耳にします。高齢者になると体力の衰えは隠しようがありませんが、老化、健康、元気の度合いで個人差も大きいのも事実です。病院で「年ですからね」と言われることが多くなってきましたが、皆さんこれで納得していますか。

一見して通常の生活をしている方でも、高血圧症や糖尿病の薬を常用されている方を多く見かけます。健康にはレベルがある筈です。歳を重ねてももっと健康レベルを上げて元気で過ごすことはできないのでしょうか。

先日（6月10日）に「食育基本法」が、6月22日に「改正介護保険法」が成立し、今後具体的な施策が講じられていくものと思います。また、国民健康保険加入者に対しては「皆健診」制度の導入が検討されていると聞いています。何れの制度も行政サイドにとっては、少子高齢化の進行もあって医療費の抑制が急務の課題であるので、これらの制度の施行によって病人や介護者の増加をできるだけ「予防」することが主な狙いのようなのですが、我々にとっては、自らが正しい知識を持って予防対策を実践することが、これからの人生を末永く快適に過ごすことになるものと思います。

「俺は、毎月医者に診てもらっているし、毎年基本健診や人間ドックを受診しているから大丈夫」と言う方がおられます。もちろん第二次予防が主な目的であるこれらの健診を受診しないより

も病気の早期発見には極めて有効です。問題はその受診データに基づく日頃の生活習慣の改善が大切です。健診で「がん」と言われたら日頃の予防に対する努力はどうであったか、具体的に何もしなかったとしたら悔いが残りますね。

ここで必要なことは、老化や病気になりにくい第一次予防としての「体質づくり」が大切です。自然治癒力・免疫アップのほか、最近になって注目されてきた抗酸化対策もあります。これは、栄養、運動、精神の三大要因を満たすための生活習慣の改善であります、これは、栄養、運動、精神の三大要因を満たすための生活習慣の改善であり、喫煙などのリスクの排除です。

そこで、長寿会連合会としても第2次予防に留まらず「病気になりにくい体質づくり」のための第一次予防の重要性にも注目して諸活動を推し進めるために健康部を設立しました。これには各地区長寿会とも連携しながら会員のみなさんへ「予防」のための各種の活動を進めていく予定です。

また平群町（健康課）の「健康めぐり21」の目標達成のためにも、いろいろな面で支援を仰ぎ連携していく必要があると考えていますので、ご理解ご協力をお願いします。

平成18年 長寿会連合会の活動

● 平成18年 会長年頭のご挨拶

長寿会連合会会長 村木 實

明けましておめでとう御座います。昨年の連合会活動は、会員の皆さまのご協力をいただき、今までの活動のうえに、健康部の創設をはじめ、パソコンクラブ・グルメクラブ・健康麻雀クラブなどの新しい発想による新クラブも設置され、将来に備えた建設的な活動の基礎を形作ることができました。

改めて会員の皆様の長寿会活動へのご協力について、心からお礼と感謝を申し上げます。

平群町の高齢化は、現在65歳以上の方が4,400人となり、町の全人口比は21%、5人にひとりが65歳以上の高齢者ということになりました。さらに5年後には65歳以上が6,000人以上になり高齢化率は30%近くなり、3人にひとりが65歳以上の高齢者の町になります。

連合会の18年度の活動は、会員の皆さまによって作られた組織機能を十二分に発揮させ、この超高齢化時代に適切に対処し得る内容のある事業活動を進めたいと考えます。

その1つは健康部を柱に、新しく選任された地区の健康委員のご協力をいただき、会員の皆さまの病気予防としての健康活動を①栄養、②口腔、③軽スポーツ普及に絞り進めてまいります。

2つ目は、女性部活動の重点として老化防止を目標に、ひとり暮らしや家に引きこもり勝ちの高齢者の社会参加を促す友愛活動を進めてまいります。

3つ目は伝承交流部により、地域社会との交流をさらに活発にするための伝承交流活動を進めてゆきます。

4つ目は、ふれあい情報部により連合会活動の要である情報紙活動を更に充実すると共に、運動継続のための啓発事業を進めたいと考えます。

5つ目は、趣味やスポーツを通じて、生きがいづくり・仲間づくりをするためのクラブ活動の一層の充実とクラブ数拡大を、今後も継続してゆき

ます。

連合会の各部会活動とそれぞれの文化・体育クラブ活動がお互いに活発に活動し、機能することで良い相乗効果が生まれると確信いたします。

最後に、平群町の高齢化対策を、より効果的にするためにはひとりでも多くの未会員の加入が必要になります。各地区での会員勧誘のご努力をぜひともお願い申し上げます。

● 新年西ッ子大会に参加

1月18日恒例の新年西ッ子大会に参加しました。西ッ子大会というのは、平群町立西小学校が18年程前から続けている学校行事の一つです。

9時30分校庭に集合した児童の、新年西ッ子大会始めの宣言、学校長あいさつ、お年寄のあいさつにつづき、校庭に組まれた大きな「とんど」に、児童の書き初めなどを添えて点火しました。

火勢は一気に天高く燃え上がり、竹のはじける大きな音に児童、父兄たちの歓声がわきあがります。

とんどは、子どもたちの息災と、学業の上達を願う習俗的な行事です。

午前中は「いっしょに遊ぼう」のタイトルで、体育館、会議室、音楽室などで、こま回し、羽根つき、手さぐりゲーム、将棋、お手玉、福笑、坊主めくり、皿まわし、射的、3・4年生の学習発表コーナーと交流の場を持ち、学童、長寿会員、校区内お年寄りとの交流を深めました。

最後は伝承交流部員が指導した、フォークダンスを児童が立派に踊り切り、参加者全員が、「とんど」で焼いた芋をおいしくいただいて大会が終わりました。

● 神戸ファッション美術館を見学

福貴 乾 利子

女性部研修会として、神戸ファッション美術館、菊正宗酒造記念館の見学が、3月3日ひな祭りの日にあり、女性部の一員として参加させていただきました。

美術館は、中世期から現代に至るまでのファッションを展示したもので、その豪華で繊細な衣装

には感心しました。

世界各地の見事な民族衣装、中にはナポレオンの載冠式の豪華な衣装も展示されていました。

レースは、17世紀頃からヨーロッパの宮廷における必需品で、ハンカチや襟のボーダー（ふち飾り）に使われ、その華々しさには眼を見張り宮廷のロマンを感じました。一センチに200本もの糸を使ったレースは、肉眼で見分けられない程の繊細なものでした。

一つの作品を作るのに、どれ位の年月がかかったのかと想像し、昔の人の根気の良さには感動しました。

昼食は、神戸ベイシェラトンホテルの和洋折衷のバイキング料理で、久しぶりに外で食べる料理は、一味違うおいしさでした。

最後に、菊正宗酒造記念館を見学し、酔い心地のいい気分になり楽しい一日でした。

私は、昨年も三室園慰問、栄養教室などに参加し、初めての貴重な体験をさせていただき、大変勉強になりました。

私には、96歳になる母がおり、何一つ大病にかからず、2年程前までは、1人でかしのき荘へ行きマッサージをし、同年代の方と話をして楽しんでいました。けれど、寄る年波には勝てず、昨年からディサービスを利用させてもらっていて、長寿会で教わった介護の勉強も大いに役立っています。

これからも会員の方と楽しくふれあって、いろいろな勉強会にも参加して、頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

● 平成18年度 長寿会連合会新役員

◇ 長寿会本部役員

会 長	村 木 實
副 会 長	武 田 俊 雄
副 会 長	扇 田 修 身
副 会 長	東 原 竹 子
会 計	守 屋 勝 巳
会計 監査	仲 正 夫
会計 監査	山 口 孟
参 与	薮 内 英 輔

顧 問	明 石 賢 三
顧 問	羽多野 不二子
女性 部長	東 原 竹 子
女性副部長	沢 田 民 子
女性部会計	澤 田 能 婦

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	西 岳 敬 文
櫟 原	中 野 秀 雄
椿 台	森 田 照 男
緑ヶ丘	井 上 武 夫
菊美台	浅 井 英 治
榎 原	檜 根 義 信
西 向	森 正 一
上 庄	北 川 俊 明
上庄台	薮 内 英 輔
月見台	扇 田 修 身
梨 本	辰 巳 廣 務
若葉台	山 口 晃 男
ローズタウン	若葉台 上 野 治 雄
御陵苑	東 原 竹 子
吉 新	大 森 喜 藏
三 里	平 田 嘉 幸
下垣内	前 田 修 次
平等寺	阪 中 克 己
福 貴	西 田 誠 宏
初香台	秋 塚 直 秀
五月台	大 辻 清 義
光ヶ丘	有 村 四 郎
福貴団地	武 田 俊 雄
福貴畑	石 田 博 三
久安寺	南 岩 夫
信貴畑	中 野 健 三
榎 原	岡 村 喜代治
越木塚	小 東 龍 夫
若 井	松 浦 正 美
西 宮	石 橋 良 光
春日丘	山 口 孟
日立団地	守 屋 勝 巳
椿 井	向 川 善 万
竜田川	ネオポリス 牧 野 富久太郎

竜田川団地 村 木 實
北信貴ヶ丘 仲 正 夫
信貴山 赤 城 英 子

● 新しい仲間誕生 菊美台長寿会発足

平群町長寿会連合会の37番目の長寿会として菊美台長寿会が設立されました。4月23日(日)に菊美台集会所において設立総会が開かれ33名の会員によって新しく発足し、平群町長寿会の総会で村木会長から紹介されました。

当長寿会の特徴は、当初から自治会の下部組織として位置付けられていることと、役員構成では、会長、副会長は60歳代前半で他の役員方も殆んどが60歳代という若さであることであります。

● 会長挨拶 要旨

長寿会連合会会長 村木 實

会員の皆様には、朝早くから総会にご出席をいただきお礼を申し上げます。

また、ご来賓の方々には、ご多忙にも拘らず私たち長寿会連合会のためにご出席を賜り、心より御礼申し上げます。

私たち長寿会連合会も、39年の結成以来42年が経過し、女性部、健康部、伝承交流部などの専門部の活動の充実や月間体制による機関紙発刊など、ようやく運動体としての基盤も固まって参りました。

また会員のニーズに応え文化・スポーツ関係で29のクラブが設置され「かしのき荘の地区定例会」と相俟って、平群町のシニア世代のコミュニティーの場づくりの中核の役割も果たしていると考えます。

一方、平群町の人口は、高齢化がすすみ、既に65歳以上の方が平群町では4,400人と人口比20%を超え5人に1人となり、60歳以上では6,600人と3人に1人が60歳以上になりました。少子化がこのまますすめば、近い将来、平群町はさらに高齢化が加速し、超高齢化のローカル社会を迎えることになります。

このような高齢化時代に対応するためには、私

たち60歳以上のシニア世代は、今までの生きざまを変え若い世代に支えられるのではなく、若い世代と共生し協力し合って、共によい町づくりをすすめるかならなければならないと思います。

平群町に住む同世代の高齢者が、同じ考えを共有するための受け皿である長寿会の会員になることにより課題を共有化し、共に意識改革をはじめとするさまざまな取り組みをすすめることが肝要だと考えます。

今年は「会員拡大元年」と位置づけ、現在の2,000人をさらに増やす活動に全組織を挙げて取り組む所存です。平群町のより良い町づくりのため、会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

● 春日丘長寿会 県老連会長賞受賞

「第十六回長寿と健康の祭典」が、奈良県県老人クラブ連合会などの主催で、9月8日橿原文化会館で開かれ、平群町長寿会連合会では、村木連合会会長をはじめ各地区の会長が参加した。

祭典は、柿本奈良県知事、県老人クラブ連合会会長などの挨拶の後、華やか踊りのアトラクションで始まった。

続いて表彰式があり、平群町では春日丘長寿会(みどり会・会長＝山口孟)が、優良老人クラブとして、県老人クラブ連合会会長賞を受賞した。

● 平群町長寿会連合会 全国優良老人クラブ連合会に輝く

平群町長寿会連合会(会長＝村木實)が、全国の優良老人クラブ連合会に輝いた。

これは、全国12万9千の老人クラブの中から優良老人クラブとして、平群町長寿会連合会を含め48団体が表彰されたものである。式典は、去る11月22日徳島市で開かれた総会の席上で行われた。

表彰の理由は、女性部、伝承交流部、健康部、ふれあい情報部の四部の活発な活動が評価されたものである。

①女性部は、友愛活動を軸とする慰問を中心に活動を展開している。

- ②伝承交流部は、「むかしの遊び」「戦中、戦後の体験」などを通じて若い世代との交流を行う。
- ③平成17年度に新設した健康部は、健康実態調査などにより病気予防、老化防止活動を推進し、また老人福祉施設内で月～木曜日にかけ看護師資格を持つ会員による健康相談など多様な活動を展開中である。
- ④ふれあい情報部は、月刊紙「ふれあい新聞」を発行し、連合会機関紙の役割を呈している、一方、30の文化、運動サークルを設置し、会員のニーズに応え、会員拡大運動を展開している。
- 以上、多岐にわたりバランスのとれた活動が、37地区の活動と相まって、当連合会活動の表影となった。

平成19年 長寿会連合会の活動

● 平成19年 年頭挨拶

▶ 生活実態に即した人間性と合理性の追求

長寿会連合会会長 村木 實

明けましておめでとうございます。

昨年の連合会活動は、各地区の会長さんをはじめ役員と会員皆様方のご協力を賜り、連合会活動が一層充実、発展しましたことに、年頭にあたりお礼を申し上げます。

平群町は、昨年60歳以上の方が6,600人となり、町の人口比で31%を占め、なかでも65歳以上の方が4,650人。町の人口比22%となり、他地域と同様超高齢化社会の時代を迎えました。

このような社会構造のなかで、昨年一月に内閣府により実施された65歳以上を対象の「高齢者の生活実態に関する意識調査」によりますと、さまざまな問題が提起されています。その中の一部を紹介しますと、

- ①一人暮らしの男性で「近所付き合いなし」が24%で、「親しい友人がない」が41%で、一人暮らしの高齢者男性の社会的孤立が進んでいます。
- ②経済的には、一人暮らし、夫婦による高齢者世帯、家族と同居の高齢者のいずれも約20%の世帯が、「生活する上で収入が不足」と意識しています。
- ③また将来についての不安も、いずれの世帯も70%前後が将来の不安を訴えています。

このような高齢者の意識調査を見ると、私たち長寿会活動も、今までの「生きがいづくり」や「元気で自立」などという抽象的目標設定から脱却し、高齢者の生活実態に即した人間性と合理性を追求する運動に転換する時期にきているように思われます。

そのためには、今、連合会女性部が中心になって行っている友愛サロンや友愛訪問といった「助け合い」の友愛活動等を更に推し進めていく必要があります。

また健康部により実施された「会員の健康実態

調査」や「体力測定と健康手帳による自己管理」などは、実態に即した合理性の追求として、この種の活動を継続、拡大する必要があると考えています。

連合会としては更に、高齢者の生活実態に即したヒューマンな合理性を諸活動で進めるためには、「力と政策」が必要ですが、その力の1つの財政力については、未だしの感があります。しかしながら構成37地区長寿会のご協力と30の活発な文化・体育クラブの活動に支えられ連合会の地域での存在感は増しつつあります。

政策については、女性部、伝承交流部、健康部、ふれあい情報部などに人材を結集することにより、その充実を図り、時代と地域に適した政策提言をしてゆく所存です。

今年も引続き格段のご支持とご協力をお願い申し上げます。

● 驚きと美しさに感動

▶ 女性部社会見学神戸花鳥園

北信貴ヶ丘女性部長 仲 トヨ

寒のもどりが震えるような寒い1日でした。車中は暖かく、心はルンルン「神戸花鳥園」という名に浮き浮きしていました。

水鳥やペンギンのお出迎えです。中に入ると、大輪のベコニアがシャンデリアのようにいくつも咲き誇っている。あまりの美しさに只々感動するばかりです。奥へ進むと幾種類ものフクロウが、大きな目でキョロキョロしながら私たちを見つめている。

また、美しい羽根の、40cmほどのオオサイチョウが私たちの肩に乗り餌をついばむなど、驚きの体験でした。

時間の都合で神戸新空港を見学しましたが、飛行機は三機、人影も少なく、想像していたより小さく、ローカル線という感じでした。それでも有意義な社会見学の1日でありました。有難うございました。

● 会長就任あいさつ

長寿会連合会会長 武田 俊雄

このたび、村木前会長の後任として、平群町長寿会連合会会長に就任することになりました武田でございます。会長という大役に身が引き締まる思いがしております。微力ではございますが、長寿会の発展のために全力を尽くしたい所存でございますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、わが国は他に前例のないスピードで高齢化が進み、いまや高齢者比率20%を超える超高齢化社会に突入しました。そして高齢者自身が自立（身辺的、経済的、社会的）を図ると共に、高齢者が高齢者を支え合うなど、従来の受け身的な福祉から能動的な福祉へと変化する転換期であります。

このような時期にあたり、村木前会長は卓越したリーダーシップと理論で地域社会の中核的運動体である長寿会連合会の新しい方向付けをされ「力と政策」を重視し、平群町長寿会連合会を、奈良県下だけでなく日本の中でもトップクラスの組織に、構築されました。

さて、会長としての私の使命は次のことだと考えます。

- ① 先ず、諸先輩方が築かれた良き伝統、風土を尊重しながら、村木前会長の路線を継承し、定着、発展させて行くこと。
- ② 四～五年後には、3人に一人が65歳以上という地域社会の中で、連合会としての対応策を探ること。「与えられる福祉」から「住民自からが創り出す福祉」の時代における連合会の役割をみつめること。
- ③ 人生90年時代、60歳代から90歳代までの各世代の方々との連携、協調、共生が大切です。役員はじめ関係者の方々のご理解とご協力を頂き「思いやりと情熱」を持って運営したいと思っています。

そして「入って良かった、入っていて本当に良かった」と生きがいを持って、楽しく、元気に活動できる長寿会を、皆様方のご支援とご協力で築いていきたいと存じますので、よろしくお願い申

上げます。

● 平成19年度 事業活動計画

1. 基本方針

わが国は、世界に前例のないほどのスピードで高齢化が進み、いまや高齢化率20%を超える超高齢化社会です。特に平群町においては、65歳以上の高齢者は全体の23%で、4～5年後には32%になり、およそ3人に1人が高齢者という状態になっています。

一方、福祉政策の基本も「与えられる福祉」から「住民（高齢者）自らが作り出す福祉」へと変わって行きつつあります。また、町行財政改革に伴い、高齢者への福祉支援の切り下げが予想されるものと考えられます。

そのような情勢の中で、私たち長寿会は「高齢社会の主体的な立場（主役）を堅持」し、町関係機関と連携を密にしながら地域社会の中核的な運動体として、「会員の豊かで生きがいのある生活と安心して住める豊かな町づくり」を目標に活動していきます。

基本目標

(1) 仲間づくり

連合会および地区長寿会が共同して会員拡大を推進する。

(2) 健康づくり

会員の健康（心と身体）維持と増進、病気予防と老化予防などのための健康づくり活動を推進する。

(3) 自立支援と社会的孤立防止

身体的・精神的・社会的自立支援と閉じこもり防止などをボランティア活動で推進する。

(4) 地域の活性化と世代間の交流を行う。

(5) 会員相互の連帯感を深める

情報の共有と各種交流会、学習会を開催する。

(6) 豊かな町づくりと地域福祉の向上への参画・参加する。

2. 事業活動計画

継続する事業活動計画

(1) 仲間づくり（会員拡大）の活動

①クラブ活動を通じての会員拡大を行う

新しいニーズに合ったクラブの創設

②「会員拡大月間」を設けて推進する

③町行政や関係機関と協力して会員拡大を推進する

(2) 健康維持・推進、病気予防、老化防止のための健康活動

①健康部を中心に推進する

②健康推進委員会を軸に、各地区健康委員の協力を仰ぐ

③地区活動を基本に、栄養、軽スポーツ、口腔衛生などの活動を行う

● 平成19年度 新役員決まる

《本部役員》

会 長 武 田 俊雄（福貴団地）

副会長兼会長代行

扇 田 修 身（月見台）

副 会 長 東 原 竹 子（御陵苑）

副 会 長 守 屋 勝 巳（日立団地）

会 計 牧 野 富久太郎（ネオポリス）

会 計 浅 井 英 治（菊美台）

会計 監査 山 口 孟（春日丘）

会計 監査 浦 野 育 三（初香台）

参 与 藪 内 英 輔（上庄台）

顧 問 明 石 賢 三（椿 台）

顧 問 村 木 實（竜田川団地）

◇ 地区長寿会会長

鳴 川 岡 田 正 善

樺 原 中 野 秀 雄

椿 台 森 田 照 男

緑ヶ丘 中 塚 芳 治

菊美台 浅 井 英 治

樺 原 樫 根 義 信

西 向 森 正 一

上 庄 良 忠 実

上庄台 藪 内 英 輔

月見台 扇 田 修 身

梨 本 谷 口 弘

若葉台 山 口 晃 男

ローズタウン	若葉台	福島	昇
御陵苑	東原	竹子	
吉新	大森	喜蔵	
三里	平田	嘉幸	
下垣内	前田	修次	
平等寺	阪中	克己	
福貴	西田	誠宏	
初香台	秋塚	直秀	
五月台	長岡	健次	
光ヶ丘	江村	和明	
福貴団地	武田	俊雄	
福貴畑	白山	恵一	
久安寺	瀧本	好一	
信貴畑	向山	巖	
槻原	奥本	実	
越木塚	小東	龍夫	
若井	松浦	正美	
西宮	石橋	良光	
春日丘	山口	孟	
日立団地	守屋	勝巳	
椿井	山村	定男	
竜田川ネオポリス	牧野	富久太郎	
竜田川団地	藤井	正博	
北信貴ヶ丘	月田	實	
信貴山	赤城	英子	

● 女性部・健康部合同研修会開催

去る7月28日(月)10時から「かしのき荘」新館会議室において女性部・健康部の合同研修会が開催され、本部役員の他、地区の女性部長、健康委員など40数名が出席しました。

講師には歯科衛生士の小杉公子氏を招いて最近の高齢者の健康づくりに特に注目されてきた「口腔ケア」の大切さについて、具体的な事例を学ぶことができました。

「口腔ケア」とは聞きなれない言葉ですが、口の中の手入れの状態が身体全体の健康状態に深く関係しており、歯の手入れだけでなく、よく噛むことや唾液の量も健康づくりには欠かせない重要な働きのあることがよく理解できました。

● 納涼大会盛上る

初香台 武智 千枝子

去る8月3日、長寿会女性部主催の「かしのき荘納涼大会」に参加し、暑さを忘れて踊りを楽しむことができました。

長寿会、各クラブの応援により、踊りの出し物も豊富で、新舞踊の栗山先生とクラブ員による盆おどり、民謡の森中先生の三味線と唄に合わせた炭坑節、米田さんの太鼓と丸井さんの江洲音頭、また河内音頭などによる踊りが次々と繰り出され、飛び入りの人も出て、会場は大いに盛り上がりました。

休憩時間には、アロハクラブの皆さんが南国特有のしなやかな踊りを披露され、盛んな拍手を受けていました。

2時間余りの短い時間でしたが、踊りの浮き立つ雰囲気、今年の猛暑を忘れた楽しいひと時を過ごすことができました。来年も楽しみに待っています。

● 北信貴ヶ丘長寿会前会長 仲 正夫氏が知事表彰を受賞

恒例の「長寿と健康の祭典」が橿原市で開かれました。これは、永年にわたり激動の時代を生きてきた高齢者の長寿と健康を祝う祭典であります。当日は、県下各市町村の老人クラブ関係者が多数参加して盛大に行われました。席上、平群町長寿会連合会の北信貴ヶ丘長寿会前会長 仲 正夫氏が知事表彰を受賞されました。多年の地域における福祉活動の功績が認められたものであります。

これは、多年にわたる幅広い福祉活動と、地域の子供達に伝えていく「昔の遊び」や戦前、戦後の体験談などの伝承交流部の功績が認められたものです。

● 楽しかった仲間同士の連合会「思いやり旅行」

去る11月29日・30日にかけて浜松・舘山寺温泉方面への懇親一泊バス旅行が91名の参加者によっ

て実施されました。両日とも曇りがちでしたが、晩秋の風情を存分に満喫できる旅となりました。

一日目、奈良交通の観光バス2台が平群町内十数か所の集合地を巡回して平群を出発しました。

往路は、法隆寺インターから西名阪道、東名阪道を経由して、近年開通した名古屋湾岸道を快走して昼食場所となっている豊川稲荷前に到着しました。湾岸道は道幅も広く、両側の眼下には船積みのために待機する無数?の自動車群や名古屋市内を眺望しながらの快適なドライブでした。

昼食後は日本三大稲荷の一つ、豊川閣妙巖寺(豊川稲荷)を自由に散策した後に浜松市内に向かい、先ず浜松航空自衛隊訓練基地内にあるエアパークを見学しました。施設内の各種航空機や飛行模擬装置などを見学したり、実際に飛行機に搭乗した気分させてくれる迫力あるシアターを“体験”したりしました。

次に日本三大砂丘で有名な中田島砂丘を訪れました。遠州灘海浜公園の一角にあり、風紋と海亀の保護地区、風揚げとしても有名で、砂丘を自由に散策しました。

宿泊の館山寺温泉遠鉄エンパイアホテルには予定どおり午後5時前に到着しました。

大きく素敵なホテルでひと浴びした後に、大広間では恒例の懇親会が始まり、お互いに酔いが回るほどに地区を超えて歓談の輪が広がり、最後はカラオケ自慢の人たちによって大いに盛り上がりました。

翌日は、朝からホテルの売店でお目当てのお土産探しも楽しい時間であったようで、9時に出発して、先ず733年に行基菩薩によって開祖されたという龍潭寺(りょうたんじ)に立ち寄りました。境内の紅葉真っ盛りに目を奪われて本堂に入ると、井伊家40代に到る祖霊を祀る菩薩寺であるとのことで、本堂裏には小堀遠州作の庭園を眺めながら全員立ち止まって住職の説明に聞き入り、暫しの癒しを味わいました。

続いて浜松市内に入り、世界の珍しい楽器が陳列した浜松楽器博物館を見学し、昼食後は昨日の高速道路を折り返し一路平群に向かい、夕方5時30分過ぎに全員無事に帰ってきました。

毎回ながら長寿会の旅行の特徴は、日頃旅行会社などのツアーに参加できない方も参加できることではないだろうか?と思われます。

それは。

①バスの出発地も帰着時も家の近くである。

②足の悪い方にも近所の仲間が車椅子などの面倒を見てくれる。

③仲間同士なので高齢者でも宿泊など道中安心できる。などではなかろうかと。

今回一緒に、長寿会の「思いやり」を旨とする懇親旅行の最大の特徴であることを再認識させられた貴重な旅でありました。

(扇田)

平成20年 長寿会連合会の活動

● 平成20年 年頭会長挨拶

長寿会連合会会長 武田 俊雄

明けましておめでとうございます。

昨年の連合会活動は、各地区の会長さん、クラブ代表者をはじめ、役員及び会員の皆様方のご協力を賜り、連合会活動が一層充実、発展いたしました。さらに、生駒郡老人クラブ連合会の幹事役であるため、皆様方には群老連関連の活動にもご尽力を賜り、活動の輪を広げることができました。年頭にあたりまして、厚くお礼申し上げますと共に、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平群町の人口は、21,000人弱で推移していますが、65歳以上の高齢者数は年々増加傾向にあり、昨年は4,970名、町の全人口比24%、およそ4人に一人が65歳以上の高齢者です。数年後には、高齢者が全人口の3分の1を占めるという過去に前例のない超高齢化を迎えることになります。

そしてわたくしたち高齢者の存在は従来にも増して大きくなり、その果たすべき役割の重要性も大変大きくなっています。特に、町の活性化のためには『高齢者が元気に満ちて暮らしてゆく』ということが重要です。そのためには、高齢者を取り巻く環境整備と活力ある高齢者像の構築が必要となります。

長寿会連合会は、高齢社会を構築するうえで中核的な運動体としての役割を担っています。活動目的の中には、自らの生活を豊かにする社会活動があります。

連合会では、全国老人クラブ連合会の三大運動である『健康・友愛・奉仕』と連動して、各種活動を展開しています。各地区会長さんによる地区長寿会活動。そして四つの専門部による活動として、

- ①女性部を中心に、老人施設などへの慰問や声かけ運動を
- ②健康部では体力測定会、健康基本診査の受診促進や健康管理手帳による自己管理など
- ③伝承交流部では、昔あそびや伝承など世代間交

流を

- ④ふれあい情報部では、広報活動として月刊紙『ふれあい新聞』を発行しています。

そして、スポーツ、文化、趣味の活動として31の活発なクラブ活動があります。

一方、超高齢化社会を迎え、連合会の取り組み姿勢としましては、連合会の役割及び活動を地域社会の中に広く認知、理解していただくと同時に、地域社会の関連団体との連携を強化して、活気ある豊かな町づくりや地域福祉の向上に向けて取り組んでゆくことが必要と考えられます。手始めとしまして

- ①『平群町長寿会連合会ホームページ』の開設を始めました。広報活動を多様化することで、連合会の役割、活動目的や実態を会員だけでなく、広く地域社会に発信して、連合会への認知、理解を促進すると共に、会員募集につなげる。また、将来の人材募集の一助にしたいと考えています。
- ②『友愛活動推進委員会』を設置し、関連団体と連携して、『一人暮らしの高齢者の見守り活動』などを中心に推し進めていく予定です。
- ③超高齢社会の主役であり、その存在と役割の重大性を認識し、中心の運動体である役割を果たすために本部役員が一体となって、連合会の運営にあたる所存です。

今年も引続き格段のご協力とご支援をお願い申し上げます。

● 第1回 友愛活動推進委員会の開催

女性部を中心に、従来から実施していました施設訪問などの友愛活動だけでなく、超高齢社会に対応するために、連合会の中に「友愛活動推進委員会」を設置して、行政ならびに関連団体と連携を密にして友愛活動を組織的に推進していきます。

第1回委員会は、平成20年2月1日(金)、かしのき荘小会議室で開催されました。出席者は守屋委員長以下委員7名と本部役員2名、オブザーバーとして、福祉課中村主幹、民生児童委協議会磯田会長、長澤高齢者部会部長、事務局田中氏(社

会福祉協議会)。第2回委員会は2月28日(木)かしのき荘で開催予定です。

● ホームページ開設

▶ 何時でも見られます！

3月上旬より長寿会連合会のホームページを開設しています。

内容は①事業活動、②組織機能と地区別会員数、③専門部活動、④クラブ活動、⑤機関紙の掲載、⑥連合会活動、⑦支部活動などになっています。出し方はGoogle及びYahooの検索ボックスに平群町長寿会と打ち込み検索箇所をクリックします。また、町及び社会福祉協議会のホームページのリンク箇所を、クリックしても出てきます。

● 平成20年度 長寿会連合会の新体制決まる

◇ 長寿会本部役員

会 長	武 田 俊 雄 (再) 福貴団地
副会長兼会長代行	
	扇 田 修 身 (再) 月見台
副会長	東 原 竹 子 (再) 御陵苑
副会長	守 屋 勝 巳 (再) 日立団地
会 計	中 塚 芳 治 (新) 緑ヶ丘
会 計	藤 井 正 博 (新) 竜田川団地
会計監査	山 口 孟 (再) 春日丘
会計監査	浦 野 育 三 (再) 初香台
参 与	藪 内 英 輔 (再) 上庄台
参 与	仲 正 夫 (新) 北信貴ヶ丘
顧 問	村 木 實 (再) 竜田川団地
顧 問	明 石 賢 三 (再) 椿台

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	植 田 清 文
櫟 原	峯 田 繁 一
椿 台	森 田 照 男
緑ヶ丘	中 塚 芳 治
菊美台	島 忠 男
楓 原	辻 本 達 雄
西 向	森 正 一
上 庄	吉 崎 啓 二
上庄台	藪 内 英 輔

月見台	扇 田 修 身
梨 本	野 村 正 明
若葉台	山 口 晃 男
ローズタウン	若葉台 福 島 昇
御陵苑	綿 谷 豊
吉 新	大 森 喜 蔵
初香台	秋 塚 直 秀
五月台	長 岡 健 次
光ヶ丘	江 村 和 明
福貴団地	武 田 俊 雄
福貴畑	植 田 康 嗣
久安寺	瀧 本 好 一
信貴畑	向 井 道 治
樫 原	植 田 一 生
越木塚	巳 波 秀 雄
若 井	松 浦 正 美
西 宮	村 上 喜久男
春日丘	山 口 孟
日立団地	守 屋 勝 巳
椿 井	山 村 定 男
竜田川	ネオポリス 牧 野 富久太郎
三 里	平 田 嘉 幸
下垣等	前 田 修 次
平等寺	中 辻 満 彦
福 貴	西 田 誠 宏
竜田川団地	藤 井 正 博
北信貴ヶ丘	月 田 實
信貴山	赤 城 英 子

● 平成20年 長寿会連合会総会開催

▶ 武田会長挨拶

日頃は長寿会の活動にご支援ご協力をいただきありがとうございます。

本日は、長寿会連合会の総会を開催するにあたり会員の皆様には、朝早くからご出席をいただき厚くお礼を申し上げます。

また、ご来賓の方がたには、ご多忙にも拘わらず私たち長寿会連合会のためにご出席を賜り、心より御礼申し上げます。

私たち平群町長寿会連合会は昭和39年に結成され、今年で46年目を迎えます。

仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする活動に取り組んできました。諸先輩がたのご尽力により、女性部、伝承交流部、健康部などの専門部活動の充実や月刊体制による機関紙（ふれあい新聞）発刊など、運動体としての体制が整備・強化されてきました。

また、会員のニーズに応え文化・スポーツ関係で31のクラブが設置され、「かしのき荘」での地区の定例会、研修会や交流会など、かしのき荘を中心に平群町のシニア世代の地域社会活動に取り組むなど、中核的な運動体としての役割を果たしていると考えます。

一方、平群町の人口は高齢化が進み、65歳以上の方が、5,000人を超え、高齢者比率はおおよそ25%と4人に1人となり、4～5年先には3人に1人が65歳以上の超高齢社会を迎えます。

しかし、わが国の制度の限界や社会基盤の整備の遅れが顕在化している現状において、超高齢社会活動に対応するためには、健康で活動力を備え、豊かな経験と自由時間を有するシニア世代が社会の主要な担い手として全ての世代の人達と共生し、共同して地域福祉の向上、豊かなまちづくりを進めなければなりません。そのためには、同じ価値観を共有するための受け皿である長寿会の会員の拡大が必要で現在2,203人の会員をさらに拡大すべく引き続き最重要事業として取り組んでいきます。

次に、長寿会の役割や活動を広く地域社会に発信して長寿会への認知・理解を促進するために4月から独自の「ホームページ」を開設・運用して広報活動の多様化と充実を進めてまいります。

第3番目に「友愛活動推進委員会」を設置し、関連団体と連携して高齢者相互支援事業として支え合う地域社会づくりに取り組む所存です。

平群町のより良いまちづくりのため、また、長寿会の更なる充実と発展のため、会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

● 竜田川団地長寿会が、 県老人クラブ会長賞受賞

「第18回長寿と健康の祭典」が、奈良県・（財）

健やか奈良支援財団、（財）奈良県老人クラブ連合会の共催で、9月12日（金）奈良県橿原文化会館で開催されました。

高齢化社会の進展に伴い高齢者自らが社会参画の意欲を高め、生きがいと健康づくりの意識の高揚を図るための情報を、県民各層に発信することにより「明るい長寿社会の実現」の推進を啓発することを目的に、毎年開かれています。表彰式では、竜田川団地長寿会（会長 藤井正博）が、多年にわたる地域老人クラブ活動の功勞により、県老人クラブ連合会長賞に輝きました。

なお、平群町長寿会連合会からは、本部役員と事務局が参加しました。

祭典は、県知事代理として橋本弘隆奈良県副知事、森敏雄県老人クラブ連合会会長の挨拶の後、奈良県武術太極拳連盟による演舞やピカケレイラニフラスカールによるフラダンスのアトラクションで始まりしました。

● 平群町長寿会連合会「活動賞」受賞

▶ 全国老人クラブ連合会から奈良県で3地区に

老人クラブは、高齢者の経験と知識を生かし、仲間づくりに、高齢者の福祉向上に、住みよい町づくりに、と活動を続けています。この活動をさらに推進するため、全国老人クラブ連合会では、新しく今年から「活動賞」を設け、特に功勞の高い老人クラブを表彰することになり、その表彰式が、全老連に代わって10月31日県老連指導者研修会の席上で行われました。奈良県では、平群町長寿会連合会をはじめ、香芝市と葛城市3地区の老人クラブが表彰され、当連合会には、武田 俊雄会長に賞状が授与されました。

授賞理由は、全国的に会員数が減っている状況下で毎年着実に会員数を増やしていることが最大の理由であります。

その活動内容として、

- ①積極的に新しい愛好クラブを設立して新会員を増やしている。（9月末現在31クラブに延べ約850名登録）

- ②3年前より毎年後期に会員増強運動を推進しており、地区会長が中心となって、会則、クラブ一覧表、「長寿会へのお誘い」などの資料を持参して未加入者宅を訪問して勧誘に努めている。
- ③各クラブ代表者にも加入を依頼するなど、全組織を挙げて新会員の勧誘に努めている。
毎月広報紙「ふれあい新聞」を1,700全会員宅に配布し、連合会活動の内容周知に努めている他、会員以外にも活動内容を理解してもらうために、当連合会専用の「ホームページ」を開設した。また広く検索機会を増やすために、平群町公式ホームページや平群町福祉協議会のホームページからも「リンク」をしていただいた。
- ④毎年、地区別に60歳以上と65歳以上の会員候補者数と加入率及び高齢化率を発表して現状への問題意識と啓発に努めた。
- ⑤平群町社協のご協力を得て月刊広報誌にも会員募集の記事を掲載した。
- ⑥教育委員会の生涯学習講座のカリキュラムにも長寿会の存在意義などを組み入れてもらっている。
- ⑦平成16年度から未組織地区の自治会に依頼して長寿会を設立してもらい現在37地区が組織化された。

以上が、主な受賞理由ですが、これらのことが推進出来てこれたのも偏に地区の会長、役員、会員のみなさんをはじめ各クラブ代表者など多くの方々のご協力の賜物であり、誠にご同慶の至りであります。

これからも、受賞に恥じないために、平群町における高齢化社会の中核的存在として内外に有意義な活動を推し進めてまいりたいと考えていますので、

(扇田)

平成21年 長寿会連合会の活動

● 平成21年 年頭会長挨拶

▶ 超高齢化社会を迎え長寿会は地域社会に貢献を

長寿会連合会会長 武田 俊雄

明けましておめでとうございます。昨年度の連合会活動は、ホームページの開設や活動賞の受賞など、各地区の会長さん、クラブ代表者をはじめ、役員及び会員の皆様のご協力を賜り、一層充実したものになりました。また、生駒郡老人クラブの幹事役であるため、郡老連関連の活動にもご尽力を賜り、活動の輪を広げることができました。年頭に当たりまして、厚くお礼申しあげますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、原油高騰による諸物価の値上げ、米国発の金融危機による世界景気の後退、雇用状況の悪化など大変な年でした。また、高齢者にとっては、後期高齢者医療制度の実施など高齢者を取り巻く環境も厳しさを増してきました。平群町では、高齢化が一段と進み、65歳以上の高齢者人口は全住民の25.5%およそ5,200人強を占め、数年後には3人に1人が高齢者という超高齢社会を迎えています。そして団魂の世代の高齢者予備分も含めて高齢者の存在感は大きく、その地域の中での果たす役割は一層重要なものと言えます。高齢者が健康で元気に満ちて暮らしていくことは、元気なまちづくり、医療費の抑制そして町財政の健全化の一助になることでしょう。長寿会連合会は、高齢社会の中核的な運動体としての役割を担っています。活動目的として、・仲間づくり、健康づくり、生きがいづくりを内容とする自らの生活を豊かにする活動、・地域社会を豊かにする活動があります。これからの超高齢社会にあっては、地域社会を豊かにする活動、地域社会への貢献活動が一層重要性を増してきます。とくに、地域支え合い活動や介護予防活動はそのひとつです。女性部が中心になり行っている施設訪問や声かけ運動に加えて、高齢世帯への見守り活動などの友愛活動として、「友愛交流活動推進委員会」を軸に行政や関

連団体と連携して進める準備をしています。また、特定健診や後期高齢者健診の受診率向上に健康部及び地区健康委員を中心に取り組んでいます。一方、連合会の基本活動として、各地区会長（理事）さんによる地区長寿会活動及びスポーツ、文化、趣味の活動として33の活発なクラブ活動があります。このような一連の長寿会活動の役割、活動目的や活動の実態を、ふれあい新聞（月刊誌）で会員向けに発信するとともに「ホームページ」を作成し広く地域社会に発信して認知、理解の促進に努めていきます。以上の活動を効率的に推進する組織には、理事会、本部役員会および5つの専門部があり、今年もこの組織を中心に活動を進めてまいりますので、本年も会員の皆様の格段のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 春爛漫の昼神温泉へ春季親睦旅行

▶ 善光寺と露天風呂で旅満喫

去る4月7日・8日の2日間、長寿会連合会恒例の春季親睦バスツアーが実施されました。

21地区から参加者107名で、早朝より3台のバスを連ねて南信州の入口にある「昼神温泉」目指して出発しました。2日間とも絶好の行楽日和に恵まれ、爽快な気分のもとで会員間の親睦を深めることが出来ました。

途中、地元住民の熱心な保存運動により今も当時の面影を留める中山道の宿場町「妻籠宿」を散策。住民の熱い思いと遠い昔を偲びました。また「木地師の里」では南木曾の民芸品としてアイデアあふれる珍しい台所用品などに興味をそそられました。

昼神温泉は人里離れた僻地にあり、温泉地としては比較的新しく開発されたところですが泉質が優れており、浴用効果が高いといわれています。

目指す湯本ホテル「阿智川」には16時過ぎ到着。大浴場、洞窟風呂、露天風呂などで各自思い思いに旅の疲れを癒し、大広間の宴会に臨みました。アルコールが入れば話は弾み、俄か歌手が舞台上で大活躍、あっという間に2時間が過ぎてしまいました。

翌日は少し早めにホテルを出て飯田の「元善光

寺」を訪問しました。運よく今年は7年に1度という6ヶ所の善光寺の御開帳の年に当たります。当寺でも4・5月と御開帳期間であり本堂・四国三十三ヶ所お砂踏み・宝物殿など無料でゆっくりと拝観することができました。

帰途は恒例のお土産ゲットツアーよろしく皆さん店毎に鞆を重く財布を軽くして、満足して全員無事に家路に着かれました。

今が盛りとばかりに咲き乱れる沿線の桜に歓声が上がりこの旅を一段と楽しいものに盛り上げてくれました。

● 平成21年度 新役員決まる

▶ 扇田氏が会長に、副会長には辻本氏が就任

長寿会連合会では、平成21年度第1回理事会を4月16日開催し、役員推薦委員会を設置して、任期満了に伴う役員を選出した。

この結果、扇田副会長（月見台）が会長に昇格、辻本達雄氏（槻原）が新しく副会長に就任、女性部長に地区女性部長（梨本）の西浦信子さんが、健康部長には、歯の会の代表で、健康推進委員の小林忠男氏（上庄台）が、会計監査には安田稔氏がそれぞれ新しく選出され、理事会の承認を得て、今年度の長寿会連合会の役員人事が決定した。

今回は役員一新の人事になったが、これは、連合会の一層の連携強化を図るためのものである。

◇ 長寿会本部役員

会 長	扇 田 修 身	（再任・月見台）
副会長	守 屋 勝 巳	（再任・日立団地）
〃	辻 本 達 男	（新任・槻原）
〃	西 浦 信 子	（新任・梨本）
〃	小 林 忠 男	（新任・上庄台）
会 計	藤 井 正 博	（再任・竜田川団地）
〃	小 林 忠 男	（新任・上庄台）
会計監査	中 塚 芳 治	（再任・緑ヶ丘）
〃	安 田 稔	（新任・三里）
参 与	仲 正 夫	（再任・北信貴ヶ丘）
〃	藪 内 英 輔	（再任・上 庄 台）
顧 問	村 木 實	（再任・竜田川団地）

顧問 武田俊雄（新任・福貴団地）

【地区会長】

鳴川	植田清文
櫟原	峯田繁一
椿台	森田照男
緑ヶ丘	中塚芳治
菊美台	島忠男
楓原	辻本達雄
西向	森正一
上庄	山口博
上庄台	藪内英輔
月見台	扇田修身
梨本	西浦豊治
若葉台	山口晃男
ローズタウン若葉台	福島昇
御陵苑	綿谷豊
吉新	道上勝
三里	安田稔
下垣内	前田修次
平等寺	中辻満彦
福貴	西口誠宏
初香台	浦野育三
五月台	長岡健次
光ヶ丘	江村和明
福貴団地	武田俊雄
福貴畑	植田哲央
久安寺	西口富雄
信貴畑	森戸貞治
榎原	西浦幸雄
越木塚	巳波秀雄
若井	松浦正美
西宮	寺川敏雄
春日丘	中田貞昭
日立団地	守屋勝巳
椿井	中村公彦
竜田川ネオポリス	牧野富久太郎
竜田川団地	藤井正博
北信貴ヶ丘	土井重尋
信貴山	赤城英子

●平成21年度 長寿会連合会総会開催

地域高齢者の受け皿として友愛など五つの目標を掲げ平成21年度平群町長寿会連合会総会が、5月12日中央公民館で開かれた。

扇田長寿会連合会会長以下本部役員、来賓として岩崎平群町長、馬本町議会議長、宮本県会議員など会員、関係者で400人近い出席者。総会は、満員の会場の中で守屋副会長の司会で始まった。

扇田会長の挨拶、岩崎町長など来賓の祝辞の後、表彰式があり、長寿会の功労者として東原 竹子さんなど4名の方に感謝状が贈られた。引き続き、明石 賢三議長の司会で、議事が滞りなく進められ、予定時刻どおり総会は無事終了した。

●高齢者の交通事故防止に向けて ▶事故防止のための知識をみにつけよう

女性部と健康部による合同研修会が、去る7月10日かしのき荘新館会議室で開かれた。

出席者は、西和警察など交通安全関係者と長寿会からは、地区女性部長、健康委員など50余名。研修会は、西浦女性部長の司会で始まり、扇田長寿会会長、岳室交通安全協会平群分会長、奥田西和警察署交通課長などの挨拶の後、西和警察署交通巡視員による「高齢者の交通事故防止」の説明があった。話は、高齢者の反応の遅れを試すゲームを取り入れるなど、分かり易い話で事故防止のための知識が身につく、大いに参考になった。

話の要点をまとめてみますと、

- 一 歩く時は目立つ白っぽい服装に心がける。
（奈良県の平成20年度中の高齢者の交通事故死24人中13人が歩行者で、内8人が夜間でした。）
- 二 自分の身体能力（衰え）の変化に気づく。
- 三 夜間の歩行には、靴や腕に反射材などを付けて、車などから早く認識しやすい工夫をする。
- 四 横断歩道では、右後ろから左折してくる車に注意する。

また、昨年6月に改正された道路交通法の中の自転車の乗り方について説明があり、自転車は軽車両であるので「自転車マーク」で指

定された歩道以外は原則車道を走行しなければなりません、70歳以上の高齢者はどの道路を走行してもOKということです。

今回、特に印象に残った言葉に、ドライバーも歩行者も立場が違って相手にも「いたわりと思いやりの心を大切に」でした。この気持ちでみんなが行動していけば交通事故は減るのではないのでしょうか。そして、1人ひとりが今1度交通安全に心がけていく大切さを再認識させてくれた大変有意義な研修会でした。

(健康部長 小林 忠男)

● 高齢者による高齢者の友愛支援活動を

▶ 1人暮らしの高齢者と老老暮らしの世帯を中心に

少子高齢化の時代と言われて久しいですが、その間に我々高齢者の身の回りを振り返ると、確かに大きな変化がじわじわと迫ってきています。高齢化は年年進行し、老老暮らし・1人暮らし高齢者世帯の増加、地域社会や核家族化への変化、閉じこもり・孤立、被介護者の増加、さらに近年では虐待など、高齢者を取り巻く問題は増え続け、高齢者の健全な日常生活の崩壊が、社会問題としてクローズアップされています。残念ながら従来の家族や親族間だけでの支援では対応できない深刻な状況に突入してきています。このような中、人と人とのつながりや心の触れ合いを大切にしたい、近隣や友人による高齢者相互の支援が、今後益々重要視されるようになりました。

平群町も例外ではなく高齢化が一層進み4人に1人が65歳以上の高齢者という超高齢化社会に仲間入りしてきました。身近に閉じこもりや孤立などで生活支援を必要としておられる方も徐々に増えてきています。

私たち長寿会連合会もこのような状況を踏まえて高齢者がよりよい日常生活が送れるよう、また社会的孤立の解消に向けて友愛交流（支援）活動に取り組んできました。また、今までも町内の高齢者福祉施設など慰問活動や一部の地区では独居高齢者への声かけ、会員仲間での誕生日プレゼン

ト、食事会などの友愛活動を行ってきました。

しかし、全般的にはまだまだ十分な取り組みには至っていない状況でありますので、今年度から会員諸氏のご理解をいただきながら組織的且つ計画的に行うよう推し進めて行くことになりました。

その概略は次のとおりです。

☆友愛交流活動の内容として、

長寿会の会員が主体となり、1人暮らし・老老世帯・日中1人暮らしで支援を必要とする70歳以上の高齢者を対象に、先ず次のような活動を行う。・従来通りの施設訪問・見守り等の安否確認・声かけ・趣味・会合への誘い合い・異常事態への通報・連絡等

☆地区関係者との連携に向けて、

効果的な活動を展開するため、地区長寿会会長、総代または自治会長、民生委員、小地域ネットワーク世話人などとの情報の共有化と役割分担などで連携を図る。

☆施設訪問もさらに充実して、

既に、施設訪問活動では連合会本部の活動として、女性部、伝承交流部、クラブ統括部が中心となって、町内高齢者施設・悠々の郷・を定期的に訪問し、入居者や通所介護者に踊り、ペン習字、折り紙、手品などの演技や学習支援を行ったりして生活に潤いを与えることができて好評をいただいています。

☆高齢者全ての友愛交流活動に、

地区長寿会では既に会員同士で友愛交流活動を展開しているところもありますが、将来的には会員仲間に限らず、長寿会が主体的に思いやりを持って会員以外の高齢者へも

● 友愛活動の取り組み順次広がる

▶ アンケート結果 実施中10地区、検討中10地区

高齢者同士がお互いに助け合う友愛活動については、ことし6月の理事会において実施に向け、具体的に各地区で取り組んでいくことになりました。その活動の必要性・内容・体制などについては本紙の10月号で、お知らせした通りです。今回、

各地区長寿会会長のご協力により、友愛交流活動に関する各地区の現状について、アンケート調査を行い、平成21年10月23日現在の各地区の活動実態が明らかになりました。

☆総括 平群町全地区37長寿会のうち、既に10地区が実施中であり、未実施ながら検討中が10地区、何らかの理由で当分実施予定なしが11地区、未回答が6地区となっています。各地区とも実施については、それなりの苦勞をされているように見受けられ、長寿会連合会が理事会で提案している活動実施要領は参考にはしているが、各地区独自のやり方でそれぞれ対応されているようです。

アンケート結果（実施状況）は次の通りです。
注（ ）内数値は複数回答数

【実施中・検討中の地区について】

●支援対象は

- ・長寿会会員のみ（9）
- ・会員以外も含む（6）

●活動内容は

- ・見守り・安否確認・異常通報（10）
- ・趣味・会合への誘い（11）
- ・家庭訪問（6）
- ・誕生日プレゼントなど（4）
- ・買い物通院などの外出支援・代行（2）
- ・掃除・除草などの家事支援（3）
- ・その他（1）

●要支援者とは

- ・平日昼間独居高齢者（4）
- ・常時独居高齢者（7）
- ・老老家庭（6）
- ・軽度の高齢障害・認知症（1）
- ・その他（2）

●支援体制は

- ・自治会・民生委員などと連携（8）
- ・会員同士で支援分担（7）
- ・長寿会役員のみ（3）
- ・要支援者別支援内容・頻度・方法を決めている（1）
- ・支援内容・方法は未定（5）

【検討中を含め未実施地区について】

●未実施の理由

- ・皆元気で対象者なし（7）
- ・対象者が見いだせない（4）
- ・何から手をつけるか分からない（2）
- ・長寿会会員の理解不足（3）
- ・自治会・民生委員の理解不足（4）
- ・個人情報that得にくい（9）
- ・活動に意味がない（0）
- ・その他（2）

【その他の意見】

● 初香台長寿会が知事表彰を受賞 ▶ 武田前長寿会連合会会長には感謝状

「第19回長寿と健康の祭典」が、去る10月2日、橿原市の奈良県社会福祉総合センターで開催された。席上、老人クラブの各賞の表彰式が行われ、平群町では初香台長寿会（会長＝浦野育三）が晴れの知事表彰を受けた。これは、初香台長寿会の多年にわたる、精力的な高齢者福祉の向上活動の功勞に対し、優良老人クラブとして表彰されたものである。また、武田前長寿会連合会会長に、老人クラブの進歩、発展に寄与したとして、県老人クラブ会長より感謝状が贈られた。

● 晩秋の皆生温泉へ ▶ 鳥取砂丘とかに三味の旅

去る11月26日と27日の2日間、長寿会連合会恒例の秋季親睦一泊旅行で鳥取県方面に出かけました。

朝から絶好の旅行日和の中、146名の参加者が4台の貸切りバスで平群各集落地を出発して一分インターから第2阪奈道、近畿道、中国道、山陽道、米子道を経由して米子市郊外の皆生温泉に向かいました。途中、宝塚付近から車窓越しに秋の名残を惜しむかのような綺麗な紅葉と一点の雲もない空の中、先ずは昼食地の龍野市のそうめんの里揖保の糸博物館に到着しました。

昼食後も快調に走るバスは山陰の名湯皆生温泉には予定どおり午後4時過ぎに到着しました。温泉でひと浴びした後は楽しみの宴会で、多少狭い感のある大広間でしたが大字別に着席し、かに三味のお膳を前に、かに刺し身、焼きがになどを食

べるのに懸命でお酒を飲むのも忘れるほどしばらく静かな時間が流れました。食べるのも一段落した後半はいつものように余興のカラオケが始まり、バスごとに3名を選出した歌手気取りを自認する？歌い手が次々と自慢の歌を披露して、あっという間にお開きの時間となりました。

2日目も朝から爽やかな天候に恵まれ前夜の余韻を残しつつ白兔海岸沿いの国道を東に向かい、車窓から見る風力発電用の大きな風車を何基も見ているうちに楽しみの鳥取砂丘に到着しました。昼食後、砂の美術館では砂で作った見事な造形を鑑賞したり、二人乗りロープウェイで広大に広がる砂丘まで足を運んで散策したりしました。砂丘を歩く感触はまた格別でした。道中立ち寄ったお菓子館、鮮魚市場などでも買い物を楽しんだようです。帰路中国道で交通事故の渋滞に遭いましたが、約一時間遅れで今回も多くの思い出とお土産をいっぱい全員無事元気で平群に帰り家路に着きました。

平成22年 長寿会連合会の活動

● 平成22年 会長年頭挨拶 健康、奉仕、友愛、交流を軸に ▶長寿会活動を一段と深化させよう

長寿会連合会会長 扇田 修身

新年あけましておめでとうございます。2,200百余名の会員の皆様方には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、当連合会の事業活動に対して、ご理解とご協力を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。さて、長寿会の基本理念は、言うまでもなく健康、奉仕、友愛ですが、当連合会はこれに「交流」を加えて意識的且つ総合的に事業活動を推し進めてきましたが、更に実効性を挙げるために、本年も会員皆様のご協力をいただき一層深化させられるよう努力していく所存です。

昨年を回顧しますと、世界的に一昨年九月のリーマンショックを契機に景気の停滞が始まり、株価の低落、新型インフルエンザの流行などで経済の悪化が続き、雇用情勢の悪化も厳しさを増しました。8月の衆議院選挙では政権が交代して新しい政治体制がスタートした年でありました。

一方、長寿会連合会では、全老連全国大会が奈良市で開催されたので本部役員が各種研修会に参加したり全国1,400名出席者用ウォーキングマップづくりを担当したり、県老連指導者研修会では「仲間づくりを通じた健康づくり」事例発表会の講師を担当したりして、上部団体との交流が例年になく多い年でした。

内部では、会員仲間が交流を深めるための新しいクラブも増設されて県下でも有数の36クラブで延べ850名の会員が参画して活発な交流の輪が更に広がりを見せました。

本年は、当連合会が町内における高齢化社会の中核的存在でありますので、主体的な立場から健康の維持推進、奉仕、友愛、交流の各活動を積極的に進めることによって生活の豊かさと明るい街づくりに貢献するとともに、新しい健診制度の利用によっても多くの会員方と医療や介護の制度を

支える側に立てるよう努力していきたいと考えています。

昨今、高齢者の家庭内の閉じこもりが認知症を招きやすいなど社会問題化していますので、その防止のためにも新しい会員仲間を誘って一緒に行動していければと考えています。

そのためにも、昨年から取り組み始めた「友愛交流活動」をより地域的に推し進めることが求められますので、地区会長、女性部長、健康委員、クラブ代表者各位はじめ全会員の皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も会員皆様方の一層のご多幸と充実した年となりますことをご祈念申し上げます。

● 町長、関係幹部と町政懇談会開く ▶健康で明るい長寿社会に向け、提言と要望

長寿会連合会会長 扇田 修身

去る、3月23日(火)10時から役場会議室において、町長ほか関係幹部の方々と、当連合会の会長はじめ本部役員が出席して町政懇談会が行われました。当連合会会員2,200余名は、お互いに健康で明るい長寿社会の実現に向けて努力しているところですが、更に、その実を上げるためには、緊急で重要な課題の解決が不可欠であり4項目に絞って、予め提言・要望書を提出し、その資料に基づいて話し合いが行われました。紙面の都合で当日の付随説明を含めた要旨をご報告いたしますが協議結果につきましては次号に掲載させていただきます。

● 町政懇談会の協議結果 ▶要望と提言の必要性を痛感

3月末に、本部役員と町長、町幹部とによる町政懇談会が持たれました。その協議結果についてご報告します。4件の要望・提言および回答内容と長寿会の意見(※)は紙面の都合で要旨を掲載します。

1【要望】住民情報が必要

思いやり豊かな地域社会構築のために、地域内

の長寿会の役割は、昼間時の災害時への対応や高齢者・児童の見守り活動などで中心的役割を担っている。そのための地域の「対象者」の把握は不可欠であるので、基本四項目（氏名、生年月日、性別、住所）について責任者への閲覧をお願いしたい。

【回答】

町の住民基本台帳法に基づき、現在、自治会長には閲覧を認めているが任意団体には認めていない。自治会と協力しながら隣近所の付き合いから連携を広げていただきたい。

地域の福祉力向上に対しては、社会福祉協議会で高齢者への対応策として、既設の「小地域ネットワーク」の活性化と新しい組織の立ち上げをお願いしている。

※行政側では、地域内における高齢者組織の長寿会への役割認識が殆ど存在しないのか？

2【要望】高齢者の悩み把握と対策

高齢化が一層進む中で、独居高齢者の生活上の悩みの把握こそ高齢者福祉の原点と考えており、その把握と解消のための施策を要望したい。最大の悩みは、買い物、夕食づくり、会話のある食事環境である。長寿会で自主体制の構築を検討中であるので、公的施設の利用など課題が取りまとめ際には配慮願いたい。

【回答】

介護保険制度として各種サービスがある。配食や乳酸飲料の宅配「生き生きふれあい事業」など実施している。長寿会の自主取り組みは素晴らしいので、小地域ネットとの連携で進めていただきたい。

※現行制度の見直しや新しい課題把握への取り組みは皆無と思われるが、現行だけで適切か

3【要望】後期高齢者の健康対策

後期高齢者の健保制度が奈良県連合に移行後、町の主体的取組みに具体性が乏しいが、実態を如何に捉えているか。先般、厚生労働省から健診受診率の向上と人間ドック助成金支給に関して通達されたが町は全く取り組んでいない。何故か、対象者には極めて不利益である。

【回答】

75歳以上の人間ドック助成金は国の補助事業を利用して本年度から実施することにした。

受診率向上へは、ベスト三の大字を公表するなどで啓発に努めたい。

※「後期」の特別対策が必要である。人間ドック費用の助成は長寿会の指摘で実施されるは喜ばしいが、料金など詳細を如何に公表徹底されるか？

4【要望】町バスの利用回数増へ

町バス利用回数を現在の15回の制限枠を増やしていただきたい。検討には高齢者の増加の推移と身体の不自由な特性を考慮した次元で検討願いたい。

【回答】

町バスは、使用規定に従って運用している。その他、社会福祉協議会や地域振興センターなど公務に準じて使用を認めている。長寿会は高齢者福祉の観点から公務に準じて平成17年度から上限を15回にした経緯があり、他の団体との整合性からこれ以上は困難である。

※超高齢社会の人口構造に鑑み、福祉政策を根本から見直す必要性の中で引き続き要望していきたい。

●平成22年度 新役員決まる 扇田会長など6名を再選

▶副会長に西浦さん、会計監査に三船氏

平成22年度の理事会が去る4月20日(金)10時から新しく交代された理事(地区会長)12名も加わり37地区の理事が出席して「かしのき荘」新館会議室で開催され、予定の議案すべて原案どおり承認されましたのでご報告します。また今回、平成22年度長寿会連合会の本部役員の改選が行われ、扇田会長など6名が再選され、新しく椿台会長の三船忠志氏が会計監査人に出選されました。なお、守屋副会長、中塚会計監査人は退任されました。

◇長寿会本部役員

会 長 扇 田 修 身 (再任・月見台)

副会長 辻 本 達 雄 (再任・槻原)

(兼クラブ統括部長)

副会長 西 浦 信 子 (再任・梨本)

(兼女性部長、友愛交流活動担当)

副会長 小 林 忠 男 (再任・上庄台)

(兼健康部長)

会 計 藤 井 正 博 (再任・竜田川団地)

会計監査 安 田 稔 (再任・三里)

会計監査 三 船 忠 志 (新任・椿台)

参 与 藪 内 英 輔 (再) 上庄台

参 与 仲 正 夫 (再) 北信貴ヶ丘

顧 問 村 木 實 (再) 竜田川団地

顧 問 明 石 賢 三 (再) 椿台

◇長寿会地区会長

鳴 川 大 塚 昭 治

樺 原 谷 口 光 男

椿 台 三 船 忠 志

緑ヶ丘 中 塚 芳 治

菊美台 竹 谷 二 郎

槻 原 辻 本 達 雄

西 向 森 正 一

上 庄 扇 田 清 巳

上庄台 中 西 素 直

初香台 浦 野 育 三

五月台 長 岡 健 次

光ヶ丘 江 村 和 明

福貴団地 武 田 俊 雄

福貴畑 岡 田 光 生

久安寺 西 口 富 雄

信貴畑 浦 野 吉 二

槻 原 奥 田 雅 巳

越木塚 谷 田 元 佳

月見台 扇 田 修 身

梨 本 東 光 洋

若葉台 島 與 一

ローズタウン若葉台 福 島 昇

御陵苑 綿 谷 豊

吉 新 道 上 勝

三 里 安 田 稔

下垣内 前 田 修 次

平等寺 中 辻 満 彦

福 貴 西 田 誠 宏

若 井 松 浦 正 美

西 宮	寺 川 敏 雄
春日丘	中 田 貞 昭
日立団地	守 屋 勝 巳
椿 井	中 村 公 彦
竜田川ネオポリス	牧 野 富久太郎
竜田川団地	藤 井 正 博
北信貴ヶ丘	土 井 重 尋
信貴山	赤 城 英 子

● 平成22年度 長寿会連合会総会開催 高齢者福祉は長寿会の社会的役割

▶ クラブによる恒例の舞台発表会也大盛況

平成22年度定例総会は、5月14日(金)中央公民館で、会員400人の出席と来賓の方々を迎えて開催されました。西浦副会長の司会で始まり、21年度中物故者77名への黙祷の後、扇田会長の挨拶、本部役員と来賓の紹介、続いて岩崎町長、馬本町議会議長、宮本県議会議員から御祝辞をいただきました。そして、長寿会連合会功労者として、前上庄台長寿会長数内英輔氏に感謝状が会長より授与されました。休憩後議事に入り、議長に選出された守屋前連合会副会長の進行で、各担当者から議題の報告が行われ予定時刻に終了しました。総会后、恒例のクラブ舞台発表会では8クラブが日頃の成果を見事に披露しました。

● 高齢者の福祉向上に努める長寿会

▶ 地域の中核的団体として行政に積極的 要望と提言

〈基本方針〉

団魂の世代が還暦を過ぎ高齢者が増勢をたどる中、少子化と相まって全国的に高齢化率が高まっています。平群町においても、65歳以上の高齢化比率が27%を超えて、数年後にはおよそ3分の1が高齢者という超高齢化社会を迎えようとしています。

これから、健康保険財政や介護保険財政がますます厳しさを増す事が予想されることから、我々高齢者自身も自己管理能力の向上に努めることが求められます。したがって、我々長寿会は、高齢者の主体的立場を堅持し、地域社会の中核的運動

体として行政機関へ積極的に要望や提言を行い、高齢者の福祉向上に努めていく所存であります。

一方、私たちも将来的な観点から高齢者相互支援の必要性が高まってきていることに鑑み、地区内の会員仲間が思いやりの精神で友愛交流活動を推し進める体制の構築に取り組んでいきます。そして、連合会本部では共に支え合いより健やかに過ごす活動を、女性部、健康部、伝承交流部、ふれあい情報部の各専門部および各クラブとともに推し進めてまいります。また、地区長寿会においても月例会などで活発な活動を通じて、会員自身の充実はもちろんのこと地域への貢献も果たされていくことが期待されます。

そのためにも一人でも多くの新しい高齢者仲間の参画が望まれます。

● 第20回 長寿と健康の祭典開催

▶ 竜田川ネオポリス県老人クラブ会長賞 を受賞

「第20回長寿と健康の祭典」が、奈良県、奈良県老人クラブなどの共催で、9月11日県社会福祉総合センターで開かれた。

席上、表彰式で平群町長寿会連合会の竜田川ネオポリス長寿会（会長＝牧野富久太郎）が、奈良県老人クラブ連合会会長賞を受賞した。これは、永年に亘る地域の高齢者福祉活動の功労が認められたものである。

● 高齢者を支援する「友愛名簿条例」 について

▶ 長寿会連合会との「町議会懇談会」開く

去る、10月21日(木)14時から役場の委員会室において、町議会懇談会が開催されました。長寿会連合会側からは、扇田会長はじめ本部役員6名と町議会からは厚生委員会の岡委員長はじめ委員5名及びオブザーバーとして馬本議長、西脇事務局長が出席しました。

これは、本年4月に制定された平群町議会基本条例に基づき、8月の37地区長寿会会長が出席する理事会において決定された「友愛名簿条例」制定への提案として行われました。提案の要旨は次

のとおりです。

我が平群町は、数年後には高齢化率が30%を超えることが必至で、高齢者を支える行政サービスは財政的にも物理的にも厳しい運営が予想されています。

この状況下で、高齢者の所在確認、安否確認。生活支援、情報提供などの面で、高齢者相互支援活動の必要性とともに、地域の民生委員、自治会長、長寿会会長、小地域ネット代表者との緊密な連携による地域福祉力の向上が不可欠と考えます。そして、連携のためには個人情報共有化以外に方法はありませんと考えます。

そこで、個人情報保護法順守の下で、平群町独自の条例「友愛名簿条例」（仮称）を制定することを提案いたします。

条例制定に際しては、利用目的、情報提供先等の管理方法および対象者など（例えば、独居高齢者、老夫婦家庭、認知症家庭など）地域福祉を推し進めるに必要な内容が考えられます。

この実施にあたっては、行政において新しく制定する条例に基づき個人情報の提供について、対象者は、目的の説明と登録のための了解・同意手続きが必要となります。

なお意見交換の詳細については、今後、懇談会での大綱が見えてきた段階で報告したいと考えています。

（扇田）

● 伝承交流部が全国老人クラブ連合会長表彰

▶平成22年度 第4回理事会

10月29日（金）10時からかしのき荘新館会議室において、37地区会長および本部役員が出席して開催され、予定の報告・連絡事項の了承と協議事項が原案どおり決議されましたので、次のとおりご報告いたします。

【報告・連絡事項】

1. 専門部関係

①女性部

(1) 悠々の郷慰問

- ・期 日 10月9日（土）14時

- ・協 力 ウクレレ、アロハクラブ

(2) 社会見学

- ・期 日 10月13日（月）9時
- ・見学先 奈良少年院ほか
- ・参加者 地区女性部長

②健康部

(1) 第2回健康推進委員会

- ・期 日 10月8日（金）10時
- ・出席者 本部健康推進委員

(2) 第2回健康委員会・体力測定会

- ・期 日 11月16日（火）9時
- ・場 所 総合スポーツセンター
- ・出席者 地区健康委員

(3) 健康ウォーク

- ・期 日 11月2日（火）9時30分
- ・方 面 馬見丘陵公園

(4) 健診意義の説明会

- ・平群町健康保険課出前【別紙1】

③伝承交流部

- ・出 演 10月16日（土）12時
「大空の家」まつりに出演

④ふれあい情報部

- ・編集委員会 10月16日（土）10時
- ・部関係
- ・月末日現在会員数 2,200名
（年度当初比△5名）【別紙2】
- ・全老連会長表彰（活動賞）の授与
- ・日 時 10月20日（火）13時30分
- ・受賞者 伝承交流部

平成23年 長寿会連合会の活動

● 平成23年 会長年頭挨拶

▶長寿会連合会は高齢者の中核団体として団魂の若手高齢者の受け皿に

長寿会連合会会長 扇田 修身

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、お健やかに新しい年、平成23年をお迎えになられたことと、お喜び申し上げます。昨年も引き続き、当連合会の事業活動に対し、ご理解とご支援を賜り、有り難く厚くお礼申し上げます。

当連合会は、健康、友愛、奉仕、交流を理念として、諸活動に取り組んでおりますが、各地区におかれましても、この理念に沿って積極的に活動を行っていただいていたものと存じます。

本年も更に2,200人余名会員の皆様方と一緒に、連合会事業、地区の例会等の活動、クラブ活動などを通じて、従来にも増して諸活動を積極的に推し進めるなかで、会員諸氏の一層の充実と地域社会の発展に貢献していければと考えております。

昨年を回顧しますと、国内外で、管内閣の誕生、与党過半数割れ、一連の尖閣諸島問題、朝鮮半島の緊張など政局がらみの出来ごと、記録的猛暑、円高などもありました。その一方で、ワールドサッカー16強、惑星探査機「はやぶさ」の快挙、ノーベル化学賞受賞など嬉しいこともありました。

一方、長寿会連合会では、将来志向に立って「高齢者相互支援活動」の必要性から、10月に町議会厚生委員会の方々と「友愛名簿条例」制定派の要望について、議会懇談会を開催していただきました。

内部では36の愛好クラブに述べ800人余名の会員が日々充実した活動を行いました。

2月には8文化クラブにより初めての作品発表会を開催し、約300名の方々に力作を見学していただきました。

● 盛況の文化クラブ作品発表会

▶力作揃いの作品、「お手前」で盛り上げる

副会長・クラブ統括部長 辻本 達雄

去る2月18日(金)と19日(土)の2日間に亘り、かしのき荘新館会議室において、長寿会連合会の第2回文化クラブ合同作品発表会を、各クラブ会員の方々の力を結集して、盛大に開催することができました。今回出店いただいたクラブは、編み物クラブ、リフォーム手芸クラブ、アートフラワークラブ、陶芸クラブ、小筆クラブ、折り紙クラブ、木目込み人形クラブ、絵手紙クラブの8クラブでした。

開催期間中は、例年になく寒かったですが、開催初日には茶道クラブ会員の方々の「お手前」で盛り上げていただいたこともあって、昨年同様約300人の方々に足を運んでいただき、出展作品の力作を鑑賞していただきました。

出展いただいた各クラブ会員の皆さん方、ならびに、ご来場いただいた皆さん方に心かお礼と感謝を申し上げる次第です。

運営上の反省点では、特に「体験コーナー」を別室で行ったこともあって、盛り上がりには欠けたようで、次回はもっと工夫した雰囲気づくりに努めたいと考えています。

ここで、出展いただいた各クラブの代表者の方々からの一言をご紹介します。

■ 編み物クラブ代表 青山 すみ子

作品づくりは時間がかかりますが、出来上がった時の喜びはひとしおです。昨年よりみんなの腕も上がり、より良い作品ができました。皆さんに見ていただいて良かったです。

■ リフォーム手芸クラブ代表 炭本 稔子

今年から仲間入りさせていただきました。私たちは人数が少ないですが、皆さん精いっぱい頑張って作品を作っていただきました。例会は毎月第2第4水曜日です。一度覗いてみて下さい。

■ アートフラワークラブ代表 向山 恵美子

各クラブの皆様方の日々熱心な努力の結果で素

晴らしい作品展でした私たちの作品も、お部屋に一輪のお花があるだけで、心が暖かく和むような感じがします。

■ 陶芸クラブ代表 岡 嘉道

素敵な名札のついた広い展示スペースに大作の展示ができて、来場者に喜んでいただきました。お蔭さまで、展示した茶器は茶道クラブへ、花瓶は事務所へ嫁入り出来ました。

■ 小筆クラブ代表 仲 正夫

二回目とあって、各クラブの出展作品は前回より洗練されていたように思われます。茶道クラブが初日だけでしたが、二日目も茶席が欲しかったです。わがままと思いますが。

■ 折り紙クラブ代表 繁田 千恵子

関係者のご協力で今年も盛況でした。大勢の人と共に参加、別室での講習会が2日間、とても好評でした。忙しい中にも晴れ晴れと楽しいふれあいの場として次の機会が待ち遠しいです。先ずはお立ち寄りください。

■ 木目込み人形クラブ代表 北川 和子

昨年の反省点をクリアしながら、盛大に開催されました。試みとして別室で体験コーナーを設けていただきましたが、離れていたために判りにくく作品展と同じ場所だったらと思いました。場所的に無理かも？

■ 絵手紙クラブ代表 中野 育子

体験学習で興味を持たれ、それぞれの作品に感心され、微笑んで楽しんでおられました。“和みの一刻”を過ごさせていただき感謝しています。昨年来の出会いでした。

ありがとうございました。

● 平成23年度 長寿会連合会新体制 決まる

▶ 扇田会長など7名再選、藤井氏副会長に、綿谷氏会計、乙倉氏会計監査

去る4月19日(火)10時から、かしのき荘新館会議室において平成23年度第1回理事会が、新しく交代された理事(地区会長)も加わり37地区の理事と、本部役員、参与、顧問が出席して開催されました。

理事会では、先ず本部役員の改選が行われ、役員推薦委員から候補者の提案があり、全員が全会一致で承認されました。この結果、扇田会長はじめ7名が再選、2名が新しく選出されました。その他の報告・連絡事項は、全て原案通り承認・議決されましたので、次の通りご報告いたします。なお、平成22年度事業報告、平成23年度事業活動計画、収支予算などは「総会のしおり」及び広報紙の総会特集号でご紹介します。

◇ 長寿会本部役員

会 長	扇 田 修 身	(再任・月見台)
副会長	辻 本 達 雄	(再任・槻原)
副会長	西 浦 信 子	(再任・梨本)
副会長	藤 井 正 博	(再任・竜田川団地)
副会長	小 林 忠 男	(再任・上庄台)
副会長	三 船 忠 志	(再任・椿台)
会 計	綿 谷 豊	(新任・御陵苑)
会計監査	安 田 稔	(再任・三里)
会計監査	乙 倉 三 郎	(新任・春日丘)

なお、会長から参与、顧問に次の方々が委嘱されました。

参 与	仲 正 夫	(再任・北信貴ヶ丘)
参 与	薮 内 英 輔	(再任・上庄台)
顧 問	武 田 俊 雄	(再任・福貴団地)

◇ 長寿会地区会長

鳴 川	植 田 清 文
檫 原	谷 口 光 男
椿 台	三 船 忠 志
緑ヶ丘	中 塚 芳 治
菊美台	島 忠 男
槻 原	辻 本 達 雄
西 向	前 田 傳
上 庄	巽 芳 正
上庄台	中 西 素 直
月見台	扇 田 修 身
梨 本	小 野 建 弘
若葉台	島 與 一
ローズタウン若葉台	井 戸 暉
御陵苑	綿 谷 豊
吉 新	道 上 勝

三 里	安 田 稔
下垣内	小 林 ゆい子
平等寺	中 辻 満 彦
福 貴	乾 雅 善
初香台	浦 野 育 三
五月台	長 岡 健 次
光ヶ丘	江 村 和 明
福貴団地	武 田 俊 雄
福貴畑	西 野 肇
久安寺	向 山 康 夫
信貴畑	森 中 源二郎
榎 原	浦 井 敏 次
越木塚	谷 田 元 佳
若 井	松 浦 正 美
西 宮	寺 川 敏 雄
春日丘	乙 倉 三 郎
日立団地	中 田 勝 也
椿 井	春 木 成 夫
竜田川ネオポリス	牧 野 富久太郎
竜田川団地	藤 井 正 博
北信貴ヶ丘	土 井 重 尋
信貴山	赤 城 英 子

● 平成23年度 長寿会連合会総会開催 健康、友愛、奉仕、交流を更に推進 ▶ 8クラブの皆さん、見事に日頃の成果 を発揮

平成23年度の定例総会は、5月13日(金)10時から中央公民館大ホールで、会員400名と来賓の方々を迎えて開催されました。西浦副会長の司会で始まり、22年度中の物故会員74名への黙祷の後、扇田会長の挨拶、本部役員の紹介、引き続き、岩崎町長、下中町議会議長、宮本県会議員からご祝辞をいただきました。扇田会長の挨拶の冒頭、先の東日本大震災で亡くなられた一万数千名の方に対して、会場の皆様とご一緒に黙祷を捧げました。次いで、長寿会連合会功労者の、前下垣内会長の前田修次氏、前福貴会長の西田雅宏氏、前本部副会長の守屋 勝巳氏に感謝状が贈られました。引き続き、議事に入り議長に選出された守屋勝巳氏の進行で、担当役員から資料の説明があり、11時

20分に終了しました。午後の舞台発表会では、8クラブの皆さんが日頃の成果を見事に披露して会場の拍手を受けました。

● 思いやり精神で友愛交流活動を ▶ 会の充実と地域への貢献は地区長寿会 活動で

〈基本方針〉

団魂の世代など高齢者が増勢をたどる中、少子化と相まって全国的に高齢化率が急速に高まっています。平群町においても、65歳以上の高齢化率が28%を超えており、数年後にはおよそ3分の1が高齢者という超高齢化社会を迎えようとしています。これらから、健康保険財政や介護保険財政が、ますます厳しさを増すことが予想されるので、我々高齢者自身も健康づくりなど、自己管理能力の向上に努めることが求められます。したがって、我々長寿会は高齢者の主体的立場を堅持し、地域社会の中核的活動体として行政機関へ積極的に要望や提言を行い、高齢者の福祉向上に努めていきます。一方、将来的な観点から、高齢者相互支援の必要性が高まってきていることに鑑み、私たちも地域内の会員仲間が思いやりの精神で、独居高齢者への見守り活動など、友愛交流活動を推し進める体制の構築に取り組んでいきます。そして、連合会本部では共に支え合い、より健やかに過ごす活動を、女性部、健康部、伝承交流部、ふれあい情報部およびクラブ統括部の各クラブと共に、推し進めていきます。また、地区長寿会においても月例会などで活発な活動を通じて、会員自身の充実はもちろんのこと、地域への貢献も果たされていくことが期待されます。そのためにも、一人でも多くの新しい高齢者仲間の参画が望まれます。

● 活発な地区長寿会活動

▶ 実態調査・集会は90%が開催

私たち長寿会の活動理念の重要な一つに「交流」がありますが、そのベースとなる活動は何と言っても、各地区における活動です。そこで、この度他の地区の活動や会費などの実態はどのように

なっているのか、を参考にさせていただくために、特に関心の高かった8項目について、アンケート方式で37地区の会長さんにご協力をお願いしました。

その調査結果がまとまりましたので、次のとおりご報告します。

●会の実施状況では、

毎月または隔月に実施している地区は37地区中25地区でした。

●総会の開催については、

30地区が毎年開催しています。

●地区事業については、

30地区が何らかの集会や事業を行っています。

●会員の入会資格については、

65歳になれば自動的に入会するのは9地区で、28地区は本人の意思で入会します。

●役員の任期は、

毎年交代が5地区、二年交代が7地区、他の26地区は期限を定めているが再任ありでした。

●会費の徴収は、

24地区で会費を徴収していますが、13地区は徴収していません。

●自治会助成金の有無では、

31地区が助成してもらっており、6地区は助成金なしでした。その中で、会費助成金は、地区の自治会との連携の証として、自治会総会などで、長寿会活動の実態を理解していただく絶好の機会となることが考えられます。

●会則の有無については、

26地区で会則があり、12地区は会則を設けていないとのことでした。

会則は、合理的な長寿会運営のために不可欠と考えますので、未制定地区におかれましては、出来るだけ早く会員の総意により制定されることを期待します。以上ですが、地区活動運営上の参考にさせていただき、多くの高齢者仲間の参加を得て、合理的で活発な交流が推し進められることを期待いたします。

(扇田)

● 県老人福祉功労賞・元連合副会長 明石 賢三氏受賞

去る9月19日、10年以上に亘り老人福祉に功績があったとして奈良県知事から表彰されました。明石氏は、平成10年から、6年間椿台長寿会会長、その後も8年間に亘り連合会副会長、顧問として活躍されました。特に、高齢者の生きがいくりのため趣味のクラブ創設や、世代間交流を目的の伝承交流部の立ち上げなどに指導的役割を果たされました。また、平成17年5月には、椿台長寿会が積極的な活動が評価されて県老連会長賞が贈られました。

● 県老連会長賞・三里長寿会 ▶「仲間づくり部門」で受賞

三里長寿会（安田 稔会長以下70名）は、去る10月14日（金）県老連指導者研修会の席上「仲間づくり活動部門」において顕著な成果を挙げたとして、奈良県老人クラブ連合会会長賞を受賞されました。受賞には、安田会長はじめ役員、会員の皆さんの日頃の活動が評価された訳で、ご同慶に堪えません。

当日表彰されたのは、仲間づくり部門は他に1団体だけでしたが、全国老人クラブ会長賞では、ボランティア活動部門で3団体、健康づくり部門で3団体、仲間づくり部門で3団体が受賞しました。

受賞された各団体の共通点は、会員が中心となって、組織活動に対する共通理解と自発的に話し合ったり、相談したりして日常的に助け合いながらそれぞれの活動成果を挙げておられることでした。

安田会長は、当長寿会も女性部長を中心に各班長とも「一声掛け運動」で会員仲間の支え合いが行われていますが、まだまだ地域全体にまで及んでいないので、最近設立された小地域ネットワーク「ほほえみ三里」のご協力もいただきながら、引続き長寿会の活動を理解いただくように努めて、1人でも多くの新しい高齢者仲間の参画を目指したい、とのことでした。

(扇田)

● 118名で小豆島へ・秋季一泊旅行

長寿会副会長 藤井 正博

去る11月24日～25日にかけて長寿会連合会恒例の親睦一泊旅行が実施され、総勢118名が3台のバスで小豆島を訪れました。姫路港から小豆島の玄関口の福田港までフェリーで1時間40分、船旅はバスと違ってゆっくりと寛ぐことができ、船内では全員が昼食の弁当を食べながら、ゆったりと過ごす事ができました。

一日目は「そうめん工場」と「オリーブ園」を見学しました。小豆島のそうめんは日本三大生産地の一つに数えられており、400年の歴史があり、ゴマ油を使ってコシが強く食べ応えがあるのが特徴で、そうめんの製造工程を見学し試食もしました。オリーブ園では、国内栽培の発祥地として知られており、6月初旬に小さな花が咲き、やがて緑色の実をつけます。10月には実の収穫が始まり、新漬けやオリーブ油、化粧品などの製品に加工されます。オリーブ園の丘から内海湾の向こうの田浦半島、三都半島の眺めは抜群でした。

二日目は、佃煮工場を見学後、寒霞溪に向かいました。佃煮工場では小豆島特産の醤油を活かした佃煮が百種類以上販売されていました。寒霞溪は、1,300万年前の火山活動で誕生した奇岩怪石の溪谷で日本三大溪谷美の一つに挙げられており、ロープウェイから眺める紅葉は立山・蔵王・谷川岳に次ぐ景観と言われているだけあって、我々が訪れたのが絶好の時期で、錦の屏風を立てたように紅葉する景色は、圧巻でした。

夜のホテルでの宴会では1時間ほどの会食と懇談の後、恒例のカラオケが始まり、各号車から自薦他薦で選ばれた俄か「歌手」が自慢の声を披露して盛り上げました。

今回の旅行は、少し風もあって肌寒い感もしましたが、2日間天候に恵まれて、時間的にもゆったりと無理のない旅行を楽しめました。

帰路も殆ど渋滞もなく全員無事に18時過ぎに自宅に帰ることができました。

平成24年 長寿会連合会の活動

● 平成24年 会長年頭挨拶 地域社会との出会いを大切にするため

▶一人でも多くの高齢者が長寿会活動に参加を

長寿会連合会会長 扇田 修身

謹んで新春のご祝辞を申し上げます。会員の皆様にはお健やかに平成24年の新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年も長寿会連合会の事業計画に昨年同様、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。当連合会は、健康、友愛、奉仕、交流の4つを基本理念として諸活動に取り組んでいますが、各地区におかれましてもこの理念に沿って、積極的に活動を行っていただいているものと思います。

昨年を回顧しますと、国内では、3月には歴史的な東日本大震災の発生と福島原発事故、9月には台風12号による紀伊半島の大水害、により多くの方々が被災されました。亡くなられた方々にはご冥福と被災された皆様方には心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈りいたします。

会員の皆様方には、被災された老人クラブ仲間に対して心温まる義援金などのご支援、ご協力をいただき連合会としても改めて感謝とお礼を申し上げます。

7月には「なでしこジャパン」が第6回女子ワールドサッカーにおいて世界一の快挙を成し遂げたことは、国民への大きな勇気と希望を与えてくれる明るいニュースでした。8月末には野田内閣が誕生し新たな政治もスタートしました。

一方、連合会では、各地区の定例会をはじめ、本部の女性部、伝承交流部、ふれあい情報部もそれぞれに初期の活動を行ったほか、交流活動の一環として、延べ800名会員が参加する36愛好クラブでも活発に活動を行っていただきました。

2月には8文化クラブによる作品発表会、5月の定例総会後の舞台発表では8クラブが、新設し

た会長杯カップにも健康麻雀クラブなど6クラブが争奪戦を行い、それぞれに充実した活動が行われました。

本年も、引続き活動理念を念頭に積極的に事業活動を推進していきたいと考えていますので、会員皆様方の一層のご理解をお願いいたします。

本年度も会員加入率40%を目標に会員の増員運動を実施中です。

● 第3回文化クラブ作品発表会に9クラブ参加

▶ 茶道クラブ皆さんの御手前で展示に花を添える

副会長・クラブ統括部長 辻本 達雄

去る2月17日(金)と18日(土)の2日間に亘って、「かしのき荘」新館会議室などにおいて、本年度で3回目となる作品発表会を、9文化クラブの会員の方々の力を結集して盛大に開催することができました。また、ロビーでは茶道部の皆さんによりお茶席を開設していただき、お帰りの際の一服の場として2日間で180名の方にご利用いただいて発表会に花を添えていただきました。

● 平成24年度 新役員決まる 扇田連合会会長再選される

新任に江村会計監査，田尻参与

平成24年度第1回理事会に先立ち、平成23年度の本部役員全員が1年間の任期満了に伴い、役員推薦委員会が設置され、会長から委員長に浦野初香台会長、委員に島若葉台会長、道上吉新会長、松浦若井会長、江村光ヶ丘会長、武田顧問に委嘱して、新役員を選出し、参与、顧問については会長が委嘱し、全理事に諮ったところ満場一致で承認・了承されました。

◇ 長寿会本部役員

会 長 扇 田 修 身（再任）月見台

副会長 辻 本 達 雄（再任）樅原

（クラブ統括部長兼任）

副会長 西 浦 信 子（再任）梨本

（女性部長兼任）

副会長 藤 井 正 博（再任）竜田川団地

（会計兼任）

副会長 小 林 忠 男（再任）上庄台

（健康部長兼任）

副会長 三 船 忠 志（再任）椿台

（友愛活動担当兼任）

会計監査 乙 倉 三 郎（再任）春日丘

会計監査 江 村 和 明（新任）光ヶ丘

参 与 薮 内 英 輔（再任）

（ふれあい情報部長）

参 与 田 尻 宏（新任）

（伝承交流活動部長）

顧 問 武 田 俊 雄（再任）

（前連合会会長）

事務局事務長 岩 上 慶 治

（町社会福祉協議会主任）

◇ 長寿会地区会長

鳴 川 大 塚 昭 治

樅 原 山 中 実

椿 台 三 船 忠 志

緑ヶ丘 中 塚 芳 治

菊美台 島 忠 男

樅 原 辻 本 達 雄

西 向 前 田 傳

上 庄 森 本 淳 一

上庄台 中 西 素 直

月見台 扇 田 修 身

初香台 浦 野 育 三

五月台 長 岡 健 次

光ヶ丘 江 村 和 明

福貴団地 武 田 俊 雄

福貴畑 中 村 安 治

久安寺 植 山 照 治

信貴畑 森 中 定 雄

樅 原 深 井 幸 氏

越木塚 小 東 八 郎

若 井 松 浦 正 美

梨 本 小 野 建 弘

若葉台 島 與 一

ローズタウン若葉台 井 戸 暉

御陵苑 田 辺 幸 雄

吉 新	道 上	勝
三 里	安 田	稔
下垣内	小 林	ゆい子
平等寺	山 崎	正 俊
福 貴	乾	雅 善
西 宮	西 畑	茂 郎
春日丘	乙 倉	三 郎
日立団地	安 保	公 靖
椿 井	春 木	成 夫
竜田川ネオポリス	木 津	文 弥
竜田川団地	藤 井	正 博
北信貴ヶ丘	土 井	重 尋
信貴山	赤 城	英 子

● 平成24年度 長寿会連合会総会開催 「設立48年」更なる前進を

▶ 来賓に岩崎町長らを迎え盛会裏に終わる

平成24年度の定例総会は、5月11日(金)10時から、中央公民館大ホールで会員、関係者など400名と町長、町議会議長はじめ多くの来賓の方々を迎えて開催された。

西浦副会長の司会で始まり、冒頭に23年度中の物故者67名に対して全員で黙祷を捧げる。扇田会長の挨拶と本部役員の紹介後、来賓の岩崎町長、山田町議会議長、宮本県会議員から祝辞があり、引き続き、長寿会連合会功労賞として、牧野富久太郎前竜田川ネオポリス会長が表彰された。来賓の退席後、一旦休憩し10時40分に再開して議事に入る。議長に選出された日立団地長寿会の守屋勝巳氏の進行で「総会のしおり」に基づいて事務長、担当役員から各項目について説明があり、11時20分に議事が終了し、総会は無事終わった。昼食後、12時20分から恒例の舞台発表会が9クラブから披露され、各クラブは日頃の練習の成果を見事に発揮して、会場から大きな拍手を受ける。15時30分に発表会が終わり、これで総会当日の全ての行事が滞りなく終了した。

● 厳しさを増す社会保障費

▶ 高齢者の健康づくりは自己管理能力で

〈基本方針〉

高齢者が増勢をたどる中、少子化と相まって、全国的に高齢化率が急速に高まっています。平群町においても、65歳以上の高齢者の比率が本年度中には30%を超えて3人に1人は高齢者という超高齢化社会を迎えようとしています。このような状況下で、我々にとって関心の高い国民健康保険財政や介護保険財政がますます厳しさを増すことが予想されるため、我々高齢者自身も健康づくりに自己管理能力が一層求められています。その中であって我々長寿会は、高齢者の主体的立場を堅持し、行政機関や関係団体とも連携を図りながら、地域社会の中核的運動体として積極的に提言を行うなどして、高齢者福祉の向上に努めていく所存です。一方、私たち会員が健やかに過ごしていくためには、従来にも増して会員相互間で支え合う必要性が高まっているので、地区活動を中心に、その風土づくりと体制づくりを行っていくほか、本部の女性部、健康部。伝承交流部、ふれあい情報部の各専門部およびクラブ統括部の活動を、強力に推し進めてまいります。そのためにも、一人でも多くの新しい高齢者仲間の参画が望まれます。

● クラブ助成金の支給始まる

▶ 地域の人々とのつながりを深くする 800人のクラブ活動

先日、手続的には初めてとなる、町のクラブ助成金支給について、クラブ統括部から15クラブ分を一括申請していたところ、7月18日に福祉課から正式に各クラブ分の助成金を、支給するとの通知がありました。

今回の助成金の支給については、当初、各クラブから直接町福祉課宛に申請するようになっていたものを折衝の結果、35クラブについて連合会で取り纏めて一括して申請するようになり、手続きを進めていたものです。

その間に、会則の制定、予算書の作成など、新

しく整えたクラブもあったようですが、合理的なクラブ運営の機会になったとしたら幸いです。

これにより、8月下旬には連合会宛に振り込まれる予定であるので、確認ができ次第、各クラブに均等額7,000円を配分する予定です。

これに先立ち6月29日に開催された第2回クラブ代表者会議において、連合会分の助成金305,200円を35クラブに手渡ししました。昨年度までは、均等割り分と会員数に応じた人数割り分との合計額を支給してきましたが、今回は会員数のみを先に支給しました。

いずれにしても、町の助成金も、連合会の助成金も、貴重な活動資金であるので、延べ880名クラブ員がその趣旨を理解して自身の自己実現に留まらず、交流と親睦が一層促進されて活性化に通じることが期待されます。そして、活発なクラブ活動から、一人でも多くの新しい仲間が長寿会の会員として加入してくれることを切望する次第です。

(辻本)

● 健康部、福貴畑長寿会が 全、県の老連会長賞

▶ 長寿会創立50周年記念事業準備委員会の設立

さる10月11日(木)10時から、かしのき荘新館会議室で、37地区会長、本部役員、参与、顧問が出席して開催され、予定された連絡、報告事項及び本日の議題はすべて原案通り了承・可決されましたので、報告します。特に、昨年に続いて会員増強運動を今年も実施していくことが、決議されました。併せて、数年前に推進委員会で、提唱された友愛交流活動が、未実施地区には一人暮らしの見守りなどの友愛交流活動を改めて検討して、押し進めることも申し合わされました。

● 開館時間延長

▶ かしのき荘 9時～17時

かしのき荘の開館時間は、これまで午前9時から午後4時まででしたが、10月1日から1時間延長し、午前9時から午後5時までに変更されました。

たので、お知らせします。

これは、一部のクラブなどから閉館時間を夕方5時まで延長してほしいとの要望があり、町に要請していたところ、このたび「平群町老人福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則」の一部を改正し、前記のように変更して実施されることになりました。なお、浴場の利用時間は従来通り、月～金の午前11時から午後3時30分まで変更はありません。

なお、施設利用者は、規則で次の事項を順守することになっていますので、今一度確認願います。

- ①許可を受けない部屋または備品を利用しない。
- ②施設を損傷し、または汚損しない。
- ③他人に迷惑を及ぼす行為をしない。
- ④許可なく物品を販売しない。
- ⑤部屋を利用した後は、清潔の保持に努める。

特に、⑤では、片付けない、清潔でないことが散見されるとのことですので、注意をお願いします。

(扇田)

● 17地区から88名参加

▶ 連合会秋季親睦一泊旅行

去る11月26日から27日に亘り、秋季恒例の長寿会連合会の親睦1泊旅行は17地区から88名が参加しバス2台に分乗して晩秋の紀州路を走って那智勝浦方面に出かけました。

初日の阪和道では自動車数台が絡む横転・衝突事故に遭って一時間ほどの渋滞に巻き込まれるアクシデントがありましたが、宿泊するホテル浦島には、ほぼ予定の16時30分に到着しました。ただ、途中の滝尻王子では激しい風雨に見舞われたので、一部の方は 熊野古道館の見学などが出来なくてバス車中での待機を余儀なくされました。熊野本宮大社に到着するころには雨も小康状態になり全員が本殿まで参拝しました。本宮周辺では先般の集中豪雨の被害で背丈以上に水没したとの説明を聞いて、被害の甚大さを思い知らされました。

ホテルは、一日3,000人は宿泊できるというマンモスホテルですので、宴会場や部屋への距離が

長く迷ったり移動に苦勞された方もいたようです。館内に六か所ある風呂場は「温泉めぐり」として有名ですが、6回入浴の「猛者」もおられました。

宴会では、会長挨拶、島若葉台会長の乾杯で始まり、1時間後、何時ものカラオケで盛り上がりました。

翌日は、晴天に恵まれました。那智大社への道路沿いの川にはまだ豪雨被害の爪痕が随所に残っていて復旧作業が進められていました。世界遺産の那智大社へは急な467段の階段を心配するまでもなく全員が登り切り平素の健脚ぶりを発揮していました。

隣接する西国三十三箇所第一番札所の青岸渡寺を参拝した後は日本三大瀑布の一つ那智の大滝を望むことができ、昨日の雨で水嵩が増して一層豪快に見えました。その後、潮の引いた串本町の橋杭岩に立ち寄り、すさみ町のホテルでは有名な「いのぶた料理」の昼食を摂り、思い出いっぱい詰め込んだ我々一行のバスは順調に走行して、予定の18時過ぎには全員無事に平群に帰ってきました。来春の旅行での再会を約してそれぞれが家路に着きました。

(扇田)

平成25年 長寿会連合会の活動

● 平成25年 会長年頭挨拶

▶健康、友愛、奉仕、交流は長寿会の基本理念
地区活動中心に諸活動の積極的な取り組みを

長寿会連合会会長 扇田 修身

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

2,100余名の会員の皆様方にはご家族お揃いでお健やかに平成25年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。当連合会では、昨年も会員の皆様方のご支援とご協力をいただいて、順調に事業活動が遂行できましたことを衷心よりお礼申し上げます。

本年も引き続き、健康、友愛、奉仕、交流の4項目を基本活動理念として、更に充実した内容で諸事業に取り組んでいく所存です。各地区長寿会におかれましても、この理念に沿って有意義な活動を行っていただけるものと期待しております。

昨年を回顧しますと、年末になり衆議院議員選挙の結果、新しく安倍政権が誕生しました。世界の主要国の首長にも変化が現れた年でした。

一昨年の中日本大震災では、未だ避難者が32万人を超え全国で1,200以上の市町村の親戚や公営住宅での生活を余儀なくされています。紀伊半島豪雨でも甚大な被害がありましたが、いずれの地域も1日も早い復興を祈りたいものであります。

当連合会では、健康、友愛、奉仕、交流を合言葉に、各地区長寿会や連合会各部で活発に活動を行っていただきました。本部では、毎月の本部役員会、隔月に全地区会長が出席する理事会の開催などで円滑な運営に努めました。「友愛活動」も再度お願いし、恒例の春秋親睦一泊旅行には述べ118名が参加しました。5月には400名の会員が出席して定例総会を開催しました。

本部専門部では、女性部では、有意義な施設見学や社会見学を行って見聞を広めていただきました。健康部では、6年目を迎えた「かしのき荘」での健康相談室の運営をはじめ、毎月の健康ウォーク、健康づくり研修会、体力測定会のほか、県老連第二回健康ウォークラリーへも連続出場し

ました。諸活動に対しては全老連会長賞も受賞しました。

伝承交流部では、マジックや昔遊びなどで各地区の長寿会や小地域ネットのほか、各小学校からの出演依頼も増えてきました。ふれあい情報部では、全国的にも例を見ない毎月の広報誌の発行では、紙面を充実して長寿会活動の広報と川柳、俳句などの作品発表の場づくりに努めました。クラブ統括部では、クラブ代表者会議のほか、総会後の舞台発表会では9クラブが見事な成果を発表し、第四回作品発表会は、2月開催から本年度は6月に開催する予定で、各クラブとも素敵な作品づくりに取り組んでいただいているところです。また新しく「ヨーガ」「布あそび」「フォークダンス」の3クラブが誕生し、延べ約70名が参加しています。これで38クラブとなり、延べ900人を超える会員が自己実現と交流活動の場として励んでいただいています。

本年も、活動理念を念頭に、地区長寿会と連合会本部が緊密な連携を図りながら、会員相互が楽しみながら各種事業に取り組んでいきたいと考えていますので、引き続きご理解ご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、本年も一人でも多くの新しい仲間が長寿会に加入していただくことを期待いたしますとともに、会員皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

● 明治ヨーグルト館へ 女性部社会見学に参加して

本部女性部 浜崎 晴美

春の柔らかな日差しの下、3月22日に各地区女性部長さんらと貝塚市の明治ヨーグルト館へ出発しました。ヨーグルトの製造に関して何ら予備知識もなく一路貝塚市へ。一時間半後に現地に到着。大手の食品メーカーだけあって甲子園の約4.5倍あるという広大な敷地に、掃除の行き届いた建物、そしてトイレに入る時も必ず手の消毒を済ませないとドアが開かない、という徹底ぶり。

スタッフの方の説明では、日本ではヨーグルト

は明治時代に伝わったということ、乳酸菌には善玉菌と悪玉菌、それに日和見菌（有利な方へ付こうと形勢を伺う菌）があって、からだにはその菌のバランスが保たれることが大事とのことでした。

当工場では一日百万個生産されており、瓶入り牛乳等は主に大阪、奈良、和歌山方面へ、ヨーグルト製品は西日本全域で販売されているそうです。24時間稼働、年中無休なのでメンテナンスが重要で、一か所のトラブルでもストップすることでした。働いているスタッフは見るからに少なく驚きました。飲むヨーグルトと特製のスプーンをお土産にいただきヨーグルト館を後に、近くの国華園へ向かいました。

花好きの女性たちばかりで春の陽気に後押しされて心もルンルン、時の経つのも忘れて花々を観賞しました。花市場だけあって、草花から花木類、盆栽類、野菜類、花壇用品等いろいろあって目を楽しませてくれました。自身も以前から欲しいと思っていた芍薬の変わり品種を買ってきました。

今回もいろいろと社会学習が出来て有意義で楽しい1日でした。皆さん、ありがとうございます。

● 實森先生ありがとう 悠々の郷折り紙教室閉じる

上庄台 繁田 千恵子

平成19年から始まった長寿会の折り紙クラブ、早や6年目を迎えます。

長寿会の会長さんより、悠々の郷へ折り紙ボランティアで、月1回慰問に行ってくださいませんか、との話がありました。

早速、實森(じつもり)先生をお願いをして、悠々の郷で折り紙教室を開いてもらうことにしました。クラブ員3名程が助手として参加し、初心者でも折れるやさしい折り紙から始めました。

折り紙は、やさしいといっても、頭と指先は使いますので、入所者の皆さんは頭の体操になるといって、大変喜んでくれて、一ヶ月後を楽しみに心待ちにして下さいました。

しかし、先生も皆さんが喜んでくれたので、熱心に教えられていましたが自宅から悠々の郷へ歩いて通うのが大変で、特に夏、冬の気候の厳しい時季は無理をされていたと思います。体のこともあり遂に3月で悠々の郷の折り紙教室を閉じることになりました。

實森先生には、大変ご苦勞をお掛けしましたが、悠々の郷の皆さんは大変喜んでくれていたと思います。

先生、長い間ありがとうございました。

● 健康麻雀クラブ総会と第15回記念大会

▶ 優勝は山口 孟氏

4月4日(木)午前9時過ぎから平成25年度の総会を開催し、平成24年度の会計報告を行い、役員の一部変更とルールの変更についての審議と経過報告等と今年度の予定について次の通り行いました。

健康麻雀クラブは平成18年1月に発足し今年で7年になります。毎月2回例会を行っています、そのお手並み拝見ということで平成21年9月に第1回麻雀大会を開催しました。以後、毎年4回麻雀大会を開催し、この度第15回記念の健康麻雀大会を「かしのき荘」で開催する事になりました。また第5回大会からは扇田連合会会長から優勝カップの寄贈を受け、会長杯争奪の健康麻雀大会と名をうって大会を開催しています。今年度の予定は7月、10月、年明けての1月に大会を予定しております。以上が総会のあらましです。さて、今回第15回記念の健康麻雀大会は総会の後引き続き行い、7卓27名が参加しました。

第1回から第15回までの優勝者は、つぎのとおりです。

- | | | | |
|-----|-----|-----|---------|
| 第1回 | 道上 | 勝 | (吉新) |
| 第2回 | 浪谷 | 久恵 | (吉新) |
| 第3回 | 藤井 | 正博 | (竜田川団地) |
| 第4回 | 斉藤 | 賢太郎 | (緑ヶ丘) |
| 第5回 | 柿花 | 愛三 | (菊美台) |
| 第6回 | 田中 | 勝利 | (緑ヶ丘) |
| 第7回 | 二河田 | 徹雄 | (月見台) |

- | | | | |
|------|----|-----|-------|
| 第8回 | 山本 | 敏雄 | (菊美台) |
| 第9回 | 権藤 | 勝 | (上庄) |
| 第10回 | 山本 | 敏雄 | (菊美台) |
| 第11回 | 高野 | 国博 | (緑ヶ丘) |
| 第12回 | 西村 | 欣三 | (月見台) |
| 第13回 | 中川 | 敬子 | (緑ヶ丘) |
| 第14回 | 向田 | 啓次郎 | (椿台) |
| 第15回 | 山口 | 孟 | (春日丘) |

● 平成25年度長寿会 新体制発足

◇ 本部役員

- | | | | | |
|------|----|----|--------------|-------|
| 会長 | 扇田 | 修身 | (再任) | 月見台 |
| 副会長 | 辻本 | 達雄 | (再任) | 榎原 |
| | | | (会計兼任) | |
| 副会長 | 西浦 | 信子 | (再任) | 梨本 |
| | | | (女性部長兼任) | |
| 副会長 | 藤井 | 正博 | (再任) | 竜田川団地 |
| | | | (ホームページ運営担当) | |
| 副会長 | 小林 | 忠男 | (再任) | 上庄台 |
| | | | (健康部長兼任) | |
| 副会長 | 三船 | 忠志 | (再任) | 椿台 |
| | | | (友愛交流活動担当) | |
| 副会長 | 安田 | 稔 | (新任) | 三里 |
| | | | (書記兼任) | |
| 副会長 | 岡 | 嘉道 | (新任) | 椿台 |
| | | | (クラブ統括部長兼任) | |
| 副会長 | 日笠 | 晴正 | (新任) | 若葉台 |
| | | | (クラブ統括副部長兼任) | |
| 会計監査 | 乙倉 | 三郎 | (再任) | 春日丘 |
| 会計監査 | 江村 | 和明 | (再任) | 光ヶ丘 |
| 参与 | 薮内 | 英輔 | (再任) | 上庄台 |
| | | | (ふれあい情報部長) | |
| 参与 | 田尻 | 宏 | (再任) | 初香台 |
| | | | (伝承交流活動部長) | |
| 顧問 | 武田 | 俊雄 | (福貴団地) | |
| 事務局 | 岩上 | 慶治 | (社協) | |

《地区長寿会会長》

- | | | |
|----|----|----|
| 鳴川 | 大塚 | 昭治 |
| 榎原 | 山中 | 実 |
| 椿台 | 三船 | 忠志 |

緑ヶ丘	高野國博	
菊美台	寺本恵成	
槻原	辻本達雄	
西向	前田傳	
上庄	吉本蔦雄	
上庄台	中西素直	
月見台	扇田修身	
梨本	小野建弘	
若葉台	島與一	
ローズタウン	若葉台井戸	暉
御陵苑	田辺幸雄	
吉新	道上勝	
三里	安田稔	
下垣内	小林ゆい子	
平等寺	山崎正俊	
福貴	中谷勤	
初香台	今本良一	
五月台	長岡健次	
光ヶ丘	江村和明	
福貴団地	武田俊雄	
福貴畑	中村隆一	
久安寺	谷口義輝	
信貴畑	浦野昭治	
榎原	植田伊和男	
越木塚	小東八郎	
若井	池田清美	
西宮	西畑茂郎	
春日丘	乙倉三郎	
日立団地	竹田津清和	
椿井	阪口昌弘	
竜田川ネオポリス	牧野富久太郎	
竜田川団地	藤井正博	
北信貴ヶ丘	土井重尋	
信貴山	赤城英子	

●^{はわい}羽合温泉に97名が参加

▶長寿会春季親睦旅行

長寿会連合会会長 扇田 修身

去る4月11日(木)～12日(金)にかけて、連合会恒例の春季親睦一泊旅行に19地区から97名が参加して、初めての鳥取県の東郷湖畔の「羽合」(は

わい)温泉に行ってきました。東郷湖は昔は海続きだったとガイドさんの説明でした。

当日は、8時前から貸し切りバス3台が参加者の各大字を回って西宮名塩サービスエリアに集結して、一路山陰方面へ進みました。2日間、まずまずの天候に恵まれて全行程予定どおりに進行出来ました。

1日目は、途中、美作で昼食を摂り、津山市で国の日本庭園に指定されている衆楽園(しゅうらくえん)を見学後、赤瓦で有名な倉吉市の街並みを散策し、酒工場を見学しました。

羽合温泉のホテル望湖楼には16時20分過ぎに到着し、18時過ぎからは全員で和やかに宴会が始まりました。最近では畳の部屋でも椅子席が用意されているので我々高齢者には大変好評でした。

翌日は、向かいの湖畔にある中国庭園として本格的に建設された燕趙園(えんちょうえん)に立ち寄り、園内を見学後、中国雑技団の見事な演技を觀賞しました。

見学後、鳥取砂丘に向かい昼食後、多くの方はロープウェイで砂丘入口まで降りましたが、生憎の強風で砂塵が舞い上がるので直ぐ引き上げる方が多かったようです。初めてで楽しみにしていた方々には大変残念でした。帰路、鳥取歴史博物館を見学して18時前に全員が沢山のお土産と一緒に無事平群に戻ってくることが出来ました。また秋の旅行を楽しみにお待ちしております。

●平成25年度 定例総会開催

▶扇田会長あいさつ

長寿会連合会会長 扇田 修身

みなさま、おはようございます。

先月の平成25年度第一回理事会におきまして、伝統ある長寿会連合会の会長に再任され就任いたしました扇田修身でございます。

会長として、5期目を務めさせていただくことになりましたが、役員の皆様方と37地区会長さんをはじめ、2,158名の会員皆様方のご支援とご協力をいただきながら、引続き精いっぱい務めさせていただく所存ですので、どうかよろしくお願い申し上げます。

本日、ここに平成25年度の定例総会を開催いたしましたところ、大勢の会員の皆様方には早朝よりご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様方には、私たち長寿会のために公私何かとご多用にもかかわりませずご臨席を賜りまして、会員を代表いたしまして衷心より厚くお礼を申し上げます。

平素は、私たち長寿会に対しまして格別のご高配とご支援をいただいておりますことを、本席をお借りして重ねてお礼を申し上げる次第でございます。

さて、我が平群町の65歳以上の高齢者は6,000人を超えて、人口に占める割合も30%を超えており、いよいよ3人1人は高齢者という超高齢社会が現実となりました。

このように人口構造が大きく変わっている中で、私たち長寿会は、永遠の課題であります「**健康**」、「**友愛**」、「**奉仕**」、「**交流**」の四つの活動理念に対して組織を上げて取り組んでまいりました。

そして、更に平群町における中核的組織団体として「明るい町づくり」に貢献できるよう、町の各種団体・委員会・協議会にも役員を派遣してまいりました。

また、私たち自身でも、各地域での活動や連合会本部が推し進める、女性部、伝承交流部、ふれあい情報部、健康部の各専門部とクラブ統括部を中心とした38のクラブ活動を通じて、それぞれが自己実現を果たしつつ、社会的責任も併せて果たしていくことが肝要であるとの考え方に立って各種の事業活動に取り組んでまいりました。その中で、幾つかの具体的な取り組みについてご報告させていただきますと、

まず、「**健康**」では、私たち高齢者が病気年齢と言われているなかで、自身が「健康づくり」に努めることが基本でありますので、連合会本部では、県下でも例のない「健康部」を設置するとともに、各地区にも健康委員を配置させていただいて、会員さんへの周知徹底を図っているところであります。

具体的には、7年前から、①健康診断の受診啓

発活動、②体力づくりのための、体力測定会の実施、毎月の健康ウォーク実施の他、③かしのき荘における会員看護師さんの協力で「健康相談室」の運営などを積極的に実施してまいりました。

特に、健康診断の受診啓発では、町健康保険課とも連携を密にしながら、健康診断の受診率の高い都道府県ほど高齢者一人あたりの医療費が安く健康寿命も長いという実態に鑑み、私たち高齢者の「生活の質の維持・向上」にもつなげられるよう推し進めているところです。

次に「**友愛**」活動では、高齢社会を迎えて、「無縁社会」が進行している憂慮すべき地域社会にあって、わたしたちが「高齢者相互支援活動」がどうしても必要であるとの認識に立って、長寿会の仲間同士で地域の実情に即して推し進めていただきたいのであります。

当連合会では、広報誌「ふれあい新聞」を全国的にも例のない毎月発行していますが、配布の際には1人住まいの会員の方などには、単にポスティングするだけでなく「ご機嫌伺い」を兼ねて「一声」声掛けをしていただくようお願いしています。

「**奉仕**」活動では、私たちは常に奉仕の精神が肝要でありますので、児童の登下校時見守り活動、清掃活動、高齢者施設への慰問活動などで、少しでも地域社会のお役に立つ存在でありたいと考えています。

最後に、「**交流**」活動では、各地区での月例会の実施のほか、連合会には、県下でも有数の38のスポーツ系と文化系クラブを設立して延べ約千名の会員さんが活発に活動を行っています。この38クラブは全国でも唯一当連合会だけの自慢すべきクラブ数であります。

また、4年前から始めた「作品発表会」も、年々、丹精込めた素晴らしい手作り作品を発表していただくようになり、皆さん方の創造力の大きさに感心させられています。

同時に、他のクラブにも「会長杯」カップを贈らせていただきましたが、クラブ員の活動意識高揚のために有効に活用していただいているところであります。

したがいまして、更に新しい会員仲間の加入を促し、長寿会組織の一員として参画することで、社会問題となっています高齢者の「社会的孤立」など、無縁社会の予防に向けても「交流活動」を促進して、社会的役割を果たしていければと考えております。

このようにして、私たち自身が自立と連帯の精神を大切に「明るく優しい街づくり」に少しでも役割を果たしていきたいと考えておりますので、会員の皆様方には引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりましたが、来年は長寿会連合会創立50周年の記念すべき年を迎えます。現在、準備委員会を立ち上げて、意義ある事業を実施したいとの思いで協議を行っていただいているところであります。記念式典の時期などはまだ確定的ではありませんが、昭和39年10月22日が長寿会連合会の創立日でありますので、来年秋ごろが適当ではないか？と考えております。その節には多くの方々に参加をしていただいております。お祝いをお願いしております。

結びになりましたが、会員各位の一層のご健勝を祈念いたしますとともに、本日ご臨席賜りましたご来賓各位の今後のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、引き続きご支援賜りますことをお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

● 20周年記念コンサート

▶ シルバーオックス（コーラス）

コーラスクラブ代表 江崎 俊夫

長寿会連合会のコーラスクラブ、シルバーオックスの創部20周年記念コンサートを去る5月26日（土）中央公民館大ホールで開催いたしました。内容についてはこの紙面でも、ポスターやチラシなどでも繰り返しご紹介させていただきましたので、改めて紙面を汚すことは避けませんが、本当に多くの方々にご来場いただきました。会場に用意した約200席の椅子も満席になり沢山の熱いご声援をいただきました。この紙面をお借りして改めてお礼を申し上げます。

このコンサートを振り返ってみますと、なんとか順調に進行できたのはメンバー全員が力を合わせた結果であったと思います。

指導者の先生にアドバイスをいただきながら、一人一人が与えられた仕事を期待以上に見事に成し遂げてくれました。ポスターを作ればプロ顔負けのポスターを、看板を書けば見事な黒色筆後で、振り付けをすれば若者のごとく振る舞うなど、改めてコーラスクラブには優秀な人材が集まっておられることを実感した次第です。

一つの行事をすれば、隠されていた個人の能力が現れ、メンバー間の理解が深まり、また結束が固くなることも実感しました。今のコーラスクラブのメンバーであれば、何をやっても素晴らしいことができるのではないかと感得されてなりません。

コンサート当日には、岩崎町長と扇田会長にご祝辞をいただき、また中央公民館やかしのき荘で力になってくださった方々など、数多くの支えていただいたお蔭で、無事記念コンサートを終えることができました。重ねて厚くお礼を申し上げます。

● 第4回 作品発表会開催

▶ 初参加の「布あそび」など10クラブ参加、見学者の感嘆と称賛の声相次ぐ

副会長・クラブ統括部長 岡 嘉道

去る6月28日（金）と29日（土）の2日間に亘り「かしのき荘」新館会議室を主会場として、本年度で4回目となる作品発表会を10文化クラブ会員の方々の参加者を得て盛大に開催することができました。また、ロビーでは茶道部の皆さんによるお茶席を開設していただき、来館中の一服の場として2日間で207名の方々にご利用いただき、発表会に花を添えていただきました。本当にありがとうございました。今回出展いただいたクラブは、編み物、川柳、アートフラワー、リフォーム手芸、陶芸、パソコン、折り紙、木目込み人形、絵がみ、布あそびの十クラブで昨年より一クラブ増えました。

初めて参加された「布あそび」クラブは、昨年

11月に発足した新しいクラブですが、布地を使った可愛らしい創作小物を出展され、おしゃれに登場されました。

今回は、従来の反省を踏まえて開催時期を2月から6月に変更して開催しました。お蔭で天候にも恵まれて多数の方々にご来場いただきました。また岩崎町長にも時間を割いてご来場いただき高齢者の創作力とパワーを感じ取っていただいたものと思います。厚くお礼を申し上げます。

また多数の力作を出展いただいた各クラブ会員の皆様、運営にご協力頂いた役員の皆様方に心より感謝申し上げます。

● 育成功労賞受賞して 県老人クラブ連合会長賞

長寿会連合会顧問・福貴団地会長 武田 俊雄

去る7月6日(土)奈良県社会総合福祉センターで開催された県老連創立五十周年記念大会で、仲村勇会長から「老人クラブ育成功労者」の表彰を受けました。

これは偏に福貴団地長寿会の皆様はもとより、長寿会連合会役員をはじめ会員の皆様、事務局の方々のご支援、ご協力の賜物であります。心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、平成15年2月に福貴団地長寿会会長に前任の小林太一会長(故人)の後を受けて就任いたしました。同年5月の連合会理事会で副会長に選任されました。19年4月には前任の村木實会長(故人)の後を受けて八代目会長に就任することになりました。

連合会長在任中(～21年3月)は当連合会の主要な柱であり継続事業である仲間づくり活動(会員数拡大月間の推進、クラブ数の増強、ふれあい情報による広報活動)で、全国老人クラブ連合会長より第1回「活動賞」を受賞しました。また民生児童委員協議会や自治連合会との連携による地域密着型の「友愛ふれあい活動」の取組み、ならびに会員以外の一般高齢者や関連団体対象への広報活動としての「ホームページ」を開設しました。

平成21年3月には連合会長を退任し顧問に就任しました。お蔭さまで平成15年から10年余りに亘

り連合会の運営に携わってきたことが今回の表彰につながったものと嬉しく思っています。ありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 介護保険制度について

▶ 女性部・健康部合同研修会開催

女性部副部長 日下 多喜子

去る7月2日(火)10時から、かしのき荘新館会議室において地区女性部長、地区健康委員など46名が出席して、関心の高い「介護保険制度」について、福祉課の浅井主任、新子主事から説明をいただきました。

内容は、町が発行している「みんな笑顔で介護保険」の冊子を中心に進められました。

多くの長寿会会員が関心のあるものの、知らないこと、分からないことが多く興味深く研修させてもらいました。

殆どの方が年金から引かれている介護保険料ですが、平群町は全国的にみて決して高い方ではないと説明されました。介護保険サービスの財源は、私たちが納めている介護保険料50%と公費50%で賄われています。

現在町内で介護認定を受けている人は1,000名を超えているそうです。

介護を受けるためには、認定をしてもらわなければならない、申請から認定まで約30日かかるとのことでした。認定後、ケアプランを立て、それに基づいたサービスを受けることになります。介護サービスの種類、費用、町内や近隣の施設、事業所等についても教えていただきました。

2人の方の事例を挙げて、どういう状態で、どんな介護サービスを受けているのかを分かりやすく説明されました。

説明後の質問のときには、家族の方の介護認定についての疑問が次々に出されました。私自身も母親が認知症になった時、認定に関して疑問、不満を持っていたので、意見を言われた方々の気持ちが良く分かりました。福祉課の方には、実際に介護をされている方の気持ちを活かして欲しいと思いました。

● グレースの里など見学

▶女性部32名、町バスで

女性部会計 藤井 美佐

去る8月2日(金)女性部の施設見学として、地区女性部長など32名が町バスを利用して、午前中は奈良市登美が丘にある「松伯美術館」を、午後は越木塚にある介護老人福祉施設「グレースの里」を見学しました。

松伯美術館は、旧佐伯邸(元近鉄佐伯 勇会長)の敷地の一角に建設されて、館内には上村画伯親子、松園(しょうえん)、松篁(しょうこう)、惇之(あつし)三代の素晴らしい日本画を心行くまで鑑賞しました。描かれている鳥が今にも飛び出しそうな姿、また人物については表情豊でうっとり引き込まれそうで、楽しいひと時を過ごすことができました。

そして、「梅の花」での昼食後は「グレースの里」へ出向き、まず施設全体の説明を受け、利用できる介護サービスは①介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム「特養」)②ショートステイ(短期入所)③デイサービス(通所介護)④グループホーム(認知症対応型共同生活)と、別の場所にある・居宅介護支援事業です。

①特養は、常時介護が必要で在宅での介護が困難な人が入所して24時間365日サービスが受けられます。入所判定は要介護1～5の方で申込順の他、救急の必要性などを考慮して決定されます。

②ショートステイは、家族の冠婚葬祭や介護疲れなど家庭的に何らかの理由により短期的(原則1回連続30日以内)入所して介護サービスを受けることができます。利用料は、要介護度、部屋の種類等によって決定され、自己負担は介護保険分に係る一割と食事代などの実費が必要です。

③デイサービスは、通所型で自宅から施設までの送迎と食事、入浴、機能訓練、健康チェックなどを受け、外出して他者との交流などで自立と生きがいを目指します。利用料は要介護度により介護保険分の1割と食事代などの

実費が必要です。

④自立を図るなどで自立した生活を目指します。利用料は入所一時金、部屋代、食事代などの実費と介護保険部分に係る一割が必要です。

⑤居宅介護支援事業は、在宅で生活する様々な介護相談を受けて介護計画を作成やサービスの種類、紹介など在宅での生活がより安心してできるよう支援します。

最後に感想として、職員の方々の明るく笑顔で仕事をされているのが印象的でした。他人事ではなく自分も何時お世話になるか判りません。それまで健康に注意して、微力ですが、社会に役立つ何かがあればしていきたいと思いました。

● 坂上有利氏総理大臣表彰

▶男女共同参画などの社会づくりで

長寿会会員(吉新長寿会)の坂上有利氏は、このたび男女共同参画社会づくり功労者として、内閣総理大臣表彰を受賞されました。(詳細は町広報誌8月号でご紹介)坂上氏は、昭和62年4月に平群町婦人会会長、昭和63年4月には生駒郡地域婦人会会長、平成6年4月には奈良県地域婦人団体連絡協議会会長に就任されました。この間、一般的でなかった時代から男女共同参画社会実現に向けて、新聞や奈良県地婦連などの会報誌を通じて、訴え続けて女性の社会進出への大きな力になり、その後の女性の社会的地位向上や男女共同参画社会づくりに大きな功績を残されました。

● 宮前 清和氏瑞宝双光章

▶永年の社会活動の功労に対し

元長寿会連合会会長の宮前 清和氏(西宮長寿会)は、このたび瑞宝双光章(叙勲)を受章されました。(詳細は広報誌8月号でご紹介)

宮前氏は、昭和20年9月から教職に就かれ昭和61年3月に定年退職されるまで40年6カ月間に亘り児童教育にご尽力されました。退職後は町社会福祉協議会福祉活動専門員、民生児童委員、第6代長寿会連合会会長としてご活躍されました。現在は長寿会の伝承交流活動部に所属し、幼稚園、

小学校等児童への伝承活動を続ける傍ら、手品クラブなどで各地各方面への出演などで活躍されています。

● 知事賞を受賞して

上庄台長寿会会長 中西 素直

このたび活発な長寿会活動を行っているとして、去る9月13日県庁会議室において奈良県知事表彰を受賞いたしました。

当連合会には、他にも活発な活動を続けておられる多くの長寿会がある中で、名誉ある表彰をいただき恐縮しています。

たまたま私の会長時代に受賞ただけで歴代の会長さんをはじめ会員78名の皆さん方と一緒に喜びを分かち合いたいと思います。

思い起こせば、40年前に私が上庄台の自治会長をしていた時に、現小林副会長のお母さんが自宅に來られて、上庄台に家を建てて転宅されてきた人達も徐々に増えてきたので「老人会」を作って欲しいとの要望をいただきました。早速数人の方々が中心になって立ち上げたのが始まりです。そして今日の受賞につながったわけで、私には感慨深く何か運命的なものを感じます。これからも上庄台長寿会の活動目標である「自分のことは自分です」をモットーに多くの会員仲間と一緒に元気で楽しい交流を続けていきたいと思っています。地域の皆さん方には引き続きご協力とご支援をお願いします。

● エイジレスライフ章

▶ 受賞の喜びと皆さんの支えに感謝

ふれあい情報部長 藪内 英輔

私が賞を戴くのは、40年近くつとめた現役時代の若い頃で、後にも先にもこれ1回だけでした。

今回は人生二度目の賞で、80を過ぎてこんな素晴らしい賞を戴くのはまさに、じえ、じえ、じえです。

このエイジレスライフ章は、森まさこ内閣府(消費者・少子化)特命担当大臣から戴いたもので、年齢にとらわれず、ふれあい新聞の編集を長く続けたことに対するものですが、内実はふれあい情

報部に対するものだと考えます。

会員の皆さんのご支援と励ましと、扇田会長の推薦なくしては受けられなかった賞で、紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

ふれあい新聞は、長寿会の機関誌で、役員会の議事の内容や、長寿会地区活動、クラブ活動、女性部活動、健康部活動、伝承部活動などの活動状況を皆さんにお知らせすると共に会員の投稿記事を掲載しています。これらの記事を載せた「ふれあい」新聞を、全会員の皆さんに配ると共に行政関係や関連団体にもお届けしています。

これは、会員間や地域関係の連携を深め、融和をはかると共に、会員増員にも役立っています。これからもふれあい新聞は、長寿会の情報発信基地として、皆さんのお役に立つよう尽くしていきたいと思っています。

最後になりましたが、この賞は、ふれあい新聞20年の歴史を作った先人の汗の結晶の賜物だと思います。先人にも厚くお礼を申し上げます。

● 秋季1泊親睦旅行 16地区100名が参加

▶ 紅葉と桜を同じ場所で観る

長寿会連合会恒例の秋季親睦一泊旅行は、11月28日(木)～29日(金)に愛知県、岐阜県方面へ、両日ともまずまずの天候に恵まれて紅葉真っ盛りの旅を満喫してきました。

早朝、平群各地からバス3台に分乗した16地区の100名が出発し、愛知県知立で昼食を摂り、その後、今回の旅行目的のひとつである豊田市郊外にある小原ふれあい公園の「四季桜」を見物しました。この時期に紅葉と桜を同じ場所で観ることは全国的にも珍しく、公園だけでなく一万本が地区内のいたる所に分布し観光名所となっています。桜はマメザクラとエドヒガンの種間雑種と言われ、春と秋に咲きますが秋の方が見応えがあるとのことで絶好の時期に訪れることができました。

宿泊の下呂温泉水明館には夕方16時30分に到着し、18時30分から大広間で恒例の懇親会が始まりました。宴会はリクエストどおり椅子席に着席し

たので高齢者にとっては好都合でした。食事が一段落した一時間後には何時もの余興に入り最初に福貴畑の中村さんの素敵舞踊を見た後、3台のバスから選抜された12名のにわか歌手のカラオケで盛り上がりました。楽しい宴会も2時間後の20時30分にはお開きとなりました。

翌日は、臨済宗妙心派の禅昌寺(ぜんしょうじ)に立ち寄り、寺宝とされる有名な雪舟筆大達磨の別名「八方にらみの達磨」を観ることができ、眼光是さすがに襟を正しめるものがありました。風光明媚な中山七里を車窓から眺めながら、夏には三十二夜踊り続け国の重要民俗文化財に指定されている「郡上おどり」で有名な郡上八幡を訪れました。郡上おどりは、特に8月のお盆には4日間徹夜で踊りぬくことで知られています。昼食前に八幡の街並みを三々五々散策しました。城下町の風情は辻の突き当たりにお寺が配置され、袖壁、格子づくりの家々の軒下には清らかな用水が流れており、整備された歩道と静かなたたずまいが印象的でした。

昼食後、東海・北陸道、東名阪、西名阪国道を通り18時過ぎに全員無事に平群に戻ってきました。なお、今回は、来年4月10日前後実施を目途に計画しますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

(扇田)

● 県老連女性部研修会

▶ 老人クラブでの女性部の存在と役割

女性部副部長 日下 多喜子

昨年11月29日(金)県社会福祉総合センターで開催された「創造と連帯の輪を広げて心豊かな21世紀を」には、県下老連女性部の方々約100名が参加しました。

当連合会からは本部女性部3名が出席しましたので、概要を報告させていただきます。

まず、県老連本部の奥田女性部長からは基調報告があり、全老連の女性委員会の事業計画、10万人会員増強運動実施中等の報告があり、資料として各市町村の女性部の組織体制、活動状況を掲載した冊子が配布されました。

講演は、千葉縣市川市社会福祉協議会会長の伊予久美子が「輝け女性リーダー 地域で生き生きと暮らし続けるために」を演題として、

- 社会の現状と課題
- 社会福祉協議会の存在・役割
- 老人クラブ(特に女性部会)の存在・役割、を骨子として説明がありました。

当社協では、災害時のボランティアの受け入れ態勢とその訓練、無縁物故者の法要のほか、放課後の保育クラブ(学童保育)などもされているとのことでした。また、老人クラブでは、1人暮らし高齢者を対象に「シングルパーティ」を開催する等何時までも生き生きと活動できるようなものをされています。そして、独自に作成しているものとして「心の遺言ノート」と「未来のあなたへ」についても紹介されました。いずれも女性部活動への元気をもらえる貴重なお話でした。

● ふれあい情報部に全老連「活動賞」

▶ 皆様のご支援と先人の遺産に感謝

ふれあい情報部長 数内 英輔

「おもてなし」をテーマに2020年の東京オリンピック開催が決まった。オリンピックのシンボル五輪マークは、五大州、すなわち世界を表し、世界平和のために世界の人が手をつなぎ、仲間になることを意味している。全老連でも2008年(平成20年)に仲間づくりの「活動賞」を新設した。これは老人クラブが、仲間づくりを広め、推奨するためのものである。平群町長寿会は、第1回目に活動賞を受賞し、全国の10事例に選ばれている。その後も長寿会では、活動賞の受賞が相次ぎ、今年は「ふれあい情報部」が受賞することになった。

ふれあい情報部の「ふれあい」は、よき仲間を作り、よき社会をつくる、という意味でつけられた名前です。はからずも今回、ふれあい部会の「活動賞」に選ばれ受賞することになりました。

これは、情報部が20年もの長きに亘って新聞を作り、仲間へ情報を送り続けた努力が認められたことと思っていますが、それを支え、協力してくれた会員の皆さん、会長、役員の方々の尽力なくしては、受けられなかった賞です。紙上を借りて、

厚くお礼申し上げます。

ふれあい情報部は、毎月7人の編集委員が集まって、定例の編集会議を開き、編集や企画について話し合います。そんな中で出てきたのが「クラブ活動」「長寿会地区活動」「気をつけてますか！老後の健康」の連載です。

長寿会地区活動とクラブ活動は、数多くある長寿会の活動の中でも二大活動といえるものです。37ある長寿会地区活動と38あるクラブ活動には、毎月500人前後の会員が集まり親睦をはかっています。

地区活動では、地域に密着した奉仕作業やユニークな活動を続ける地域活動などがあり、クラブ活動では、明るい元気な会員が集まって学習を重ね、研鑽を積んでいます。

こんな活動状況の投稿をお願いし連載して、皆さんにお知らせしています。

また、老人ホームの慰問などで活躍する女性部、児童などと世代間交流する伝承交流部、健康相談室を設けるなどして会員の健康を支える健康部などの活動も、その都度掲載して皆さんにお知らせしています。

ふれあい新聞は会員全家庭に配布し、地域との連携を図るため、行政関係部や関連機関にも配布しています。ふれあい新聞は、このように皆さんの声となり、目となり、また仲間づくりのカギとなって情報を発信しています。

最後になりましたが、この賞は、先人の遺産と苦勞の賜物で、先人に感謝すると共に、喜びを分かち合いたいと思います。ありがとうございました。

平成26年 長寿会連合会の活動

● 今年は長寿会結成50周年 本年も長寿会の活動理念の推進 にご協力を 《新春あいさつ》

長寿会連合会会長 扇田 修身

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。37地区長寿会と2,200名の皆様方には、お健やかに平成26年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、長寿会の活動に何かとご理解を賜り、有り難く厚くお礼申し上げます。本年も昨年同様、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当連合会は、健康、友愛、奉仕、交流の4つを基本理念として諸活動に取り組んでいますが、各地区におかれましても、この活動理念に沿って積極的に活動を行っていただいているものと思われます。

昨年を回顧しますと、2月には安倍首相がTPP交渉の参加を表明、5月には富士山が世界遺産に決定、8月には国の借金が1千兆円を超えたと発表、9月には2020年夏季五輪・パラリンピックの開催が東京に決定、10月には有名ホテルなどでの食材の偽装発覚、11月には中国が防空識別圏を設定、特定秘密法案成立など、内外に話題の多い1年でありました。年末には、世相を表す漢字として「輪」が発表されました。

また、東日本大震災による避難生活者は、現在でも27万8千人にも上り、全国47都道府県の1,200市町村に及んでいます。私たちも被災者の気持ちを忘れることなく、1日も早い復興をお祈りしたいものです。

一方、連合会では、各地区の定例会をはじめ、本部の女性部、伝承交流部、健康部、ふれあい情報部、クラブ統括部もそれぞれに初期の計画に沿って活動を行ったほか、会員自身でも交流活動と自己実現のために、38愛好クラブで延べ1,000名が活発に活動を行っていただきました。5月には400名が参加して定例総会が盛大に開催され、

引き続き舞台発表会では7クラブが、6月には作品発表会に9文化クラブが、日頃の学習の成果を発表していただきました。

本年も、引き続き活動理念を念頭に積極的に事業活動を推進していきたいと考えていますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

なお、本年10月には長寿会連合会が発足して満50年の節目にあたります。現在、催行部会、記念誌編纂部会、記念品部会の3部会に分かれての記念事業準備委員会で、協議と準備をしていますが、本事業を通して皆様方と一緒に祝いしたいと考えています。

また、平群においても団塊の方々が大勢現役を退かれています。現在会員増強運動を実施中ですので、皆様方のお声掛けで1人でも多くの高齢者仲間が長寿会活動に参画していただくことを切望します。

末筆ですが、会員皆様方の一層のご健勝と充実した平成26年となりますことをご祈念申し上げ新春のご挨拶とします。

●手づくりファッション 女性部50周年記念出演へ

あなたの元気をお裾分けしていただけませんか。ご存知のように、平群町長寿会連合会は、創立されてから今年10月で半世紀になります。めでたく50周年を迎えるにあたって、女性部でも記念事業への出演の話が持ち上がり「手づくり・ファッション」は如何か？となりました。

箆笥に眠っていた和服、洋服から手編み作品を流用し、無地のTシャツに素敵な柄を染色して、お洒落な余所行きに変えてみませんか。今から心の準備していただいて、自作自演で、手づくりファッションを華やかに盛り上げてください。10人10色、皆様の意欲ある作品をお待ちしています。

応募は、地区女性部長さん宛に1月末日までにお申し出ください。作品は後日になっても結構です。よろしくお願いします。

●高齢者の孤立を守る友愛活動 活動の推進は先ず体制づくりから

副会長・友愛活動推進担当 三船 忠志

平群町では、総人口に占める60歳以上の高齢者の方々の割合は40%強になりました。特に、新興住宅では入居者の多くが同世代で、子育ても終わり若者が巣立った後、残された住民の50%（2人に1人）が60歳以上という深刻な状況にあります。地区によっては事情が異なるものの、今後、住民相互の「支え合い」が一層求められます。

平成20年6月に「友愛活動」を連合会理事会で取り組んでいくことについて、議決をしていただいておりますが、実施されている地域は少ないように見受けられます。

長寿会連合会では、早くから友愛交流活動推進の重要性に着目して、女性部を中心に各クラブや伝承交流部などの協力を得て、積極的に高齢者福祉施設を慰問するほか、小学校・幼稚園に訪問し、世代間交流にも力を注いできました。

一方、最近では高齢者の孤立（孤独）が社会的な問題になっていますが、80歳以上の高齢者の方に外出しない理由を調査した結果によると、第一位は「身体や健康に自信がない」でありました。寒くなると外出する機会が減少し、次第に社会との接点を失い、いわゆる家庭での「閉じこもり」が常態化します。これが原因となって健康の悪化を招き、中には孤立死という最悪の事態に至ることもあります。

その対策の一例としては、

- A. 集いの場（サロン）つりです。例えば、歩いて行ける処の空き家を確保し、コーヒーが飲めて、そこに行けば話し相手がいる。弁当も一緒に食べて帰っていく。別の地区ではモーニングサービスを400円で週2回提供している。高齢者は、オープンを待ちかねて並ぶという。「サロンづくり」には、地区に応じて色々な形が考えられます。
- B. 小地域ネットワークや長寿会の催しへの参加を誘い合って一緒に参加する。
- C. 必要と思われる「生活情報」を作成して届け

る。その際困りごと等を聞いてみる。この場合は、届け先を特定し、誰が担当（複数で）するか、を具体的に決める体制づくりが、大切なことと考えます。また、問題を自分で抱え込まないで、町包括支援センターや民生委員に連絡して、解決にあたってもらうのが良いのではないかと思います。

このようにして、各地区によって事情は異なりますが、今年の連合会の共通・重点目標として、孤立防止活動（見守り活動・安否確認・閉じ籠り防止）を推し進めたいと考えています。各地区独自の友愛活動が、会員仲間の温かい協力で一層深まることを期待しています。

● 新春健康麻雀大会、優勝は藤井達也さん

健康麻雀クラブでは新年を祝って「新春杯」第18回麻雀大会を、先日28名が参加し、賀正あいさつをなごやかに交わしてから、半荘1時間20分の持ち時間で、3荘戦合計の成績で熱戦がくりひろげられた。

クラブ創設以来のベテラン会員である藤井達也さん（椿台）が、常に安定した打ち回しで待望の優勝杯を獲得した。

岩永喜行さん（平等寺）は、新年早々「役満」をあがり、一挙に2位に躍り出た。

なお、優勝者、藤井さんの奥さんである千代美さんは堂々の5位、ご夫婦揃って入賞というお目出度い「初打ち」となった。

入賞者の氏名は次の通り。

- 優勝 藤井 達也（椿 台）
- 2位 岩永 喜行（平等寺）
- 3位 中川 彰（緑ヶ丘）
- 4位 畦間 豊美（緑ヶ丘）
- 5位 藤井 千代美（椿 台）

● 食の源、醤油、味噌を学ぶ

▶ 女性部社会見学、伊賀醸造元へ

去る3月12日、昨日までの寒さはどこへやら暖かい晴天に恵まれて、25年度女性部（部長・西浦信子）最後の事業の社会見学を実施しました。お

忙しいところ参加してくださった本部役員の皆様、事務局の岩上事務長様、ありがとうございます。

総勢31名は、町バスで見学先の創業明治6年、自然に恵まれた山の郷「伊賀」の天然醸造を守り続けている（株）伊賀越を訪れました。先ず、醤油、味噌、のできる工程をビデオで詳しく学び、その後佃煮などの試食をさせていただきましたが、どの製品もとても美味しかったので、参加者は土産の品選びを楽しみました。

市内で昼食後、昭和10年に川崎克氏によって復興された上野城天守閣を見学して、帰路に着きました。途中思いがけず、月ヶ瀬梅林が見頃になっていたのもその優雅さを堪能さえてもらいました。帰りの車中は賑やかなお喋りで、見学先の話題に花が咲き、楽しく心に残る有意義な社会見学となりました。

● 地区とクラブの活動は長寿会の原点

▶ 手狭になった活動の場、かしのき荘の増室を

「クラブ」という呼び方は、全国老人クラブ連合会をはじめ、奈良県、生駒郡も全ての連合会は、大字とか地区の単位をクラブと称し、そのクラブで連合会が構成されています。当長寿会連合会も「大字」の地区長寿会が単位となって構成されていますので、実質的には同じです。

しかし、私たちが日ごろ使っている「クラブ」とは、当連合会ではカラオケクラブ、健康麻雀クラブ、ヨーガクラブ、などの愛好クラブ（以下クラブという）を指していて、他の老連での呼び方とは少し異なります。大切なことは、大字で構成される長寿会は地域社会と緊密な関係を重視しており、決して孤立した団体ではないのです。

現在、当連合会のクラブで活躍している会員は延べ千名に達し、クラブの数も37を数え、たぶん全国市町村老連の中で最多のクラブ数と思われます。

長寿会連合会の活動理念は言うまでもなく、健康、奉仕、友愛、交流の4項目ですが、中でもク

ラブ活動は、長寿会連合会の主要な事業活動であり「交流」活動を推し進める基幹事業として位置付けています。

昨年11月より会員増強運動を推し進めています。が、まずは長寿会のクラブ活動に参加したいとの希望者も多いことから、このたび「長寿会クラブ活動のご案内（緑色A3判）」を作成して、37クラブの活動状況を紹介していますのでご活用ください。

クラブの活動に参加するためには、先ず地区の長寿会員になることが「条件」として規約に定めています。しかし、1部にはこれに反して会員活動を続けているクラブも見受けられますが、あくまで長寿会連合会が運営するクラブであるため、町の中央公民館活動とは目的が異なることを理解していただきたいのです。

現在の37クラブには、アウトドアが2クラブ、インドアは35クラブありますが、この他にも新しいクラブ設立への要望も根強くあります。しかし、インドアの場合は、活動する会場が現状の「かしのき荘」の会議室だけでは賄い切れず、大変困窮しているのが実態です。この状況下で、クラブ同士が毎月の利用制限を余儀なくされたり、半日単位の利用で我慢するなど、お互いに譲り合って利用していますがこれも限界です。

高齢者が急増している現状から、町老人福祉センター「かしのき荘」が高齢者のコミュニティーの場として、憩の場として、また自己実現の場として、更に推し進めていくためにも、町には早急に増設、増室を切望する次第です。

なお“クラブ活動には熱心でも、地区の例会などへは不熱心で出席者が少ない”という不満が地区会長にあることも事実ですが、クラブ活動を通じて面識が広がっていく中で、地区活動の例会にも参加しやすくなるものと思われます。前述のように、連合会の組織は、構成する地区（大字）が原点にあることから、地区の会員が相互に理解し合って、地区の例会が有意義に運営されることを期待しています。

（扇田）

● 椿台麻雀大会

▶ 優勝 武田 勝則さん

椿台健康麻雀クラブは、2年前会員13名で発足。飲まない・賭けない・吸わないを条件として、毎月3回開いています。発足当時は、レベルに大きな差があり、会員の武田勝則さんを講師として初心者向けの勉強会を開き、その時その時に分かりやすい指導をうけながら、やっと大会を開くことが出来るようになりました。

2月9日椿台会館で三卓を囲み真剣勝負を繰り広げました。

入賞者は次のとおりです。

優勝 武田 勝則

2位 明石 賢三

3位 村岡 繁樹

今回は、ベテランの方々が良い成績を収めましたが、特に2位の明石さんはクラブの中で1番の高齢者です。「楽しかったわ」と満面の笑顔。対戦中は、和やかな会話の中にも、時折指先には力が入り、その打つ姿は生き生きとして1段と若返って見えました。

健康麻雀は、地域の皆さんと情報を通して、支え合う気持ちが生まれ、引きこもりを防ぐ交流の場になればと思っています。第2の人生を歩んでいる人、つれあいをなくして1人暮らしの人など、思い切って参加してみてください。

これからは、会員同士はもちろんのこと、他の地域の方々との交流も持ち、大きな輪が広がれることを願っています。

● 役員改選、扇田会長など8名が再選

▶ 新任に森輝子女性部長・田辺幸雄氏が会計監査に

去る、4月24日(木)かしのき荘新館会議室において、第1回理事会を37地区会長、本部役員が出席して開催されました。当日予定された議題は全て原案通り承認・議決されましたので、ご報告いたします。なお、本部役員は全員が1年間の任期満了となりましたので、5名で構成する役員推薦

委員会は、扇田会長はじめ8名を再任、2名の新任を土井委員長から提案して、満場一致で承認されました。また、会長から2名に、引き続き参与を委嘱されました。次いで、西浦信子前副会長兼女性部長と道上勝前吉新長寿会長には、連合会規約に基づいて感謝状を5月16日開催の総会席上で贈呈されることになりました。

平成26年度の本部役員は左記の通りです。

会 長 扇 田 修 身（月見台）（再任）

副会長 辻 本 達 男（樺 原）（再任）

（会計兼任）

〃 森 輝 子（樺 原）（新任）

（女性部長兼任）

〃 小 林 忠 男（上庄台）（再任）

（健康部長兼任）

〃 三 船 忠 志（椿 台）（再任）

（友愛活動兼任）

副会長 安 田 稔（三 里）（再任）

（書記・ホームページ兼任）

〃 岡 嘉 道（椿 台）（再任）

（クラブ統括部長兼任）

〃 日 笠 晴 正（若葉台）（再任）

（クラブ統括部副部長兼任）

会計監査 江 村 和 明（光ヶ丘）（再任）

〃 田 辺 幸 雄（御陵苑）（新任）

参 与 藪 内 英 輔（上庄台）（再任）

（ふれあい情報部長）

〃 田 尻 宏（初香台）（再任）

（伝承交流部長）

《地区長寿会会長》

鳴 川 植 田 清 文

樺 原 榊 原 潔

椿 台 三 船 忠 志

緑ヶ丘 高 野 國 博

菊美台 尾 鼻 昌 次

樺 原 辻 本 達 雄

西 向 前 田 傳

上 庄 北 川 治 晃

上庄台 中 西 素 直

月見台 扇 田 修 身

梨 本 小 野 建 弘

若葉台 島 與 一

ローズタウン若葉台 城 内 敏 之

御陵苑 田 辺 幸 雄

吉 新 吉 川 貞 子

三 里 國 分 信 孝

下垣内 小 林 ゆい子

平等寺 山 崎 正 俊

福 貴 中 谷 勤

初香台 今 本 良 一

五月台 長 岡 健 次

光ヶ丘 江 村 和 明

福貴団地 武 田 俊 雄

福貴畑 坂 野 元 一

久安寺 谷 口 義 輝

信貴畑 大 西 薫

樺 原 奥 田 二 郎

越木塚 谷 田 賢 司

若 井 池 田 清 美

西 宮 西 畑 茂 郎

春日丘 大 村 三 郎

日立団地 植 田 康 博

椿 井 吐 田 和 士

竜田川ネオポリス 原 紀 久

竜田川団地 藤 井 正 博

北信貴ヶ丘 土 井 重 尋

信貴山 赤 城 英 子

● 長野県横谷温泉へ83名が参加

▶ 毎年恒例の春季親睦1泊旅行に

長寿会連合会恒例の春季親睦1泊旅行は、去る4月10日から1泊2日で長野県奥蓼科の横谷温泉へ、16地区から83名がバス2台に分乗して行ってきました。

初日は、8時過ぎに町内各地からそれぞれ乗車して、法隆寺インターから名阪国道、東名阪、名古屋高速を走り、途中で何度かトイレ休憩をしながら飯田インターで降りて昼食を摂り、御柱の行事で有名な諏訪大社を参拝した後、宿の奥蓼科の横谷温泉に16時20頃到着しました。

旅館は横谷峡温泉の奥まった一軒宿で、標高は

金剛山より100mも高い1250mで、そのため目の前にある残雪に冬季の寒さの厳しさを連想させてくれました。

先ず風呂で旅の疲れを取った後、18時から宴会が始まり、お酒が進むほどに懇親の輪も広がって、何時ものカラオケで大いに盛り上がり、2時間ほどでお開きとなりました。

その後、思いがけずロビーで「ミニコンサート」に出会いフルートの演奏とトークを1時間楽しむことができました。

2日目は、先ず蓼科高原チーズケーキ工房を見学後、木曽路の中で最も賑わい、往時の面影を色濃く残している中山道の奈良井宿の街並みを散策しました。昨日は晴天ながら霞んで見えなかった信州の山々も、今朝は快晴に恵まれ視界も良好で、バスの車窓からは雪を被った八ヶ岳やアルプス連峰など3000m級の山々が旅情を慰めてくれました。

途中、木曽川の奇岩が織りなす寝覚ノ床で昼食を摂り、中央道、名阪国道を走り、18時過ぎに全員無事で楽しい気分と共に平群に帰ってきました。次回は11月下旬ですが、8月の理事会で行き先等を決めていただきますので、多くの方々のご参加をお待ちしています。

(扇田)

● 平成26年度総会に岩崎町長ら 来賓多数

▶ 特別講演・高齢者の交通事故防止について

長寿会連合会会長 扇田 修身

去る、5月16日(金)10時から平成26年度の定例総会が、町中央公民館大ホールで37地区からの会員300名と岩崎町長はじめ多くのご来賓を迎えて開催されました。

本年は、10月に長寿会50周年記念式典を開催する関係で、出席者数も例年の400名より縮小して開催することになりました。また、議事後、高齢者交通事故防止について、西和警察署の前田係長から特別講演がありました。

続いて総会は、新しく就任した森輝子副会長兼

女性部長司会で開会し、先ず昨年亡くなられた物故会員50名に対して全員で黙とうを捧げご冥福をお祈りしました。次いで扇田会長の挨拶、全役員の紹介の後、岩崎町長、奥田町議会議長、宮本県議会議員から丁重なご祝辞をいただきました。引き続き、司会者からご来賓方々全員の紹介がありました。

来賓が退場の後、議長に日立団地長寿会の守屋勝己氏を選任、議事に移りました。

先ず、議長から連合会規約で、全地区会長が出席する理事会が最高議決機関であり、議題についてはすでに先月の理事会で議決され、本総会ではその結果を報告します、との説明の後、議題に移りました。

平成25年度事業報告は岩上事務長が、同収支決算報告は辻本副会長兼会計が、会計監査報告は江村会計監査が行い、平成26年度活動方針は扇田会長が、同収支予算は辻本副会長兼会計がそれぞれ「総会のしおり」に基づいて説明がありました。

特に質問もなく議事は無事11時過ぎに終わりました。

一旦休憩の後、最近管内でも高齢者の交通事故が増えていることから、交通事故防止と題し、前田係長から映像を交えての具体的な講演がありました。

最近の交通事故の特徴は、被害者の殆どが高齢者であるということです。自転車事故も多く、70歳以上は歩道走行がOKなので注意が必要です。特に、高齢者は行動と意識の間にズレがあるのが原因で、高齢者は先ずそれを自覚して、横断歩道では、マ（信号では待つ）・ミ（よく見る）・ム（無理しない）・メ（目立つ服装）・モ（もう一度確かめる）を心がけて欲しいとのことでした。

また、最近話題になっている認知症の疑いが出てきた人は、事故を起こし易いので、被害者だけでなく加害者となる可能性も高く、人生を大きく狂わせないためにも、家族と相談をして運転免許証の早めの自主返納について考えてくださいとのことでした。

有益な講演内容で、改めて交通事故防止の大切さが分かり大変参考になりました。

● 扇田会長総会挨拶

▶ 高齢者、相互支援の必要性を強調

みなさま、お早うございます。

先月の平成26年度第1回理事会におきまして、伝統ある長寿会連合会の会長に再選されました扇田修身でございます。

連合会会長として、役員方はじめ2163名会員皆様方へ、ご支援とご協力をいただきながら、引き続き精いっぱい努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日、ここに定例総会を開催いたしましたところ、早朝より大勢の会員の皆様方にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様方には私たち長寿会のために、公私に何かとご多用にもかかわらずご臨席を賜りまして、会員を代表して衷心より厚くお礼申し上げます。平素は、私たち長寿会に対しまして格別のご高配とご支援をいただいておりますことを、本席をお借りして重ねてお礼を申し上げる次第でございます。

さて、我が平群町の65歳以上の高齢者は6,500人を超えて、人口に占める割合も33%を超えたと聞いています。

いよいよ3人に1人が「高齢者」という超高齢社会が現実となりました。このような状況下におきまして、本年度も長寿会自身が永遠の課題としている「健康」、「友愛」、「奉仕」、「交流」の四つの活動理念を掲げて諸事業に取り組んでまいり所存でございます。

更に、平群町における中核組織団体として「明るい町づくり」に貢献できるよう、我々自身が元気で活発に活動するほか、町の各種団体・委員会・協議会にも役員を派遣して積極的に参画していきたいと考えています。

また、各地区の長寿会活動や連合会本部の女性部をはじめ各専門部とクラブ統括部を中心とした38のクラブ活動も、それぞれ自己実現を果たしつつ、社会的役割も果たしていきたいと考えています。

その中で、今回は重点的な取り組みにつて、所

信をのべさせていただきます。

先ず最初の「健康づくり」では、私たちが病氣年齢といわれるなかで、我々自身が健康づくりに努めることが活動の基本であり、県下でも例のない「健康部」と「健康相談室」を連合会として設置すると共に、各地区に健康委員を配置して、啓発と周知に努めているところです。

具体的には①健康診断の受診啓発、②体力づくりのための体力測定会、毎月の健康ウォーキング実施、③「かしのき荘」内に会員の看護師さんによる「健康相談室」を設置する、などして会員の保健に努めています。

特に私が、町の「健康づくり推進協議会会長」の任でもあるうえに、昨年度からスタートした町の第五次総合計画の中で、町民の健康づくり推進委員でもありますので「健康診断受診率の高いほど、高齢者1人当たりの医療費が安く健康寿命も長い」という実態に鑑みて、健康診断の受診啓発などで、町の健康保険課のご指導をいただきながら、町が目標とされる「健康寿命の延伸」と「生活の質の維持・向上」に向けて長寿会がその先導的役割を果たしていければと考えています。

2つ目の「友愛」活動では、町内でも70歳以上の一人暮らし家庭は500世帯以上に達し、介護認定者は1,000人を超えています。一方、認知症を患う患者も急増しており、それが原因で行方不明になっている方は、全国で1万人を超えていると言われ、その対策は深刻な問題となっています。また、高齢者を狙う悪質な詐欺事件も一向に減る状況にはありません。これらは今後増え続けることも考えられるので、だれでも当事者になりうるのです。従って、これらの喫緊の課題に対しては、地域の民生委員さんもおられますが、我々「高齢者仲間が相互に支援し合う活動」がどうしても必要になってきたのです。

そこで、当連合会では今年度から2年間、県老連の「友愛活動推進モデル地区」の指定を受けましたので、従来にも増して会員仲間の友愛活動を進化させていただきたいのであります。具体的な方策は追ってお願いすることになりますが、取り敢えず、毎月発行している会報誌「ふれあい新聞」

を会員宅へ配布する際は、これらの家庭には単にポスティングするだけでなく、温かく「一声」声掛けして、生活や心身の状況を伺ってほしいのであります。

3つ目の「奉仕」の具体的な活動につきまして、は割愛しますが、少しでも地域社会のお役に立つ存在でありたいものです。

4つ目の「交流」活動では、各地区での月例会を充実していただくほか、全国的にも有数の38の愛好クラブを設立して、延べ約1,000名の会員が活発に活動を行っていますが、これらを通じ更に新しい長寿会仲間が増えることによって、連帯感が深まり風通しの良い地域社会が創造でき、「社会的孤立」の予防対策につながるものと考えています。

このように、私たち自身が「自立と連帯」の精神を基本に、長寿会の存在感を発揮すべく「明るく優しい街づくり」に少しでも役割を果たしていければと考えておりますので、会員皆様方には引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いを申しあげます。

最後になりましたが、今年は長寿会創立50周年の記念すべき年であります。全国的にも「老人会」という名称が殆どの中で「長寿会」という名称は50年前の創立当時からのものです。

記念式典は10月21日を予定していますが、昨年から準備委員会を実行委員会に移行して、多くの方々のご協力で作業を進めていただいております。記念式典、記念誌発行、記念植樹、舞台発表会、作品発表会などが主な事業ですが、会員皆様方にはご一緒に各事業を盛り上げて頂ければと考えています。

結びになりましたが、2,181余名の会員皆様方の一層のご健勝と、本日ご臨席賜りましたご来賓各位のご活躍とご健勝をご祈念申し上げますと共に、引き続きご支援賜りますことをお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

● 中川克己氏に瑞宝双光章

▶ 平群南小学校長など教育界に貢献

上庄長寿会会員の中川克己氏は、この度の春の叙勲で瑞宝双光章（教育功労）を受賞されました（詳細は町広報誌6月号で紹介）。

中川氏は、昭和19年に平群町上庄で生まれ、昭和41年に県立中学校教諭に採用された後、安堵中学校長、平群南小学校長等を歴任されました。退職後は安堵町教育長を務められるなど、一貫して児童・生徒の豊かな心の育成、学力向上に多大のご尽力をされました。

● 仲間を増やし高齢者の相互支援を 長寿会は連帯感を深め自己実現 が出来る場

長寿会連合会会長 扇田 修身

長寿会は、お互いの情報交換をして連帯感を醸成したり、平群町を知る場であったり、趣味や奉仕活動などの自己実現や社会貢献を行ったりする絶好の機会となります。

新しく会員になられた方からは、長寿会に入会して、知り合いが増えて孤独感が無くなったとか、クラブに入って自己実現の楽しみが増えて、毎日が充実しているとか、家族から疎外？されなくなったとか、などの嬉しい声が聞かれます。

そこで、会員の皆様方には、知人や近隣の方々へ長寿会入会の「効用」を説明していただき、一人でも多くの仲間が加入してくれるようお勧めください。「加入はまだ早い」は断る口実と受け止め、早い年齢からの活動こそ、その役割が発揮されることも説明していただきたいです。

特に、加入率20%未満の地区では、周囲からは「一部の集団」と揶揄されないためにも、最低でも30%を目標にしていいただければと考えます。

● 相互支援モデル地区に選ばれる

▶ 困窮高齢者の日常生活向上のための推進活動を

副会長・友愛交流活動担当 三船 忠志

この度、県老連から高齢者相互支援推進・啓発

事業モデル地区に天理市、下市町、十津川村とともに平群町長寿会連合会が、平成26年度と27年度の2年間に亘る継続事業地区として選ばれました。

この事業は、長寿会会員が認知症を患うほか、1人暮らし、寝たきりおよび高齢者だけの世帯等に対して、見守り活動や有益な生活情報の提供などでの話し相手や日常生活上の困りごとを聞く等の活動を行うとともに、従来からの地域の介護施設への慰問活動を行うなど、高齢者仲間同志で地域福祉の向上に努めることを目的としています。

この高齢者相互支援推進事業に対応するために、去る6月の第2回理事会において、概ね次のようなことが決議されました。

①連合会推進本部

連合会に高齢者相互支援事業推進本部（以下「連合会推進本部」という）を置く。

本部長には、友愛交流活動担当役員がその任にあたる。

②支援対象者

特に認知症を患う高齢者、寝たきり、虚弱高齢者世帯であって、支援が必要と思われるもののほか、1人暮らしや高齢者のみの世帯で、本人が支援を必要とする場合。

③支援の内容

支援対象者に対し適宜訪問して、必要と思われる支援（見守り活動や有益な生活情報の提供を基本に話し相手や日常生活上の困りごとを聞く等）を行う。

④地区推進連絡員の選任と任務

各地区長寿会で、高齢者相互支援事業推進のために、推進連絡員一名を選任する。

推進連絡員の任務は、地区の高齢者相互支援事業の推進活動、地区の民生委員や関係者とも連携を密にして効果的な推進を図るほか、次の推進連絡会議に出席する。

⑤推進連絡会議の開催

連合会推進本部は、高齢者相互支援事業推進にあたって、推進連絡会議を開催して事業の円滑な実施を図る。

以上、地区における高齢者相互支援事業を推し

進めるために、推進連絡員と会員の皆様方のご協力をいただき、会員同士がお互いに助け合う事業を1歩でも前進させたいと願っていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

● 合同研修会認知症を学ぼう

▶ 高齢者四人に一人が認知症患者

7月11日(木)10時から、かしのき荘新館会議室において、恒例の合同研修会を「認知症を学び地域で支えよう」をテーマに、認知症サポーター養成講座を兼ねて、講師に本年4月に新設された奈良県健康福祉部地域包括ケア推進室の田中康代主査を招いて開催しました。

出席者は、県、町関係者の職員と長寿会側と合わせて、84名の多数でした。

認知症患者は、疑似患者も含めて65歳以上の高齢者の4人に1人が該当するとのことで、今や認知症は例外的な「病気」ではなくて、ごく一般的な状況として受け入れたうえで、認知症予防対策とは別に、特に、家族や地域で如何に理解して対応すべきかを重点的に研修しました。

認知症有病者は、奈良県ではMCⅠ有病者（認知症でもないが正常でもない）を合わせて10万3千人と推定され、その多くが後期高齢者です。

そこで行政では「認知症サポーター」の養成を積極的に推し進めています。養成講座を受講した人を「認知症サポーター」と呼び、正しい知識や付き合い方を理解し、自分のできる範囲で認知症の人を、温かい目で見守るのが役割です。また、友人や家族にその知識を伝えるほか、認知症の人や家族の気持ちを理解するように努めるのも「サポーター」の役割です。受講した人は「認知症サポーター」の目印としてオレンジのリングが支給されます。

認知症とは、正常に発育した知的機能が脳の器質的障害により持続的に低下し、物忘れなど関連する症状で日常生活や社会生活に支障をきたす状態のことです。

認知症の原因疾患として、アルツハイマー型認知症が大半を占めますが、他に脳血管障害型、前頭側頭型、レビー小体型があり、症状として記憶

障害、見当識障害、理解・判断力の低下、実行機能低下などがあります。

具体的な症例としては①覚えられない、すぐ忘れてしまう②時間や月日がわからない③人や場所が分からない④考えるスピードが遅くなる⑤新しい機械が使えない⑥二つ以上のことが重なると理解できない⑦食事作りなどの日常生活ができない⑧その場の空気が読めない⑨すべてが面倒に⑩身の回りのことができなくなる、などが特徴的です。

これらに気づいた時は①専門の医療機関での受診が不可欠②治る病気や一時的症状の場合もある③薬で進行を遅らせることもできるなどで、まず原因となる病気は何かを調べることが必要で、早期診断、早期治療が大切です。

認知症の初めは脳機能の低下ですので、よく言われる「本人に自覚がない」は大きな間違いで、最初に気づくのは本人です。

（認知症患者への接し方）

基本姿勢の三原則は①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけない、の配慮が重要です。具体的には①相手の言葉に耳を傾け、ゆっくり見守る②やさしい口調で話す③声をかける時は前から一人で、などがポイントです。

また、認知症を抱える家族の心理的ステップでは①戸惑い、否定②混乱、怒り、拒絶③割り切り④受容、と進みますが、このステップに至るまでには時間がかかるようです。

とにかく、認知症は今や特別のことではなく、共生していくとの認識を持ち、一方ではいずれ我々にも訪れるかも？との冷静な姿勢で、家族や地域で温かく接するようにしたいものです。

（扇田）

● 第20節目の麻雀大会

▶ 優勝は武田勝則氏

代表 向田 啓次郎

第20回の節目を迎えて、恒例になりました麻雀大会が7月3日、かしのき荘で開催され、不参加はわずか4名で、総勢32名のクラブ員が参加して熱戦を繰り広げた。今回初めての半チャン4回戦

でどのような結果がでるか、興味津々の対戦になった。

入賞者は次の通りです（敬称略）

優勝 武田 勝則（椿台）
準優勝 三浦 幸雄（椿台）
第3位 村上 守（椿台）
第4位 吉田 悦栄（三里）
第5位 斉藤 賢太郎（緑ヶ丘）
特別賞 武田 俊雄（福貴団地）

また、恒例の総会が、先の4月15日にかしのき荘で開催され、運営委員を辞退された中川氏に代わり武田勝則氏を選任した。次いで、会計報告に続き規約の一部変更を決め閉会。引き続き第19回健康麻雀大会を開いた。

入賞者は次の通りです（敬称略）

優勝 村岡 繁樹（椿台）
準優勝 山本 紘志（椿台）
第3位 武田 勝則（椿台）
第4位 山田 徇弘（若葉台）
第5位 畑 八寿雄（椿台）

● 県老人クラブ会長賞

▶ 結成25年陵寿会の先人に感謝

御陵苑陵寿会会長 田辺 幸雄

去る、9月10日奈良県庁において、平成26年度優良老人クラブとして県老連会長表彰を受賞させていただきました。本部からは森副会長にも同席いただき誠にありがとうございました。

当日は、他に老人福祉功労者賞や老人福祉施設功労者賞も受賞され、多くの方が元気で活躍されているのを目の当たりにして、改めて感銘を受けました。

今年は、平群町長寿会創立50周年記念を迎え、着々と準備が進められていますが、その中で御陵苑陵寿会は会員50名あまりの小さな会ですが、今日ありますのも、平成元年に先人達により陵寿会として発足し、以来25年間、歴代の会長、役員方のご努力の賜物であり、深く感謝するところがあります。

表彰式で前田副知事のご挨拶の中で、欧米の人はリタイアしてから幸せ度のアップ感が年々増す

のに比べ、殆どの日本人は逆に停年退職時からダウンしていくと言われていますが、「勤勉さ」が災いしているのでしょうか？

これからは長寿会の基本理念である、健康、友愛、奉仕、交流活動を通じて、皆様と一緒に幸せ度アップの楽しい人生が送れるよう努力していきたいと思います。

● 長寿会連合会創立50周年記念事業大綱

(1) 式典・クラブ発表会

第1部 記念式典

- ・日時 10月21日(火) 10時
- ・場所 町中央公民館
※地区別に出席者割り当て

第2部 クラブ舞台発表会

- ・日時 10月21日(火) 10時50分～15時30分
- ・場所 町中央公民館大ホール
※式典・発表会出席者に「弁当」支給

第3部 文化クラブ作品発表会

- ・日時 10月17日(金)・18日(土)
10時～16時(土曜は15時)
- ・場所 かのき荘新館会議室他

(2) 記念植樹

- ・日時 平成27年2月(建設中の平群園へ記念植樹 地区会長・本部役員出席)

(3) 記念誌発行

- ・1冊 約200ページ
- ・無料配布 100冊
- ・有料配布 700冊(@500円)

● 激動の50年高齢者を支える長寿会

▶ 平群町長寿会連合会創立50周年記念式典開く

去る、10月21日(火)10時から平群町中央公民館大ホールにおいて、岩崎町長、奥田町議会議長など多数のご来賓を迎え、長寿会連合会創立50周年記念式典が開催されました。当日は、2,181名の会員の中から会場の関係で、地区別(大字)に割り当てられた37地区400名が出席して厳粛に開催

されました。

先ず、森副会長の司会進行ではじまり、扇田会長の挨拶の後、岩崎町長、奥田町議会議長、宮本県議会議員から祝辞をいただき、続いて永年に亘り連合会の事業活動に多大のご尽力いただいた会員に、会長から表彰状と感謝状が授与されました。また、町長から高齢者福祉に貢献したとして、連合会を代表して扇田会長に感謝状が授与されました。

受賞者は次の通り(敬称略)

◇表彰状(連合会事業活動にご尽力)

- ・宮前清和、仲 正夫、明石賢三、
藪内英輔、守屋勝巳、武田俊雄

◇感謝状(編集委員としてご尽力)

- ・井藤 清、和田孝彦

◇感謝状(健康相談にご尽力)

- ・武智千枝子、吉村博美

◇感謝状(事業活動にご尽力)

- ・平群町社会福祉協議会

式典終了後は、12のクラブによる舞台発表会に移り、特別出演の「WA楽会」による太鼓演奏で景気づけてスタートしました。続いて各クラブが順次日頃の練習の成果を見事に発表し、最後には女性部の特別企画により、23名が着物などをリフォームした見事なファッションショーで盛り上げてくれました。

● 扇田会長あいさつ(要旨)

本日は、平群町連合会長寿会創立50周年記念式典を開催するにあたり、皆様方にご出席いただきましてありがとうございます。

記念すべき日でありますので、2,181名の全会員さんをお招きしたかったのが本意ですが、会場の関係400名に制限させていただきました。皆様方にはどうか各地区の代表者との思いで、ご出席いただければ幸いです。

また、ご来賓の皆様方には公私に何かとご多用にかかわりませず、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。長寿会を代表して厚くお礼を申し上げます。

さて、当連合会は、昭和39年10月22日に、丁度

東京オリンピック開催中に、各大字（地区）の高齢者が将来へのお互いのより良き発展を期して、村一円の連合会として、平群村長寿会連合会と命名し設立されました。名称も当初から「老人クラブ」ではなく「長寿会」となっていましたので、その後の新しい会員の入会には大変好都合になっています。

そして、今日まで50年に亘り、その時々において平群町における高齢者の中核団体として活動し、自らも健康、友愛、奉仕、交流を活動理念として諸活動を行うほか、地域社会においても円滑な連携に努めながら、社会的責任を果たしてまいりました。

今日に至るまで、先輩の役員方と会員の皆さん方が力を合わせて培ってこられたご尽力に感謝し、衷心より謝意を表したいと思います。

本日は、長寿会連合会創立50周年の節目を迎えるにあたり、37地区の全会員の皆さま方と一緒にこの日をお祝いするとともに、これからもお互いに健康に留意しながら自己実現に精励し、また、少しでも明るい「町づくりに」貢献できるよう努める所存です。そして現在の活発な活動を来るべき100周年への礎にしていきたいと存じます。

むすびに、会員の皆さま方の一層のご健勝を祈念し、併せてご来賓の皆さま方の一層のご活躍と、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

● 長寿会連合会が県の交通安全優良団体賞を受賞

副会長・会計 辻本 達雄

9月21日から始まった平成26年度の交通安全運動に先駆けて行われた、秋の交通安全奈良県民大会において、当長寿会連合会が奈良県交通安全協会より交通安全優良団体として表彰されました。

交通事故は被害者のみならず加害者も悲惨です。一旦交通事故に遭えば個人の人生はもちろん、家庭までメチャメチャになります。

その中で、当長寿会連合会は先の定例総会後、特別に交通安全講習会を開催して「高齢者の交通安全」について熱心に勉強会を開催するほか、長

寿会会員に西和地区会長や平群町分科会会長のほか地域の交通安全の役員も多く、平素より児童から高齢者まで、地域住民の交通事故防止について活発に活動していることが、高く評価されたものと思われます。

今後とも、受賞に恥じないように会員の皆さま方が交通ルールを守り「自分の身は自分で守る」を原点として、お互いに協力し合って地域の交通安全に、より一層努めていただきたいものです。





第四章

現代の長寿会連合会の取り組み

平成26年度長寿会連合会総会のしおりから

- 1) 平成26年度長寿会連合会事業活動及び活動計画
- 2) 平成26年度専門部・クラブ統括部活動方針
- 3) 長寿会連合会組織図
- 4) 平成26年度役員・委員・部員クラブ代表者名簿
- 5) クラブ代表者及び活動予定



第四章

現代の長寿会連合会の取り組み

平成26年度 事業活動計画 (方針と目標)

1. 基本方針

我が平群町も、少子化と相まって65歳以上の高齢者の総人口に占める比率（高齢化率）が33%を超えて3人に一人は高齢者と言う超高齢社会を迎えています。

このような状況下で、我々長寿会仲間2100余名は、従来の活動方針と目標を継続し、本年度も引き続き、健康、友愛、奉仕、交流の活動理念を念頭に積極的に活動してまいりたいと考えています。特に高齢者に関心の高い国民健康保険財政や介護保険財政がますます厳しさを増すことが予想される中で、我々自身も平素から「健康づくり」に努めて、より快適な老後生活が過ごせるよう、会員自身の一層の自己管理能力が期待されます。

その中であって、我々長寿会は、主体的立場から行政機関や自治会など関係団体とも緊密に連携を図りながら、高齢者の中核的活動組織として積極的に代弁・提言を行うなどで高齢者福祉の向上に努めていく所存です。

一方、私たち会員も、従来に増して会員相互の支え合う「思いやりの心」で地域活動を中心に、その風土づくりと体制づくりを行っていくほか、連合会本部の女性部、健康部、伝承交流活動部、ふれあい情報部の各専門部および各クラブとともに、一層の交流活動を推し進めてまいりたいと考えます。そのためにも、更なる新しい高齢者仲間の参画が望まれます。

なお、本年度は長寿会連合会創立50周年を迎えますので、10月には有意義な事業が実施できるよ

う準備委員会を実行委員会に移行して準備を進めていきます。

2. 基本目標

(1) 仲間づくり活動の推進

2100余名会員相互間はもちろんのこと、地域の知人を新しく会員仲間として迎えるためにも連合会および地区の活動を有意義に実施していきます。

(2) 健康づくり活動の推進

高齢者を元気に過ごすために、病気予防、介護予防の観点から、健康診断と歯科検診を定期的に受診するよう啓発活動を継続するとともに、研修会の開催、体力測定会、毎月の健康ウォークも継続して実施します。

(3) 友愛活動の推進

高齢者の社会的孤立や見守りなどの安否確認などの友愛活動を、地域の自治会、民生委員など関係者との連携を図って推し進めます。

また、かしのき荘に「車いす」を贈るため「ブルタブ」収集を継続します。

(4) 積極的な奉仕活動

地域において豊かなまちづくりの一翼を担うために、地域内の清掃活動、児童の登下校時の見守り活動などの奉仕活動に努めます。本年度も「かしのき荘」の内外に亘る一斉清掃活動を多くの関係者の協力で実施します。

(5) 世代間交流活動の推進

伝承交流活動を軸に幼稚園児、小学生などとの世代間交流に努めます。

(6) 会員交流活動の推進

地区の例会、37愛好クラブの活動、専門部による研修会等を通じて、会員相互の積極的な交

流活動に努めます。

(7) 広報活動の充実

毎月全会員に配布する会報誌「ふれあい新聞」の紙面充実に努め、また「ホームページ」の再構築を図り、会員・非会員への広報活動に努めます。

(8) 高齢者にやさしい町づくりへの参画

町が推し進める高齢者にやさしい町づくりと高齢者福祉向上への活動に積極的に参画していきます。

3. 活動計画

上記の基本目標を達成するために、次の具体的な施策を推し進めます。

(1) 仲間づくり活動

- ①平素から全会員で新会員の加入促進に努めます。
- ②愛好クラブなどを通じて新しい若年高齢者の会員加入の促進に努めます。

(2) 健康づくり活動

- ①健康づくり情報の伝達や健康診断と歯科検診の受診啓発に努めます。
- ②体力測定会の普及に努めます。
- ③健康づくりのための研修会を開催します。
- ④会員看護師の協力で、かしのき荘での「健康相談室」の運営を続けます。
- ⑤毎月第3火曜日の「健康ウォーク」を引続き実施します。

(3) 友愛交流活動

- ①地区の自治会、民生委員等との連携を図り、会員仲間の声掛けなどの友愛活動の促進に努めます。
- ②町内介護施設への慰問活動を継続し、施設見学など学習活動にも努めます。

(4) 奉仕活動

- ①町内美化のために、地域内での清掃活動に努めます。
- ②引続き、児童の登下校時における見守り活動に参加します。
- ③恒例の「かしのき荘」内外の美化運動を、本部役員、地区役員、各クラブ、会員有志などの

の協力で実施します。

(5) 世代間交流活動

- ①伝承交流活動部を通じて、幼稚園や小学校の児童に対して昔遊び、昔話などで小学校、幼稚園の社会勉強に供する活動を継続します。
- ②手品などで、地区の例会や小地域ネットワーク活動等関係団体の要請にも積極的に応えていきます。

(6) 会員交流活動

- ①37クラブの活動を加入者の協力のもとで更なる充実と活性化に努めます。
- ②恒例の親睦一泊旅行を春秋に実施します。
- ③会員の全参加形式で新年互礼会を実施します。

(7) 広報活動

- ①会報誌「ふれあい新聞」の毎月の発行に努めます。
- ②連合会本部の活動報告に努めるとともに、会員の投稿にも努めます。
- ③「ホームページ」を再構築して、会員・非会員へのPRに努めます。

(8) 高齢者にやさしい町づくり活動

- ①広く行政関連機関の事業活動へ役員を派遣して意見具申などを行います。
- ②県老連、郡老連との緊密な連携を図り、事業活動へも参画していきます。

平成26年度 専門部・ クラブ統括部 活動方針

1. 女性部

- ①部員の見聞を広めるために、社会見学、施設見学を実施する。
- ②介護施設への慰問を継続する。
- ③教養講座などの研修会を実施する。
- ④健康部と連携して研修会などで地域の交流に努める。
- ⑤地域の独居会員、高齢家庭の会員仲間等への友愛活動を行なう。

2. 健康部

- ①「健康診断」および「歯科検診」受診啓発を継続して行う。
- ②健康づくりのために、「体力測定会」、「健康ウォーク」を継続する。
- ③会員看護師による「健康相談室」の運営を継続し、健康の維持・増進の一助とする。
- ④女性部と一層の交流を深めて「健康づくり」研修会等を実施する。

3. 伝承交流活動部

- ①昔遊びなどで幼稚園・小学校の社会勉強に供する活動を継続する。
- ②上記の活動を通じて世代間交流の促進に努める。
- ③福祉施設等への慰問活動を継続する。
- ④地区の例会、小地域ネットワーク活動等の要請に応じていく。

4. ふれあい情報部

- ①会報誌「ふれあい」新聞を毎月発行し、連合会活動の広報に努める。
- ②紙面を通じ、会員のコミュニティの場としての充実に努める。
- ③引続き医師会、歯科医師会の協力記事を掲載する。
- ④ホームページを再構築して、非会員へも活動

内容のPRに努める。

- ⑤行政および関係団体等に会報誌を届けて長寿会活動への理解に努める。

5. クラブ統括部

- ①舞台発表会、作品発表会を継続して実施する。
- ②クラブ活動の活発化と地域社会との交流に努める。
- ③クラブ員の活性化のために会長杯（カップ）争奪戦を有好的に行う。
- ④クラブ活動を通じて長寿会への新会員の増員を図る。

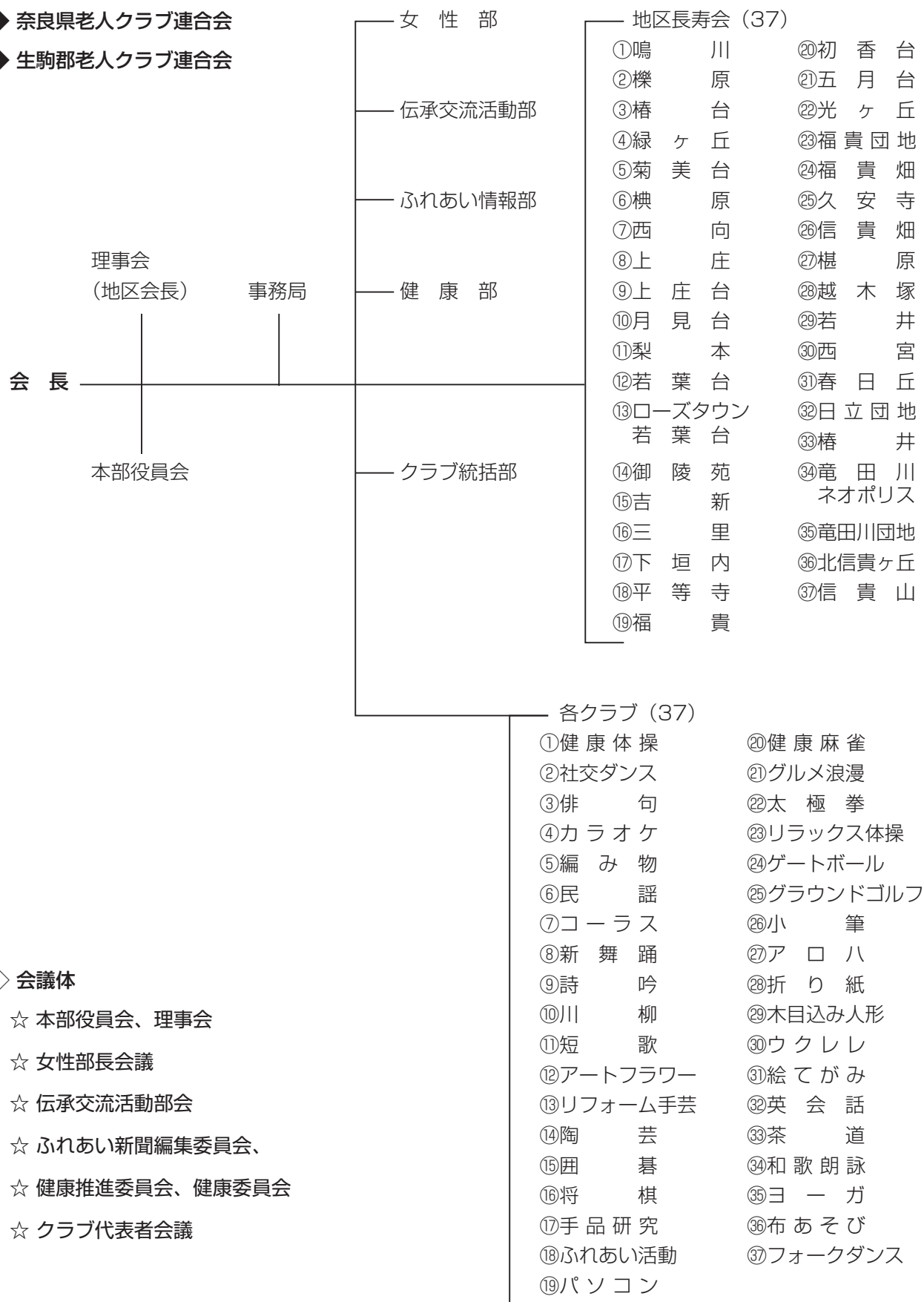
● 長寿会連合会組織図 ●

(平成26年4月1日現在)

◆ 全国老人クラブ連合会

◆ 奈良県老人クラブ連合会

◆ 生駒郡老人クラブ連合会



平成26年度 役員・委員

<地区役員／会長・女性部長・健康委員>

地 区 名	地区会長	地区女性部長	地区健康委員
	氏 名	氏 名	氏 名
鳴 川	植 田 清 文	植 田 定 子	
樺 原	榊 原 潔	山 中 綾 子	中 元 美代子
椿 台	三 船 忠 志	上 西 節 子	木 下 正 男
緑 ケ 丘	高 野 國 博	丸 本 幸 子	福 井 寿 明
菊 美 台	尾 鼻 昌 次	北 川 和 子	近 藤 士 郎
楓 原	辻 本 達 雄	辻 本 八重子	辻 本 達 雄
西 向	前 田 傳	土 岸 保 美	
上 庄	北 川 治 晃	北 川 由紀子	良 小夜子
上 庄 台	中 西 素 直	岡 本 和 子	小 林 忠 男
月 見 台	扇 田 修 身	扇 田 節 子	二河田 徹 男
梨 本	小 野 建 弘	西 浦 信 子	東 まさ代
若 葉 台	島 與 一	向 圀 道 子	松 本 吉 夫
ローズタウン若葉台	城 内 敏 之	金 満 通 子	福 島 昇
御 陵 苑	田 辺 幸 雄	日 下 多喜子	大 坪 強
吉 新	吉 川 貞 子	福 本 敏 子	沖 野 扶佐子
三 里	国 分 信 孝	大 槻 すみ子	福 島 勲
下 垣 内	小 林 ゆい子	植 田 寿 子	吉 田 真 作
平 等 寺	山 崎 正 俊	吉 川 房 子	山 崎 正 俊
福 貴	中 谷 勤	坂 上 美智子	中 谷 勤
初 香 台	今 本 良 一	岩 崎 京 子	戎 井 邦 子
五 月 台	長 岡 健 次	門 田 妙 子	渡 邊 和 憲
光 ケ 丘	江 村 和 明	大久保 幸 子	土 居 準 一
福 貴 団 地	武 田 俊 雄	西 村 佳 子	中 野 育 子
福 貴 畑	坂 野 元 一	露 野 節 子	吉 川 輝 子
久 安 寺	谷 口 義 輝	姓 本 弘 子	表 幸 子
信 貴 畑	大 西 薫	向 山 節 子	森 戸 サヨ子
榎 原	奥 田 二 郎	植 田 昌 子	岡 村 佐智子
越 木 塚	谷 田 賢 司	小 東 隆 子	谷 田 一 子
若 井	池 田 清 美	岸 本 ミチ代	藤 本 奈智子
西 宮	西 畑 茂 郎	宮 崎 多喜代	乾 時 和
春 日 丘	大 村 三 郎	和 泉 和 枝	乾 洋 子
日 立 団 地	上 田 康 博	古 池 千恵子	野 田 須磨子
椿 井	吐 田 和 士	春 木 照 子	奥 田 収
竜田川ネオポリス	原 紀 久	原 紀 久	海 津 昌 子
竜田川団地	藤 井 正 博	清 家 律 子	藤 井 美 佐
北 信 貴 ケ 丘	土 井 重 尋	土 井 和 代	三 浦 堅 次
信 貴 山	赤 城 英 子	赤 城 英 子	

平成26年4月1日現在



第五章

- 長寿会本部役員名簿
(会長・副会長・会計会計監査・顧問・参与)
- 長寿会本部役員名簿
(女性部・クラブ統括部・ふれあい部・健康部)
- 歴代地区会長（理事）名簿
- 歴代地区女性部長名簿
- 歴代地区健康委員名簿
- クラブ代表者名簿
- 歴代健康推進委員名簿
- 歴代ふれあい編集部委員名簿
- 歴代伝承交流部部員名簿
- 長寿会連合会地区会員推移



1. 長寿会連合会役員名簿

副会長の()は兼務役員

年度	会 長	副会長	会 計	会計監査	参 与	顧 問
S 39～ S 47	鈴木 了道					
S 48～ S 53	沖野 武明					
S 54～ H 4	中村 正司	塚 信一 奥田 武二	田中 巖 吉川不二夫	谷村 敏行 隅田 勘助		
H 5	奥田 武二	塚 信一 松本 義夫	田中 巖 浦井 三男	東樋口藤雄 藤枝 忠夫		中村 正司
H 6	奥田 武二	塚 信一 松本 義夫	田中 巖 浦井 三男	東樋口藤雄 藤枝 忠夫		中村 正司
H 7	奥田 武二	塚 信一 松本 義夫 高倉 澄子 (女性部長)	宮西 哲雄 浦井 三男	伊東 亨 藤枝 忠夫		中村 正司
H 8	奥田 武二	塚 信一 松本 義夫 高倉 澄子 (女性部長)	宮西 哲雄 浦井 三男	伊東 亨 藤枝 忠夫		中村 正司
H 9	松本 義夫	浦井 三男 宮西 哲雄 木村 寿子 (女性部長)	伊東 亨 乾 常次	福田 稔 宮前 清和		奥田 武二
H 10	松本 義夫	浦井 三男 宮西 哲雄 木村 寿子 (女性部長)	伊東 亨 乾 常次	米田 準一 宮前 清和		奥田 武二
H 11	松本 義夫	宮前 清和 木村 寿子 (女性部長)	秋塚 直秀 仲 正夫	乾 常次 浦井 三男		奥田 武二
H 12	松本 義夫	宮前 清和 木村 寿子 (女性部長)	秋塚 直秀 仲 正夫	乾 常次 浦井 三男		奥田 武二
H 13	宮前 清和	明石 賢三 村木 實 羽多野不二子 (女性部長)	秋塚 直秀 仲 正夫	乾 常次 浦井 三男		松本 義夫
H 14	宮前 清和	明石 賢三 村木 實 羽多野不二子 (女性部長)	秋塚 直秀 仲 正夫	乾 常次 浦井 三男		松本 義夫
H 15	村木 實	明石 賢三 藤田 道雄 武田 俊雄 羽多野不二子 (女性部長)	仲 正夫 城垣 弘	岩本 仁 秋塚 直秀		宮前 清和

年度	会 長	副会長	会 計	会計監査	参 与	顧 問
H16	村 木 實	東原 竹子 藤田 道雄 武田 俊雄 羽多野不二子 (女性部長)	仲 正夫	岩本 仁 秋塚 直秀		明石 賢三 木村 寿子
H17	村 木 實	東原 竹子 武田 俊雄 羽多野不二子 (女性部長)	扇田 修身	秋塚 直秀 仲 正夫		明石 賢三 木村 寿子
H18	村 木 實	武田 俊雄 扇田 修身 東原 竹子 (女性部長)	守屋 勝己	仲 正夫 山口 孟	藪内 英輔	明石 賢三 羽多野不二子
H19	武田 俊雄	扇田 修身 守屋 勝己 東原 竹子 (女性部長)	牧野富久太郎 浅井 英治	山口 孟 浦野 育三	藪内 英輔	明石 賢三 村 木 實
H20	武田 俊雄	扇田 修身 守屋 勝己 東原 竹子 (女性部長)	中塚 芳治 藤井 正博	山口 孟 浦野 育三	藪内 英輔 仲 正夫	明石 賢三 村 木 實
H21	扇田 修身	守屋 勝己 辻本 達雄 西浦 信子 (女性部長) 小林 忠男 (健康部長)	藤井 正博	中塚 芳治 安田 稔	藪内 英輔 仲 正夫	村 木 實 武田 俊雄
H22	扇田 修身	辻本 達雄 西浦 信子 (女性部長) 小林 忠男 (健康部長)	藤井 正博	安田 稔 三船 忠志	藪内 英輔 仲 正夫	村 木 實 武田 俊雄
H23	扇田 修身	辻本 達雄 西浦 信子 (女性部長) 藤井 正博 小林 忠男 (健康部長) 三船 忠志 (友愛担当)	綿谷 豊	安田 稔 乙倉 三郎	藪内 英輔 仲 正夫	武田 俊雄
H24	扇田 修身	辻本 達雄 西浦 信子 (女性部長) 藤井 正博 小林 忠男 (健康部長) 三船 忠志 (友愛担当)	藤井 正博	乙倉 三郎 江村 和明	藪内 英輔 田尻 宏	武田 俊雄

年度	会 長	副会長	会 計	会計監査	参 与	顧 問
H25	扇田 修身	辻本 達雄 西浦 信子 (女性部長) 藤井 正博 (H P 担当) 小林 忠男 (健康部長) 三船 忠志 (友愛担当) 安田 稔 (書記) 岡 嘉道 (クラブ統括部長) 日笠 晴正 (クラブ統括副部長)	辻本 達雄	乙倉 三郎 江村 和明	藪内 英輔 田尻 宏	武田 俊雄
H26	扇田 修身	辻本 達雄 森 輝子 (女性部長) 小林 忠男 (健康部長) 三船 忠志 (友愛担当) 安田 稔 (書記) 岡 嘉道 (クラブ統括部長) 日笠 晴正 (クラブ統括副部長)	辻本 達雄	江村 和明 田辺 幸雄	藪内 英輔 田尻 宏	

2. 長寿会連合会役員名簿

年 度	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12
女 性 部 部 長	高倉 澄子	高倉 澄子	木村 寿子	木村 寿子	木村 寿子	木村 寿子
女 性 部 副 部 長						
女 性 部 会 計						
女 性 部 幹 事						
女 性 部 顧 問						
健 康 部 部 長						
ク ラ ブ 統 括 部 長						
ク ラ ブ 統 括 副 部 長						
ふ れ あ い 部 部 長						
伝 承 交 流 部 部 長						
健康推進委員会会長						
ホ ー ム ペ ー ジ 委 員 会 会 長						
友 愛 交 流 活 動 推 進 委 員 長						
50 周 年 準 備 委 員 会 会 長						

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18
女 性 部 部 長	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	東原 竹子
女 性 部 副 部 長				東原 竹子	東原 竹子	澤田 民子
				宮崎 順子	宮崎 順子	
				宮西 芳江	宮西 芳江	
女 性 部 会 計						澤田 能婦
女 性 部 幹 事						
女 性 部 顧 問						
健 康 部 部 長						扇田 修身
ク ラ ブ 統 括 部 長						
ク ラ ブ 統 括 副 部 長						
ふ れ あ い 部 部 長				藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔
伝 承 交 流 部 部 長					仲 正夫	仲 正夫
健康推進委員会会長						
ホ ー ム ペ ー ジ 委 員 会 会 長						
友 愛 交 流 活 動 推 進 委 員 長						
50 周 年 記 念 事 業 準 備 委 員 長						

年 度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
女 性 部 部 長	東原 竹子	東原 竹子	西浦 信子	西浦 信子	西浦 信子	西浦 信子
女 性 部 副 部 長			本谷 裕子	本谷 裕子	本谷 裕子	扇田 節子
女 性 部 会 計			本谷 裕子	本谷 裕子	岡本 和子	藤井 美佐
女 性 部 幹 事			岡本 和子	岡本 和子	大槻スミ子	大槻スミ子
			扇田 節子	扇田 節子	扇田 節子	浜崎 晴美
女 性 部 顧 問			東原 竹子			
健 康 部 部 長	扇田 修身	扇田 修身	小林 忠男	小林 忠男	小林 忠男	小林 忠男
ク ラ ブ 統 括 部 長	守屋 勝巳	守屋 勝巳	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄
ク ラ ブ 統 括 副 部 長						
ふ れ あ い 部 部 長	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔
伝 承 交 流 部 部 長	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	田尻 宏
健康推進委員会会長	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身	小林 忠男	小林 忠男	小林 忠男
ホ ー ム ペ ー ジ 委 員 会 会 長		村木 實	村木 實	村木 實	扇田 修身	扇田 修身
友 愛 交 流 活 動 推 進 委 員 長		守屋 勝巳	守屋 勝巳			三船 忠志
50 周 年 記 念 事 業 準 備 委 員 長						

年 度	H25	H26
女 性 部 部 長	西浦 信子	森 輝子
女 性 部 副 部 長	山西 和美	日下多喜子
	日下多喜子	高橋美千子
女 性 部 会 計	藤井 美佐	扇田 節子
女 性 部 幹 事	大槻スミ子	山西 和美
	扇田 節子	浜崎 晴美
	浜崎 晴美	福本 敏子
	高橋美千子	
女 性 部 顧 問	—	西浦 信子
健 康 部 部 長	小林 忠男	小林 忠男
ク ラ ブ 統 括 部 長	岡 嘉道	岡 嘉道
ク ラ ブ 統 括 副 部 長	日笠 晴正	日笠 晴正
ふ れ あ い 部 部 長	藪内 英輔	藪内 英輔
伝 承 交 流 部 部 長	田尻 宏	田尻 宏
健康推進委員会委員長	小林 忠男	小林 忠男
ホ ー ム ペ ー ジ 委 員 会 委 員 長	藤井 正博	安田 稔
友 愛 交 流 活 動 推 進 委 員 長	三船 忠志	三船 忠志
50 周 年 記 念 事 業 準 備 委 員 長	辻本 達雄	—
50 周 年 記 念 事 業 実 行 委 員 長	—	扇田 修身

3. 長寿会連合会地区会長名簿

地 区		H 3	H 4	H 5	H 6	H 7
鳴	川	吉川不二夫	松田 久雄	松川 一雄	岡田 幾治	吉川 昌雄
櫟	原	西山 辰雄	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司
椿	台	藤本 定司	藤本 定司	藤本 定司	日垣喜一郎	日垣喜一郎
緑	ヶ 丘	田中 敏一	中島 重雄	藤田 義一	藤田 義一	藤田 義一
菊	美 台					
楓	原	山下庄五郎	山下庄五郎	藤戸 正夫	藤戸 正夫	藤戸 正夫
西	向	前田 寿男	前田 寿男	高塚 義治	高塚 義治	高塚 義治
上	庄	岸本 福次	坂本 清春	坂本 清春	北畑 耕司	松本 芳一
上	庄 台	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫
月	見 台					
梨	本	奥野 永治	南 樽治郎	安田 正信	岡 幸吉	辰巳 二胤
若	葉 台	岩崎喜久雄	岩崎喜久雄	岩崎喜久雄	太田 幸雄	伊東 亨
ローズタウン若葉台					宮西 哲雄	宮西 哲雄
御	陵 苑	井上 国一	井上 国一	井上 国一	北山 知旨	北山 知旨
吉	新	福田 勇雄	福田 勇雄	福田 勇雄	福田 勇雄	野田 悟
三	里	田中 政義	田中 政義	田中 政義	田中 政義	外山 義信
下	垣 内	山本 裕司	吉本 正一	東 京正	西岳 勝治	山本 裕司
平	等 寺	西岳正三郎	東樋口藤雄	東樋口藤雄	奥田 一郎	奥田 一郎
福	貴	藤枝 忠夫	藤枝 忠夫	藤枝 忠夫	藤枝 忠夫	藤枝 忠夫
初	香 台	近藤 正宣	近藤 正宣	奥山 兵助	奥山 兵助	奥山 兵助
五	月 台				渡辺 順蔵	泰地 俊二
光	ヶ 丘	富永 重保	伊藤 末吉	伊藤 末吉	高見 義夫	岡山 秀治
福	貴 団 地	小林 太一	小林 太一	小林 太一	小林 太一	小林 太一
福	貴 畑	岡田 元一	岡田 元一	五十川良春	五十川良春	五十川良春
久	安 寺	米田 準一	米田 準一	米田 準一	米田 準一	米田 準一
信	貴 畑	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二
樫	原	奥田 三好	奥田 三好	浦井 三男	浦井 三男	浦井 三男
越	木 塚	塚 信一	塚 信一	塚 信一	塚 信一	塚 信一
若	井	岸本 成憲	小林増十郎	小林増十郎	小林増十郎	小林増十郎
西	宮	加藤 徳逸	大山岩次郎	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和
春	日 丘	隅田 勘助	隅田 勘助	隅田 勘助	隅田 勘助	窪 盛壽
日	立 団 地					
椿	井	吐田 藤雄	吐田 藤雄	吐田 藤雄	吐田 藤雄	吐田 藤雄
竜田川ネオポリス		土橋今朝善	吉田 文雄	吉田 文雄	中村 光男	中村 光男
竜	田 川 団 地	左古 勇	左古 勇	左古 勇	左古 勇	左古 勇
北	信 貴 ヶ 丘	長岡 正雄	長岡 正雄	長岡 正雄	仲 正夫	仲 正夫
信	貴 山	山田 安雄	山田 安雄	山田 安雄	山田 安雄	山田 安雄
信	貴 ホ ー ム	上野 久男	上野 久男	松村 正	田中 三郎	井上 昭二

地 区		H 8	H 9	H10	H11	H12
鳴	川	谷室伊三雄	森川 修	西岳 敬文	岡田 正善	植田 清文
櫟	原	峯川 徳司	峯川 徳司	高見 実	高見 実	松川 正一
椿	台	日垣喜一郎	日垣喜一郎	明石 賢三	明石 賢三	明石 賢三
緑	ヶ 丘	藤田 義一	藤田 義一	藤田 義一	藤田 義一	井上 武夫
菊	美 台					
楓	原	藤戸 正夫	藤戸 正夫	藤戸 正夫	藤戸 正夫	藤戸 正夫
西	向	森 正一	森 正一	森 正一	森 正一	吉村 英治
上	庄	北川 史弘	乾 利造	坂本 菊司	北川 清史	前川 勘司
上	庄 台	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫
月	見 台					
梨	本	植松 孝雄	巽 優	北川 義博	仲埜 良弘	西川 正行
若	葉 台	伊東 亨	伊東 亨	伊東 亨	伊東 亨	伊東 亨
ローズタウン若葉台		宮西 哲雄	宮西 哲雄	宮西 哲雄	金満 岩男	金満 岩男
御	陵 苑	北山 知旨	北山 知旨	北山 知旨	北山 知旨	北山 知旨
吉	新	野田 悟	野田 悟	門野 勝	門野 勝	門野 勝
三	里	外山 義信	外山 義信	外山 義信	三橋 孟雄	三橋 孟雄
下	垣 内	吉本 正一	小東 正信	巽 重高	椿本 政一	吉本 正一
平	等 寺	奥田 一郎	奥田 一郎	奥田 一郎	奥田 一郎	北樋口憲次
福	貴	坂中忠三郎	坂中忠三郎	坂中忠三郎	坂中忠三郎	坂中忠三郎
初	香 台	福田 稔	福田 稔	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀
五	月 台	門田 正	門田 正	門田 正	門田 正	門田 正
光	ヶ 丘	岡山 秀治	藤井 竹夫	大原 康男	伴 佐二雄	木村 正一
福	貴 団 地	小林 太一	小林 太一	小林 太一	小林 太一	小林 太一
福	貴 畑	中村 勝治	福田 幹男	森田 春三	中川 勇	木村 隆一
久	安 寺	米田 準一	米田 準一	米田 準一	吉村 弘	吉村 弘
信	貴 畑	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二	奥田 武二
樫	原	浦井 三男	浦井 三男	浦井 三男	西浦 寅一	奥田 彦一
越	木 塚	塚 信一	塚 信一	塚 信一	塚 信一	塚 信一
若	井	小林増十郎	小林増十郎	小林増十郎	小林増十郎	小林増十郎
西	宮	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和
春	日 丘	窪 盛壽	窪 盛壽	窪 盛壽	窪 盛壽	窪 盛壽
日	立 団 地					
椿	井	乾 常次	乾 常次	乾 常次	森田 周男	森田 周男
竜田川ネオポリス		藤田 道雄	藤田 道雄	吉田 文雄	中村 光男	中村 光男
竜	田 川 団 地	左古 勇	左古 勇	左古 勇	左古 勇	村木 實
北	信 貴 ヶ 丘	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫
信	貴 山	山田 安雄	山田 安雄	赤城 久隆	山田 安雄	赤城 久隆
信	貴 ホ ー ム	森川 衛	三木 三郎	森本 正範	前多 国守	本田 洋三

地 区		H13	H14	H15	H16	H17
鳴	川	谷室 安男	吉川 昌雄	岡田 幾治	森川 修	谷室伊三雄
櫟	原	松川 正一	吉村 美好	吉村 美好	橋本康太郎	橋本康太郎
椿	台	明石 賢三	明石 賢三	明石 賢三	石川 孫一	石川 孫一
緑	ヶ 丘	井上 武夫	井上 武夫	井上 武夫	井上 武夫	井上 武夫
菊	美 台					
楓	原	藤戸 正夫	藤戸 正夫	藤戸 正夫	檜根 義信	檜根 義信
西	向	吉村 英治	吉村 英治	森 正一	高塚 義治	吉村 英治
上	庄	辻本 巖	中田 利幸	浦井 俊信	奥田 正治	岡橋 靖郎
上	庄 台	松本 義夫	松本 義夫	松本 義夫	藪内 英輔	藪内 英輔
月	見 台				扇田 修身	扇田 修身
梨	本	奥野 政市	沖野 八三郎	辰巳 幸禧	仲埜 幸男	稲田 實 辰巳 廣務
若	葉 台	伊東 亨	西野 達治	西野 達治	原田 青三	原田 青三
ローズタウン若葉台		上野 治雄	上野 治雄	宮西 哲雄	宮西 哲雄	上野 治雄
御	陵 苑	北山 知旨	北山 知旨	北山 知旨	北山 知旨	東原 竹子
吉	新	門野 勝	門野 勝	門野 勝	大森 喜蔵	大森 喜蔵
三	里	三橋 孟雄	三橋 孟雄	三橋 孟雄	平田 嘉幸	平田 嘉幸
下	垣 内	辰巳 保治	栄 捨次郎	栄 捨次郎	岩佐 直吉	岩佐 直吉
平	等 寺	北樋口憲次	北樋口憲次	北樋口憲次	阪中 克己	阪中 克己
福	貴	巳波 皓祐	巳波 皓祐	巳波 皓祐	西田 誠宏	西田 誠宏
初	香 台	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀
五	月 台	門田 正	大辻 清義	大辻 清義	大辻 清義	大辻 清義
光	ヶ 丘	木村 正一	岡山 秀治	加藤 和郎	加藤 和郎	有村 四郎
福	貴 団 地	小林 太一	小林 太一	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄
福	貴 畑	中尾 武夫	中山 脩	安村 幸弘	森田 臣	中村 弘
久	安 寺	吉村 弘	吉村 弘	吉村 弘	南 岩夫	南 岩夫
信	貴 畑	井田 茂	安井初次郎	奥本 京春	奥野昭三郎	下城 嗣夫
樅	原	岡田 賢治	奥田 竜男	植田 喜三	奥田 邦一	奥田 隆弘
越	木 塚	塚 順善	塚 順善	塚 順善	浦野 善夫	浦野 善夫
若	井	山田喜久男	山田喜久男	山田喜久男	北川 義一	北川 義一
西	宮	宮前 清和	宮前 清和	石橋 良光	石橋 良光	石橋 良光
春	日 丘	窪 盛壽	窪 盛壽	大村 三郎	大村 三郎	松本くに子
日	立 団 地	—	—	—	佐野 正吉	佐野 正吉 守屋 勝己
椿	井	森田 周男	森田 周男	城垣 弘	城垣 弘	向川 善万
竜田川ネオポリス		中村 光男	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄
竜田川団地		村木 實	村木 實	村木 實	村木 實	村木 實
北	信 貴 ヶ 丘	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫
信	貴 山	赤城 久隆	赤城 久隆	赤城 久隆	赤城 英子	赤城 英子
信	貴 ホ ー ム	渡辺 好子	大沼 洋介	—	—	—

地 区		H18	H19	H20	H21	H22
鳴	川	西岳 敬文	岡田 正善	植田 清文	植田 清文	大塚 昭治
櫟	原	中野 秀雄	中野 秀雄	峯田 繁一	峯田 繁一	谷口 光男
椿	台	森田 照男	森田 照男	森田 照男	森田 照男	三船 忠志
緑	ヶ 丘	井上 武夫	中塚 芳治	中塚 芳治	中塚 芳治	中塚 芳治
菊	美 台	浅井 英治	浅井 英治	島 忠男	島 忠男	竹谷 二郎
楓	原	檜根 義信	檜根 義信	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄
西	向	森 正一	森 正一	森 正一	森 正一	森 正一
上	庄	北川 俊明	艮 忠実	吉崎 啓二	山口 博	扇田 清巳
上	庄 台	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔	藪内 英輔	中西 素直
月	見 台	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身
梨	本	辰巳 廣務	谷口 弘	野村 正明	西浦 豊治	東 光洋
若	葉 台	山口 晃男	山口 晃男	山口 晃男	山口 晃男	島 與一
ローズタウン若葉台		上野 治雄	福島 昇	福島 昇	福島 昇	福島 昇
御	陵 苑	東原 竹子	東原 竹子	綿谷 豊	綿谷 豊	綿谷 豊
吉	新	大森 喜蔵	大森 喜蔵	大森 喜蔵	道上 勝	道上 勝
三	里	平田 嘉幸	平田 嘉幸	平田 嘉幸	安田 稔	安田 稔
下	垣 内	前田 修次	前田 修次	前田 修次	前田 修次	前田 修次
平	等 寺	阪中 克己	阪中 克己	中辻 満彦	中辻 満彦	中辻 満彦
福	貴	西田 誠宏	西田 誠宏	西田 誠宏	西田 誠宏	西田 誠宏
初	香 台	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	浦野 育三	浦野 育三
五	月 台	大辻 清義	長岡 健次	長岡 健次	長岡 健次	長岡 健次
光	ヶ 丘	有村 四郎	江村 和明	江村 和明	江村 和明	江村 和明
福	貴 団 地	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄
福	貴 畑	石田 博三	白山 恵一	植田 康嗣	植田 哲央	岡田 光生
久	安 寺	南 岩夫	瀧本 好一	瀧本 好一	西口 富雄	西口 富雄
信	貴 畑	中野 健三	向山 巖	向井 道治	森戸 貞治	浦野 吉二
樫	原	岡村喜代治	奥本 実	植田 一生	西浦 幸雄	奥田 雅巳
越	木 塚	小東 龍夫	小東 龍夫	巳波 秀雄	巳波 秀雄	谷田 元佳
若	井	松浦 正美	松浦 正美	松浦 正美	松浦 正美	松浦 正美
西	宮	石橋 良光	石橋 良光	村上喜久男	寺川 敏雄	寺川 敏雄
春	日 丘	山口 孟	山口 孟	山口 孟	中田 貞昭	中田 貞昭
日	立 団 地	守屋 勝巳	守屋 勝巳	守屋 勝巳	守屋 勝巳	中嶋 景三
椿	井	向川 善万	山村 定男	山村 定男	中村 公彦	中村 公彦
竜田川ネオポリス		牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎
竜	田 川 団 地	村木 實	藤井 正博	藤井 正博	藤井 正博	藤井 正博
北	信 貴 ヶ 丘	仲 正夫	月田 實	月田 實	土井 重尋	土井 重尋
信	貴 山	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子

地 区		H23	H24	H25	H26
鳴	川	植田 清文	大塚 昭治	大塚 昭治	植田 清文
櫟	原	谷口 光男	山中 実	山中 実	榊原 潔
椿	台	三船 忠志	三船 忠志	三船 忠志	三船 忠志
緑	ヶ 丘	中塚 芳治	中塚 芳治	高野 国博	高野 国博
菊	美 台	島 忠男	島 忠男	寺本 恵成	尾鼻 昌次
楓	原	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄
西	向	前田 傳	前田 傳	前田 傳	前田 傳
上	庄	巽 芳正	森本 淳一	吉本 蔦夫	北川 治晃
上	庄 台	中西 素直	中西 素直	中西 素直	中西 素直
月	見 台	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身	扇田 修身
梨	本	小野 建弘	小野 建弘	小野 建弘	小野 建弘
若	葉 台	島 與一	島 與一	島 與一	島 與一
ローズタウン若葉台		井戸 暉	井戸 暉	井戸 暉	城内 敏之
御	陵 苑	綿谷 豊	田辺 幸雄	田辺 幸雄	田辺 幸雄
吉	新	道上 勝	道上 勝	道上 勝	吉川 貞子
三	里	安田 稔	安田 稔	安田 稔	国分 信孝
下	垣 内	小林ゆい子	小林ゆい子	小林ゆい子	小林ゆい子
平	等 寺	中辻 満彦	山崎 正俊	山崎 正俊	山崎 正俊
福	貴	乾 雅善	乾 雅善	中谷 勤	中谷 勤
初	香 台	浦野 育三	浦野 育三	今本 良一	今本 良一
五	月 台	長岡 健次	長岡 健次	長岡 健次	長岡 健次
光	ヶ 丘	江村 和明	江村 和明	江村 和明	江村 和明
福	貴 団 地	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄
福	貴 畑	西野 肇	中村 安治	中村 隆一	坂野 元一
久	安 寺	向山 康夫 植山 昭治	植山 昭治	谷口 義輝	谷口 義輝
信	貴 畑	森中源二郎	森中 定雄	浦野 昭治	大西 薫
樅	原	浦井 敏次	深井 幸氏	植田伊和男	奥田 二郎
越	木 塚	谷田 元佳	小東 八郎	小東 八郎	谷田 賢司
若	井	松浦 正美	松浦 正美	池田 清美	池田 清美
西	宮	寺川 敏雄	西畑 茂郎	西畑 茂郎	西畑 茂郎
春	日 丘	乙倉 三郎	乙倉 三郎	乙倉 三郎	大村 三郎
日	立 団 地	中田 勝也	安保 公晴	竹田津清和	上田 康博
椿	井	春木 成夫	春木 成夫	坂口 昌弘	吐田 和士
竜田川ネオポリス		牧野富久太郎	木津 文也 牧野富久太郎	牧野富久太郎	原 紀久
竜	田 川 団 地	藤井 正博	藤井 正博	藤井 正博	藤井 正博
北	信 貴 ヶ 丘	土井 重尋	土井 重尋	土井 重尋	土井 重尋
信	貴 山	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子

4. 歴代地区女性部長

地 区	H 7	H 8	H 9	H10	H11
鳴 川	吉川 美代	谷室タマノ	森川 昌子	西岳美代子	岡田 節子
櫟 原	峯川 繁野 上田 秀子	峯川 繁野	峯川 繁野	上田 秀子	上田 秀子
椿 台	中田フミ子	橋本 久子	橋本 久子	橋本 久子	出来ツヤ子
緑 ケ 丘	城井 艶子	城井 艶子	石山 孝子	石山 孝子	石山 孝子
菊 美 台					
楓 原		樋口ヤスコ	樋口ヤスコ	樋口ヤスコ	樋口ヤスコ
西 向	森 ミツエ	森 ミツエ	高塚フクエ	高塚フクエ	大東ツヤ子
上 庄		岸本 房子	吉崎 千代	中村 道子	北原キミノ
上 庄 台	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子
月 見 台					
梨 本		奥野ヨシ子	植松 和子	植松 和子	中川マツ子
若 葉 台	平岡 文代	森脇ふよ子	山本 満子	東 定子	辻本恵美江
ローズタウン若葉台	北倉みさ子	北倉みさ子	北倉みさ子	浅井美智江	浅井美智江
御 陵 苑		中西 静子	中西 静子	中西 静子	中西 静子
吉 新		吉村 英子	吉村 英子	吉村 英子	吉村 英子
三 里	吉川 秀子	三橋 照子	吉川チエ子	吉川チエ子	吉川チエ子
下 垣 内					
平 等 寺		谷川 みき	谷川 みき	小谷川和美	小谷川和美
福 貴	奥田 艶子	坂中タツエ	岡田 静子	菅田 照子	上田 富子
初 香 台	澤村千代子 高倉 澄子	田中 一子	田中 一子	田中 一子	田中 一子
五 月 台		宮本 君江	宮本 君江	宮本 君江	宮本 君江
光 ケ 丘	井上 富子	銭谷 隆子	寺師 鶴子	寺師 鶴子	寺師 鶴子
福 貴 団 地	大内 道子	大内 道子	大内 道子	大内 道子	大内 道子
福 貴 畑		下中タキノ	下中タキノ	下中タキノ	中辻壽美子
久 安 寺	森島ヒサエ	森島ヒサエ	森島ヒサエ	表 とし子	表 とし子
信 貴 畑	向山富美子	向山富美子	向山富美子	向山富美子	向山富美子
樫 原	岡田 良子	岡田 良子	岡田 良子	岡田 良子	岡田 良子
越 木 塚		浦野シサエ	浦野シサエ	浦野シサエ	浦野シサエ
若 井		山口リヨコ	山口リヨコ	山口リヨコ	山口リヨコ
西 宮		伊藤 良枝	安道 米子	伊藤 良枝	伊藤 良枝
春 日 丘		木村 壽子	木村 壽子	木村 壽子	木村 壽子
日 立 団 地					
椿 井		榎 明子	榎 明子	榎 明子	浦野キヨ子
竜田川ネオポリス					
竜田川団地					
北 信 貴 ケ 丘					
信 貴 山		—	藤井 和子	藤井 和子	藤井 和子
信 貴 ホ ー ム	丸谷 隆子	富樫 和子	富樫 和子	金森百合子	金森百合子

地 区		H12	H13	H14	H15	H16
鳴	川	西岳 敏子	谷室 信子	吉川 節子	岡田 節子	森川 昌子
櫟	原	宮坂 時枝	宮坂 時枝	大津輪君子	大津輪君子	大津輪君子
椿	台	出来ツヤ子	出来ツヤ子	岩測いさ子	岩測いさ子	斉藤 清
緑	ヶ 丘	石山 孝子	森 とし子	森 とし子	森 とし子	森 とし子
菊	美 台					
楓	原	樋口ヤスコ	樋口ヤスコ	藤戸 フミ	藤戸 フミ	樋口ヤスコ
西	向	大東ツヤ子	森 ミツエ	森 ミツエ	大東ツヤ子	大東ツヤ子
上	庄	吉崎 光子	松本 キヨ	松本 キヨ	前川千鶴子	坂本タツノ
上	庄 台	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子	三宅 文子
月	見 台					
梨	本	辰巳 照子	仲埜 照子	仲埜 照子	巽 笑子	伊藤 英子
若	葉 台	辻本恵美江	東 定子	寺内マサエ	寺内マサエ	澤田 能婦
ローズタウン若葉台		中山 ひさ	上野 久子	上野 久子	宮西 芳枝	宮西 芳枝
御	陵 苑	田中 吉枝	田中 吉枝	東原 竹子	東原 竹子	東原 竹子
吉	新	寺嶋 梅子	寺嶋 梅子	大森美智子	大森美智子	西田満寿子
三	里	吉川チエ子	吉川チエ子	吉川チエ子	吉川チエ子	五十嵐すえの
下	垣 内	辰巳 幸子	辰巳 幸子	植田マサノ	秋田キヨノ	生田 寿子
平	等 寺	小谷川和美	堀川キヌエ	堀川キヌエ	堀川シゲノ	堀口 敏子
福	貴	巳波 静子	奥田 美千代	西川 幸子	西川知賀子	西川知賀子
初	香 台	井藤 政子	井藤 政子	松家喜志子	松家喜志子	松家喜志子
五	月 台	宮本 君江	宮本 君江	高橋 容子	高橋 容子	高橋 容子
光	ヶ 丘	岡本 綾子	岡本 綾子	近江多加子	近江多加子	近江多加子
福	貴 団 地	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子
福	貴 畑	中村 信子	中村ミサ子	中尾 久子	坂野 佳子	坂野 佳子
久	安 寺	米田寿美子	米田寿美子	米田寿美子	上田キミエ	上田キミエ
信	貴 畑	向山富美子	森尾ヒサエ	中尾 道子	中尾 道子	上田ツヤ子
樫	原	岡田 良子	奥田シズ子	奥田シズ子	奥田カズエ	岡田 幸子
越	木 塚	浦野シサエ	浦野シサエ	塚 美保子	塚 美保子	浦野 佳子
若	井	山口リヨコ	中西波留美	山口リヨコ	山口リヨコ	山田 昌代
西	宮	伊藤 良枝	伊藤 良枝	伊藤 良枝	宮前 陽子	宮前 陽子
春	日 丘	木村 壽子	木村 壽子	木村 壽子	木村 壽子	木村 壽子
日	立 団 地					
椿	井	浦野キヨ子	浦野キヨ子	坂口千代子	宮崎 順子	宮崎 順子
竜田川ネオポリス		酒井千代子	酒井千代子	中村 京子	中村 京子	吉田 絹枝
竜田川団地		海津 昌子	海津 昌子	水野 文子	水野 文子	水野 文子
北	信 貴 ヶ 丘		上中野ミツ	上中野ミツ	上中野ミツ	仲 トヨ
信	貴 山	藤井 和子	藤井 和子	藤井 和子	藤井 和子	藤井 和子
信	貴 ホ ー ム	横尾 則子	横尾 則子	井上 雅子	—	—

地 区		H17	H18	H19	H20	H21
鳴	川	西岳 敏子	吉川 敏子	岡田 節子	植田 定子	谷室 信子
櫟	原	大津輪君子	橋本 久子	橋本 久子	中野 愛子	中野 愛子
椿	台	斉藤 清	—	服部 了子	服部 了子	上西 節子
緑	ヶ 丘	沢田 民子	沢田 民子	沢田 民子	溝口 澄子	溝口 澄子
菊	美 台	—	—	柿花アサミ	山本セイ子	山本セイ子
楓	原	檜根 秀野	檜根 秀野	檜根 秀野	辻本八重子	辻本八重子
西	向	大東ツヤ子	森 光子	高塚フクエ	高塚フクエ	高塚フクエ
上	庄	浦井須美子	中川箕志子	岡橋キヨエ	坂本 昭代	中田 幸子
上	庄 台	繁田千恵子	繁田千恵子	岡本 和子	岡本 和子	岡本 和子
月	見 台	石原 芳子	石原 芳子	石原 芳子	扇田 節子	扇田 節子
梨	本	稲田 地鶴	北川 俊文	沖野三佐恵	仲埜 ヒサ	仲埜 ヒサ
若	葉 台	澤田 能婦	米田 照子	米田 照子	中島 光子	中島 光子
ローズタウン若葉台		金満 通子	金満 通子	別所郁司子	別所郁司子	秋本 恭子
御	陵 苑	中川 愛子	奥田 治子	奥田 治子	東原 竹子	嶋岡 高子
吉	新	柳原 杏子	柳原 杏子	森本 昭子	森本 昭子	矢田 信子
三	里	五十嵐すえの	西田シゲ子	坂口 富子	坂口 富子	大槻すみ子
下	垣 内	生田 寿子	植田 寿子	植田 寿子	植田 寿子	植田 寿子
平	等 寺	奥田美佐子	宮崎 正子	宮崎 正子	澤波百合子	澤波百合子
福	貴	乾 利子	藤田 明子	中谷 朝子	成瀬 芳江	栗本まきゑ
初	香 台	松家喜志子	武智千枝子	武智千枝子	武智千枝子	加藤 明子
五	月 台	高橋 容子	高橋 容子	門田 妙子	門田 妙子	門田 妙子
光	ヶ 丘	伊藤 ルイ	伊藤 ルイ	伊藤 ルイ	江村 悦子	伊藤 ルイ
福	貴 団 地	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	佐々木恵美子	西村 佳子
福	貴 畑	堅川 旦子	米田 静子	中村勢津代	松村 貴子	植田佐和子
久	安 寺	向井テル子	向井テル子	吉村 笑子	吉村 笑子	稲田 幸子
信	貴 畑	中野 静子	下城タミエ	奥野 寛子	菅田 清美	奥野 寛子
樫	原	岡村恵美子	奥田 好子	岡田 静子	奥田 宏子	植田 勝子
越	木 塚	巳波 拓子	浦野 昭代	浦野 昭代	塚 トシ子	塚 トシ子
若	井	山田 昌代	山田 昌代	山田 昌代	山田 昌代	山田 昌代
西	宮	石橋 昌子	石橋 昌子	湯川 静子	湯川 静子	塚口美千子
春	日 丘	木村 壽子	生駒ちゑ子	生駒ちゑ子	生駒ちゑ子	岡本 類子
日	立 団 地	佐野恵美子	佐野恵美子	中嶋 信子	中嶋 信子	小林由美子
椿	井	長田千恵子	長田千恵子	乾 フジ子	乾 フジ子	城垣ミチ子
竜田川ネオポリス		吉田 絹枝	滝川 詢子	吉田 絹枝	吉田 絹枝	玉田マスミ
竜田川団地		本谷 裕子	本谷 裕子	本谷 裕子	本谷 裕子	本谷 裕子
北	信 貴 ヶ 丘	仲 トヨ	仲 トヨ	仲 トヨ	仲 トヨ	仲 トヨ
信	貴 山	藤井 和子	藤井 和子	赤城 英子	赤城 英子	赤城 英子

地 区		H22	H23	H24	H25	H26
鳴	川	大塚 雅子	植田 定子	吉川 敏子	谷室 信子	植田 定子
櫟	原	谷口 良子	谷口 良子	谷口 幸子	谷口 良子	山中 綾子
椿	台	上西 節子	上西 節子	上西 節子	上西 節子	上西 節子
緑	ヶ 丘	溝口 澄子	溝口 澄子	溝口 澄子	溝口 澄子	丸本 幸子
菊	美 台	北川 和子	山本セイ子	山本セイ子	北川 和子	北川 和子
楓	原	辻本八重子	辻本八重子	辻本八重子	辻本八重子	辻本八重子
西	向	高塚フクエ	高塚フクエ	高塚フクエ	高塚フクエ	土岸 保美
上	庄	北川ユキ代	山口賀統子	扇田 澄江	良 小夜子	北川由紀子
上	庄 台	岡本 和子	岡本 和子	岡本 和子	岡本 和子	岡本 和子
月	見 台	扇田 節子	扇田 節子	扇田 節子	扇田 節子	扇田 節子
梨	本	西浦 信子	西浦 信子	西浦 信子	西浦 信子	西浦 信子
若	葉 台	中島 光子	中島 光子	中島 光子	中島 光子	向園 道子
ローズタウン若葉台		秋本 恭子	上林 翠	上林 翠	上林 翠	金満 通子
御	陵 苑	嶋岡 高子	嶋岡 高子	日下多喜子	日下多喜子	日下多喜子
吉	新	矢田 信子	矢田 信子	福本 敏子	福本 敏子	福本 敏子
三	里	大槻すみ子	大槻すみ子	大槻すみ子	大槻すみ子	大槻すみ子
下	垣 内	植田 寿子	植田 寿子	植田 寿子	植田 寿子	植田 寿子
平	等 寺	澤波百合子	澤波百合子	吉川 房子	吉川 房子	吉川 房子
福	貴	坂上佐智子	森田ムツヨ	成瀬 芳江	北川 節子	坂上美智子
初	香 台	加藤 明子	岩崎 京子	岩崎 京子	岩崎 京子	岩崎 京子
五	月 台	門田 妙子	門田 妙子	門田 妙子	門田 妙子	門田 妙子
光	ヶ 丘	伊藤 ルイ	花岡 安子	花岡 安子	大久保幸子	大久保幸子
福	貴 団 地	西村 佳子	西村 佳子	西村 佳子	西村 佳子	西村 佳子
福	貴 畑	露野 節子	中村 松子	植野千代美	堅川 栄子	露野 節子
久	安 寺	稲田 幸子	姓本 弘子	姓本 弘子	姓本 弘子	姓本 弘子
信	貴 畑	浦野トヨ子	向山恵美子	森中 美幸	森中 道子	向山 節子
樫	原	奥本 啓子	浦井 勝子	浦井 勝子	深井 睦乃	植田 昌子
越	木 塚	小東 千鶴	小東 千鶴	澤波 操	澤波 操	小東 隆子
若	井	山田 昌代	山田 昌代	岸本ミチ代	岸本ミチ代	岸本ミチ代
西	宮	塚口美千子	塚口美千子	塚口美千子	宮崎多喜代	宮崎多喜代
春	日 丘	和泉 和枝	和泉 和枝	和泉 和枝	和泉 和枝	和泉 和枝
日	立 団 地	北村 佳代	守屋 宮子	藤田 政江	宇田 春美	古池千恵子
椿	井	城垣ミチ子	春木 照子	春木 照子	春木 照子	春木 照子
竜田川ネオポリス		玉田マスミ	吉田 絹枝	吉田 絹江	吉田 絹江	原 紀久
竜	田 川 団 地	本谷 裕子	本谷 裕子	藤井 美佐	藤井 美佐	清家 律子
北	信 貴 ヶ 丘	仲 トヨ	土井 和代	土井 和代	土井 和代	土井 和代
信	貴 山	野沢恵美子	野沢恵美子	赤城 英子	谷口千江子	赤城 英子

5. 歴代地区健康委員

地 区	H18	H19	H20	H21	H22
鳴 川					
櫟 原	中元美代子	中元美代子	中元美代子	中元美代子	中元美代子
椿 台	前田 博	前田 博	前田 博	前田 博	木下 正男
緑 ケ 丘	—	中塚 芳治	中塚 芳治	葛野 正明	葛野 正明
菊 美 台	—	中島 憲二	中島 憲二	中島 憲二	北川 勉
楓 原	—	—	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄
西 向					
上 庄	—	—	岡崎キヨエ	坂本 昭代	中田 幸子
上 庄 台	中西 素直	中西 素直	中西 素直	中西 素直	小林 忠男
月 見 台	山本 新吉	山本 新吉	山本 新吉	山本 新吉	山本 新吉
梨 本	北川 倭文	北川 倭文	西浦 信子	西浦 信子	仲埜 ヒサ
若 葉 台	山口 隆平	長谷川 健	棟近香代子	棟近香代子	棟近香代子
ローズタウン若葉台	福島 昇	福島 昇	福島 昇	福島 昇	福島 昇
御 陵 苑	中川 愛子	中川 愛子	大坪 強	大坪 強	大坪 強
吉 新	西田万寿子	沖野扶佐子	矢田 信子	大森美智子	大森美智子
三 里	大田 幸子	巽 价可	安田 稔	安田 稔	安田 稔
下 垣 内	桐本 實	桐本 實	桐本 實	桐本 實	吉田 真作
平 等 寺	中辻 満彦	中辻 満彦	乾 泰子	乾 三郎	乾 三郎
福 貴	—	—	—	西田 誠宏	西田 誠宏
初 香 台	武智千恵子	武智千恵子	武智千恵子	武智千恵子	武智千恵子
五 月 台	—	—	永田 文人	永田 文人	長岡 健次
光 ケ 丘	加藤 和郎	井田 三郎	井田 三郎	土居 準一	土居 準一
福 貴 団 地	安原 淑子	安原 淑子	武田 俊雄	武田 俊雄	林 万佐子
福 貴 畑	坂野 佳子	露野 節子	中山三保子	中村 康子	中村勢津子
久 安 寺	吉村 笑子	吉村 笑子	稲田 幸子	向山テル子	向山テル子
信 貴 畑	—	高山カズエ	福本モトエ	向井シズ子	森戸セツ子
樅 原	奥田 好子	岡田 静子	奥田 宏子	西浦 清江	奥田 好子
越 木 塚	—	塚 千恵子	浦野みとし	浦野みとし	巳波ヤスエ
若 井	—	—	下田 栄光	下田 栄光	下田 栄光
西 宮	石本 正明	—	村上 秀代	村上 秀代	村上 秀代
春 日 丘	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄
日 立 団 地	守屋 勝巳	橋本 武	坂口 順子	上野紀美子	上野紀美子
椿 井	—	—	—	—	東 永治
竜田川ネオポリス	増岡 義子	増岡 義子	原 紀久	原 紀久	原 紀久
竜田川団地	猪川 圭子	猪川 圭子	猪川 圭子	猪川 圭子	山本恵津子
北 信 貴 ケ 丘	三浦 哲也	三浦 哲也	三浦 哲也	三浦 哲也	三浦 哲也
信 貴 山	谷口千江子	谷口千江子	谷口千江子	谷口千江子	野沢恵美子

地 区	H23	H24	H25	H26
鳴 川				
櫟 原	中元美代子	中元美代子	中元美代子	中元美代子
椿 台	木下 正男	木下 正男	木下 正男	木下 正男
緑 ケ 丘	葛野 正明	福井 寿明	福井 寿明	福井 寿明
菊 美 台	中島 憲二	中島 憲二	近藤 士郎	近藤 士郎
楓 原	貴志 稲子	辻本 達雄	辻本 達雄	辻本 達雄
西 向				
上 庄	北川ユキ子	山口賀統子	扇田 澄江	艮 小夜子
上 庄 台	小林 忠男	小林 忠男	小林 忠男	小林 忠男
月 見 台	山本 新吉	山本 新吉	二河田徹男	二河田徹男
梨 本	仲埜 ヒサ	小野ケイ子	小野ケイ子	東 まさ代
若 葉 台	棟近香代子	棟近香代子	松本 吉夫	松本 吉夫
ローズタウン若葉台	福島 昇	福島 昇		
御 陵 苑	大坪 強	大坪 強	大坪 強	大坪 強
吉 新	森本 昭子	池田 鈴子	沖野扶佐子	沖野扶佐子
三 里	福島 勲	福島 勲	福島 勲	福島 勲
下 垣 内	吉田 真作	吉田 真作	吉田 真作	吉田 真作
平 等 寺	乾 三郎	乾 三郎	山崎 正俊	山崎 正俊
福 貴	乾 雅善	乾 雅善	中谷 勤	中谷 勤
初 香 台	武智千恵子	武智千恵子	戎井 邦子	戎井 邦子
五 月 台	長岡 健次	長岡 健次	長岡 健次	渡邊 和憲
光 ケ 丘	土居 準一	土居 準一	土居 準一	土居 準一
福 貴 団 地	林 万佐子	中野 育子	中野 育子	中野 育子
福 貴 畑	山村 安子	谷口 美子	岡田サワ子	吉川 輝子
久 安 寺	藤本多加子	藤本多加子	表 幸子	表 幸子
信 貴 畑	梅本 貞子	森田 延子	大西 勝美	森戸サヨ子
樫 原	浦井 春代	奥田 満代	植田 昌子	岡村佐智子
越 木 塚	巳波ヤスエ	谷田 治子	谷田 治子	谷田 一子
若 井	下田 栄光	下田 栄光	下田 栄光	藤本奈智子
西 宮	村上 秀代	村上 秀代	乾 時和	乾 時和
春 日 丘	大谷 三雄	大谷 三雄	乾 洋子	乾 洋子
日 立 団 地	中村 都	香川恵美子	猪野 千栄	野田須磨子
椿 井	古山 巖	古山 巖	奥田 収	奥田 収
竜田川ネオポリス	海津 昌子	海津 昌子	海津 昌子	海津 昌子
竜田川団地	清水 睦子	木谷 裕子	木谷 裕子	藤井 美佐
北 信 貴 ケ 丘	田島 丈幸	田島 丈幸	三浦 堅次	三浦 堅次
信 貴 山	野沢恵美子	—	—	—

6. 歴代クラブ代表者名簿

クラブ名		H 5	H 6	H 7	H 8	H 9
1	健 康 体 操	城井 艶子	城井 艶子	城井 艶子	浅野 峯男	浅野 峯男
2	社 交 ダ ンス	藤岡 光子	藤岡 光子	藤岡 光子	藤岡 光子	岩崎恵美子
3	俳 句	奥田 権耳	奥田 権耳	奥田 権耳	本谷 尚子	本谷 尚子
4	カ ラ オ ケ	井垣 光俊	井垣 光俊	井垣 光俊	井垣 光俊	井垣 光俊
5	編 み 物	福井 晴枝	福井 晴枝	福井 晴枝	福井 晴枝	福井 晴枝
6	民 謡	安井みつ子 森中源二郎	安井みつ子 森中源二郎	安井みつ子 森中源二郎	安井みつ子 森中源二郎	森中源二郎 森中 美幸
7	コ ー ラ ス	若林 正芳 藤本 定司	若林 正芳 藤本 定司	若林 正芳 藤本 定司	若林 正芳 藤本 定司	若林 正芳 藤本 定司
8	新 舞 踊	土田 恵子	土田 恵子	土田 恵子	土田 恵子	土田 恵子
9	詩 吟	岳室タツエ	岳室タツエ	岳室タツエ	岳室タツエ	岳室タツエ
10	川 柳	宮川 武夫	井藤 清	井藤 清	井藤 清	井藤 清
11	短 歌					
12	アートフラワー					
13	リ フ ォ ー ム					
14	陶 芸					
15	囲 碁	合田 正雄	合田 正雄	合田 正雄	合田 正雄	合田 正雄
16	将 棋	後藤 義雄	大石 嘉弘	隅田 勘助	隅田 勘助	隅田 勘助
17	手 品 研 究					
18	ふれあい活動			藤本 定司	藤本 定司	藤本 定司
19	パ ソ コ ン					
20	健 康 麻 雀					
21	グ ル メ 浪 漫					
22	太 極 拳					
23	リラックス体操					
24	ゲートボール	松本 義夫 丑寅 芳一	松本 義夫 丑寅 芳一	松本 義夫 丑寅 芳一	松本 義夫 池田 侑正	松本 義夫 池田 侑正
25	グラウンドゴルフ					
26	小 筆					
27	ア ロ ハ					
28	折 り 紙					
29	木目込み人形					
30	ウ ク レ レ					
31	絵 て が み					
32	英 会 話					
33	茶 道					
34	和 歌 朗 詠					
35	ヨ ー ガ					
36	布 あ そ び					
37	フォークダンス					
38	扇 剣					
廃部	ベ タ ン ク					
廃部	ペ ン 習 字	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司
廃部	ターゲットゴルフ					
廃部	菊 寿 会	村中 岩男	村中 岩男	中嶋 重雄	日垣喜一郎	村中 岩男
廃部	手 芸	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子
廃部	友 愛	浅野 峯男				
廃部	美 化	日垣喜一郎				
廃部	情 報 活 動	宮前 清和	藤本 定司	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和

クラブ名		H10	H11	H12	H13	H16
1	健 康 体 操	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男
2	社 交 ダ ンス	岩崎恵美子	岩崎恵美子	中村 英子	中村 英子	中村 英子
3	俳 句	本谷 尚子	本谷 尚子	本谷 尚子	本谷 尚子	木場 亮二
4	カ ラ オ ケ	井垣 光俊	井垣 光俊	井垣 光俊	井垣 光俊	浦野 博文
5	編 み 物	福井 晴枝	福井 晴枝	福井 晴枝	福井 晴枝	青山すみ子
6	民 謡	森中源二郎 森中 美幸	森中源二郎 森中 美幸	森中源二郎 森中 美幸	森中源二郎	森中 美幸
7	コ ー ラ ス	若林 正芳 藤本 定司	岡田 悦子 植村千佳子	岡田 悦子 植村千佳子	若林 正芳	月田 實
8	新 舞 踊	土田 恵子	土田 恵子	栗山比登美	栗山比登美	上遠野侃子
9	詩 吟	岳室タツエ	岳室タツエ	岳室タツエ	岳室タツエ	前川 正行
10	川 柳	井藤 清	井藤 清	井藤 清	井藤 清	井藤 清
11	短 歌					
12	アートフラワー					向山恵美子
13	リ フ ォ ー ム					船本 清子
14	陶 芸					宮前 清和
15	囲 碁	伊東 亨	伊東 亨	伊東 亨	伊東 亨	数内 英輔
16	将 棋	隅田 勘助	隅田 勘助	隅田 勘助	隅田 勘助	南浦 博美
17	手 品 研 究				宮前 清和	宮前 清和
18	ふれあい活動	藤本 定司	藤本 定司	藤本 定司	藤本 定司	宮前 清和
19	パ ソ コ ン					
20	健 康 麻 雀					
21	グ ル メ 浪 漫					
22	太 極 拳					
23	リラックス体操					
24	ゲートボール	松本 義夫 池田 侑正	松本 義夫 池田 侑正	松本 義夫 池田 侑正	松本 義夫	松本 義夫
25	グラウンドゴルフ					河野 正
26	小 筆					
27	ア ロ ハ					
28	折 り 紙					
29	木目込み人形					
30	ウ ク レ レ					
31	絵 て が み					
32	英 会 話					
33	茶 道					
34	和 歌 朗 詠					
35	ヨ ー ガ					
36	布 あ そ び					
37	フォークダンス					
38	扇 剣					
廃部	ベ タ ン ク		浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男
廃部	ペ ン 習 字	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司	峯川 徳司	吉田 絹江
廃部	ターゲットゴルフ					
廃部	菊 寿 会	松本 芳一	松本 芳一	松本 芳一	松本 芳一	松坂 昇
廃部	手 芸	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子	寺西 良子
廃部	友 愛					
廃部	美 化					
廃部	情 報 活 動	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	

クラブ名		H17	H18	H19	H20	H21
1	健康体操	浅野 峯男	浅野 峯男	福島 昇	福島 昇	福島 昇
2	社交ダンス	中村 英子	中村 英子	小野 慶郎	小野 慶郎	小野 慶郎
3	俳句	木場 亮二	木場 亮二	野木 宗信	野木 宗信	野木 宗信
4	カラオケ	平田 嘉幸	河野 正	河野 正	河野 正	河野 正
5	編み物	青山すみ子	青山すみ子	青山すみ子	青山すみ子	青山すみ子
6	民謡	森中 美幸	森中 美幸	森中 美幸	森中 美幸	森中 美幸
7	コーラス	月田 實	月田 實	岡崎 孝之	岡崎 孝之	岡崎 孝之
8	新舞踊	上遠野侃子	上遠野侃子	上遠野侃子	上遠野侃子	上遠野侃子
9	詩吟	前川 正行	前川 正行	前川 正行	寺川 敏雄	寺川 敏雄
10	川柳	井藤 清	井藤 清	井藤 清	井藤 清	井藤 清
11	短歌	前田 通恵	前田 通恵	前田 通恵	前田 通恵	前田 通恵
12	アートフラワー	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子
13	リフォーム	船本 清子	船本 清子	船本 清子	炭本 稔子	炭本 稔子
14	陶芸	宮前 清和	宮前 清和	岡 嘉道	岡 嘉道	岡 嘉道
15	囲碁	藪内 英輔	古田 正夫	古田 正夫	古田 正夫	古田 正夫
16	将棋	南浦 博美	南浦 博美	南浦 博美	南浦 博美	南浦 博美
17	手品研究	宮前 清和	浅野 峯男	上野 治雄	宮前 清和	宮前 清和
18	ふれあい活動	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	村田眞佐夫	村田眞佐夫
19	パソコン		和田 孝彦	和田 孝彦	乾 昭雄	吉田稔之介
20	健康麻雀		山口 孟	山口 孟	山口 孟	山口 孟
21	グルメ浪漫		高津 弘行	高津 弘行	高津 弘行	高津 弘行
22	太極拳		小林 照子	小林 照子	小林 照子	松田 節子
23	リラックス体操		木間 春子	木間 春子	木間 春子	木間 春子
24	ゲートボール	松本 義夫	池田 侑正	池田 侑正	池田 侑正	池田 侑正
25	グラウンドゴルフ	河野 正	河野 正	河野 正	藤井 勝章	藤井 勝章
26	小筆			仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫
27	アロハ			田尻セツ子	田尻セツ子	田尻セツ子
28	折り紙				繁田千恵子	繁田千恵子
29	木目込み人形					北川 和子
30	ウクレレ				大門美智子	大門美智子
31	絵てがみ					遠山喜久子
32	英会話					遠山 隆雄
33	茶道					
34	和歌朗詠					
35	ヨーガ					
36	布あそび					
37	フォークダンス					
38	扇剣					
廃部	ペタンク	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	馬本 政明	馬本 政明
廃部	ペン習字	小野 慶郎	末松 有三	末松 有三	末松 有三	末松 有三
廃部	ターゲットゴルフ		牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	
廃部	菊寿会	松坂 昇	松坂 昇			
廃部	手芸					
廃部	友愛					
廃部	美化					
廃部	情報活動					

クラブ名		H22	H23	H24	H25	H26
1	健康体操	福島 昇	福島 昇	福島 昇	福島 昇	長谷川 透
2	社交ダンス	葛野 正明	葛野 正明	葛野 正明	葛野 正明	葛野 正明
3	俳句	野木 宗信	野木 宗信	野木 宗信	野木 宗信	野木 宗信
4	カラオケ	河野 正	河野 正	河野 正	河野 正	吉川 義男
5	編み物	青山すみ子	稲田古美榮	二村 幸子	塚口美千子	塚口美千子
6	民謡	森中 美幸	森中 美幸	森中 美幸	田辺 幸雄	田辺 幸雄
7	コーラス	岡崎 孝之	江崎 俊夫	江崎 俊夫	江崎 俊夫	江崎 俊夫
8	新舞踊	米田 照子	米田 照子	常松 多賀	常松 多賀	常松 多賀
9	詩吟	寺川 敏雄	寺川 敏雄	寺川 敏雄	相川 明睦	相川 明睦
10	川柳	井藤 清	山田 謙造	山田 謙造	山田 謙造	山田 謙造
11	短歌	前田 通恵	前田 通恵	大村 三郎	大村 三郎	大村 三郎
12	アートフラワー	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子	向山恵美子
13	リフォーム	炭本 稔子	炭本 稔子	炭本 稔子	南部 博子	南部 博子
14	陶芸	岡 嘉道	岡 嘉道	岡 嘉道	岡 嘉道	岡 嘉道
15	囲碁	古田 正夫	多田 恵一	多田 恵一	多田 恵一	船津 昭彦
16	将棋	南浦 博美	南浦 博美	南浦 博美	南浦 博美	山田 謙造
17	手品研究	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	上野 治雄	大門 秀夫
18	ふれあい活動	村田眞佐夫	村田眞佐夫	木村 義章	木村 義章	木村 義章
19	パソコン	酒匂ヤエ子	向田啓次郎	向田啓次郎	向田啓次郎	向田啓次郎
20	健康麻雀	向田啓次郎	向田啓次郎	向田啓次郎	向田啓次郎	向田啓次郎
21	グルメ浪漫	高津 弘行	高津 弘行	高津 弘行	高津 弘行	高津 弘行
22	太極拳	松田 節子	丸本 幸子	丸本 幸子	丸本 幸子	永田美代子
23	リラックス体操	木間 春子	板木 久枝	佐伯佳代子	岸野 月子	板木 久枝
24	ゲートボール	池田 侑正	池田 侑正	池田 侑正	池田 侑正	吉田 真作
25	グラウンドゴルフ	藤井 勝章	藤井 勝章	日笠 晴正	日笠 晴正	日笠 晴正
26	小筆	仲 正夫	仲 正夫	乾 フジ子	乾 フジ子	松山 定巳
27	アロハ	田尻セツ子	田尻セツ子	十川 昭恵	十川 昭恵	十川 昭恵
28	折り紙	繁田千恵子	繁田千恵子	田中ミツエ	田中ミツエ	田中ミツエ
29	木目込み人形	北川 和子	北川 和子	北川 和子	吉田三重子	吉田三重子
30	ウクレレ	大門美智子	大門美智子	大門美智子	大門美智子	大門美智子
31	絵てがみ	中野 育子	中野 育子	中野 育子	中野 育子	中野 育子
32	英会話	本田登美子	本田登美子	本田登美子	本田登美子	本田登美子
33	茶道	米田世紀子	米田世紀子	米田世紀子	米田世紀子	米田世紀子
34	和歌朗詠	山田 幸子	山田 幸子	山田 幸子	山田 幸子	山田 幸子
35	ヨーガ				本谷 裕子	本谷 裕子
36	布あそび				島田 良子	山本 千代
37	フォークダンス				福井 匡恵	谷川 安子
38	扇剣					岡本 豊子
廃部	ペタンク	馬本 政明	馬本 政明	馬本 政明	馬本 政明	
廃部	ペン習字	末松 有三	末松 有三			
廃部	ターゲットゴルフ					
廃部	菊寿会					
廃部	手芸					
廃部	友愛					
廃部	美化					
廃部	情報活動					

7. 歴代健康推進委員名簿

	H19	H20	H21	H22
委員長	扇田修身	扇田修身	扇田修身	小林忠男
委員	小林忠男	小林忠男	小林忠男	
委員				扇田修身
委員	福島昇	福島昇	福島昇	福島昇
委員	榊原和子	榊原和子	榊原和子	榊原和子
委員	守屋宮子	守屋宮子	守屋宮子	守屋宮子
委員	逢坂由美子	逢坂由美子	原紀久	原紀久
委員	増岡義子	増岡義子		
委員	三浦哲也	三浦哲也		
委員	武田俊雄	武田俊雄		
オブザーバー	瓜生浩章	瓜生浩章	瓜生浩章	山口繁雄

	H23	H24	H25	H26
委員長	小林忠男	小林忠男	小林忠男	小林忠男
委員				
委員	扇田修身	扇田修身	扇田修身	扇田修身
委員	福島昇	福島昇	大坪強	大坪強
委員	榊原和子	江村和明	江村和明	江村和明
委員	守屋宮子	奥田京子	奥田京子	前田稔
委員	原紀久	前田稔	前田稔	武智千枝子
委員		武智千枝子	武智千枝子	中元美代子
委員			中元美代子	本谷裕子
委員			本谷裕子	西川明子
オブザーバー	松田佳子	松田佳子	松田佳子	南佳子

8. 歴代ふれあい編集委員名簿

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
部長	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔
委員	浅野峯男				扇田修身	扇田修身
委員	若林正芳	若林正芳	川島康夫	武田俊雄	武田俊雄	守屋勝巳
委員	井藤清	井藤清	井藤清	井藤清	井藤清	井藤清
委員	村木實	村木實	村木實	村木實	村木實	村木實
委員	内山貞一	内山貞一	内山貞一	内山貞一	内山貞一	内山貞一
委員	池田文代		和田孝彦	和田孝彦	和田孝彦	和田孝彦
委員	仲正夫	仲正夫	仲正夫	仲正夫	仲正夫	仲正夫

	H22	H23	H24	H25	H26
部長	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔	薮内英輔
委員	扇田修身	扇田修身	扇田修身	扇田修身	扇田修身
委員	守屋勝巳	守屋勝巳	守屋勝巳	守屋勝巳	守屋勝巳
委員	井藤清	藤井正博	藤井正博	藤井正博	三船忠志
委員	村木實	三船忠志	三船忠志	三船忠志	岡嘉道
委員	内山貞一	内山貞一	内山貞一	岡嘉道	浜崎晴美
委員	和田孝彦	和田孝彦	和田孝彦	浜崎晴美	大村三郎
委員	仲正夫	仲正夫	仲正夫		田尻セツ子

9. 伝承交流部部員名簿

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
部 長	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫
部 員	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄
部 員	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子
部 員	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和
部 員	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平
部 員	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄
部 員	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎
部 員		澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子
部 員			田尻 宏	田尻 宏	田尻 宏	田尻 宏
部 員				松家喜志子	松家喜志子	松家喜志子
部 員					森田喜久子	森田喜久子
部 員					松本 彪	松本 彪
部 員						佐野エミ子
部 員						
部 員						
部 員						
部 員	明石 賢三	明石 賢三	明石 賢三	明石 賢三		
部 員						
部 員						
部 員						
部 員						
部 員						

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
部 員	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀
部 員	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄
部 員		東原 竹子	東原 竹子	東原 竹子	東原 竹子	東原 竹子
部 員	竹下 眞申	竹下 眞申	竹下 眞申	竹下 眞申	竹下 眞申	竹下 眞申
部 員			前田 博	前田 博	前田 博	前田 博
部 員				北川 義博	北川 義博	北川 義博
部 員	村木 實	村木 實	村木 實	村木 實	村木 實	村木 實
部 員	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	武田 俊雄	
部 員	石本 正明	石本 正明	石本 正明	石本 正明		
部 員	福島 昇	福島 昇	福島 昇	福島 昇		
部 員	新垣 道子	新垣 道子	新垣 道子	新垣 道子		
部 員	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男	浅野 峯男		
部 員	宮西 哲雄	宮西 哲雄	宮西 哲雄	宮西 哲雄		
部 員	木村 壽子		山口 孟	山口 孟		
部 員			守屋 勝巳	守屋 勝巳		

	H22	H23	H24	H25	H26
部 長	仲 正夫	仲 正夫	仲 正夫	田尻 宏	田尻 宏
部 員	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄	上野 治雄
部 員	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子	羽多野不二子
部 員	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和	宮前 清和
部 員	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平	山口 隆平
部 員	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄	大谷 三雄
部 員	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎	牧野富久太郎
部 員	澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子	澤田 民子
部 員	田尻 宏	田尻 宏	田尻 宏	仲 正夫	蛭原 昌子
部 員	松家喜志子	松家喜志子	松家喜志子	松家喜志子	松家喜志子
部 員	森田喜久子	森田喜久子	森田喜久子	森田喜久子	森田喜久子
部 員	松本 彪	松本 彪	松本 彪	松本 彪	松本 彪
部 員	佐野エミ子	佐野エミ子	佐野エミ子	佐野エミ子	佐野エミ子
部 員	川村 隆彦	川村 隆彦	川村 隆彦	川村 隆彦	川村 隆彦
部 員		岡本美智子	岡本美智子	岡本美智子	岡本美智子
部 員			西川 朋代	西川 朋代	西川 朋代
部 員				明石 賢三	明石 賢三
部 員				柄谷 光彦	柄谷 光彦
部 員				小林 忠男	小林 忠男
部 員				大門 秀夫	大門 秀夫
部 員				小杉 友彦	小杉 友彦
部 員				田辺 敬子	田辺 敬子

	H22	H23	H24	H25	H26
部 員	秋塚 直秀	秋塚 直秀	秋塚 直秀		
部 員	藤田 道雄	藤田 道雄	藤田 道雄		
部 員	東原 竹子	東原 竹子	東原 竹子		
部 員	竹下 眞申	竹下 眞申	竹下 眞申		
部 員	前田 博	前田 博	前田 博		
部 員	北川 義博				
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					
部 員					

10. 平群町長寿会地区会員数

地 区	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
鳴 川	14	23	25	26	28	29	30	29	30	31	32
櫟 原	68	63	62	62	74	73	73	71	70	73	73
椿 台	83	83	81	85	92	93	91	87	94	91	90
緑 ケ 丘	43	43	48	40	35	37	37	41	42	41	40
菊 美 台											
楓 原	26	25	27	25	24	22	24	21	22	22	20
西 向	11	12	13	15	15	15	15	14	15	15	15
上 庄	33	34	36	39	38	41	42	47	49	51	54
上 庄 台	58	62	65	65	71	72	76	79	79	84	80
月 見 台											
梨 本	33	34	38	37	35	36	38	42	43	43	45
若 葉 台	42	39	38	34	35	37	33	38	42	46	42
ローズタウン若葉台		22	27	28	29	29	29	30	29	33	37
御 陵 苑	15	14	17	19	16	17	16	20	18	19	19
吉 新	75	77	80	87	91	99	100	105	103	99	95
三 里	58	59	58	63	71	70	68	66	64	62	58
下 垣 内	44	45	43	44	45	51	56	53	50	54	52
平 等 寺	30	31	36	38	38	37	37	35	36	34	34
福 貴	58	57	60	61	69	71	65	67	70	75	78
初 香 台	110	122	125	137	134	139	143	163	169	177	183
五 月 台		17	20	19	17	15	13	14	14	14	14
光 ケ 丘	27	33	39	47	49	54	64	67	78	89	92
福 貴 団 地	28	31	31	30	29	31	32	36	34	38	38
福 貴 畑	72	75	78	85	85	87	89	96	96	99	102
久 安 寺	48	51	52	47	47	48	50	54	48	44	46
信 貴 畑	51	56	62	63	65	67	63	65	66	71	74
榎 原	21	23	22	22	26	25	27	29	28	31	34
越 木 塚	29	27	30	31	34	34	37	38	41	43	45
若 井	94	78	85	85	82	88	84	89	83	85	81
西 宮	52	57	53	53	60	60	63	64	65	68	64
春 日 丘	102	104	104	107	110	114	117	120	124	123	165
日 立 団 地											
椿 井	68	73	80	80	88	89	92	88	81	82	78
竜田川ネオポリス	30	31	34	35	37	38	41	44	44	40	39
竜 田 川 団 地	21	21	20	20	20	17	17	42	44	41	47
北 信 貴 ケ 丘	23	27	25	23	29	29	28	30	28	24	29
信 貴 山	21	20	17	16	18	18	20	20	24	27	24
信 貴 ホ ー ム	40	38	34	28	30	34	37	42			
計	1528	1607	1665	1696	1766	1816	1847	1946	1957	2002	1961

地 区	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
鳴 川	31	29	29	29	24	23	23	20	18	17	15
櫟 原	70	72	70	70	79	78	82	81	76	70	79
椿 台	99	99	98	98	103	111	115	125	129	141	150
緑 ケ 丘	44	48	49	62	67	72	89	87	98	101	94
菊 美 台			33	38	44	48	50	38	37	98	59
楓 原	23	19	20	20	20	23	23	23	24	24	24
西 向	12	11	12	10	8	9	10	9	9	10	9
上 庄	52	52	52	53	57	59	58	57	56	58	56
上 庄 台	76	77	78	78	76	77	76	71	80	78	80
月 見 台	11	12	11	21	22	22	25	27	28	29	28
梨 本	44	43	42	43	40	36	34	33	31	27	26
若 葉 台	43	67	68	76	80	74	83	86	94	102	100
ローズタウン若葉台	37	36	30	26	26	22	19	17	22	23	26
御 陵 苑	19	24	29	37	39	37	40	41	45	47	49
吉 新	111	108	103	105	103	95	93	90	82	77	72
三 里	57	57	55	61	59	64	69	71	76	76	72
下 垣 内	49	50	52	53	52	48	46	43	43	45	45
平 等 寺	40	40	38	37	37	37	38	37	37	40	43
福 貴	78	76	73	77	72	71	73	68	68	72	75
初 香 台	198	205	209	226	233	251	264	143	145	142	150
五 月 台	14	13	14	14	14	13	15	14	14	15	16
光 ケ 丘	47	43	44	38	40	44	42	42	39	39	43
福 貴 団 地	40	40	42	48	49	50	47	49	49	46	45
福 貴 畑	99	95	102	101	100	101	98	99	95	97	96
久 安 寺	42	46	50	53	52	55	53	52	50	57	58
信 貴 畑	72	66	64	61	63	62	60	56	54	54	56
樫 原	38	37	38	38	41	38	36	36	38	37	36
越 木 塚	45	45	47	44	42	41	41	39	37	38	38
若 井	78	83	71	70	63	56	53	44	37	35	36
西 宮	63	74	76	80	81	88	88	87	91	96	99
春 日 丘	161	159	152	148	146	137	133	134	134	135	135
日 立 団 地	14	17	18	21	23	26	26	26	24	24	23
椿 井	85	85	84	88	84	85	79	85	83	83	81
竜田川ネオポリス	39	47	44	46	44	46	48	43	40	18	45
竜 田 川 団 地	57	60	63	62	59	66	62	64	63	61	60
北 信 貴 ケ 丘	28	32	30	35	36	35	34	34	34	37	36
信 貴 山	21	22	22	14	16	13	7	7	8	8	8
信 貴 ホ ー ム											
計	2034	2089	1963	2181	2194	2213	2232	2078	2088	2157	2163



第六章

長寿会連合会規約類集

- 長寿会連合会規約
- 長寿会連合会クラブに関する細則
- 長寿会連合会表彰に関する細則
- 長寿会連合会会費徴収に関する細則
- 長寿会連合会慶弔に関する細則

昭和49年4月1日制定



第六章

長寿会連合会規約類集

長寿会連合会規約

(名 称)

第1条 本会は、平群町長寿会（老人クラブ）連合会と称し、事務所は平群町立老人福祉センター「かしのき荘」内に置く。

(組織および会員)

第2条 本会は、平群町内の各地区長寿会「以下（各地区長寿会）」というをもって組織する。

2 本会の会員は、各地区長寿会に属するおよそ60歳以上の会員をもって構成する。

(目 的)

第3条 本会は、県老人クラブ連合会等と連携し、健康・友愛・奉仕を基本に、会員の生活を豊かにする活動・地域を豊かにする活動に取り組み、生きがいのある生活の実現に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各地区長寿会の指導、助成、連絡調整
 - (2) 高齢期をともに生きる仲間作り活動
 - (3) 心と体の健康づくり活動
 - (4) 相互に支えあう友愛活動
 - (5) 地域社会に貢献する奉仕・ボランティア活動
 - (6) 全ての実践の基礎となる啓発・学習活動
 - (7) 町行政と連携して豊かな地域づくり活動
 - (8) その他目的を達成するために必要な活動
- 2 本会の目的および事業を進展させるために次の専門部を設置する。

- (1) 女 性 部
- (2) 伝承交流活動部
- (3) 健 康 部
- (4) ふれあい情報部

(クラブ活動部の設置)

第5条 本会に、前条の目的を達成するために各種クラブを設置する。

2 クラブ活動は別に定める細則によって運営する。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名
副 会 長	若干名
会 計	1 名
書 記	1 名
会計監査	2 名
理 事	各地区長寿会々長
専門部長	各専門部々長
クラブ統括部長	1 名
事 務 長	事務局職員

(役員の選出と選任)

第7条 役員の選出と選任は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 会長、副会長、会計、書記および会計監査「以下（本部役員）」というは、各地区長寿会々員の中から選出される。立候補がない場合は、役員推薦委員会を設置して候補者を選出し、理事会の議を経て選任する。役員推薦委員は会長が委嘱する。
- (2) 理事は、各地区長寿会の規定により選出さ

れた地区の会長とし、他の役員を兼務することができる。

- (3) 専門部長およびクラブ統括部長は、本部役員などの中から選出し、会長が任命する。
- (4) 事務長は、事務局職員の中から会長が委嘱する。

(顧問および参与)

第8条 本会に顧問および参与を置くことができる。

- 2 顧問および参与は、理事会の議を経て会長が委嘱する。
- 3 顧問および参与は、本部役員会および理事会に出席して意見を述べるができる。

(役員の任務)

第9条 役員の任務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときまたは会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名した副会長がその任務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計事務を行い、その収支を明らかにする。
- (4) 書記は、本部役員会、理事会、各専門部の会議議題の記録および「総会のしおり」、広報誌の保管を行うほか、行政、県老連、郡老連等重要と思われる資料を保管する。
- (5) 会計監査は、会計の経理事務・決算報告および資産状況を監査する。
- (6) 理事は、本会の運営、事業立案等を審議するとともに会務を分担する。
- (7) 専門部長は、各専門部を代表し、部の運営を行う。細則は別に定める。
- (8) クラブ統括部長は、クラブ活動全般を統括する。
- (9) 事務長は、会務を記録し、会の内外への連絡、広報などを行う。

(役員の任期)

第10条 役員の任期は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 本部役員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。
- (2) 専門部長およびクラブ統括部長の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。
- (3) 理事（地区長寿会々長）の任期は地区長寿会の規約による。
- (4) 代行役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員会)

第11条 役員会には、理事会と本部役員会を置く。

- 2 理事会は、本部役員、顧問、参与、理事、専門部長およびクラブ統括部長をもって構成し、本会の運営に関する重要事項の審議および議決を行う最高議決機関とする。
- 3 本部役員会は、本部役員と顧問および参与をもって構成し、理事会で行われる審議事項に関する議案の企画と立案を行う。緊急を要する場合は議決を行うが、速やかに理事会に報告しなければならない。

(総会)

第12条 総会は、各地区長寿会の会員へ本会の運営状況の詳細を報告するものであり、次の事項が報告される。

- (1) 前年度の事業、会計決算および会計監査結果
- (2) 新年度の役員人事、事業計画および事業予算
- (3) 規約の改廃
- (4) その他の重要事項

(専門部会)

第13条 専門部会は、女性部、伝承交流活動部、健康部およびふれあい情報部の各部の関係者で構成される専門会議で、部の運営に関する事項の企画、立案、審議および議決を行う。

- 2 健康部には、健康推進委員会を設け、各地区長寿会には健康委員を置く。
- 3 女性部は、各地区長寿会に地区女性部長を置く。
- 4 重要議決事項については、本部役員会の議

を経て理事会の承認を受けねばならない。

(会議の招集と開催)

第14条 本部役員会、理事会および総会は会長が招集し、開催は次のとおりとする。

- (1) 本部役員会は7日前までに、理事会は14日前までに、総会は1ヶ月前までに、それぞれ通知しなければならない。
- (2) 理事会は2ヶ月に1回、本部役員会は毎月1回を原則とするが、役員の2分の1以上の者から開催要求があったときは臨時役員会を開催しなければならない。
- (3) 総会は年1回5月に開催する。

(議長)

第15条 役員会の議長は、会長がこれに当る。

- 2 総会の議長は、その総会において、出席会員の中から選出する。

(定足数と議決)

第16条 役員会の定足数と議決は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 開催は、役員の2分1以上の出席がなければならない。
- (2) 議事は、出席役員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(議事録)

第17条 役員会の議事については、少なくとも次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 役員会の日時および場所
- (2) 役員の現在数
- (3) 出席した役員の氏名
- (4) 議決または承認事項
- (5) 会長の署名

(運営費)

第18条 本会の運営に関する経費は、会費、補助金、寄付金、その他をもってこれに充てる。

(会費)

第19条 本会の会費は、理事会で承認された金額とする。

- 2 会費の納入は、毎年指定日までに各地区長寿会々長が事務局を経て会計に納入する。
- 3 会費についての細則は別に定める。

(支出)

第20条 支出は、理事会において議決された予算に基づき会の目的にそって行う。

(会計および資産帳簿の整備)

第21条 会の収入、支出および資産を明らかにするために、会計および資産に関する帳簿を整備する。会員が帳簿の閲覧を請求したときは、閲覧させなければならない。

- 2 資産帳簿の整備は、会計が行い、これを管理する。

(会計年度)

第22条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり3月31日に終わる。

(会計監査)

第23条 会計監査は、会計年度終了後に会計および資産の監査を行い、会計監査結果報告書を作成し、本部役員会、理事会および総会において報告する。

なお、会計監査結果報告書の様式は別紙1のとおりとする。

(慶弔)

第24条 本会の慶弔については、次に掲げるとおりとする。

- (1) 各地区長寿会の会員が死去したときは、別に定める細則により弔慰金をおくるものとする。
- (2) 会員が死去したときは、更に弔文を届ける。
- (3) その他の慶弔については、本部役員が協議して決める。

(表 彰)

第25条 本会に特に功労のあった者に対しては、別に定める細則により表彰する。

2 被表彰者は、本部役員会で選出し、審議・決定し、理事会に報告する。

(規約の改廃)

第26条 本会の規約の改廃は、理事会において審議・決定し、総会に報告する。

(その他)

第27条 この規約に定めがない事項は、理事会において協議・決定する。

2 理事会は、この規約を実施するにあたり必要がある場合には、細則を定めることができる。

(附 則)

第1条 この規約は、昭和49年4月1日から施行する。

第2条 この規約は、昭和52年4月1日から一部改正実施する。

第3条 この規約は、昭和58年4月1日から一部改正実施する。

第4条 この規約は、平成3年4月1日から全面改正実施する。

第5条 この規約は、平成6年4月1日から一部改正実施する。

第6条 この規約は、平成10年4月1日から一部改正実施する。

第7条 この規約は、平成15年4月1日から一部改正実施する。

第8条 この規約は、平成17年4月1日から一部改正実施する。

第9条 この規約は、平成18年4月1日から一部改正実施する。

第10条 この規約は、平成19年2月20日から全面改正実施する。

第11条 この規約は、平成20年4月1日から一部改正実施する。

第12条 この規約は、平成21年4月1日から一部

改正実施する。

第13条 この規約は、平成25年4月15日から一部改正実施する。

第14条 この規約は、平成25年10月11日から一部改正実施する。

第15条 この規約は、平成26年6月13日から一部改正実施する。

長寿会連合会クラブに関する細則

(趣 旨)

第1条 この規定は、平群町長寿会連合会規約第5条2の規定によりクラブ活動の実施および運営について必要な事項を定めるものとする。

(クラブ会員)

第2条 本クラブ会員は、各地区長寿会の会員であり、本規定の第4条のいずれかのクラブに所属する者とする。

(目 的)

第3条 会員の健康と体力の維持・向上を図り、趣味を通じて仲間づくりや教養を広め、健全な心身を養うと共に地域社会へ貢献することを目的とする。

(活 動)

第4条 前条の目的達成のため、次に掲げるクラブ活動を行う。

(1) 室内クラブ (36クラブ)

(選 出)

第6条 統括副部長および代表者の選出は、次に掲げるとおりとする。

(1) クラブ統括副部長は、全クラブ代表者の中から連合会会長（以下会長という）が委嘱する。

(2) クラブ代表者は、クラブ内部の会員間の互

選より選出される。

(任 務)

第7条 責任者の任務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) クラブ統括部長は、クラブ活動全般を統括する。
- (2) クラブ統括副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときはその任務を代行する。
- (3) 各クラブの代表者は、常に会員の入退会を把握し、当該クラブ活動・運営など全般について管理する。また指定された期日までに最新の会員名簿および資産管理表を提出しなければならない。

(会 議)

第8条 クラブ統括部長は、必要あるときはクラブ代表者会議を招集・開催することができる。

(クラブの設立と解散)

第9条 クラブを新設する場合は、クラブ代表者はクラブ統括部長宛に設立申請書を提出し、本部役員会および理事会の承認を受けなければならない。

- 2 クラブは、原則として10名以上の会員をもってこれを設立・存続することができる。
- 3 クラブを解散する場合は、クラブ代表者はクラブ統括部長宛に解散届を提出し、受理したクラブ統括部長は本部役員会および理事会に報告しなければならない。
- 4 クラブを新設する場合および解散する場合に提出する用紙は、別紙2および別紙3のとおりとする。

(クラブ名の変更)

第10条 クラブ名を変更するときは、クラブ代表者はクラブ統括部長宛に変更届を提出し、受理したクラブ統括部長は本部役員会および理事会に報告しなければならない。

なお、提出する用紙は、別紙4のとおり

とする。

(経 費)

第11条 クラブ活動の運営に関する経費は、クラブ会員から徴収する会費、補助金、寄付金その他をもってこれに充てる。

- 2 クラブ活動に対する助成金の支給は、理事会において決定する。
- 3 クラブ活動に必要な設備・備品類（資産）は原則として本会より貸与する。
- 4 平群町高齢者文化・スポーツ振興交流事業補助金を「受けようとするクラブは、平群町へ申請して認可を得るものとする。

(会計報告)

第12条 各クラブは、会計年度の終了後速やかに本部事務局へ会計報告書を提出するものとする。

- 2 平群町高齢者文化・スポーツ振興交流事業補助金を受領したクラブは、平群町へ提出するために事業実績報告書および決算書を4月15日までにクラブ統括部長宛提出すること。

(附 則)

第1条 この細則は、平成19年2月20日から施行する。

第2条 この細則は、平成21年4月1日から一部改正実施する。

第3条 この細則は、平成22年4月1日から一部改正実施する。

第4条 この細則は、平成24年7月1日から一部改正実施する。

第5条 この細則は、平成24年10月11日から一部改正実施する。

第6条 この細則は、平成25年4月15日から一部改正実施する。

第7条 この細則は、平成26年4月1日から一部改正実施する。

第8条 この細則は、平成26年6月13日から一部改正実施する。

長寿会連合会表彰に関する細則

(趣 旨)

第1条 この規定は、平群町長寿会連合会規約第25条で規定する表彰を実施するに当たり、必要な事項について定めるものである。

(表彰等の種類)

第2条 表彰は、団体表彰および個人表彰の2種類とする。

(表 彰)

第3条 被表彰団体または被表彰者は、次の選考基準に該当するものとする。

- (1) 被表彰団体 他の模範となる活動および顕著な功績があるもの
- (2) 被表彰者 本部役員および理事を通算5年以上勤めたもの、ならびに他の模範となる活動および顕著な功績がある者

(表彰の時期)

第4条 表彰は、次の時期に実施する。

- (1) 団体表彰、個人表彰とも総会時に行う。
- (2) 理事の場合は退任後の総会時とする。

(その他)

第5条 この規定に定めるもののほか、表彰について必要な事項は本部役員会の議を経て理事会において決定する。

(附 則)

第1条 この細則は、平成19年2月20日から施行する。

第2条 この細則は、平成21年4月1日から一部改正実施する。

第3条 この細則は、平成26年6月13日から一部改正実施する。

長寿会連合会会費徴収に関する細則

(趣 旨)

第1条 この規定は、平群町長寿会連合会規約第19条3の規定により、会費の徴収について必要な事項を定めるものである。

(会 費)

第2条 会費は、次のとおりとする。

- (1) 87歳以下の会員の会費は、1会員あたり年額800円とする。
- (2) 88歳以上の会員の会費は、1会員あたり年額500円とする。

(助成金)

第3条 補助金の支給により会費の一部を助成することができる。その金額は次のとおりとする。

- (1) 87歳以下の会員の補助金は、1会員あたり年額500円とする。
- (2) 88歳以上の会員の補助金は、1会員あたり年額500円とする。

(年齢の算出基準日)

第4条 年齢は、4月1日を基準にして算出するものとする。

(徴 収)

第5条 会費の徴収は、毎年4月30日までにを行うものとする。

(会費の改定)

第6条 会費を改定する場合は、理事会で審議・承認を得て決定するものとする。

なお、会費の改定理由をその直後の総会において会員に説明するものとする。

(附 則)

第1条 この細則は、平成19年2月20日から施行

する。

第2条 この細則は、平成26年4月1日から一部
改正実施する。

第3条 この細則は、平成26年6月13日から一部
改正実施する。

第3条 この細則は、平成26年6月13日から一部
改正実施する。

長寿会連合会慶弔に 関する細則

(趣 旨)

第1条 この規定は、平群町長寿会連合会規約第
24条(1)の規定により、慶弔について必要な
事項を定めるものである。

(弔慰金)

第2条 各地区長寿会の会員および役員が死去し
たときは、次に掲げる弔慰金をおくる。

- (1) 会 員 3,000円
- (2) 役 員 本部役員の協議による。
- 2 会員が死去したときは、前項のほかに弔文
を届ける。

(弔文の取扱)

第3条 弔文の取扱は、次のとおりとする。

- (1) 弔文を所定の封筒に入れて準備しておき、
地区会長等が「かしのき荘」の事務局に「香典」
を取りに来た時に、同時に「弔文」も渡して、
告別式弔電披露の際にご遺族様へのメッセー
ジとして「ご披露」していただくよう喪主に
願います。
- (2) 弔文および弔文を入れる封筒の表書き、裏
書は別紙5、6のとおりとする。
なお、文字の色は「灰色」とし、封筒は長
形3号白封筒とする。

(附 則)

第1条 この細則は、平成19年2月20日から施行
する。

第2条 この細則は、平成25年10月11日から一部
改正実施する。



第七章

個人・団体受賞記録

- 歴代個人・団体受賞記録

付表

- 春季・秋季一泊旅行実施状況



個人・団体表彰状況

年 度	知事表彰 (個人・団体表彰)	県老連会長賞 (個人・団体表彰)	全老連会長賞 (団体表彰)	平群町長寿会会長賞 (個人表彰)
S 42年		【団体】 福貴畑長寿会		
S 47年	【団体】 福貴畑長寿会 (会長 石田亀太郎)	【団体】 若井長寿会 (会長 大西 民蔵)		
S 50年	【団体】 櫛原長寿会 (会長 谷口新太郎)	【団体】 吉新長寿会 (会長 浅野 虎勝)		
S 57年	【団体】 吉新長寿会 (会長 吉村 正治)	【団体】 椿井長寿会 (会長 岡田 義三)		
S 58年		【団体】 春日丘長寿会 (会長 下徳 一芳)		
S 59年		【団体】 椿台長寿会 (会長 谷村 敏行)		
S 60年	【団体】 椿井長寿会 (会長 吐田 藤雄)			
S 63年		【団体】 初香台長寿会 (会長 野上 弘)		
H 元年	【団体】 若井長寿会 (会長 岸本 成憲)			
H 2 年		【団体】 上庄台長寿会 (会長 松本 義三)		
H 3 年	【個人】 中村 正司 (連合会会長)			
H 4 年		【団体】 三里長寿会 (会長 田中 政義)		
H 5 年	【団体】 春日丘長寿会 (会長 隅田 勘助)			
H 6 年		【団体】 西宮長寿会 (会長 宮前 清和)		
H 7 年	【個人】 奥田 武二 (連合会会長)			
H 8 年		【団体】 久安寺長寿会 (会長 米田 準一)		
H 9 年	【団体】 椿台長寿会 (会長 日垣喜一郎)			
H10年		【団体】 信貴畑長寿会 (会長 奥田 武二)		
H11年	【個人】 松本 義夫 (連合会会長)			
H12年		【団体】 福貴団地長寿会 (会長 小林 太一)		
H13年	【団体】 福貴長寿会 (会長 巳波 皓祐)	【個人】 松本 義夫 (前連合会会長)		
H14年		【団体】 初香台長寿会 (会長 秋塚 直秀)		
H15年	【個人】 宮前 清和 (前連合会会長)40周年 【個人】 小林 太一 (前福貴団地会長)40周年			宮前 清和 (前連合会会長)

年 度	知事表彰 (個人・団体表彰)	県老連会長賞 (個人・団体表彰)	全老連会長賞 (団体表彰)	平群町長寿会会長賞 (個人表彰)
H16年		【団体】 竜田川ネオポリス (会長 藤田 道雄)		明石 賢三 (前椿台長寿会会長) 藤戸 正夫 (前槻原長寿会会長) 門野 勝 (前吉新長寿会会長) 吉村 弘 (前久安寺長寿会会長) 吉川チエ子 (前三里女性部長) 山口リヨ子 (前若井女性部長)
H17年	【団体】 椿台長寿会 (会長 石川 孫一)			
H18年		【団体】 春日丘長寿会 (会長 山口 孟)	長寿会連合会 (会長 村木 實)	
H19年	【個人】 仲 正夫 (伝承交流部部長)			村木 實 (前連合会会長) 仲 正夫 (前北信貴ヶ丘長寿会会長) 井上 武夫 (前緑ヶ丘長寿会会長)
H20年		【団体】 竜田川団地長寿会 (会長 藤井 正博)	長寿会連合会 (会長 武田 俊雄)	
H21年	【団体】 初香台長寿会 (会長 浦野 育三)			東原 竹子 (前連合会副会長) 大森 喜蔵 (前吉新長寿会会長) 平田 嘉幸 (前三里長寿会会長) 秋塚 直秀 (前初香台長寿会会長)
H22年		【団体】 竜田川ネオポリス (会長 牧野富久太郎)	連合会伝承交流部 (部長 仲 正夫)	薮内 英輔 (前上庄台長寿会会長)
H23年	【個人】 明石 賢三 (元連合会副会長)	【団体】 三里長寿会 (会長 安田 稔)		守屋 勝己 (前日立団地長寿会会長) 西田 誠宏 (前福貴長寿会会長) 前田 修次 (前下垣内長寿会会長)
H24年		【団体】 福貴畑長寿会 (会長 中村 安治)	連合会健康部 (部長 小林 忠男)	牧野富久太郎 (前竜田川ネオポリス会長)
H25年	【団体】 上庄台長寿会 (会長 中西 素直) 【個人】 武田 俊雄 (前連合会会長)50周年記念		連合会ふれあい情報部 (部長 薮内 英輔)	中塚 芳治 (前緑ヶ丘長寿会会長) 浦野 育三 (前初香台長寿会会長) 松浦正美 (前若井長寿会会長)
H26年		【団体】 御陵苑長寿会 (会長 田辺 幸雄)	連合会クラブ統括部 (部長 岡 嘉道)	西浦 信子 (前副会長・女性部長) 道上 勝 (前吉新長寿会会長)

長寿会春季・秋季親睦旅行先一覧表

年 度	春 季	旅行会社	参加 人数	秋 季	旅行会社	参加 人数
平成 3 年度	勝浦温泉方面		100	北陸地方 粟津温泉泊		139
平成 4 年度	富山県 寺尾温泉方面		128	鷺羽山 下電ホテル泊 耕山寺まいり		165
平成 5 年度	浜名湖方面		148	富山方面		140
平成 6 年度	山陰方面		—	信濃方面		—
平成 7 年度	山梨方面		120	淡路島方面		115
平成 8 年度	三保の松原方面		120	岡山方面		136
平成 9 年度	長野方面		88	河口湖方面		135
平成10年度	伊予・道後温泉、 明石海峡大橋		157	三ヶ根温泉方面		150
平成11年度	飛騨・高山方面	サンキュー	120	岡山・湯迫温泉方面	サ ン デ ン	133
平成12年度	伊豆方面、修善寺	サンキュー	144	和倉温泉方面	名 鉄	140
平成13年度	小豆島方面	サンキュー	105	皆生温泉方面	名 鉄	157
平成14年度	山中温泉方面	名 鉄	132	南知多温泉方面	名 鉄	117
平成15年度	鷺羽温泉方面	サンキュー	81	新浜島温泉	サンキュー	119
平成16年度	浜名湖（花博）方面	名 鉄	86	信州・蓼科温泉	サンキュー	129
平成17年度	淡路島・四国 琴平温泉	名 鉄	99	出雲・玉造温泉	サンキュー	127
平成18年度	石和温泉と甲斐路	奈 良 交 通	89	長良川温泉	サンキュー	98
平成19年度	道後温泉	名 鉄	75	舘山寺温泉と浜松方面	近 畿 日 本 ツーリスト	91
平成20年度	芦原温泉と奥琵琶湖	サンキュー	114	奥飛騨・新平湯温泉	奈 良 交 通	154
平成21年度	昼神温泉	サ ン デ ン	107	皆生温泉・鳥取砂丘	サンキュー	146
平成22年度	山代温泉	近 畿 日 本 ツーリスト	100	愛知県・三谷温泉	サ ン デ ン	120
平成23年度	長野県・美ヶ原温泉	名 鉄	72	香川県・小豆島	日 本 旅 行	118
平成24年度	岡山県・鷺羽温泉	近 畿 日 本 ツーリスト	93	那智勝浦温泉	日 本 旅 行	88
平成25年度	鳥取県・はわい温泉	近 畿 日 本 ツーリスト	97	岐阜県・下呂温泉	近 畿 日 本 ツーリスト	100
平成26年度	長野県横谷温泉	サ ン デ ン	83			

社会年表（社会の動き）

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
昭和39年	
10・1	東海道新幹線スタート
10・10	東京オリンピック始まる（～24日）
10・22	平群村長寿会発足。初代会長 鈴木 了道
昭和40年	
6・22	日韓基本条約と関係4協定調印
10・21	朝永振一郎ノーベル化学賞受賞
12・31	南極の昭和基地4年振りに再会、恒久的な基地建設開始
昭和41年	
3・31	日本の総人口一億人超える
6・1	「老人の日」が「敬老の日」と改められ国民の祝日となる
12・8	建国記念日制定「2月11日」
昭和42年	
2・1	現行50円、100円硬貨発行
6・5	第3次中東戦争始まる
昭和43年	
6・26	小笠原諸島日本に復帰
10・17	川端康成ノーベル文学賞受賞
12・10	3億円事件発生
昭和44年	
5・26	東名高速道路開通
7・21	人類初の月面着陸（アポロ11号）
昭和45年	
3・14	大阪で日本万国博覧会開幕
8・1	「いざなぎ景気」、57ヵ月で終了
昭和46年	
2・1	平群町制施行
10・10	NHK総合テレビ全面カラー化
昭和47年	
3・21	明日香村の高松塚古墳で極彩色壁画見つかる
5・15	沖縄の施政権返還、沖縄県発足
昭和48年	
1・27	ベトナム和平協定調印
10・23	江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
昭和49年	
3・10	フィリピン・ルバング島で元日本兵、小野田寛郎が30年振りに救出される
10・8	元首相佐藤栄作にノーベル平和賞
昭和50年	
3・10	山陽新幹線岡山 - 博多間が開通
5・16	田部井淳子、女性として初めてエベレスト登頂
7・20	沖縄国際海洋博覧会が開幕
昭和51年	
1・31	日本初の五つ子（2男3女）誕生
7・2	南北ベトナムが統一
7・27	東京地検が前首相、田中角栄を逮捕
昭和52年	
3・1	米ソ200カイリ排他的経済水域を設定、日本も7月に実施
7・14	気象衛星「ひまわり」打ち上げ
昭和53年	
5・20	新東京国際空港「成田空港」が開港
8・12	日中平和友好条約調印
昭和54年	
1・26	大阪の三菱銀行北畠支店に男が押し入り、行員、警官4人を射殺して竈城
3・28	米スリーマイル島で原発事故
10・28	木曾・御嶽山が初噴火
昭和55年	
5・7	富士通が日本語タイプライターを発売、ワープロ時代の幕開け
7・19	モスクワ五輪開幕（日本・米・中国等不参加）
9・9	イラン・イラク戦争が勃発
昭和56年	
3・20	神戸市でポートピア81開幕
4・12	米国スペースシャトル、初打ち上げ
10・19	京大教授福井謙一、ノーベル化学賞を受賞
昭和57年	
7・10	老人福祉センター完成（かしのき荘、10日業務開始）
昭和58年	
4・15	東京デズニーランドがオープン
5・26	秋田県沖で日本海中部地震発生、死者104人
9・1	大韓航空機がサハリン沖で、ソ連軍機に撃墜さる

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
昭和59年	
5・12	N H Kが衛星テレビ放送を開始
6・30	日本が世界一の長寿国になる（平均寿命女79.8歳、男74.2歳）
7・28	ロサンゼルス五輪開幕
昭和60年	
3・17	「科学万博・つくば85」筑波研究学園都市で開幕
8・12	日航ジャンボ機群馬県御巢鷹山に墜落、520人が死亡 4人が奇跡の生還
10・16	阪神タイガース21年振りに球団初の日本一に
昭和61年	
4・26	ソ連チェルノブイリ原発で大規模事故発生
5・4	東京サミット（先進国首脳会議）開幕
11・21	三原山209年ぶりに噴火、島民1万人避難
昭和62年	
6・26	I M F（国際通貨基金）統計で日本が外貨準備高世界一に
10・12	利根川進にノーベル医学・生理学賞
10・19	世界同時株安「ブラックマンデー」発生
昭和63年	
3・13	青函トンネル開業。青函連絡船は幕
3・17	東京ドーム開業
7・23	潜水艦「なだしお」釣り船と衝突、30人死亡
11・16	消費税導入法案衆議院通過、成立
平成元年	
1・7	昭和天皇死去、新元号は「平成」に
4・1	消費税3%スタート
6・24	歌手の美空ひばり死去、52歳
12・29	日経平均、3万8千915円の史上最高値
平成2年	
1・18	長崎市長が銃撃され重傷
6・10	ペルー大統領にアルベルト・フジモリが当選
8・2	イラク軍がクウェートに侵攻し、全土を制圧
平成3年	
1・17	多国籍軍がイラク軍に攻撃開始、湾岸戦争始まる
5・14	信楽高原鉄道で衝突事故、42人死亡600人重軽傷
6・3	雲仙普賢岳で火砕流発生、43人死亡

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成4年	
3・14	東海道新幹線に「のぞみ」登場
4・1	牛肉・オレンジ輸入自由化
8・18	東証平均株価1万4千309円、バブル景気の終焉
9・12	日本人初の宇宙飛行士・毛利衛宇宙へ
11・3	米大統領選でビル・クリントンが圧勝、民主党政権へ
平成5年	
1・1	E C 統合市場発足、世界最大の単一市場誕
4・1	ふれあい新聞創刊
4・23	天皇陛下が初の沖縄訪問
6・9	皇太子・雅子妃ご結婚（祝賀パレードに19万人）
7・2	平群町ウォーターパークオープン
7・12	北海道南西沖地震（M7.8奥尻島に津波、死者・行方不明239人、家屋倒壊601戸）
12・9	法隆寺・姫路城が世界文化遺産、屋久島・白神産地が世界自然遺産に
平成6年	
2・4	初の純国産ロケットH2打ち上げ
3・20	第一回へぐり芸術展開く
4・26	名古屋で中華航空機が着陸失敗（乗員・乗客264人が死亡）
6・9	大空の家（平群町福祉作業所）開所
6・27	松本サリン事件（死者7人、重軽傷58人）
7・8	向井千秋さん、日本人初の女性宇宙飛行士となる
8・1	市町村合併アンケート始まる（平群、三郷、斑鳩、安堵、上牧、王寺、河合計七町）
9・4	関西国際空港開港
11・1	平群町東小学校創立120周年
平成7年	
1・17	阪神淡路大震災（M7.2、死者6,434人）
2・28	目黒公証役場事務長拉致事件（後に一連のオウム事件に発展）
3・20	地下鉄サリン事件（死者13人、負傷者6千人）
5・16	オウム真理教教祖、麻原彰晃こと松本智津夫逮捕
6・21	全日空機ハイジャック（羽田発函館行）
8・1	平群町総合スポーツセンター竣工
12・8	高速増殖炉「もんじゅ」でナトリウム漏れ発生
平成8年	
2・10	北海道の国道豊浜トンネルで岩盤が崩落（死者二十人）
3・14	薬害エイズ訴訟で、製薬会社「ミドリ十字」が加害責任を認め謝罪

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成8年	
6・13	福岡空港でガルーダ・インドネシア航空機が着陸に失敗（死者3人、負傷者113人）
7・19	病原性大腸菌O-157による食中毒発生（死者13人、中毒患者6,031人）
12・5	原爆ドーム・厳島神社が世界文化遺産に
12・17	ペルー日本大使公邸人質事件
平成9年	
1・2	ロシアのタンカー・ナホトカ号日本海で、重油流出事故
4・1	消費税3%から5%に引き上げ
6・28	酒鬼薔薇聖斗事件（神戸で小学6年生殺害事件中学3年生の男子を逮捕）
10・19	平群中学校50周年
12・1	地球温暖化防止京都会議
12・18	東京湾アクアライン開通
平成10年	
2・7	長野五輪が開幕
3・5	キトラ古墳の石室に、四神図と星宿図を発見。星宿図世界最古級
4・1	平群町ゴミ分別収集始まる
4・5	明石海峡大橋開通（世界最長3,913m）
5・11	インドが地下核実験強行
7・25	和歌山カレー毒物混入事件（死者4人、中毒67人）
8・31	北朝鮮のミサイル・テポドンが三陸沖に着弾
10・23	日本長銀が経営破綻、国家管理へ
平成11年	
1・1	欧州連合、単一通貨「ユーロ」を導入
3・1	初の脳死判定による心臓・肝臓移植（高知赤十字病院）
4・1	「プリズムめぐり」（平群町保険福祉センター）オープン
	平群町高齢者交通助成金交付始まる
4・11	東京都知事に石原慎太郎氏初当選
5・1	瀬戸内しまなみ街道が開通
7・23	全日空機乗っ取り事件。機長刺され死亡
8・9	国旗・國家法が成立
9・30	東海村の核燃料工場で国内初の臨界事故（現場作業員ら49人が被爆）
10・1	平群町介護認定の申請始まる
平成12年	
1・28	新潟で九年間監禁されていた19歳少女を保護
2・6	大阪府知事選で太田房江さん当選、全国初の女性知事誕生

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成12年	
4・1	介護保険制度始まる
7・1	介護老人福祉施設「悠々の郷」完成
9・24	高橋尚子がシドニー五輪女子マラソンで金
11・8	重信房子・日本赤軍最高幹部を逮捕
11・18	イチローが大リーグマリナーズ入り
平成13年	
2・1	平群町町制施行30周年
2・9	ハワイ沖で愛媛県の漁業実習船に米原潜が衝突、9人死亡
4・1	平群町役場の情報（公文書）公開制度始まる
6・8	大阪教育大付属池田小学校に男が乱入、殺傷事件（児童8人が死亡、15人が負傷）
7・21	明石市の花火大会で群衆雪崩発生、11人死亡、247人負傷
9・10	国内初の狂牛病認定
9・11	ニューヨーク世界貿易センタービル旅客機激突テロ（死者約3,000人）
10・10	野依良治教授ノーベル化学賞受賞
平成14年	
1・23	雪印食品の偽装牛肉事件発覚、4月に同社倒産
4・1	平群町学校週休五日制完全実施、個人情報保護制度スタート
8・1	平群町住民基本台帳ネットワーク運用始まる
9・17	日韓首脳会談（小泉首相が日本の首相として初めて北朝鮮を訪問）
10・8	小柴昌俊、田中耕一ノーベル賞受賞
10・15	北朝鮮拉致被害者5人が24年振りに帰国
平成15年	
2・1	米スペースシャトル空中分解（全員死亡）
3・15	米英軍イラク攻撃開始（4月にフセイン体制崩壊）
9・6	阪神が十八年ぶりセーリーグ優勝
9・26	十勝沖地震（震度6弱、四百人以上が負傷）
10・10	最後の日本産トキが佐渡島で死亡、絶滅
平成16年	
1・30	青色発光ダイオードの発明者に特許権料として200億の支払命令
10・23	新潟中越地震（M6.8、死者36人、重軽傷者2,404人）
11・1	新紙幣発行（千円、五千円、一万円札が20年ぶりに一新）
12・5	市町村合併に関する住民投票、平群町は、賛成5,701票、反対4,460票で合併に賛成、ただし、他町の反対で7町合併はご破算
12・26	インド洋大津波（スマトラ島沖地震、死者・行方不明者約28万人）

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成17年	
2・17	中部国際空港が開港、国内3番目の24時間空港
2・25	愛知万博（愛・地球博）開幕（～9月25日）
4・25	尼崎市のＪＲ福知山線で脱線事故（死者107人、負傷者562人）
6・1	政府が推奨するクールビズ始まる
8・25	ハリケーンが米ニューオーリンズを直撃（死者約千人）
10・1	道路公団民営化（4団体）
平成18年	
1・1	三菱東京・ＵＦＪが合併し、世界最大の東京三菱ＵＦＪ銀行発足
1・23	ライブドア社長堀江貴文氏証券取引法違反で逮捕。ＩＴ関連株暴落
1・26	あすのすへぐり（町営図書館）オープン
2・23	荒川静香がトリノ五輪フィギュアスケートで金メダル
3・31	民主党偽メール事件（前原誠司代表以下執行部総退陣）
5・1	平群町行財政改革大綱決まる
6・5	北朝鮮がミサイル発射
9・15	松本智津夫オウム真理教教祖の死刑確定
10・25	日本ハムファイターズが初の日本一に
平成19年	
1・21	岩崎万勉平群町長初当選、東国原英夫宮崎県知事に初当選
3・25	能登半島沖地震（M6.9震度6強、死傷者356人、全半壊家屋2万7千戸）
6・24	第一回プリズム健康フェスター開く
7・16	新潟県中越地震（M6.8震度6強、死傷者2千名柏崎刈羽原発3号機火災）
7・29	第21回参議院議員選挙で自民党大敗、民主が第一党に
9・12	安倍首相が突然辞任表明。福田康夫が内閣総理大臣に就任
10・1	郵政民営化スタート（日本郵政公社が日本郵便に）
11・21	ヒトの皮膚から万能細胞を作ることに京大チームが初成功
平成20年	
1・20	橋下徹が大阪府知事選に初当選
1・30	中国製冷凍餃子で食中毒（原因究明をめぐり、外交問題に）
5・12	四川大地震（中華人民共和国四川省、M8.0の地震で死者約8万人）
7・7	洞爺湖サミット（第34回主要国首脳会議）開催（～7月9日）
10・7	日本人4名がノーベル賞同時受賞（物理学：南部陽一郎・小林誠・益川敏英、化学賞：下村脩）
10・14	世界金融危機、米証券リーマン・ブラザーズ破綻、世界同時株安を招く
平成21年	
1・20	バラク・オバマ、米国第44代大統領に就任、初のアフリカ系大統領

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成21年	
5・21	「裁判員制度」スタート
5・25	北朝鮮、二度目の核実験（前回は2006年）
6・1	米自動車大手GM破綻、クライスラーも4月に破綻済み
7・31	若田光一飛行士国際宇宙ステーションから帰還（日本人初の長期宇宙滞在）
8・30	第45回衆院選で民主党308議席の圧勝（鳩山内閣発足）
9・1	消費者庁が発足
11・13	米オバマ大統領が初来日
平成22年	
4・1	第1回へぐり時代祭スタート
4・20	宮崎県で牛が口蹄疫に感染（8月27日の終息宣言までに、殺処分された牛、豚は約29万頭）
6・4	鳩山内閣総辞職（普天間問題などで、菅直人内閣総理大臣就任）
6・13	小惑星探索機「はやぶさ」7年ぶりに帰還（小惑星の微粒子回収）
9・7	尖閣諸島沖で中国漁船が、海上保安庁の巡視船に衝突（ビデオ流出で発覚）
10・7	鈴木章北大名誉教授、根岸英一バデュー大特別教授がノーベル化学賞受賞
12・4	東北新幹線が新青森まで開通。東京－新青森間が3時間で直結
平成23年	
1・20	中国の国内総生産（GDP）が日本を抜き、世界第2位に
2・1	町制施行40年
2・6	八百長問題で3月の大相撲春場所が中止
3・11	東日本大震災（M9.0巨大地震発生、死者・行方不明18,773人）、東京電力福島第一原子力発電所事故発生（原発事故の国際評価レベルが7に）
3・12	九州新幹線鹿児島ルート全線開通（博多駅－鹿児島中央駅）
7・18	「なでしこ」が女子W杯ドイツ大会で初優勝
7・24	地上デジタル放送へ全面移行（被災3県を除く）
平成24年	
2・29	東京スカイツリー竣工
4・11	金正恩、北朝鮮労働党第一書記に
5・5	北海道電力泊発電所が運転停止、これで、日本の全原発が運転停止する
10・1	沖縄にオスプレイ配備、地元が反発
9・10	尖閣諸島国有化を閣議決定
10・8	山中伸弥京大教授がノーベル医学賞受賞
12・16	自民党が46回衆議院議員総選挙で大勝、安倍政権スタート
平成25年	
2・25	朴槿恵が韓国初の女性大統領に就任

年・月日	長寿会連合会及び社会の動き
平成25年	
3・5	中国第12期全国人民代表大会開催、習近平・李克強体制がスタート
4・1	法定定年年齢が65歳に引き上げられる
6・22	富士山が世界文化遺産に決定
9・8	2020年東京五輪決定
10・1	平群町可燃ゴミ有料化スタート
11・16	平群幼稚園60周年記念式典開催
12・4	「和食」がユネスコ無形文化遺産に
平成26年	
2・14	羽生結弦選手がソチ大会のフィギュアスケートで日本勢男子初の金メダル
4・1	消費税5％から8％へ
4・16	韓国旅客船「セウォル号」沈没、死者・行方不明者300人以上
6・25	世界文化遺産に富岡製糸工場と絹産業遺産群（群馬県）が登録決定
8・5	朝日新聞が、世界に大きな話題を上げた「従軍慰安婦問題」で一部記事を取消、「女性を強制連行した」との証言記事
8・20	広島土砂災害、安佐南、北などに多量の土砂流れ込む、死者七74人
9・27	長野、岐阜両県にまたがる御嶽山（3,067m）が噴火、死者56人、行方不明7人（捜索再開は来年の予定）
10・7	ノーベル物理学賞を、青色発光ダイオードを開発した、赤城勇名城大学教授、天野浩名古屋大学教授、中村修二米カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の3人に贈ると発表
10・21	平群町長寿会連合会が創立50周年記念式典を中央公民館にて挙行

むすび（謝意に代えて）

平成26年10月に平群町長寿会連合会は節目の創立50周年を迎えるにあたり後世に残るような記念事業を行うことになり、先ず連合会本部に準備委員会を設立して辻本達雄副会長に準備委員長の任をお願いした。その中には、式典委員会、記念品委員会、記念誌編纂委員会の3委員会を設置して本部役員を中心に古参の地区会長にも参画していただいた。

特に、記念誌編纂委員会では、参考とする記事も少ない中で、会報誌「ふれあい新聞」が唯一の資料として編集委員長の薮内英輔参与に提供していただき、期首部分についても事情をよく知る同氏をお願いし、各委員が分担して関係記事を採りあげていただいた。

記録は平成5年度あたりからしか残っていない中で、各担当者が統一様式にするべく調整を試みたが、可能な限り当時のままの表現で記事とした。膨大な記事は、主にパソコンクラブの有志に一定の様式に従ってワープロの入力作業をお願いした。

平成26年度に入り準備委員会から実行委員会に移行したが、記念誌編纂委員会の委員と記事入力に協力いただいた方々（順不同・敬称略）を紹介して謝意に代えたい。特に安田 稔副会長兼編纂委員長には最終段階まで誤字・脱字のチェック、編集の統一性に苦心するほか印刷会社との度々の折衝など、まとめ役を務めていただいたことは言語に尽くしがたい。

また、印刷段階で橋本印刷(株)様にも不揃いの原稿にもかかわらず何かとご教示ご協力いただいたことも忘れてはならない。

◇編纂委員

武田 俊雄、藤井 正博、道上 勝、三船 忠志、安田 稔、薮内 英輔

◇ワープロ作業、編集作業担当者

岡本美智子、斎藤 貞夫、酒匂ヤエ子、大門美智子、田尻セツ子、山川 孝子、
岡 嘉道

（その他、一部部外者にも協力いただいた）

平成26年10月
実行委員長 扇 田 修 身



平成 26 年度長寿会連合会本部役員



会 長 扇田 修身



副会長 辻本 達雄



副会長 三船 忠志



副会長 小林 忠男



副会長 安田 稔



副会長 森 輝子



副会長 岡 嘉道



副会長 日笠 晴正



会計監査 江村 和明



会計監査 田辺 幸雄



長寿会連合会 参与



参 与 藪内 英輔



参 与 田尻 宏



平成 26 年度 地区長寿会会長（理事）



鳴川会長	植 田 清 文	御陵苑会長	田 辺 幸 雄	越木塚会長	谷 田 賢 司
櫛原会長	櫛 原 潔	吉新会長	吉 川 貞 子	若井会長	池 田 清美
椿台会長	三 船 忠 志	三里会長	国 分 信 孝	西宮会長	西 畑 茂 郎
緑ヶ丘会長	高 野 國 博	下垣内会長	小 林 ゆい子	春日丘会長	大 村 三 郎
菊美台会長	尾 鼻 昌 次	平等寺会長	山 崎 正 俊	日立団地会長	上 田 康 博
槻原会長	辻 本 達 雄	福貴会長	中 谷 勉	椿井会長	吐 田 和 士
西向会長	前 田 傳	初香台会長	今 本 良 一	竜田川ネオポリス会長	
上庄会長	北 川 治 晃	五月台会長	長 岡 健 次		原 紀 久
上庄台会長	中 西 素 直	光が丘会長	江 村 和 明	竜田川団地会長	藤 井 正 博
月見台会長	扇 田 修 身	福貴団地会長	武 田 俊 雄	北信貴ヶ丘会長	土 井 重 尋
梨本会長	小 野 建 弘	福貴畑会長	坂 野 元 一	信貴山会長	赤 城 英 子
若葉台会長	島 興 一	久安寺会長	谷 口 義 輝		
ローズタウン若葉台会長		信貴畑会長	大 西 薫		
	城 内 敏 之	樫原会長	奥 田 二 郎		



長寿会連合会本部女性部役員



女性部部长 森 輝子 副部长 日下多喜子 副部长 高橋美千子
 会 計 扇田 節子 委 員 浜崎 晴美 委 員 上西 和美

〈 創立50周年コンセプト 〉

**目指そう 今こそ自己実現を
そして地域と仲間へ
思いやり・支え合いを！**

平群町長寿会連合会
創立50周年記念誌
50 年 の あ ゆ み
(平成39年10月～平成26年10月)

平成27年2月1日

発 行 平群町長寿会連合会
〒636-0931
奈良県生駒郡平群町梨本351
平群町老人福祉センター かしのき荘内
電 話 0745-45-5768
FAX 0745-43-6164

印 刷 橋本印刷株式会社

